内閣文庫
和書 類
五七九八 號
一 冊
函
架

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

明治三十八年

臨時臺灣

戸口調査顛末

臺灣總督府官房統計課

明治四十一年刊行

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

頁	行	誤	正
三二	一三	其ノ本他	其ノ他本
六一	表中基隆判任官	三一四	三・五
一九四	表頭欄外		（支廳別）ノ次ニ（職業項）ヲ脱ス
二六三	第三號様式中	計票再査收數	計票再査枚數

358
5798
153

臨時臺灣戸口調査顚末ノ編纂成ル

茲ニ謹テ閣下ニ呈ス

明治四十一年三月

臨時臺灣戸口調査部長　祝　辰　巳

臺灣總督　伯爵　佐久間左馬太殿

358.224016
153

明治三十八年

臨時臺灣
戸口調査顛末

臺灣總督府官房統計課

明治四十一年刊行

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

凡例

一　本編ハ明治三十八年十月一日施行ノ臨時臺灣戸口調査ニ關スル顛末ヲ敍述シ以テ一ハ本調査ノ經過ヲ示シ一ハ次回以後ノ計畫施設ニ資セムトスルニ在リ

二　既刊ノ報告書類ニ所載ノ事項ト重複ノモノハ力メテ之ヲ避ケタリト雖首尾一貫ヲ要スルモノハ復之ヲ收錄セリ

三　本編ノ編纂ハ專ラ主事水科七三郎之ニ任シ屬福田眞鷹之ヲ補助セリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

目次

第一章　來歷……一
第一節　母國……一
第二節　臺灣……二
第二章　準備……五
第三章　實査……八三
第四章　整理……八六
第五章　檢査及製表……一一三
第一節　檢査……一一三
第二節　製表……一一六
第一　小票作成……一一六
第二　原表集計……一三九
第三　整表……二二四
第三節　倉庫……二三四
第六章　人口動態……二三八
第七章　調査機關……二四七
第八章　職員及參加章……二七五
第一節　職員……二七五

第二節　參加章……二八三
第九章　經費……二八五
第十章　褒賞……二八九
第十一章　執務時間……二九四
第十二章　出版公布……二七五

臨時臺灣戸口調査顚末

第一章　來歷

第一節　母國

要旨

人口調査ハ古來各國ニ行ハレタリ我カ國ニ於テハ崇神天皇ノ御宇男女民數ヲ調査セシニ始マル爾來此ノ種ノ調査ナキニ非スト雖完全ナル國勢調査ハ曾テ施行セラレサリキ

模範的調査

然ルニ今ノ法學博士杉亨二ハ夙ニ其ノ必要ヲ唱道シ明治二年駿州ノ一部ニ其ノ調査ヲ試行シ漸次他ニ及ホサムノ考案ヲ立テ同六年政府ニ建議スル所アリ政府ハ其ノ議ヲ採リ同十二年ヲ以テ同人ニ命シテ山梨縣ニ模範的國勢調査ヲ施行セシメ其ノ結果ハ甲斐國現在人別調ト題シテ同十五年統計院ヨリ公ニセラレタリ

國勢調査法

爾來幾星霜機未タ熟セサルモ官民漸ク其ノ必要ヲ感スルモノアルニ至リ明治二十九年貴衆兩院ニ於テハ國勢調査ノ建議案ヲ通過シ又東京統計協會ノ有志者ハ國勢調査施行ノ請願ヲ提出スルニ至レリ翌三十年前ノ臺灣總督府民政長官男爵後藤新平ハ當時ノ內務大臣伯爵樺山資紀ニ國勢調査ニ關スル意見書ヲ提出セリ越テ同三十五年ニ至リ貴衆兩院ハ國勢調査法案ヲ通過シ同年法律第四十九號ヲ以テ國勢調査法ヲ發布セラレ明治三十八年ニ其ノ第一回調査ヲ帝國全版圖內ニ施行スルコトニ規定セラレタリ然ルニ時偶〻振古未曾有ノ日露大戰爭ヲ開始スルニ際會シ同三十八年法律第十三號ヲ以テ國勢調査法ノ一部ヲ改正シ第一回國勢

アジア歴史資料センター

調査施行ノ時期ハ勅令ヲ以テ定ムルコトト爲レリ當時該法案ノ貴族院ニ提出セラルルヤ議員伯爵柳澤保惠ハ之ニ反對シ第一回國勢調査ハ明治四十三年ニ於テ施行スヘシトノ修正案ヲ提出シタルモ少數ニテ成立セサリシハ國家ノ爲憾事ト謂フヘシ

第二節 臺灣

領臺前

支那ハ往古ニ於テ統計史上ニ大關係ヲ有ス卽チ田制徭役地方區劃及保甲制度ニ伴ヒ戶口ヲ調査シタルコトアリ而シテ臺灣ハ我カ領有以前支那ノ行政系統ニ依リ諸般ノ施設ヲ爲シ戶口調査ノ如キモ其ノ形跡ナキニ非ス然レトモ其ノ法備ハラサルヲ以テ信スルニ足ラス又我カ領有以來定期ノ戶口報告ヲ爲サシメタルモ深ク信ヲ措クニ足ラサルコト母國ニ異ナラス

領臺後
兒玉總督ト人口調査
土地調査局長ノ演說

是ヲ以テ兒玉前總督ハ新領土ノ統治上夙ニ人口調査ト共ニ土地調査ノ必要ヲ認メタレトモ當時ノ情勢ニ鑑ミ土地調査ヲ先ニスルコトニ決定セリ明治三十一年九月當時ノ土地調査局長後藤新平ハ局員ニ對シテ訓示ヲ爲セル中ニ左ノ一節アリ以テ其ノ意ノ在ル所ヲ知ルヘシ

　世ノ諺ニ羅馬ニ至ルノ道ハ一ニアラスト言フテ幾ツモ道カアルモノテアリマスカ之ト同シク行政ニ必要ナル道モ多々アリ而シテ其ノ集合點ニ至ツテ初メテ大成スルモノテアル中ニ就テ人口ノ調査ト土地ノ調査トハ行政上是レ程必要ナルモノハナイ況ヤ新版圖ニ於テ百般ノ行政ヲ整理スルニ方リテ人口ノ調査土地ノ調査ヲ爲スニ非サレハ種々ノ混雜ヲ招キ從テ行政整理ノ目的ヲ達シナイトイフ感ヲ懷カシムルノ實例ハ日々我々ノ執ル所ノ行政ノ上ニ見ハルルノテアリマスソコテ總督閣下ハ著任以來痛ク此ノ事ニ意ヲ勞セラレ前任者ノ從事サレタ事ニ關シ夫々主任者ニ就テ意見ヲ聞カレ是非土地ノ調査ハ施行シナケレハナラヌトイフ必要ヲ認メラレ至難ナル事業テハアルケレトモ斷然タル處置ニ出テラレテ遂ニ今日ノ結果ヲ見ルニ至ツタノテアリマス前段申述ヘタル通人口ノ調査土地ノ調査ハ最必要テアルカ何レノ國ニ於テモ之ヲ至難ノ事業トシナイ國ハナイノテ此ノ事ハ今玆ニ諸君ニ告クルノ必要ハナイ諸君モ既ニ其ノ至難ナル事ヲ察知シテ居ラルルコトト思フノテアリマス此ノ如ク至難ナル事業ニ當ル所ノモノハ職ニ就クノ初メヨリ用意周到テナケレハナラヌ云々

戶口調査ノ進轉
內閣書記官長ノ照會

此ノ如クニシテ土地調査ハ明治三十一年度ヨリ著手セラレ同三十七年度ニ至リ完了セリ是ヨリ先國勢調査法ノ發布セラルルヤ臺灣ヲ如何ニスヘキヤハ朝野ノ一問題タリシニ明治三十五年十月ニ至リ內閣書記官長柴田家門ヨリ民政長官後藤新平ニ宛左記ノ照會アリ

　曩ニ帝國議會ヲ通過セル國勢調査法案裁可公布相成候ハヽ明治三十八年ヲ期シ帝國全版圖ニ該調査ヲ執行セラルヘキ儀ニ有之右ニ付過般內閣ニ各廳委員ヲ召集シ內地ニ執行スヘキ調査ノ範圍條項竝ニ結果表章ノ程度等審議ノ末內地ハ概略別紙ノ如キ程度ヲ以テ調査執行可相成見込ニ有之然ルニ臺灣及澎湖島ノ儀ハ內地ト同一程度ノ調査執行難相成事情可有之ト存候就テハ調査ノ方法程度等ニ就キ御意見承知致度此段及御照會候也

　（別紙略ス）

民政長官ノ回答

臺灣總督府ニ於テ此ノ照會ニ接スルヤ重要ナル事項ト認メ關係各部局ヨリ各一名以上ノ調査主任ヲ選出シテ調査ノ事項及程度等ヲ調査セシメ後又各局署長、祕書課長、地方課長、學務課長、參事官ヲ會シテ協議ヲ遂ケ而シテ三十五年十一月ニ至リ左記ノ回答ヲ爲シタリ

　本島國勢調査ノ方法竝程度ノ儀ニ付十月二十二日附發第一七三號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ別紙ノ如キ方法竝程度ニテ調査執行可致見込ニ有之候間右樣御承知相成度此段及回答候也

　追テ調査費用ハ特ニ國庫ヨリ支辨可相成儀ト存候ニ付豫算添附ノ筈ニ候得共目下調査中ニ付追テ提出可致此段申添候也

　（別紙略ス）

內閣案ト修正案

照會書ト回答書ノ別紙ヲ對照スルニ其ノ異ナル要點約左ノ如シ

内閣案	修正案
出生ノ年月日	年齢 何歳 何月 日
山林（又ハ竹林）養蠶家禽	用語 土人ニシテ國語チ話シ得ルモノハ話シ得ト記入スヘシ
田ノ藺蓮根作等 畑ノ桑畑	其ノ他 甘蔗
牛馬ノ牝牡、年齢、頭數	黃牛、水牛、豚ノ牝牡、頭數
	本島人ニ對スル所帶票ハ漢譯ノモノヲ用ウ

實行ノ端緒

此ノ如クニシテ明治三十五年ハ終レリ同三十六年九月ニ至リ愈其ノ準備ニ著手スル必要ヲ認メ特ニ一二ノ吏員ニ命シテ諸般ノ調査ニ従事セシメタリ

第二章 準備

文書課時代ト調査部時代

準備時代ハ明治三十六年九月ヨリ明治三十八年五月勅令第百七十五號臨時臺灣戸口調査部官制發布マテヲ第一期（文書課時代）トシ爾後明治三十九年九月三十日迄ヲ第二期（調査部時代）トスルコトヲ得ヘシ然レトモ事兩期ニ跨リ相關聯スルモノアリ故ニ或ハ年次ニ依リ或ハ事項ノ類集ニ依リテ之ヲ左ニ略説セムトス

施行ノ決定

國勢調査ノ準備ニ關シテハ數年前ヨリ計畫スル所アリタリト雖著々其ノ歩ヲ進メタルハ明治三十六年九月以降ニシテ翌三十七年三月二十二日兒玉前總督ハ明治三十八年十月一日ヲ期シ臺灣全島ニ國勢調査施行ノ件ヲ決定セリ其ノ要件左ノ如シ

要件

國勢調査ニ關スル要件

一 總督府ニ國勢調査ニ關スル臨時機關ヲ設クルコト
　一 立法ニ關スル機關
　二 執行ニ關スル機關
一 實行ニ關シテハ主トシテ警察機關之ニ當ルコト
　但シ必要ニ應シ他ノ機關ヲ以テ補助セシムルコトヲ得
一 所帶票記入事項ニシテ一定シ中ニ就キ戸口調査規程ニナキ事項ハ之ヲ該規程中ニ追加改正ヲ爲スコト
一 戸口調査規程ハ自今各廳ヲ通シ統一的ニ勵行スルコト

一　國勢調査施行日ニ於ケル根據ハ戸口調査簿タルヘキコト
一　右施行日ニ於ケル現在ヲ以テ戸籍簿ノ基礎ト爲シ以後異動ヲ嚴ニ訂正シ以テ動態調査ノ單位ヲ確實ニスルコト
一　本島ニ一定ノ戸籍法ヲ施行セハ右施行日ヲ以テ分界ト爲スコト
一　費用豫算額ハ概略別記ノ如シ
一　以上ノ要件確定セハ實行ノ方法ヲ審査進行スルコト

經費

（別記）　國勢調査費豫算（各年度ノ内譯ヲ略ス）

年度	金額
明治三十七年度	七、六〇〇円
同　三十八年度	七九、七四〇
同　三十九年度	五五、四一二
同　四十年度	五〇、六八八
總計	一九三、四四〇

準備ノ要項

是レ單ニ國勢調査ヲ施行スルノ大方針タルノミナラス人口動態調査ヲ開始スルノ伏線ト爲リ戸口規則發布ノ起因ト爲リ幾多人口問題ヲ解決スルノ楔子タリシナリ方針既ニ定レリ而シテ審査攻究ヲ要スヘキ要目固ヨリ一ニシテ足ラスト雖國勢調査ノ困難ハ萬人ノ等シク認ムル所況ヤ之ヲ新領土ノ臺灣ニ施行スルニ於テヲヤ用意周到ナルニ非スムハ唯ヾ國勢調査ノ價値ヲ損スルノミナラス或ハ恐ラクハ母國國勢調査期ノ伸縮ニ影響セム乃チ特ニ十分ノ準備ヲ要スル所以ナリ今項ヲ分チテ準備ノ要項ヲ擧クレハ左ノ如シ

統計講習生派遣

一　統計講習生派遣　明治三十五年講習生五名、傍聽生一名同三十六年講習生七名ヲ東京ニ於ケル統計講習會ニ派遣ス是レ一般統計ノ智識ヲ得ルト同時ニ國勢調査ニ必要ノ智識ヲ得セシメムカ爲ナリ

統計講習會開設

二　統計講習會開設　明治三十六年及同三十七年臺灣總督府ニ於テ統計講習會ヲ開キ第一回ハ所屬官衙ノ吏員第二回ハ所屬官衙吏員ノ外倘陸軍幕僚ノ吏員ニ一般統計及國勢調査ニ關スル講習ヲ爲ス其ノ修業證書ヲ授與シタルモノ前後百六十九名アリ而シテ會長ハ前後兩回共財務局長祝辰巳ニシテ講習科目及講師ノ官職氏名ハ左ノ如シ

科目	第一回講師	第二回講師
統計理論	技師　水科七三郎	技師　水科七三郎
統計ノ方法		
國勢調査法		
內外統計略史	屬　竹村諫	屬　竹村諫
行政統計		
人口統計	屬　新倉蔚	囑託　永山嘉一
經濟大意	參事官　持地六三郎	囑託　森山守次
經濟統計	屬　永野俊吾	
倫理統計	屬　都筑能悌	屬　都筑能悌
統計實習	各講師	各講師

地方統計講習會

三　地方統計講習會　中央部ニ於ケル統計講習會ハ二年間繼續施行シタルヲ以テ倘地方ニ

於ケル統計講習會ヲ奨勵シ曩ニ總督府統計講習會ノ修業者ヲ講師ト爲シ尚總督府ヨリ講師ヲ派遣スル等講習上ニ便宜ヲ與ヘタリ其ノ開設セシ地方及講習生等左ノ如シ

地方統計講習會

廳	會期	講習員	廳	會期	講習員
宜蘭	自明治三十六年十二月十五日 至同三十七年二月十二日	三七	鹽水港	自明治三十七年八月十五日 至同三十七年九月十二日	二四
阿緱	自明治三十六年十二月二十日 至同三十六年十二月二十四日	九	新竹	自明治三十七年九月一日 至同三十七年九月十五日	五五
臺北	自明治三十七年三月五日 至同三十七年三月二十六日	二四	彰化	自明治三十七年十一月二十一日 至同三十七年十二月十一日	八二
基隆	自明治三十七年五月二日 至同三十七年五月三十日	二六	臺中	自明治三十七年十二月一日 至同三十七年十二月十三日	七五
深坑	自明治三十七年六月二日 至同三十七年六月二十七日	二〇	阿緱	自明治三十七年十二月十二日 至同三十七年十二月二十二日	二一
桃園	自明治三十七年七月十五日 至同三十七年八月五日	七六	宜蘭	自明治三十八年一月八日 至同三十八年三月六日	六三
嘉義	自明治三十七年八月十日 至同三十七年八月二十三日	一〇	恒春	自明治三十八年二月十五日 至同三十八年三月十二日	一六

又三十八年七八月ノ交特ニ臺北及臺南ニ小公學校教員夏期講習會ヲ開キ國勢調査上必要ノ事項ヲモ講習セシム

試驗調査

四 試驗調査 明治三十七年八月桃園廳ニ統計講習會アルヲ機トシ實務演習ノ爲其ノ十四日ヲ以テ桃園街ニ國勢調査ノ實地試驗ヲ爲サシム是レ立案ノ適否、調査ノ難易、擔當ノ輕重、時間ノ多少、其ノ他必要ノ事項ニ付實驗上ノ智識ヲ得セシメムトスルニ在リ

又臺北廳ニ於テハ管内戸口ノ正確ヲ得ムカ爲明治三十八年一月一日ノ現在者ヲ戸口ニ

就テ調査シ之ヲ戸口調査簿ニ對照シ且男女、年齡、職業等ヲ小票式ニ依リ製表セリ是レ亦臨時戸口調査ニ對スル準備ノ一端ナリ

警察官及司獄官練習所科目ニ國勢調査法ヲ加フ

五 警察官及司獄官練習所ノ科目ニ國勢調査法ヲ加フ 本島ノ戸口調査ト警察官トハ密接ノ關係アルヲ以テ明治三十七年二月以降同練習所警察官部甲科生及乙科生ニ國勢調査法ヲ課シ殊ニ同三十八年夏季ニ入所ノ乙科生約二百名ニハ國勢調査ニ必須ノ諸規程及土語ヲ專科トシテ速成ヲ期シ各廳ノ補缺ヲ爲セリ

諸會議

地方官會議

六 諸會議 明治三十七年六月地方官會議ヲ召集スルヤ諮問案中ニ國勢調査ニ關スル事項ヲ加ヘ計畫ノ大要ヲ示シ之ニ對スル詳細ナル各自ノ意見ハ歸任後二十日以内ニ書面ヲ以テ提出ノコトニ決ス當時ノ諮問事項ハ臺灣ニ於ケル國勢調査ノ調査事項ハ如何ニ限定スヘキヤ又其ノ施行期日ハ何月何日ヲ可トスヘキヤニシテ民政長官後藤新平演説ノ要旨左ノ如シ

民政長官ノ演説

國勢調査ノ施行ハ隨分大事業ナリ一方ヨリ見レハ臺灣ハ臺灣相當ノコトヲ爲シ居レハ可ナリ内地ニテサヘ躊躇スルコトヲ臺灣ニテ行フニ及ハス寧ロ此ノ經費ヲ他ニ廻ハサムト云フモノハアリソウナモノナリ然レトモ米國ハ生蕃ノ住居セル所ニサヘ之ヲ行ヒ居レリ是レ今日ノ行政上ヨリ見テ必要ナレハナリ行政上ニ於テ地籍ト人籍ハ必要ナルカ人籍ノコトハ種々ノコトニ必要ナリ國勢調査モ其ノ内ナリ戸籍ノ方ハ簡便ナル方ヲ執リ行クモ國勢調査ヲ行フコトハ猶豫スルコト能ハストノコトアリ此ノ事業ニ著手スルコトニ府議決定セリ而シテ之ニ付テハ保甲モ利用セサルヘカラス警察官モ力ヲ盡サヽルヘカラス保甲ノ方ハ如何ナルヤ知ラサルモ警察官ノ方ハ是非之ヲ盡力セシメサルヘカラス諸君ハ宜敷之ニ付力ヲ盡スヘシ尚申出テラレタキコトハ書面ニテ申出ラルヘシ精キコトハ主任ヨリ申述ヘム

說明

尚文書課長加藤尚志及技師水科七三郎ヲシテ詳細ノ說明ヲ爲サシメ且地方官ノ質問ニ

警務課長會議

對シテハ之ニ答ヘシメタリ而シテ地方官歸任後提出ノ意見ヲ綜合スルニ槪シテ調査事項、調査施行期日共ニ原案ニ賛同ヲ表セリ卽チ調査事項ハ種痘ヲ除クノ外昨年十月實行ノ分ト異ナル所ナク施行期日ハ十月一日ヲ可トセリ

同年十一月各廳警務課長會議ヲ開クヤ國勢調査ノ調査事項ニシテ戸口調査規程中ニナキモノハ豫メ調査シ置クノ方法ヲ注意セシメタリ之ヲ戸口調査簿ニ於ケル準備調査ノ第一著手トス

税務課長會議

同三十八年五月各廳税務課長會議ヲ開クヤ國勢調査ノ要領ヲ示シ且所帶票記入心得ノ讀會ヲ開カシメタリ

地方官會議

同月國勢調査ノ爲特ニ地方官ヲ召集シテ會議ヲ開キ調査施行ニ關スル訓示ヲ爲シ且意見ヲ徵セリ當時總督代理民政長官後藤新平ノ訓示ハ左ノ如シ

民政長官ノ訓示

地方官會議ニ於ケル總督代理後藤民政長官ノ訓示

此ノ度ノ召集ハ戸口調査ニ關シテ特ニ諸君ヲ煩ハシタル譯ニテ戸口調査ノ前驅ヲ爲サムトスルモノナリ戸口調査ハ已ニ諸君ノ了知セラルルカ如ク我國ニ於テハ今日迄曾テ實行シタル事ナキ新事業ナルヲ以テ篤ト協議ヲ遂ケ遺憾ナカラムコトヲ期スヘシ

此ノ度戸口調査ニ關シ官制ノ發布セラレタルハ本部ト地方トノ統一ヲ圖リ事務ノ圓滑敏捷ヲ期スルニ在リ故ニ廳長トシテ地方委員長トナルモ官制ノ示ス如ク委員長ト其ノ下僚トハ通常ノ順序ニ依ラス特別關係ヲ形成スルモノナリ故ニ支廳ノ如キハ特別官制ニハ之ヲ認メス又通常位置ノ高キモノ調査委員トナリ位置ノ低キモノ監督委員トナリ其ノ指揮ニ從フカ如キコトナキヲ保セス此等ハ多少不都合ノ感ナキニ非サルモ戸口調査ノ爲堪能ナルモノヲ選ヒ之ニ從事セシムルモノナルヲ以テ何等ノ支障アルナシ

本調査ニ從事スルモノハ名譽ノ職トシテ從事スルナリ例之ハ貴族ノ子弟カ兵丁トナリ國家ノ職ヲ盡スコトハ名譽ノコトナルカ如シ之レカ爲官等アリ職務アル人ニモ之レカ事業ニ參與スルノ時間ヲ與ヘタリ此等ヲ湊合シテ考フレハ思半ハニ過クルモノアラン假令如何ナル官職ヲ有スルモ其ノ目的ノ爲働ク以上ハ當局ノ主任者タル判任官カ自分ヨリ上長ノ官吏ヲ指揮スルト云フカ如キモ決シテ順序ヲ誤ルト云フヘカラス成規常例ニ照シテ事務ヲ處理シ此ノ目的ヲ達セハ足ルノミ

之ヲ要スルニ特別官制ハ事務ノ統一ヲ圖リ執行ノ敏活ヲ期スルニ在リ官等ノ順序等ハ敢テ論スル所ニ非ス如何ナル官職ニアルモ餘力アレハ之ニ從事セシメテ可ナリ

土地調査施行ノ當時ニ述ヘタルカ如ク地籍ト民籍調査ハ施政ノ根本ニシテ其ノ必要ハ固ヨリ論ヲ俟タス而シテ地域ハ異動アルモ其ノ異動ヲ整理セハ其ノ事業ノ水泡ニ期スル如キコトナシ然レトモ人口ノ調査ニ至リテハ地籍ニ比スレハ甚困難ニシテ其ノ效ヲ擧クルコト亦難シ故ニ先ツ比較的容易ナル土地調査事業ヲ先ニシ今ヤ其ノ事業ヲ終了セルヲ以テ自然ノ順序トシテ戸口調査ニ著手セリ國勢調査ヲ本年全版圖内ニ施行スルコトハ帝國議會ニ於テ協賛ヲ得サリシニモ拘ラス本島ニ於テハ特ニ必要アルヲ以テ總督府ハ戸口調査ノ名ヲ以テ之カ實行ニ著手スルニ至レリ

今回發布シタル規則ニ就キ實施上困難ノ事モアルヘシ此等ノコトハ刷部長タル本會議長竝主事ヨリ十分開陳セシムヘシ故ニ疑ノ存スル所ハ之ヲ質シ以テ其ノ要旨ヲ解得セラレムコトヲ望ム

右訓示終ルヤ主事祝辰巳ヲシテ臨時臺灣戸口調査ニ關スル注意ヲ爲サシメ然ル後臨時臺灣戸口調査規則、臨時臺灣戸口調査事務取扱規程、所帶票、所帶票記入心得、監督委員心得、調査委員心得等ヲ議題ニ供シ各自ノ意見ヲ徵シ最後ニ主事水科七三郎ヲシテ臨時戸口調査施行後ハ其ノ動態調査ヲモ完備セシムルノ注意ヲ爲サシメタリ

警務課長會議及總務課長會議

七月八月ノ交國勢調査ノ爲各廳警務課長會議竝總務課長會議ヲ開キ民政長官ヲシテ訓示セシメ且當務者ヨリ注意說明等ヲ與ヘシメタリ當時警務課長會議ノ問題ハ(一)臨時戸口調査ニ關スル一般ノ注意(二)各廳ニ於ケル臨時戸口調査準備ノ狀況及今後實行ニ對スル見込(三)臨時戸口調査諸規定ニ關スル打合(四)人口動態調査ニ關スル注意又總務課長會議ノ問題ハ(一)臨時戸口調査ニ關スル一般ノ注意(二)臨時戸口調査諸規定ニ關スル打合(三)

人口動態調査ニ關スル注意ニシテ右警務課長會議ニ於ケル民政長官後藤新平ノ訓示及總務課長會議ニ於ケル民政長官代理大島久滿次ノ訓示及右兩會議ニ於ケル主事祝辰巳ノ演說ヲ掲クレハ左ノ如シ

民政長官ノ訓示

警務課長會議ニ於ケル後藤民政長官ノ訓示

此ノ度諸君カ召集セラレタノハ戶口調査ノ事テアル戶口調査ノ事ニ關シテハ先日廳長會議ニ於テ本官ヨリ訓示シタリ今之ヲ反覆スルモ却テ徒ニ時間ヲ費スノミテアル故其ノ大要ヲ話シテ置クコトニ止メマス此ノ戶口調査ハ重要ナル事項テアッテ既ニ總督閣下カ心ヲ是ニ寄セラレ地籍ト人籍ノ事ヲ明カニスルニ非サレハ到底此ノ行政ノ基礎ヲ全ウスルコトハ出來ヌト云フ事ヨリシテ既ニ其ノ地籍ノ事ハ成功シテ居ルカ此ノ度ハ此ノ戶口調査ノ事ニ著手スルニ至ッタノテアル又一方ニ於テ國勢調査ハ本島ノミナラス全國ニ行ハレルト云フ大勢ニ遭遇シ是ト共ニ實行スルト云フ考テアリシカ內地ノ方ハ時局ノ關係ニ因テ之ヲ延期シタノテアル併シナカラ本島ニ於テハ必シモ內地ノ國勢調査ニ伴ウテ實行スルハカリテナク本島土地ノ狀況ニ依リテ必要ナリト認メラレテ居ル事ヨリシテ之ヲ實行スルト云フ事ニ成ッタノテアルソコテ是カ爲ニ特ニ官制ヲ發布セラレタノテアル此ノ官制ハ何故ニ發布セラレタカト申スト先日モ申ス通リ事務ノ統一敏活ヲ期スル爲ニ常系ヲ踏ムテ此ノ事務ノ取扱ヲスル時ニハ却テ煩冗ニ涉ル所カアル故ニ此ノ事務ヲ整理スルニ就テ必要ナル特種ノ系統ヲ以テスレハ必ス統一敏活ヲ期スル事カ出來ルト云フ事ヨリ特ニ官制ヲ發布セラレタ譯テアル此ノ事ハ廳長ニモ訓示シ通常ノ事務ノ系統カラシテ其レニ拘泥シテ此ノ特種ノ系統ヲ設ケラレタル本旨ヲ誤マルコトノナイヤウニ話シテアル故ニ其ノ事ハ廳長ヨリ一同ノ諸君カ聞レタ事テアッテ今之ヲ繰返シテ申述ヘル必要モナイ斯樣ナル特種ノ官制ヲ發布セラレタ事ニ成ッテ居ル點カラ考ヘテモ斯ノ事業カ如何ニ大切テ如何ニ重要ナル事件テアルカト云フ事ハ察シ得ラルルノテアル又是ニ關シテハ大イニ警察官ノ力ヲ要スルノテ唯其ノ當日實行ノ時ニ力ヲ要スルハカリテナイ此ノ準備ニ對シテ最警察官ノ力ヲ要スル此ノ事ハ嘗テ夫々廳長ニ對シ訓示シテアルカ此ノ度ハ其レニ就テ尙遺憾ナキヲ期スル爲一同ヲ召集シタ次第テアル之ヲ實施スルニ就テ此ノ會議ニ於テ能ク協議ヲ遂

ケラレムコトヲ望ム又一面ニ於テハ大島警視總長ハ本官ノ次席トシテ事ヲ助ケ且祝財務局長水科技師ハ主事トシテ事ヲ助ケ此ノ度諸君ト共ニ熟議ヲセラルル筈テアル是ニ就テ意義ヲ質シ疑ヒヲ解キ以テ此ノ實行ヲ完全ニ達セシメムコトヲ希望スル所ノ念カラ訓示トシテ此ノ一言ヲ述フル次第テアル

民政長官代理ノ訓示

總務課長會議ニ於ケル民政長官代理警視總長大島久滿次ノ訓示

開會ニ先立チマシテ諸君ニ一言申シマスカ今日諸君ヲ御召集ニ成ッタノハ臨時戶口調査ノ準備ニ就テ各地方ノ疑義ヲ解キ解釋ノ統一ヲ計ルト云フ御主旨ニ外ナラヌノテ曩ニ警務課長ヲ召集セラレタノモ此ノ主旨テアル段々諸君ノ御盡力ニ因リ各地方トモ夫々準備ニ御著手ニ成ル事ト信シマスカ之ヲ實行スルニ當ッテハ種々ノ疑義ヲ生シ解釋ニ就テ區々ヲ生スルト云フ虞カアリマス就テ今回ノ會同ニ於テ諸君カ御質疑アル所ハ服藏ナク徹底スル迄御質問アルヤウニシ又曩ニ講習員カ講習シテ歸リマシテ其ノ後警務課長ノ會同ニ於テ講習員ハ斯ウ云フ解釋ヲスルカ何ウテアルト云フ質疑モアリマシタ所カ時ニ依リ講習員カ又誤解ヲ傳ヘタト云フ事カアルヤウニ見受ケマスカ段々諸君カ今度ノ會合ニ於テ十分此ノ解釋ヲ會得セラレテ御歸任ニ成ッタナラハ曩ニ會合シタ警務課長モ又講習員モアルノテアリマスカラ是等ノ人カ相寄リ十分熟議セラレタナラハ恐ラク各地方トモ大シタ狂ヒヲ生セスニ統一ヲ期スル事カ出來ヤウト考ヘルノテアリマストウカ其ノ御心得ヲ以テ今度ノ會合ヲ期シテ十分ニ御研究アランコトヲ希望シマス

祝主事ノ演說

警務課長會議及總務課長會議ニ於ケル臨時臺灣戶口調査部主事祝辰巳ノ演說

只今民政長官閣下ノ御話ノアリマシタ通ニ本年十月一日ニ於テ行ハルヘキ戶口調査事務ニ就テハ極メテ重要ナル關係ヲ有テ居ラレマスル警務課長諸君ノ會議ノ席ニ於キマシテ戶口調査事務ニ關スル大體ノ事ニ就テ說明ヲ致スヘキ命ヲ受ケマシテ爰ニ一通ヲ申上ケルノテアリマス

此ノ事ニ就テハ明ニ規定モ發布ニ成ッテ居リ又先般廳長會議モ開カレ廳長諸君ニ對シテ夫々御訓示ノ次第モアリシ故廳長諸君ヨリ御聞キニ成ッテ居ルコトテモアリ既ニ夫々御研究ニ成ッテ居ル事テ此處テ申上ケル事ハ或ハ既ニ御承知ノ事カ多イノテアラウト思ヒマスカ大要ヲ纒メテ之ヲ一貫シテ申上ケマス

此ノ度ノ國勢調査ハ戶口調査ト云フ文字ヲ用キテ居リマスカ此ノ戶口調査ハ調ヘル實際ノ點ニ於テハ所謂純然タル國勢調査テアリマス併シ國勢調査ト云フ文字ヲ用ウルトキハ左ナキタニ猜疑ノ念ニ深キ本島人ニ於テハ文字ノ大ナルカ爲ニ種々ノ事ヲ附會シテ流言ヲ放チ調査ノ實行ニ阻害ヲ來ス虞アリト認メタ

ノテアリマス今日既ニ流言モ起ツテ居ル勿論斯ノ如キ事ノ起ラウトハ兼テ豫期シテ居タル事ニシテ調査ニ於ケル實際ノ結果タニ正確ヲ得ルナラハ文字ノ如キハ如何ニテモ宜イ寧ロ本島人ニ耳馴レタル戸口調査ト云フ名稱カ宜シカラウト云フ事カラシテ戸口調査ト云フ標榜ヲ掲ケテ之ヲ行フ事ニ規則モ發布ニ成ツテ居リマスカ調査スヘキ事柄ハ前申ス通純然タル國勢調査テアリマス

サテ國勢調査トハ如何ナル事カト申スニ御承知ノ通或一定ノ時期ヲ限リテ現在人口ノ天然上及社會上ノ組立ヲ調ヘ其時ノ人口ノ狀態ヲ明ニスルト云フノカ即チ國勢調査テアルテ夫ハ何ノ爲ニスルカト云フト單ニ或時期ノ人口ノ靜態ヲ調ヘ上ケルト云フノミテナイ本島ニ於テハ此ノ度初テ實行セラレルノテアルカ今後ハ一定ノ時期ヲ以テ即チ五年置キ又ハ十年置キニ實行セラルルノテ本年ハ其ノ初期ノ調査ヲシテ次期ノ調査ヲシタ時ニ前期ノ調ヘト比較シタ結果ニ因リ人口ノ組立ハ斯ノ如ク社會上ノ關係ハ斯ノ如ク變化シテ來テ居ルト云フコトヲ明ニシ行政上或ハ學問上ノ斷定ヲ下タシ變化ノ起ツタ原因及有樣ニ就テ夫ハ斯ウ云フコトヲ爲ナケレハナラヌト云フ其ノ土臺ヲ極メルノテアリマス詰マリ國勢調査ナルモノハ我國ニ於テ今迄斯ノ如キコトヲ全國ニ對シテ行ハレタ事ハ無イノテアルカ外國ニ於テハ殆ト普通ノ行政事務ト致シマシテ何レノ國ニ於テモ三年置キ五年置キ或ハ十年置キニ殆ト普通ノ事務トシテ行ハレテ居ル事テアリマス歐羅巴各國ハ重ニ五箇年毎ニ實行スルト云フヤウナ風ニ成ツテ居ル亞米利加ニ於テハ開國以來十年毎ニ實行シ居ルト云フコトニ成ツテ居リマス夫レテ之ヲ平易ニ申上ケレハ詰マリ人口ニ對スル決算テアル或時期ヲ限リテ決算シテ見レハ人口カ幾人アツテ之ヲ男女ニ區別スレハ何ウナル家族ノ關係ハ何ウナルト云フ人口全體ノ決算テアル金錢上ノ決算ト云フ事ハ政府ニ於テモ又ハ民間ニ於テモ年々一回又ハ二回宛決算ヲ立テ居ル併シ人口ノ決算ナル國勢調査ハ頗ル煩雜ナル事ニシテ時日モ要シ人手モ要シ金モ要スル事テアリマス御聞キ及ヒニモ成ツテ居リマシヨウカ亞米利加ニ於ケル菲律賓ノ如キハ領有後未タ數年ナラスシテ早ク既ニ一昨年國勢調査ヲ行ヒ今日ハ既ニ其ノ結果ヲ世上ニ發表シテ居ル事ニ迄進ムテ居ルト云フ有樣テコサイマス先刻長官閣下ヨリ御話モコサイマシタ通國ノ施政ノ基礎トナルヘキ人籍ト地籍トノ其ノ一ナル人籍ノ調査タル國勢調査カ我カ國ニ於テ今日迄行ハレスシテ居ツタコトハ洵ニ不思議ナル事テアリマス帝國ニ於テハ御承知ノ通明治三十五年ノ法律ニ依テ本年十月一日ニ實行セラルルコトニ成リマシテ是カ爲ニ三四百萬圓ノ經費ヲ要シ準備モ出來テ居リマシタカ時局ノ關係ヨリシ

テ内地ニ於テハ延期ニナリマシタ臺灣ニ於テハ長官閣下ヨリ御說明ノ通本年行ハルルト云フコトニ極ツタノテアリマス然ルニ之ヲ一寸考ヘマスト云フト何モ左程ニ大業ニ殊ニ莫大ナル經費ヲ使ツテ之ヲ實行スル必要モナイカノ如クニモ見エマスケレトモ併シ臺灣ノ人口調査ハ最必要ニシテ今日ニ於テ是非之ヲ實行セネハナラヌ時期ト認メラレテ居ルノテアリマス從來臺灣ノ人口統計ノ如キ例之ハ明治三十七年十二月末日ノ現在トシテ統計報告ニ揭載シテアリマスカ是カ果シテ十二月末日ノ現在ナルヤト云フニ文字ニハ然ウ書カレテアルカ其ノ實十月トカ或ハ十一月トカニ調ヘタモノヲ帳簿ノ上カラシテ十二月末日ノ調ト爲シテ揭ケテアルノテ十二月末日實際ノ人口ヲ示シテ居ルノテナイノテアリマス又統計ノ數字ノ上カラ見ルト臺灣ノ人口ハ增加ノ數カ甚低イ比例ヲ示シテ居ル是ハ果シテ事實ナルヤ否ヤ甚疑ハシキ譯テアリマス併シ今日ハ此ノ如キ不正確ナル調査ヲ以テ是ニ因テ諸般ノ行政ノ方針ナリ標準ナリ其ノ他ノ土臺トシテ方針ヲ立テ居ルノテアル痛切ニ之ヲ評スルトキハ當局者自ラ欺イテ居ルノ甚シキモノテアル」

夫カラ内地ニ於ケル國勢調査ハ初ハ五箇年目ニ行ヒ其ノ次ハ十箇年目ニ行フコトテアリマスカ本島ニ於テ本年實行サレルト此ノ後五箇年目ト其ノ次期ノ十箇年目ト即チ第一期第二期第三期ト比較シテ斯ノ如キ變遷ヲ生シタリト云フ事ヲ知ルコトカ出來ル元支那ノ民族ガ日本政府ノ施政ノ下ニ在ツテ如何ナル變遷ヲ來タシタカ始テ明瞭ニ統計上ノ數字ニ表ハレテ參ルノテアリマス此ノ事ハ日本帝國ノ新領土ニ對スル施政ノ上ニ於キマシテ非常ナル重要ノ意味ヲ有スル結果ヲ生スル事テアリマス即チ支那ノ民族カ日本政府ノ下ニ治メラレル結果カ始テ判然ト分ツテ往クノテアリマス斯ノ如キ重要ナル事テアリマシテ總督府ニ於テ段々此ノ事業ノ實行上ニ苦心セラレ準備サレテ參ツタコトテコサイマシタ或ハ統計講習生ヲ東京迄派遣セラレ其ノ後年々統計講習會ヲ臺北ニ開イテ一般ニ統計ノ進步ヲ計ルト共ニ國勢調査ニ關スル智識ノ普及ヲ計リ其ノ職ノ人々ヲシテ統計ノ練習ヲセシメラレ警官練習所ニ於テハ科目ニ加ヘテ練習シ又近クハ花房統計局長ノ來臺ヲ請ヒ本島ノ實況ヲ調査シテ當局者ニ意見ヲ與ヘラレ又其ノ後統計主任ノ人ヲ召集シテ規則ヲ講習シ又特ニ廳長モ召集セラレ又此ノ度ハ諸君ヲ召集セラレタノテアリマス其ノ外種々總督府トシテハ準備ノ手段ヲ執ラレ此ノ事業ヲ全カラシムル爲ニ出來得ルタケノ手段ヲ執リ來ツテ居ラルル次第テアリマス

夫テ此ノ調査スヘキモノ竝此ノ調査スヘキ事柄ニ就テハ既ニ所帶票ヲ御覽ニ成リ御研究ニ成ツタ諸君ニ

申上ケル必要ハナイカ要スルニ此ノ調査スヘキモノハ十月一日ノ午前零時ニ於ケル現在ノ人口ヲ調ヘルト云フ主意ニシテ從來ノ戸口調査簿ヲ基トシテ此ノ期日ニ調ヘルノテアリマスカ此ノ戸口調査簿ハ住居ヲ有シテ居ル人口卽チ現住人口ト云フモノハ此ノ戸口調査簿ニ調ヘ上ツテ居ルノテアルカ其ノ上國勢調査上カラ調ヘ上ケルニハ住居ヲ有シテ居ラストモ一夜泊リノ客ニテモ內地人外國人ニテモ兎ニ角十月一日午前零時ニ所帶ニ在ツタ人間ハ漏ス事ナク總テ調ヘ上ケルト云フコトニ成ツテ居リマス其ノ人間ニ就テ何ヲ調ヘルカト云フ事ハ所帶票ニアリマス通氏名トカ種族トカ男女ノ別生年月職業テアルトカ一カラ二十三迄ニ區別シテアルカ其ノ內十七箇條ハ十月一日ノ零時ノ現在人口ノ總テニ就テ調ヘ上ケルノテアリマス夫カラ臺灣ノ土人ニ限リテ調ヘルコトハ其ノ外ニ阿片吸食纒足ヲ加ヘ十九箇條ハ臺灣土人ニ就テ調ヘ內地人ニ就テハ十七箇條ノ外ニ渡臺ノ年ト出生地ト原籍トノ三箇條ヲ調ヘ外國人ニ於テハ十八箇條ヲ調ヘルト云フ事ニ成ツテ居ルカ此ノ事ニ就テハ詳シク申上ケストモ御承知ニ成ツテ居ル事ト存シマス」

夫テ此ノ調査ノ方法テアリマスカ調査ノ方法竝調査ノ機關カ外國抔ニ行ハレテ居ル國勢調査ト臺灣ニ於テ行ハルヘキ戸口調査トノ間ニハ相違カアリマス夫ハ臺灣ハ特種ノ關係アル上カラシテ斯ノ如クシナケレハ臺灣ノ今日ノ場合ニ於テハ十分國勢調査ノ目的ヲ達シ得ラレナイテアラウト云フ事カラ段々ニ研究シテ斯ウ云フ工合ニ成ツタノテアリマスカ各國ニ於ケル調査ノ方法ヲ申シマスト一ハ獨逸流義テ一人一人ニ票ヲ配布シテ置イテ夫ニ書込マセル例之ハ一所帶五人ノモノナレハ五枚ノ單名票ニ別々ニ書込ムノカ獨逸流義テアル所カ臺灣ニ於テハ一所帶一票ニ調ヘ上ケテ往ク方法ニ成ツテ居ル此ノ方法ハ近來英米各國ニ普通ニ行ハレテ居ルノテ所帶票ノ方カ調ヘル上ニ於テ便利テアリマス單名票ノ方カ調ヘ惡イ其ノ代リニ單名票ハ集計スル上ニ於テハ便宜カアルト云フ事テアルカ普通此ノ所帶票ヨリ調ヘ上ケルノカ各國共通シテ居ル方法テアリマス夫テ其ノ所帶票ニ記入シタモノヲ更ニ要計表ニ擧ケルノカ普通ノ方法組織テアリマス夫カラ其ノ所帶票ニ記入スルニ豫メ其ノ票ヲ調ヘル當日前以テ各戸ニ配布シテ置イテ向フテ書込マセルモアリ又調査委員カ取纒メニ往ツテ其ノ時分ニ書込ンテ來ル方法モアル然ウテナケレハ其ノ當日票ヲ持テ往ツテ一人一人ニ就テ書込ム方法モアルノテコサイマスカ夫レラノ事ハ多クノ調査委員監督委員ト云フモノテ歐羅巴アタリニ於テハ能ク行ハレテ居リマスカ此ノ臺灣ニ於テハ是レニ從事セシメ得ルモノハ官吏ノ外ニハナイノテアルカ歐羅巴抔ニ於テハ何人モ廣ク此ノ仕事ニ對シテ從事シ苟モ其

ノ國ニ現在シテ居ルモノハ獨リ自國ノ人ハカリテナク外國人モ互ニ進ンテ國勢調査委員トナリ監督委員トナリテ是レニ從事シテ取纒メルト云フ事ニ成ツテ居ルノテコサイマス夫テ是レハ申ス迄モナク非常ニ人手ヲ多ク要スルノテ到底官吏一部ノモノテハ調査スルコトハ無理ナノテアリマス夫故ニ臺灣ニ於テハ實施ハ十月一日午前零時ノ事ナレトモ其ノ後三日間ヲ調査期間トシテ許シテアル組織ニ成ツテ居リマス夫ハ止ムヲ得スシテ此ノ組織ヲ採リタルノテ成ルヘクハ同日ノ中ニ早ク調ヘ上ケテ了フ主意テアリテ一時間ナリ二時間ナリ經テハ經ツホト間違ヒヲ生シ易イノテ其ノ日ノ中ニ調ヘ上ケテ了フノヲ良トスルノテアリマスカ臺灣ノ戸口調査ニ於テ十分ナルコトヲ謂ハシムレハ全島ニ七千人內外ノ調査委員監督委員ヲ使用スルニ止マラス此ノ四倍五倍ヲ用ヰタイノテアリマス併シナカラ其レ丈ケノ人ヲ用ヰテ調査ヲスルコトハ臺灣ノ事情カ許サヌノテ餘儀ナク官吏部內丈ケニ限リテ從事セシムル事ニシテ其ノ調査ヲ纒メルノヲ三日以內ト極メラレタノテアリマス然ウイフ譯テアリマスカラ將來臺灣ノ人カ進歩シテ參リマスナラハ今日行ヒマス人員ニ限ラス一般人民ニ廣ク從事セシムルト云フ事ニ成ルノテアリマス本年ハ歐羅巴ノ組織ニ依ル譯ニ往カヌト云フノテ官吏部內ノモノ丈ケニ限リテ從事セシメラレル事ニ成ツタノテアル一體是ハ然ウイフ譯テアリマスカラ國勢調査ニ當ル事ハ其ノ調査ノ當日所帶票ナリ單名票ナリニ向フニテ書込マシムルカコチラニテ書込ムカ或ハ其ノ日ニ往ツテ遣ルト云フノカ普通ノ方法テアリマスカ其レヲ本島ニ於テハ適當ナル調査ヲ成シ得ル丈ケノ人ヲ十分ニ得ラレス僅ニ得ラルルノハ七千人八千人ノ人テアリマス而シテ其ノ人ノ中言語ニ通シテ居ル人カ幾人アリマセウカ警察官ニ籍ヲ列シテ居ル方ハ別段テアルカ其ノ以外ニ於テ土語ニ通シテ居ル人ハ十人ニ一人カ二人シカナイト云フ譯テアル夫故ニ本島ノ戸口調査ハ格別ノ方法ニ由リ調査ヲ仕遂ケル事ニナリマシタ曩ニ水科技師花房統計局長カ實際ヲ視察サレタノモ之レカ爲テアリマス夫テ從來ノ戸口調査簿ヲ土臺トシテ此ノ戸口調査簿ヲ持ツテ往ツテ突合セテ調査シ之レヲ土臺トシテ行フノテアルカラ是レナラハ多少言語ニ不十分ナル調査員ヲ以テスルモ大イニ調査シ易イト云フ事ニナリ卽チ此ノ戸口調査簿ヲ以テ十月一日零時ノ所帶ニ於ケル事實ヲ突合セテ調査シ其ノ後七日間ニ所帶票ニ寫シ取リテ取纒メヲスルト云フ手續キニ定メラレタノテアリマシテ是レハ特種ノ方法テ恐ラク何レノ國ニ於テモ斯ノ如キ方法ニ依リテ國勢調査ノ行ハレタ所ハ無イ本島ニ於テモ此ノ次ニ行ハルヘキ國勢調査ハ此ノ如キ方法ヲ再スルヤ否ヤハ問題テアリマス又本年ノ國勢調査カ警

察ノ戸口調査簿ニ依リテ實行セラルルヤウニ内定セラレタルカ爲昨年十一月ニ必要ナル箇條ヲ追加セラレ又其ノ後モ追加セラルルコトトナリマシテ今ハ警察ノ戸口調査ノ調ト所帶票ニ掲ケテアル事項トハ殆ト全ク一致セシメ唯一ハ現住人口調テアリ一ハ現在人口ノ調テアルト云フ相違ノミニナツテ來テ居リマス是ニ由テ調査スルノテアリマシテ此ノ方法ヲ以テスレハ今日臺灣ノ不十分ナル人ヲ以テシテモ其ノ結果ニ至リテハ各國ニ行ハレタル國勢調査ノ結果ト相讓ラヌ所ノ十分ナルモノカ出來ヤウト云フ事カラシテ斯ノ如キ方法ヲ本島ニ用キラレルヤウニ成ツタ次第テコサイマス夫故ニ本島ノ戸口調査ヲ行ヒマス上ニ於テハ戸口調査簿ノ整理カ非常ナル關係ヲ有テ居リマス段々記入ノ手續ニ就テナリ整理ノ事ニ就テナリ御承知ノ通リニ訓令モ出テ居リ通達モ往ツテ居リ是レニ就テ警察本署ニ於カレテモ非常ニ力ヲ用キテ此ノ事ノ整理ニ八ケマシク言ツテ居ラルル事ハ右申ス關係カラ致スノテアリマスカラシテ同日調査ノ行ハレマス迄ノ間ニ戸口調査簿ノ整理ト云フモノヲ十分ニ特別ニ御配慮ヲ要スル事ハ斯ノ如キ順序ニ成ツテ居ルカラテコサイマス

夫カラ又此ノ臺灣ニ於キマシテノ今ノ調査委員ナリ監督委員ナリヲ官吏丈ケニ限ツタト云フノハ戸口調査簿ヲ土臺ニ採リタルカ爲ニテ一般人民ニ此ノ戸口調査簿ヲ見セルト云フ事ハ不都合ナル故ニ斯ノ如キ組織ニ成ツタ譯テアリマス夫テ段々調査委員監督委員杯ノ割振リニ就キマシテ既ニ各廳カラ御提出ニナリマシタモノヲ拜見致シマスト隨分地方ニ依リマシテ困難ナ所モ有ル樣ニ思ハレマス是レハ他日臺灣一般ノ進歩ニ從ツテ好都合ニ成リマセウカ本年丈ケハ致シ方ナイノテコサイマス先ツ斯ヤウナル仕事ニ成ツテ居リマスノテ本年行ハレマス國勢調査ヲ十分ニ豫定通ノ結果ヲ收メ得ルヤ否ヤト云フニ至ツテハ今申上ケル戸口調査簿ノ整理ト云フノカ第一ノ關係テコサイマス

其ノ次ハ段々發布ニ成リマシタ所帶票記入心得トカ調査委員心得、監督委員心得、調査事務取扱規程及檢査ノ手續等ハ御承知ノ通發布ニ成ツテ居ル事テアリマスカ是等ノ事ハ調査ニ臨ムテ調査委員ナリ監督委員ナリノ頭ニ誤解ノナイヤウニシ殊ニ所帶票記入心得ノ如キハ調査委員監督委員カ共ニ解釋ヲ區々ニスル事ナク七千人八千人ノ頭カ總テ一ツニ成ツテ記入心得ノ解釋ヲシテ其ノ間ニ銘々意見ヲ異ニスルコトノナイヤウニセネハナラヌ苟モ此ノ調査ヲ十分ニシ統一ヲ保ツテ往クニ就テハ之カ殊ニ困難ナル事テアリマス故ニ種々之ヲ練習致シテ見マスニ矢張リ人々ニ依リ解釋ヲ異ニスル點カアルノテアリマス併シナ

カラ是レハ避ケ得ラレヌ事テナイ是非此ノ解釋ヲ異ニスルト云フコトヲ今日排除シテ置カネハ完全ナル結果ハ得難イ若甲ト乙ト異ナツタ解釋ヲ以テ所帶票ニ記入スルナラハ夫ヲ集計スル上ニ於テ誤リヲ生スルノテアリマス若然ウイフ誤解ニ基イテ調査セラレタルモノヲ集計シテ此ノ度ノ調査ノ結果ヲ誤リマスナラハ單ニ此ノ度ノ調査ノ缺點ハカリニ止マラス未來永劫ニ渉リ統計上比較研究ノ基ヲ誤マルト云フコトニ至ルノテ獨リ此ノ度ノ誤リハ此ノ度テ濟マスシテ歴史ノアラム限リ誤リヲ貽ス基トナリ容易ナラヌ事テアリマス又是ハ唯ゝ日本ハカリテナク世界各國ノ研究ノ材料ニ關係ヲ及ホシ廣ク大ナル誤リトナル譯テアリマスカラ此ノ解釋ヲ同一ニシテ實行スルヤウニ爲ナケレハナリマセヌ之カ爲ニ御同樣此ノ仕事ニ從事スルモノハ全力ヲ盡シテ此ノ誤リヲ避ケルヤウニ努メネハナリマセヌ現ニ亞米利加杯ニ於テ行ハレマシタ國勢調査ニ於テ解釋ヲ異ニシタル爲ニ折角大金ヲ投シテ行ヒマシテモ斯ヤウナル缺點アリシ爲大ナル誤謬ヲ生シ遂ニ何ニモナラスシテ非常ナル失敗ニ了ツタ實例モアリマス殊ニ本島ニ於テハ此ノ度始メテ行ハルル國勢調査テアツテ調査スル機關ハ十分テナク調査ヲ受クル人民ハ歐米ニ比シテ文明ノ程度低キ人民テアリ流言ニ惑ハサレ事實ヲ隱蔽シ猜疑心ニ富ムタル人民ヲ相手ニシテスルコトナレハ本島ノ戸口調査ハ餘程ノ困難ヲ前ニ控ヘテ居ル次第テコサイマス

其ノ次ニ調査ヲ完ウスルニ就テ必要ナルハ人民ニ接シテ戸口調査簿ヲ以テ突合セヲスル時ニ兎角隱シタカル其ノ隱サレタ事實ヲ誤リテ所帶票ニ記入カ出來タトスルト前ニ申シタル調査ニ對シ十分ノ準備モ整ヒ解釋ノ統一モ保テタ所テ人民ニ噓僞ノ陳述カアルト云フト夫レカ爲ニ誤ツタ結果カ出來ルノテアリマスカラ成ル可ク人民ニ噓僞ノ陳述ナカラシムル事ハ最必要ナル事柄テアリマス就テハ此ノ噓僞ノ陳述ノナイヤウニ前以テ理屈ノ解ル者ニハ戸口調査ト云フコトハ斯ノ如キ事テ民間ニテ噂ヲスルヤウニ徵兵ノ材料トカ或ハ税ヲ課スル爲ノ材料ニスルトカ種々ナル浮言ノ行ハレテ居ルノヲ然ウ云フ誤解ノ起ラサルヤウニシ又其ノ誤解ヲ解イテ置クコトハ極メテ必要ナル事柄テアル夫レラノ點ニ向ツテハ直接ニ諸君ノ御配慮ニ依リテ虚僞ノ陳述ナキヤウニ御盡力ヲ請ヒタイノテアリマス夫テ此ノ段々各廳トモニ夫々御準備ニ成ツテ居ラレ既ニ調査區テアリ監督區テアルト云フ樣ナモノノ御計畫ヲ拜見致シテ居リ又夫ニ當テ箝メラルル調査委員監督委員ノ選定モ運ムテ居ルコトテアル本月二十五日迄ニハ其ノ姓名モ御報告ニ成リ月末迄ニハ辭令書ヲモ交付スル御運ヒニ成ツテ居ルノテアリマス其ノ調査委員ナリ監督委員ナリノ御

選定ニハ隨分御困難テアツタコトハ拜聽致シテ居ル總テ是等ノ事ハ總督府ヨリ内訓モ出テ居リ今日ハ解ツテ居ルト思ヒマスカ未タ何分ニモ國勢調査ト云フ大體ノ事柄カ一般ノ人ノ頭ニ這入ツテ居ラヌカ爲ニ調査委員監督委員ノ選任ヲ避ケルト云フ事ハ遺憾ナル事テコサイマス是レハ成ルヘク然ウ云フ事ナク一ノ名譽ノ仕事テアル又此ノ度ノ調査ニ關係シタル者ハ生涯ニ於テ履歴ノ一箇條ヲ加ヘル事柄テアルト云フ事ヲ知ラシメテ互ニ進ムテ從事スルト云フ事ニ致シタイモノト考ヘテ居リマステ此ノ本月末日迄ニ夫々辭令カ交付サレテ監督委員調査委員モ決定ニ成ル事テコサイマセウカ解釋ノ統一ヲ計ル爲ニ八月十五日迄ニ監督委員ノ訓練指導ヲ爲シ又九月十五日迄ニ調査委員ノ訓練指導ヲセネハナラヌ事ニ成ツテ居リマス此ノ事ハ委員長タル廳長ヲ補佐サレマスル位地ニ立テ居ラルル諸君ノ仕事トシテ最重要ナル一ツノ仕事テアリマス此ノ訓練指導ヲ十分ニ行キ涉ラセテ參リマスコトハ卽チ此ノ解釋ノ統一ヲ保ツト保チ得サルトノ分カルル所テアリマス故ニ是レニ御注意アツテ全體ニ解釋ノ統一ヲ保ツヤウニ致シタイト思ヒマス尙前ニ申上ケタル人民カ噓僞ノ陳述ヲ爲シテ事實ノ答ヲ避ケルト云フ事ハ調査ニ往ク人カ權柄ツクテ無暗ニ普通日本人カ土人ニ對シテスルカ如キ擧動ヲシテ傲慢ナル態度ヲ以テ調査ニ臨ムニ於テハ大イニ感情ヲ害シ夫カ爲ニ眞實ヲ告クヘキ事柄ヲ殊更ニ僞リヲ以テスルト云フコトハ間々有リウチノ事テアル故ニ成ルヘク調査委員トシテ取ル所ノ必要ナル態度ヲ以テシ徒ニ人民ノ感情ヲ害セヌヤウニ致シタイノテアリマス是レハ特ニ監督委員調査委員ノ練習ノ折リニ諸君ニ御注意ヲ願ツテ置ク一箇條テアリマス」又調査委員ノ問ニ對シテ答ヲ避ケ事實ヲ隱蔽シタリスルコトニ就テハ規則ノ上ニハ罰金ノ例カ出テ居リマスカ夫カ有ルカラト云ウテ直ニ罰則ヲ適用シテ罰金ヲ徴スルノカ目的テナイ夫ニ依テ事實ヲ陳述サセヤウト云フノカ目的テアルカラ出來得ル限リ成ルヘク罰則ヲ適用スルコトナイヤウニセネハナラヌノテアリマス然ウ云フ噓僞ヲ避ケテ事實ヲ得ルノカ目的テアリマスカラ若答フルニ無實ノ言ヲ以テスレハ罰金ニ處セラレルカラト言フコトヲ戒告シテ其ノ實ヲ吐カシムル樣ニ致シ實際ニ於テハ罰金ニ處スルト云フ事ナク事實ヲ得ル事ニ努ムルヤウ豫メ諸君ニ御含ミヲ願ツテ置キタイノテアリマス

右申上ケマシタヤウナ方法ニ依リ準備シ調査委員、監督委員及監督補助委員等ノ機關ヲ用キマシテ十月一日ノ當日ニ調査ヲ行ヒマスノテアルカ當日調査ヲ行ヒマシテ御承知ノ通其レヲ七日以内ニ所帶票、要計表ニ記入致シ調査委員ヨリ監督委員ニ提出シ監督委員ニ於テ其レヲ取纏メテ本部ニ提出スルノテアル

先刻長官閣下ヨリ御話ノコサイマシタ通是ハ調査委員ヨリ監督委員ニ提出シ監督委員カラ廳長ニ出シテ廳長カラ本部ニ提出スルノカ普通ノ順序テアリマスカ其ノ順序ヲ省イテ調査委員ヨリ監督委員ニ出シ監督委員ヨリ委員長ヲ經テ本部ニ提出スル順序ニ成ツテ居リマス斯樣ナル變例ニ依リマスノハ敏速ニ目的ヲ達セシメヤウト云フ事カラ起リマシタノテ普通ノ行政系統ノ上カラ見ルト違ツタ順序ヲ採ラレタ次第テアリマス

夫カラ之ヲ本部ニ集メマシタ所テ所帶票カラシテ本部ニ於テ單名票ト申スヤウナモノニ書込ミ之ヲ集計スル順序ニ成ツテ居ル此ノ集計ト云フハ誠ニ專門ノ技術テアリマス

今日中央集計ノ方法ニ依ル事ハ各國ニ於テ其ノ例モコサイマスノテ臺灣ニ於テモ其ノ方法ニ依ツタ譯テアリマス夫カラ其ノ中央集計ノ方法ニ依リ中央ニ於テ調査シ不審ノ事カアレハ主トシテ監督補助委員ニ調ヘサセル卽チ派出所ノ巡査ヲ監督補助委員ニシ監督補助委員ハ巡査ニ限ルト致シマシタノハ後日誤謬ヲ發見シ訂正ヲ求メル時ノ便宜上巡査ニ限ルト云フ事ニ致シタ譯テコサイマス

夫レカラ尙一ツハ戶口調査ニ從事スル人ニハ總テ徽章ヲ下ケサセ夫レテ以テ調査スルヤウニ爲タイト云フ考ヲ有チマシテ其ノ計畫カ進ムテ居リマス是ハ遠カラス發表ニナリ徽章カ出來マスルト配布スル事テコサイマス

先ツ申上クヘキ大體ノ事ハ略ゝ悉シタル積リテコサイマスカ尙各心得テアルトカ規定テアルトカ云フコトハ更ニ又追々御議リ致ス事テアリマス要スルニ事業ノ大體ニ於ケル仕組ト云フハ斯ヤウナル事テアリマスカ尙此ノ事業ハ極メテ困難ナル事テアリマス故此ノ困難ヲ排除シテ目的ヲ遂シナケレハナラヌノテアリマス萬一御互ニ盡ス所ニ於テ缺點カコサイマシテ豫定ノ結果ヲ收ムル事カ出來ヌヤウナコトカアレハ其ノ結果ノ及フ所ハ單ニ此ノ度ノ調査ノ缺點ヲ表ハスニ止マラス廣キニ涉ツテ將來ニ迄及ホスト云フ事ニ成リ重大ナル事ニ成ルノテアリマストウカ御同樣ノ頭ヲ同一ニシテ有終ノ美ヲ成ス事ヲ努メタイノテアリマス先ツ大體右申上ケタ所テ略ゝ主意ヲ悉シテ居ル次第テコサイマス

七

戶口調査諸規則講習會　明治三十八年五月各廳ヨリ各二名各醫院、稅關及監獄ヨリ各一名ノ吏員ヲ召集シテ臨時戶口調査ニ關スル訓練ノ講習ヲ爲サシム蓋シ國勢調査ノ統一

ヲ期スルニハ一定ノ訓練ヲ要スルヲ以テナリ

講師

右統一ヲ期スル爲講師ハ主事水科七三郎ヲシテ一切訓練ノ任ニ當ラシム開會ノ際調査部長後藤新平ノ訓示、副部長大島久滿次ノ訓告、主事祝辰巳ノ演説左ノ如シ

部長ノ訓示

臨時臺灣戸口調査諸規則講習會ニ於ケル臨時臺灣戸口調査部長後藤新平ノ訓示

此ノ度ノ召集ニ付一言致シマス今回ハ此ノ臺灣ノ戸口調査ノ爲ニ召集致シタノテアル此ノ事ニ就テハ此ノ度カ初テナクシテ總督府ハ既ニ夫レニ任スル者ヲ導イテ之ヲ指導誘掖ニ著手シテ居ツタノテアル所カ愈〻本年十月一日ニ之ヲ實行スルコトトナリ曩ニ官制カ發布セラレ臨時臺灣戸口調査部長ニハ本官カ任セラレ從テ副部長主事等ノ任命カアツタノハ諸君御承知ノ通テアル偖此ノ官制ノ系統ヲ立テラレテ本部ヲ統轄スルコトハ何ニ因リテ斯樣ニナツタカト云フコトニ就テ茲ニ一言スルノ必要アリト考ヘル多クハ此ノ戸口調査其ノモノニ就テ十分了解シナケレハナラヌ人ハ了解シテ居ル卽チ茲ニ召集ノ諸君ノ多數ノ如キハ既ニ講習ヲ經タノテアルカラ其ノ趣旨ヲ十分了解セラレテ居ルニ違ヒナイ併シ斯ノ如キ官制ヲ發布シテ此ノ實行ヲ爲サネハナラヌト云フニ至ツタ所以ノ事ハ或ハ十分ニ其ノ意ヲ了セラレテ居ラヌ人モアルテアラウト思フ是レ全ク前古未曾有ノ事業ニ著手スル故ニ官制ヲ或一系統ノ下ニ統一スル必要ヲ認メラレタノテアルソコテ通常ノ順序ヲ經テ地方廳ニ在リテハ廳長其ノ他支廳ニ在リテハ支廳長又其ノ以下ニ及フト云フヤウナ方法テハ到底之ヲ敏活ニ遂行スル事ハ出來ヌソコテ之ヲ一系統ノ下ニ統一ヲシテ成ル丈ケ敏活ヲ期スル方法ヲ講スルト云フ所カラ此ノ官制ヲ立テラレタノテアル故ニ地方ニ就テノ委員ナル人ハ廳長ノ選ニ任シ廳長ハ地方戸口調査專任ノ主長トナツテ戸口調査部長ニ直接シ相一致シテ事ヲ執リ尋常ノ系統ニ由ツテハ敏活ノ程度ニ於テ大ナル差ヲ生スルノテアル夫レ故ニ此ノ系統ヲ取リ又地方調査委員長ハ廳長トシテ此ノ事ニ從フノテナク本部長ニ從屬スル所ノ委員長トシテ此ノ事務ヲ統轄シ而シテ監督委員調査委員等ヲ統一シテ此ノ事務ニ從事スルト云フコトニナルヤウナ次第テアル其ノ間ニ於テ茲ニ召集セラレタル講習生諸君ハ戸口調査ノ智識ヲ以テ廳長ヲ補佐シテ遺策ナカラシムルヤウ致シタイノテアル是レ其ノ任甚重大ノコトテアリマスカラ能ク疑義ヲ質シテ之ヲ實行スルコトヲ希望シマス前日此ノ統計ノ講習ノ時ニ申述ヘタコトカアツタ統計材料ノ記載ト云フモノハ拵ヘタノテハナクシテ實

際有ルモノヲ其ノ儘ニ記スルノテアツテ丁度金一圓五圓ト云フヲ記入シタノト同シク其ノ人ノ記入シタモノハ札ノ價ト同シク信用セラレテ世ノ中ニ通用スルノテ一ツ二ツ數カ多イカラ是ハ之ニ合セテ置クト云フノテナク恰モ紙幣ノ數字ヲ記入スル如クテアルト云フ考ヲ以テ一ヲ一トシテ記入シ夫レカラ成立ツタ統計材料ハ頗ル精確ナルモノニナルノテアルト云フタコトカアル此ノ事ハ移シテ以テ戸口調査ノ所帶票記入ニ用ウヘキコトテアルカラ此ノ事ハ獨リ諸君ノミナラス此ノ度從事スヘキ何千人ノ人ニ向ツテモ貫徹シナケレハナラヌ夫ハ勿論地方ニ在ツテハ廳長ノ指導カアツテ實行スルニ間違ヒハナイ筈テアルケレトモ之ヲ扶ケ此ノ趣旨ヲ普及サセ敏活ニ行ハルルコトニスルハ諸君ノ輔佐ノ力ニアル事テアル故ニ十分其ノ邊ニ注意セラレタイノテアル又戸口調査ニ從事スルト云フ事柄ハ非常ナル名譽ノ事テアル況ヤ監督委員タリ調査區ニ於ケル調査委員タルコトニ於テハ普通ノ補助員タル人ト違ツテ十分名譽ヲ以テ從事スヘキ事柄テアルケレトモ左程ニ人カ之ヲ名譽ノ事業テアルト心得ヌモノモアルカラ其ノ邊ニ就テモ十分ニ諸君カ之ヲ名譽ノ事業テアル正確ニ記入スヘキ事柄テアルト云フ精神ヲ克ク貫徹スルヤウニシナケレハナラヌ此ノ精神カ透徹セサレハ此ノ事業ノ效果ニ影響ヲ及ホスコトハ少クナイ特別官制カ出テ或統一ノ下ニ此ノ運動カ行ハレムトスルニ至ツタコトハ斯ノ如キ譯テアル此ノ精神ヲ皆能ク了解シ特別ニ盡力セラレムコトヲ希望シマス若夫實際細目ニ涉ル條項ニ就テハ副部長カラモ本日諸君ニ御話スル筈テアル又祝主事カラモ御話スルコトテアルカラ本官ハ唯〻特別官制ヲ設ケテ或統一セル機關ノ下ニ實施スル必要アリ地方ニ於ケル委員長ハ廳長之ニ當リ此ノ廳長ヲシテ十分效果ヲ收メシムルハ諸君ノ補佐如何ニ在ルノテアル夫故召集シタノテアルト云フ事ニ外ナラヌ此ノ精神ヲ克ク貫徹スルヤウニ希望致シマス

副部長ノ訓告

臨時臺灣戸口調査諸規則講習會ニ於ケル臨時臺灣戸口調査部副部長大島久滿次ノ訓告

私ハ此ノ度臨時臺灣戸口調査部副部長ノ重職ヲ瀆シマシテ諸君ト共ニ此ノ名譽アル戸口調査事務ニ從事スル事ヲ得マスノハ洵ニ私ノ光榮トスル所テアリマス只今長官閣下ヨリ此ノ臨時臺灣戸口調査部ト云フ特別官制ノ布カレマシタ御趣意ニ就テ懇篤ニ御訓示ニ成リマシタ通我々ハ其ノ御趣旨ヲ飽迄服膺シテ此ノ名譽アル大事業ヲ完成スルヤウニ諸君ト共ニ責任ヲ有テ居ルモノテアリマス此ノ戸口調査ト申シマスハ普通警察テ今日迄行リ來ツテ居ル所ノ戸口調査トハ其ノ内容ニ於テ全ク違ツテ居ルノテアリマシテ卽チ所謂國勢調査テアルノテアル此ノ國勢調査ヲ實行セラルルニ付キマシテハ只今長官閣下ヨリ普通行政

機關ノ系統ニ由ラスシテ特別機關ヲ設立セラレタ事ヲ御訓示ニナリマシタカ是ハ各國ニ於テモ各其ノ國ノ行政組織又ハ國々ノ事情ニ依テ機關ヲ異ニシテ居ルコトハ諸君御承知テアラウト考ヘルノテアリマスカ元來本島ニ於テ下級行政機關トシテハ街庄社長アリ一面ニ警察機關トシテハ保正甲長ト云フモノカアリ若其ノ保正甲長ト云フモノカ十分ノ働キヲ有スルモノテアリマスナラハ此ノ度ノ戸口調査ニ於テハ實ニ有力ニシテ最適當ナル機關テアラウト考ヘルノテアリマス併シナカラ如何セム此ノ街庄社長ナル者竝保正甲長ナル者ハ御承知ノ通未タ之ニ依リテ戸口調査ヲ爲スヘキ知識ノ程度ニ達シテ居リマセヌ是レ亦止ムヲ得ナイ次第テ本島ニ於テ眞ニ賴ミト致シタイ人間ハ殆ト賴ミニナラヌト云フ現狀テアルノテアリマス夫レ故ニ一般行政官吏ハ勿論學校職員公醫等ヲ擧ケテ此ノ戸口調査ノ任ニ當ルト云フ組織ニセラレタノテアリマシテ所謂街庄社長保正甲長ノ如キハ唯〻之ヲ補佐スルニ足レハ我々ノ希望ハ十分達シタルモノト思フノテアリマシテ果シテ諸君カ戸口調査ヲスルニ當ツテ之カ補助機關ト爲リ得ルヤ否ヤモ疑ハシイ位テアル斯ノ如ク行政官吏竝公醫、學校職員等カ一團體トナツテ戸口調査ニ從事スルコトテアリマスカラ凡人員ニモ限リアル話テアツテ本島戸口調査委員ノ分擔スル戸數ヲ考ヘテ見ルニ一調査委員ノ負擔戸數カ百戸以內ト云フコトニ成テ居ル獨逸抔ニ於テハ一調査委員ノ負擔區域ノ戸數ハ五十戸以內ト承ツテ居ル斯ノ如キ開明ノ國ニ於テスラ五十戸以內ノ負擔區域ヲ以テ調査シテ居ル然ルニ本島ニ於テ百戸以內ト云フコトテアレハ此ノ負擔ハ重イ負擔ト言ハ子ハナラヌ況ヤ言語不通人情風俗ヲ異ニスル所ニ於テ百戸ヲ一區域トシテ一調査委員カ負擔シテ遺憾ナク此ノ大事業ヲ完成スルコトハ困難ナル事テアルト考ヘマステアルカラ諸君ト共ニ十分奮發シテ斯ノ事ニ從ハナケレハ或ハ長官ノ御希望ニ副フコトカ出來ヌヤウニナリハセヌカト云フ心配ヲ有テ居ル又御承知ノ通此ノ人民ハ兎角浮言流說ヲ傳ヘ易イモノテ今日戸口調査ノ聲ヲ聞イテ是ハ徵兵ノ爲テアルトカ租稅賦課ノ爲テアルトカ種々樣々ノ浮說流言ヲ傳ヘテ居ル調査ノ進行スルニ從ヒ益〻種々ノ流言カ行ハルルコトハ疑ナイコトテアル斯ウイフ一面ニ浮說流言ヲ排斥シ以テ負擔區域ノ戸口調査ヲ完全ニ行フコトハ困難ナルコトテアルト考ヘルノテアリマス要スルニ只今申ス通リ街庄社長保正甲長ハ殆ト賴ミニナラヌ機關テアリ又調査委員ノ負擔ハ重イノテアル夫カラ又調査サルル所ノ人民カ無智ナル爲戸口調査ノ何物タルヲ知ラサルノミナラス却テ種々ノ浮說流言ヲ放チテ忌避妨害ヲ爲ス事カナイトモ限ラヌノテアリマス凡此ノ三ツノ困難ヲ排斥シテ此ノ大事業ヲ完成

スヘキ任ヲ御同樣ニ有テ居ル故ニ我々ハ諸君ト共ニ協力一致シテ一團體ト成ツテ此ノ事務ノ完成ヲ期スル覺悟ヲ要スル次第テアル只今長官閣下カラモ御示シニナリマシタ通此ノ系統一貫ノ組織ヲ以テ戸口調査部ヲ設ケラレ異種ノ行政系統ノ者相集マルカ故ニ平常ノ官等階級ト云フモノモ場合ニ依リ顚倒錯雜スルコトモアラム卽チ場合ニ依リ系統ノ違ツタモノカラ監督ヲ受ケル場合モアラム又自分ヨリ官等ノ低キモノカラ監督ヲ受ケテ調査スルト云フ事モアラウ平生ノ官制及官等階級カラノ地位ヲ以テ見テ若諸君ノ間ニ於テ妙ナ不快ノ感シヲ起サシムルヤウナ事カアツテハ由々敷大事テアラウト考ヘル此ノ一團ト成ツタ混成團體カ事業ニ參加スル以上ハ此ノ事業ハ全ク別物ト考ヘテ平生ノ系統階級ヲ意トセス唯〻專心誠意以テ事業完成ヲ期スル覺悟ヲ要スルコトテアルト考ヘル又來ル十月一日ヲ以テ戸口調査ヲ實行セラルルト云フコトテアルカラ今日カラ考ヘテ見レハ最早時日切迫シテ居ルノテアリマス是レカラシテ諸君ト共ニ準備ニ著手シ駈ケ足テシナケレハ十月一日ノ間ニ合ハヌト云フ虞モアルニ依リ一日モ忽ニスヘカラサル事テアル諸君ハ其ノ御積リテ十分ナル駈ケ足ヲ以テ準備ニ著手セラレムコトヲ希望シマス

夫レカラ私ハ職ヲ警察ニ奉シテ居リマスカラ特ニ此ノ講習會ニ出席セラレタル警察出身ノ方ニ申シタイコトカアリマス併シ是ハ必シモ警察出身ノ方ハカリテナク他ノ方モ其ノ事ヲ能ク心得ラレタイ事テアリマスカ此ノ度ノ戸口調査ハ凡百戸ヲ以テ一調査區トスルコトテアリマス其ノ源ヲ考ヘテ見レハ矢張リ百戸ヲ以テ一保トシタ所カラ出來タモノト考ヘラル又此ノ戸口調査ノ準備トシテナシツツアル所ノ戸口調査簿ハ警察ノ監視區域ニ依テ作ラレテ居ルカラ國勢調査區ハ警察ノ區域ニ依ラ子ハナラヌコトニ成ツテ來ルテアラウト思ヒマス曩ニ御通達ニ依リ國勢調査ニ必要ナル事項ヲ警察ノ戸口調査ニ加ヘ各廳ニ於テ戸口調査準備トシテ已ニ調査セラレツツアルノテアリマスカ尙此ノ頃決定致シマシタ所帶票記入事項ニ依リテ多少之ニ增加ヲ要スルコトテアラウ何レ其レハ御通達ニ成ルコトテアリマセウカ是ニ依ツテ始テ所帶票記入ノ事項ト警察ノ戸口調査ト合致シタ譯テアリマシテ調査期日マテニハ日夜兼行テ行カナケレハ此ノ準備カ出來ヌ事テアラウト考ヘルノテアリマス此ノ警察ノ戸口調査カ十分ニ出來テ居レハ調査委員カ實地ノ調査ヲ爲ストキニハ殆ト其ノ後ノ異動ヲ調フレハ其レテ總テノ所帶票記入カ出來ルコトトナルノテアリマスカラ警察官吏ハ十分此ノ準備ヲ著ケテ置カネハナリマセヌ是ハ警察出身ノ方ニ特ニ申シテ置キマスカ獨リ諸君ハカリテハナク諸君カ御歸任ノ後ニ於テ警察官一同ニ此ノ旨ヲ傳ヘラレ相一致シ

テ此ノ準備ニ付違算ノナイヤウニ希望致シマス尚先刻申ス通愈〻戸口調査ノ實行ニ著手スル以上ハ或ハ公醫アリ或ハ學校職員モアリ或ハ稅關官吏ノ如キモ調査委員トナリ種々ナル人間ノ混成團體カ出來ルノテアリマスカラ巡査補ナリ保正甲長等ヲ道案內トシテ使用スル必要カアルカラ能ク調査委員ト地方ノ保正甲長等トヲ結ヒ著ケルコトハ警察官ノ責務テアルト考ヘル卽チ實施前ニ於テ地方ノ調査委員ト地方ノ保正ナリ甲長ナリトヲ十分結ヒ著ケテ往ツテ一ツノ確カナル調査ノ組合ヲ造リ實際調査ノ時ニ臨ムテマコツク事ナク圓滑ニ實行ノ出來ル樣ニスルコトハ警察官諸君ノ務メネハナラヌコトテアル又一面警察官以外ノ調査委員諸君モ是等保正甲長等ト親密ニ圓滿ノ關係ヲ保チ努メテ此ノ事業ヲ完成セラレムコトヲ希望致スノテアリマストウカ此ノ準備事務カ完全ニ行ハレルヤウ諸君ト共ニ努メタイコトテアリマス聊カ此ニ一言ヲ申述ヘテ諸君ノ注意ヲ望ミマス

祝主事ノ演說

臨時臺灣戸口調査諸規則講習會ニ於ケル臨時臺灣戸口調査部主事祝辰巳ノ演說

只今民政長官閣下ヨリ御話カコサイマシタ通臺灣ニ於キマシテ空前ノ事業タル戸口調査ニ關シ最重要ナル仕事ヲ分擔セラルル爲今回召集ニナリマシタ諸君ノ前ニ於キマシテ此ノ事業ノ大體ヲ御話シ申スコトハ私ノ甚榮譽トスル所テコサイマス此ノ仕事ハ戸口調査ト云フ名ヲ標榜致シテ居リマスカ是レハ戸口調査ニアラスシテ其ノ實ハ國勢調査テアルト云フコトハ今副部長閣下ヨリ御話ノアツタ通テアリマス國勢調査ノ事柄ハ如何ナル事柄テアルカト云フニ玆ニ召集セラレタ多數ノ方ハ先年以來ノ講習會ニ於テ講習セラレタ方テアラウト存シマス故ニ私ノ申上ル迄ノ必要モコサイマセヌカ講習會ニ御出席ナカツタ方ノ爲ニ一言ヲ約メテ申シマスナラハ本年十月一日午前零時ニ於ケル臺灣ニ現在スル人間ニ付所帶票記載ノ各事項ニ付實際ノ狀態ヲ記入シ其ノ事柄ニ就テ調上ルト云フ事テアル言ヲ換ヘテ云ヘハ臺灣開闢以來ノ人間ニ就テ本年十月一日午前零時ノ狀體ニ於テ總決算ヲシテ見ルト云フ事テアル事柄ハ右申上タ樣ナ事テモ其ノ內容ハ所謂國勢調査テアルノテコサイマス併シ國勢調査ト云フ名詞ハ左ナキタニ流言浮說ニ惑ハサレ易イ本島人ニ於キマシテハ國勢調査ト云フ名詞ヲ用キルトキハ此ノ調査ヲ一層困難ナラシムル事情カアルノテアリマスカラ寧ロ衆人ノ耳慣レタル戸口調査ト名ツケ人民ノ耳ヲ驚カサスシテ效果ヲ擧ケヤウト云フ主義テ戸口調査ト云フ名ニ定メラレタ次第テアル故ニ其ノ事柄ニ至ツテハ純粹ノ國勢調査テアルノテアリマス次ニ本年十月一日ニ戸口調査ヲ實施セラルルト云フコトニ成リマシタ經歷ニ就テ一言申

上ケテ置カネハナリマセヌカ是レハ明治三十五年ニ於キマシテ法律カ發布セラレ內地ニ於テハ本年十月一日ニ全國ノ國勢調査ヲ實行セラルルコトニ成ツテ居タコトハ諸君御承知ノ事テアル其ノ當時臺灣ニ於キマシテモ空前ノ大事業タリシ土地調査ト云フコトモ三十七年度ニナレハ完結致マスノテ其ノ翌年卽チ本年十月ニ全國ノ國勢調査ヲ施行セラルルノテアルカラ此ノ國勢調査ハ最臺灣ノ經營上極メテ必要テアリマスノテ此ノ事業ハ臺灣モ結ヒ著イテ行フト云フ事ニナリマシタノテアルカ固ヨリ知識ノ程度等調査セラルル人間ハ內地ト異ナリ本島ニ於テ國勢調査カ好結果ヲ得ラレヌカモ知レマセヌカ兎ニ角臺灣モ同時ニ施行スルト云フ事ニ御決定ニナツタノテアリマス然ルニ內地ニ於ケル國勢調査ハ日露事件ノ爲ニ延期セラレタノテコサイマスカ臺灣ニ於テハ前申上ケマス通特ニ必要ヲ認メラレテ本年決行セラルル事ニナツタ次第テアリマス

夫レテ此ノ本年十月一日ニ行ハルル所ノ戸口調査ト云フモノニ對シテ總督府ハ如何ニ重キヲ置カレテ居ルカト云フニ只今長官閣下竝副部長閣下ヨリモ大略御話ニナツタコトテアリマスカ總督府ハ此ノ事業ニ對シテハ非常ニ重キヲ置カレテ夫レニ準備ヲ施設シ來ツタノテアリマス其ノ來歷ヲ申シマスレハ三十五年以來總督府ニ於キマシテ人ヲ選拔シ東京ニ於テ開カレタル統計講習會ニ派遣シテ講習セシメラレタコトハ先ツ第一ニ此ノ臺灣ノ戸口調査ノ目的ニ備ヘラレタノテ豫メ今日アルコトヲ期シテ決行セラレタノテアリマス而シテ其ノ講習生カ歸ツテ參リマシテ昨年モ一昨年モ各廳ヨリ諸君其ノ他ノ人ヲ召集シテ二回マテ講習會ヲ開カレマシタノモ戸口調査ノ完成ヲ期セムカ爲ニセラレタ一ツテアリマス又昨年十二月戸口調査簿ニ副業ノコト不具ノ種類原籍其ノ他二三ノ事項ニシテ今迄戸口調査簿ニ載ツテ居ラヌコトヲ追加シテ記入セヨト達セラレタコトモ今日戸口調査ノ準備ニ外ナラヌノテアル又モ一ツハ本年ニナリ總督府ヨリ內閣ヘ照會セラレ花房統計局長カ出張ニナリ本島ノ狀況ヲ視察セラレタコトモ此ノ戸口調査ヲ實行セラルル爲テアリマス又先程長官閣下ヨリ御話ノアリマシタ如ク此ノ度戸口調査ノ特設機關ヲ設ケラレマシタト云フ事モ此ノ事業ニ重キヲ置カルルカ爲テアリマス今日諸君ヲ各廳ヨリ呼ヒ集メラレマシタノモ固ヨリ此ノ爲テアル又諸君カ臺北ニ滯在セラレテ居ル中ニ各廳長ヲ召集セラルルノテアリマスカ是レ亦全ク十月一日ノ戸口調査ノ爲テアリマス今後猶來月學校ノ休業ヲ利用シ夏期ノ講習ヲ兼ネテ職員ヲ召集セラレルコトモ此ノ事アルカ爲テアル斯ノ如ク種々此ノ事業ヲ完カラシメムカ爲準備トシテ計畫

施設セラレタコトハ實ニ一日テナイノテアリマス偖テ左程ニ愼重ニ左程ニ重キヲ置カレテ調査セラルヘキ事柄ハ奈何其ノ調査スヘキモノハ何テアルカト云フニ卽チ十月一日ニ現存スル人ニ付如何ナル狀態テアルカ此ノ所帶票ヲ見レハ分ルヤウニ調ヘルノテアル調査スル事項ハ全體ニ於テ二十三箇條アリ更ニ之ヲ細別シテ見ルトキハ本島人、外國人、內地人ノ三ツニ分チテ見タ所テ此ノ三ツニ共通スル調ヘカ十七箇條アル例之ハ氏名トカ種族トカ男女ノ別、出生ノ年月日トカ云フ樣ナ十七箇條丈ケハ總テニ付テ調ヘネハナラヌ夫カラ本島人丈ケニ就テ調ヘネハナラヌ事カ二箇條アル卽チ阿片烟吸食者、纏足者ト云フモノ內地人丈ケニ就テ調ヘネハナラヌ事カ三箇條卽チ渡臺ノ年月日、原籍、出生地、夫カラ外國人ニ就テ調ヘル事カ一箇條卽チ國籍、サウイフヤウナ譯ニ各箇條ニ依テ所帶票ニ記入スル事ニナッテ居ル總計二十三箇條ノ內容ニ於テ本島人ハ十九箇條內地人ハ二十箇條外國人ハ十八箇條ヲ調ヘルトイフ事ニナッテ居ルノテコサイマス

夫レテ此ノ調査ヲ豫定ノ通完ウスルコトカ出來ルヤ否ヤト云フコトニ就テ極メテ必要ナル條件ハ唯一ツテアルト思ヒマス卽チ先程長官閣下又副部長閣下ヨリ御話ノアッタ通協同一致ヲ以テスル事テアリマスカ多勢ノ人カ寄集ッテスル仕事ハ極メテ協力カ大切テアルコトハ申ス迄モナイカ此ノ調査ハ單ニ協力ト云フ丈ケテハイケヌ心カ一ニナラナケレハイケヌノテアリマス恐ラク此ノ調査ニ從事スヘキ人ハ總計六千人內外テアリマセウ其ノ六千內外ノ人カ一ツ頭ト爲リ責任ヲ以テ全島六十萬戶ノ人民ニ當ラネハナラヌ是レ最必要ナル事柄テアル此ノ六千ノ人ノ頭ヲ一ツニスル卽チ解釋ノ統一ヲ保ツコトカ出來ルヤ否ヤ若夫レカ出來ヌナラハ此ノ戶口調査ノ目的ハ十分ニ達スルコトカ出來ヌト云フ事ニナルノテアリマス是ハ歐米ニ於テモ著々其ノ實例ノアルコトテ國勢調査ニ於ケル諸般ノ組織準備等ハ完全ニ立派ニ整頓シテモ實際ノ調査ヲ行フニ當ッテ調査委員監督委員等カ各別ニナッテ調査ノ一致セサルカ爲折角大金ヲ掛ケテ出來上リタル調査カ甚不完全ニ了リ役ヲ爲サヌト云フコトニ立至ッタ例ハ各國ニ於テ乏カラヌコトテアリマス本島ノ戶口調査カ果シテ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤハ今ノ六千ノ調査委員、監督委員等ノ頭ヲ一ツニスルコトカ出來ルヤ否ヤニ歸スルノテアル而シテ此ノ六千ノ人ノ頭ヲ一ツニセムカ爲ニ諸君ハ茲ニ召集セラレタノテアル　又廳長ヲ召集セラルノモ夫レカ爲テアリマス其ノ次ハ調査ノ方法ノ事テアリマスカ是ハ只今副部長閣下カラ御話ノコサイマシタ通臺灣ニ於ケル此ノ度ノ戶口調査ノ方法ハ特種ノ方法テ

アッテ各國ニ其ノ例ノナイ戶口調査簿ヲ土臺ト致シテ豫メ其レヲ完全シタモノニシテ置イテ其ノ當日ニ於テ戶口調査簿ヲ以テ戶ニ當リ實地ノ狀況ト照合シ歸來所帶票ニ書込ムト云フ是レカ臺灣ニ於ケル調査ノ方法テアッテ特種ノ方法テアル申上クル迄モナク外國ノ國勢調査ハ此ノ所帶票ヲ豫メ各戶ニ配布シテ置イテ記入サセルカ或ハ其ノ時ニ調査員カ往ッテ書込ムカ孰カノ方法ニスルノテ之カ普通ノ順序テアル臺灣ニ於テハ然ウテナイ所帶票ニ書込ムコトハ後ニシテ戶口調査簿ヲ持テ往ッテ調査スルノテアル是ハ副部長カラ御話ノアッタ通言語ニ精通シテ居ル者ハ至テ少ナク民情風俗ヲ異ニシ調査ヲ爲スニハ甚困難カ多イ此ノ臺灣ノ戶口調査ヲ完全ニ目的ヲ達シ好結果ノ得ムトスルニハ之ヲ歐米ニ於ケル國勢調査トハ趣ヲ異ニシ斯ノ如キ特種ノ方法ヲ以テ爲ナケレハ眞正ナル結果ヲ得ラレヌノテアリマス戶口調査簿ノ整否ハ此ノ度ノ調査カ目的ヲ達シ得ルヤ否ニ付テハ大ナル關係ヲ有シテ居ル次第テ此ノ事ハ副部長カラモ御話ノコサイマシタ通戶口調査簿ハ此ノ度ノ調査ノ根本テアリマスカラ其ノ局ニ當ッテ居ラルル警察官ノ方ニハ十分御盡力アラムコトヲ切望スルノテアリマス若是レカ十分ニ出來テ居リマセヌ時ニハ警察官諸君ノ如キハ言語ニモ通シ地方ノ狀態モ能ク判ッテ居ルカラ宜カラウカ其ノ以外全體ノ人々六千人ノ中ニ半分ハ外ノ人ヲ使ハネハナラヌカラ其ノ人等ノ爲ニハ戶口調査簿カ十分テナカッタ時ニハ調査委員ハ十分責任ヲ盡スコトカ出來難イコトテアリマス故ニ此ノ點ニ付テハ特ニ御注意ヲ希望致シテ置キマス其ノ次ニ申上ケルコトハ調査機關ノ事テアリマスカ是ハ大體長官閣下ヨリ御話ノアリマシタ通ノ事テアリマスカ

臨時臺灣戶口調査部機關系統

事務ノ敏活ヲ圖ルニ此ノ如キ簡潔ナル系統ヲ立テラレタノテアル

- 部長
  - 戶口調査評議員會
    - 會長—幹事—書記
    - 評議員九人
  - 主事二人
    - 一人ハ庶務課長—屬
    - 一人ハ調査課長—屬
- 副部長
  - 第一監督區監督委員
  - 監督補助委員
    - 第一調査區調査委員
    - 第二調査區調査委員
    - 第三調査區調査委員
    - 第四調査區調査委員
    - 第五調査區調査委員

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

委員長（各廳一人合計二十人各廳長）	第二監督區監督委員／監督補助委員	同上
	第三監督區監督委員／監督補助委員	同上
	第四監督區監督委員／監督補助委員	同上
	第五監督區監督委員／監督補助委員	同上

（表ノ說明）

中央部ノ機關トシテ部長、副部長、評議員會、主事ヲ設ケラレテ議事機關タル評議員會ハ根本ニ關スル諸規則ヲ議決スルノテアル

庶務課長ハ不肖之ニ任セラレ調査課長ハ水科技師之ニ任セラレマシタ其ノ下ニ屬官カアル

地方ノ機關ハ戶口調査委員長カアリテ各廳長之ニ充タリ其ノ下ニ監督區カアル此ノ監督區ハ此ノ表ニハ五ツテアルケレトモ實際ハ十モ二十モ出來ル其ノ第一區ノ監督委員ハ一人テ監督補助委員（幾人モ出來ル）カ出來ル其ノ下ニ調査委員カ幾人モ出來ルノテアル第二區第三區モ同樣テアル

委員長トシテスヘキ事務、監督委員ノスヘキ事務、調査委員ノスヘキ事務ハスヘテ印刷物ニ出來テ居ル要スルニ簡單ナル直屬系統ニ依リテ働クノテアル

諸君カ此ノ練習ヲ了ヘテ御歸任ノ上ハ第一ニ調査區又ハ監督區ヲ定メネハナラヌ是レカ定マツテカラ後夫々調査委員ヲ選定スル此ノ調査委員ニハ可成事情ニ通シタ者テアツテ其ノ調査區ノ近傍ニ住スル者ヲ選ハネハナラヌ夫レカラ事務所ヲ設クル調査委員ヲ訓練スル等當日迄ニナスヘキ色々ノ準備ヲ終ヘテ偖調査ヲナシタル後ハ調査委員ハ夫レニヨリテ調査委員ノ要計表ヲ作リ監督委員ニ差出ス監督委員ハ區內各調査委員ノ差出シタルモノヲ檢査シテ監督委員要計表ヲ作ル夫カ了レハ委員長ノ處ヲ經過シテ本部ニ差出ス本部ニ於テハ之ヲ集計シテ表ニ作ルノテアル廳ノ集計ヲ省クノハ整理ノ事務ノ敏活ヲ圖ル爲テアツテ本部ニテハ進步シタル機械ヲ使用シテ熟練ナル者カ之ニ當ルト云フ利益カアル

夫レテ尙茲ニ御集リノ諸君ノ職責ニ就テハトウイフ事テアルカヲ一言申上ケテ置キタイノテアリマス其レハ先刻長官閣下ヨリ御話ノアツタ事柄テアリマスカ第一トシテハ委員長タル廳長ヲ補佐シ廳長ノ計畫スル所竝監督ノ責任ヲ全カラシムルノハ先ツ諸君ノ第一ノ義務テアリマス又調査委員其ノ他ノ選定ナリ或ハ調査區ヲ定メ監督區ヲ定ムルコト或ハ調査委員タリ監督委員ト爲ルヘキ人ノ頭ヲ一ツニシ諸規定、所帶票其ノ他訓令セラレタル事ヲ能ク一般ニ通曉セシムルヤウニスルコトハ第二大切ナル事務テアリマス尙其ノ上ニ自分カ監督委員トナラレ監督ノ事務ニ從事セラルル方モアリマセウ又調査委員ト爲ラレテ調査ヲ擔當スルコトニナル方モアリマシヨウ兎ニ角種々ノ事柄ニ就テ諸君ノ力ヲ借ラナケレハ此ノ事業ヲ全カラシムルコトハ出來ヌノテアリマス

斯ノ如キ職責ヲ有テ居ラルル諸君ト他ノ六千ノ人ノ頭トヲ一ツニシテ此ノ度ノ調査ノ仕事ニ當ルノテアル此ノ名譽アル仕事ニ從事スル爲ニ是レヨリ諸君カ規則、手續ヲ明ニスル爲水科技師ハ其ノ指導ノ任ニ當ラルル事ニナツテ居ル諸君ハ此ノ目的ヲ以テ訓練セラレナケレハナラヌ而シテ諸君カ訓練サレタ所ヲ以テ廳長ヲ佐ケ各地方ニ於ケル監督委員ナリ調査委員ナリヲ訓練シナケレハナラヌ要スルニ地方ニ於テハ諸君カ大切ナル指導ノ任ニ當ラレ臺灣ニ於ケル空前ノ大事業タル此ノ戶口調査ヲ完カラシメネハナラヌノテアリマス諸君十分御研究ニナツテ其ノ職責ヲ全ウセラレムコトヲ切望スル次第テコサイマス

戶口調査簿ニ調査事項追加	八　戶口調査簿ニ調査事項追加　三十七年十一月警務課長會議ノ際旣ニ國勢調査ノ調査事項ニシテ戶口調査簿ニナキモノハ追加スヘキコトヲ命シタルモ尙各廳ノ統一ヲ計ルノ必要ヲ認メ三十七年十二月副業以下七項ノ增加ヲ通達シ越テ三十八年六月再ヒ種族以下九種ノ增加ヲ通達シ同時ニ其ノ記入方ハ前後共ニ所帶票記入心得ニ準據スヘキ旨通達セリ蓋シ戶口調査簿ノ整備ハ第一回戶口調査ト最密接ノ關係ヲ有スルニ由ル
統計局ト協商	九　統計局ト協商　第一回臺灣戶口調査ノ結果ニハ內地ト共通ノ性質ヲ有スルモノト否サルモノトアリ其ノ共通ノ性質ヲ有スルモノハ可及的同一方針ニ出ツルヲ可トス依リテ三十七年十二月實地調査ニ關スル要項ヲ携ヘ當務者ヲシテ內閣統計局長ニ協議セシム

諭告

而シテ同局長ハ翌年二月渡臺シテ實況ヲ視察シテ更ニ協定ノ步ヲ進メ且同局員ニ囑託ヲ命シ同局員ヲ採用シタル等孰モ準備ノ周密ヲ期セシニ外ナラス

十　諭告

由來本島人ハ新設ノ事業ニ對シテ或ハ疑惧心ヲ懷キ或ハ想像ヲ逞ウスル等其ノ例ニ乏カラス故ヲ以テ第一回戶口調査ニ關シテモ其ノ誤解ナカラムコトヲ欲シ其ノ實質ニ於テハ疑モナク「センサス」ナルニ其ノ名稱ヲ國勢調査ト言ハスシテ殊更ニ戶口調査ト稱シタルナリ蓋シ國勢調査ト云フカ如キ漠然捕捉シ難キ標榜ヲ揭ケ未曾有ノ事業ヲ成サムトセハ流言浮說ニ惑サレ易キ本島人ニ在リテハ如何ナル調査ヲ施行セラルルヤモ知ルヘカラスト漫ニ其ノ視聽ヲ聳動シ隱然疑惧ノ念ヲ懷カシムルノミナラス輙チ平地ニ波瀾ヲ起シ爲ニ好果ヲ得ル能ハサルノ虞アルモ戶口調査ト云フトキハ領臺以來久シク耳目ニ慣熟シタル文字ニシテ亦敢テ怪ムモノナシ故ニ極メテ平凡通俗ノ名ニ依リテ最新最良ナル國勢調査ノ實ヲ得ルニ若カスト爲シ今回ノ調査ニハ特ニ臨時戶口調査ナル名稱ヲ使用セシ所以ナリ加之諸法令發布ノ後明治三十八年八月特ニ諭告ヲ發シ且周知ノ便ヲ計リ漢譯ノ大印刷物縱六尺一寸二分横四尺一寸五分五千三百枚ヲ街庄社役場ハ勿論其ノ本他島人ノ群集スル箇所ニ貼附シテ普ク衆庶ニ知ラシメタリ其ノ諭告文左ノ如シ

明治三十八年十月一日ヲ以テ臨時戶口調査ヲ本島ニ施行セムトス其ノ調査ノ事項タル十保甲制度ノ戶口調査ニ大差ナシト雖其ノ目的ニ至リテハ大ニ異ナル所アリ抑保甲制度ノ戶口調査ハ盜過ヲ弭メ奸宄ヲ戢ニスルニ過キサルノミ這回施行ノ戶口調査ハ一定時ニ於テ中外官民ヲ論セス各人營生ノ情實逐名詳查シ以テ民人ノ狀態ヲ鑒察セムトスルニ在リ遂シ人口ノ多少其ノ構成及其ノ發達ヲ攻究セハ則チ國勢民情ノ歸嚮スル所ヲ審ニスルヲ得ヘシ此ニ因テ民人文化ノ度ヲ察スヘク殖產興業ノ改進ヲ徵スヘク公衆利弊ノ伏スル所ヲ討ヌヘク彼我得喪ノ存スル所ヲ明ニスヘシ之ヲ要スルニ各般行政ノ基礎タリ社會公衆ノ規準タルモノ之ヲ措テ他ニ求ムヘカラス故ニ泰西各國ニ在リテハ夙ニ此ノ法ヲ適用シ每五年或ハ每十年ニ一査ス其ノ時ニ方リテハ官民協力シ正確ノ調査ヲ遂行スルアリ願フニ本島ニ於テ此ノ種ノ調査ヲ施行スルハ實ニ此ノ次ヲ以テ嚆矢トス而シテ其ノ調査ノ方法ハ吏員ヲ實地ニ派シ各戶ヲ歷訊シ逐名查問セシムルニ在リ故ニ民庶宜シク此ノ意ヲ體シ查問ニ對シテ誠實ノ答言ヲ爲スヘシ若無恥ノ徒本調査ノ何物タルヲ解セス或ハ新稅賦課ノ手段ナリトシ或ハ徵兵ノ準備ナリトシ謠言ヲ揑造シ又ハ民心ヲ煽惑シ或ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ本調査ヲ妨ケムトスルカ如キ者アラハ法ニ照ラシ懲罰毫モ寬假セス民庶本調査旨趣ノ在ル所ヲ知悉シテ其ノ實效ヲ收メ以テ國利民福ノ增進ヲ期スルニ努ムヘシ

（譯　文）

臺灣總督男爵兒玉　爲

剴切曉諭事照得明治三十八年十月一日擬將臨時調査戶口之法、施行本島、其應查事宜、與保甲之編查、原無差別、雖然意之所存、迥不相同也、夫編查保甲之制、止爲弭盜遏、戢奸宄、此次應行之戶口調務者、限定日時、無論中外官民、就各人之營生情形、據實逐名詳查、以鑒民人狀態起見、此乃講求國計民生之良策也、誠恐民間、未知本調務之要旨無恥之徒、藉端訛傳卽是賦課新稅之手段、或供抽兵之備選、致害全局、爲此亟行諭告、居民各色人等知悉、爾等須知、由此法一經查明、人口之多少、及其構成發達各情不但得審國勢民情之歸嚮、又可以察民人文化之程度、徵殖產興業之改進、討公衆利弊之隱伏、明彼我得失所存、爲國爲民、稗益良多、總而言之、能爲行政各般之基礎、竝社會衆庶業務之規準者、捨之、不待他求也、故夙在泰西各國、按照此法、每五年或十年一查爲例、當時必賴官民協辦、務期妥善、顧本島於此項

調査施行、以此次爲嚆矢、至其査法、委派吏員臨地、挨戸逐名査問、斷不容虛詞詐言、一經諭告之後如有揑造謠言、煽惑民心、其餘種種設法、妨碍調務者、定即嚴密査出、照例懲罰、決不寬貸、凡在善良之民、皆當仰體、本調査之至意、藉收實效、以期國利民福之增進、是所厚望焉、切切特諭

右諭通悉

明治三十八年八月二日

戸口調査準備委員及戸口調査評議員

十一　臨時臺灣戸口調査準備委員及戸口調査評議員　臨時戸口調査ニ必要ナル諸立案ハ明治三十八年三月ニ至リ略〻完成ヲ告ケタルモ本調査ノ特設機關ニ關シ法制局ト見ル所ヲ異ニシ未タ其ノ組織ヲ見ルニ至ラス爲ニ實質的調査ニ關スル立案ノ公表ニ遲延ヲ來サムコトヲ虞レ同年五月大島警視總長、祝財務局長等十名ニ臨時臺灣戸口調査準備委員ヲ命シ先ツ所帶票及同記入心得等ヲ審議セシメ同年五月二十九日臨時臺灣戸口調査部設置ノ後ハ該委員及他ノ職員ニ戸口調査評議員ヲ命シ尚他ノ立案ヲ審議セシメタリ而シテ前後諮詢ノ議案ハ左ノ如シ

議案

一　臨時臺灣戸口調査規則(府令案)
二　臨時臺灣戸口調査事務取扱規程(訓令案)
三　所帶票(訓令案)
四　所帶票記入心得(訓令案)
五　監督委員心得(訓令案)
六　調査委員心得(訓令案)

右諮詢ノ結果確定セシモノ左ノ如シ

臨時臺灣戸口調査規則

臨時臺灣戸口調査規則（明治三十八年六月府令第三十九號）

第一條　明治三十八年十月一日臨時戸口調査ヲ施行ス但シ同日内ニ完了シ難キトキハ同月三日迄ニ施行スヘシ
天災事變其ノ他避クヘカラサル事由ニ因リ前項ノ期間ニ施行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ノ止ミタル後直ニ之ヲ施行スヘシ

第二條　臨時戸口調査ハ明治三十八年十月一日午前零時ニ於ケル現在者ニ就キ左ノ事項ヲ調査スルモノトス但シ蕃地ニ在ル蕃人ハ之ヲ調査セス

一　氏名
二　所帶主トノ續柄又ハ所帶主若ハ所帶トノ關係
三　種族
四　男女ノ別
五　出生ノ年月日
六　緣事上ノ身分
七　本業名
八　本業ノ地位
九　副業名
十　副業ノ地位
十一　常用語
十二　常用以外ノ語
十三　讀ミ書キノ程度
十四　不具ノ種類(聾啞、盲、白痴及瘋癲ニ限ル)

十五　不具ノ原因
十六　阿片煙吸食者
十七　纏足者
十八　出生地（內地人ニ限ル）
十九　原籍（內地人ニ限ル）
二十　國籍（外國人ニ限ル）
二十一　渡臺ノ年（內地人ニ限ル）
二十二　常住地（一時現在者ニ限ル）

前項ノ現在者ニアラサルモ常住者ト認ムヘキ者ニ付テハ氏名及男女ノ別ヲ調查シ其ノ所帶主ニ付テハ仍職業名及其ノ地位ヲ調查ス所帶主ニ限リ現在者ナルト現在者ニアラサル常住者ナルトヲ問ハス住家ノ有樣ヲ調查ス

第三條　保正、甲長、街庄社長及其ノ書記ハ臨時戶口調查ニ際シ當該職員ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ヲ補助スヘシ

第四條　廳長ハ臨時戶口調查ニ際シ祭典其ノ他衆庶ノ移動ヲ來スヘキ行爲ニシテ調查ヲ阻害スルノ虞アリト認メタルトキハ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　臨時戶口調查ニ際シ調查ヲ忌避シ又ハ其ノ進行ヲ阻害スルノ行爲アリタル者
二　臨時戶口調查ニ關シテ當該職員ノ尋問ニ答ヘス又ハ答フルニ實ヲ以テセサル者
三　人ヲ敎唆シテ第一號又ハ第二號ノ行爲ヲ爲サシメタル者

第六條　第四條ノ命令ニ從ハサル者又ハ流言其ノ他ノ方法ヲ以テ臨時戶口調查ヲ妨ケムトスル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

臨時臺灣戶口調查事務取扱規程（明治三十八年六月訓令第百三十二號）

第一條　各廳ニ於ケル戶口調查ノ事務ヲ管理セシムル爲戶口調查委員長一人ヲ置キ廳長ヲ以テ之ニ充ツ

第二條　戶口調查委員長ハ警察官吏派出所及之ニ相當スル廳直轄竝支廳直轄區域內ニ約百戶ヲ標準トシテ各若干ノ調查區ヲ設クヘシ
河川港灣ニ付テハ便宜調查區ヲ設クルコトヲ得

第三條　戶口調查委員長ハ適宜若干調查區ヲ聯合シテ監督區ヲ設クヘシ

第四條　調查區ニハ監督區域每ニ一番ヨリ起シ番號ヲ附スヘシ
監督區ニハ一廳下通シ番號ヲ附スヘシ

第五條　調查區及監督區ハ其ノ境界明確ニシテ調查ニ便ナルヲ要ス

第六條　戶口調查委員長ハ明治三十八年七月十五日迄ニ監督區、調查區ノ番號、區域（街庄社土名）及其ノ戶口概數ヲ臨時臺灣戶口調查部長ニ報告スヘシ

第七條　戶口調查委員長ハ調查區每ニ一人ノ調查委員ヲ、監督區每ニ一人ノ監督委員及若干ノ監督補助委員ヲ定ムヘシ

第八條　戶口調查委員長ハ前條調查委員、監督委員ノ外補缺ノ爲若干ノ豫備調查委員及監督委員ヲ定ムヘシ

第九條　戶口調查委員長ハ必要アリト認ムルトキハ調查委員ニ通譯ヲ附スルコトヲ得

第十條　戶口調查委員長ハ臺灣總督府所屬行政各官衙吏員、學校職員又ハ公醫ニシテ調查區內ノ事情ニ通曉シタル者ノ中ヨリ調查委員及監督委員トナルヘキ者ヲ選拔スヘシ
戶口調查委員長ハ警察官吏派出所及之ニ相當スル廳直轄、支廳直轄ノ巡查ノ中ヨリ監督補助委員トナルヘキ者ヲ選拔スヘシ

戸口調査委員長ハ明治三十八年七月二十五日迄ニ調査委員、監督委員及監督補助委員トナルヘキ者ノ官職及氏名ヲ臨時臺灣戸口調査部長ニ報告スヘシ

第十一條　調査委員ト監督委員又ハ監督補助委員トハ兼務セシムルコトヲ得

第十二條　戸口調査委員長ハ明治三十八年七月十五日迄ニ調査委員、監督委員及監督補助委員トナルヘキ者ノ員數ヲ臨時臺灣戸口調査部長ニ報告スヘシ

第十三條　戸口調査委員長ハ明治三十八年七月三十一日迄ニ調査委員、監督委員及監督補助委員トナルヘキ者ニ辭令書ヲ交付スヘシ

第十四條　戸口調査委員長ハ監督委員ニハ明治三十八年八月十五日迄ニ調査委員ニハ同年九月十五日迄ニ調査ニ關スル訓練及實地ノ指導ヲ爲スヘシ

第十五條　戸口調査委員長ハ監督區内便宜ノ地ニ監督委員事務所ヲ設クヘシ

第十六條　監督委員ハ其ノ監督區域内ニ於ケル實地調査完了ノ報告アリタルトキハ之ヲ直ニ戸口調査委員長ニ報告スヘシ

戸口調査委員長ハ各監督區域内ニ於ケル實地調査完了ノ報告アリタルトキハ之ヲ直ニ臨時臺灣戸口調査部長ニ報告スヘシ

第十七條　監督委員ニ於テ調査委員ヨリ所帶票及要計表ヲ受ケタルトキハ各記入事項ヲ對照檢査シ誤謬脱漏アレハ直ニ訂正セシメ區内各調査委員ノ分ヲ一括シ之ニ監督委員要計表ヲ添附シ明治三十八年十月二十日迄ニ戸口調査委員長ヲ經由シテ之ヲ臨時臺灣戸口調査部長ニ差出スヘシ

第十八條　臨時臺灣戸口調査部ニ於テ前條ノ書類ヲ檢査シ誤謬脱漏ヲ發見シタルトキハ監督委員若ハ監督補助委員タリシ者又ハ當該警察官吏派出所若ハ之ニ相當スル廳直轄、支廳直轄ノ巡査ヲシテ之ヲ訂正セシムヘシ

第十九條　戸口調査委員長ハ臨時臺灣戸口調査部長ヨリ左記ノ印刷物ヲ受ケタルトキハ之ヲ監督委員ニ交付スヘシ監督委員ハ監督委員心得及監督委員要計表ヲ除キ其ノ他ハ明治三十八年八月三十一日迄ニ之ヲ調査委員ニ交付スヘシ

印刷物交付ノ際ハ印刷物交付目錄ニ其ノ數量ヲ記入シ授受ノ證ト爲スヘシ

一　所帶票
二　調査委員要計表
三　監督委員要計表
四　所帶票記入心得
五　調査委員心得
六　監督委員心得
七　住家番號票
八　印刷物配付目錄
九　附箋紙

第二十條　臨時戸口調査ニ關スル書類ヲ發送スルトキハ其ノ毀損又ハ散逸ヲ防クニ足ルヘキ完全ノ包裝ヲ爲スヘシ

第二十一條　調査委員心得、監督委員心得、所帶票樣式、所帶票記入心得及要計表樣式ハ別ニ之ヲ定ム

臨時臺灣戸口調査ニ關スル所要票樣式（明治三十八年六月訓令第百三十五號）

臨時臺灣戸口調査ニ關スル所帯票様式（明治三十八年六月訓令第百三十五號）

廳名	
監督區番號	第　號
調査區番號	第　號

街（庄社）名	堡（里郷澳）名	土名

所帯票

（本票ハ記入心得ニ依リテ記入スヘシ）

順番號		現在者 一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	男女合計	男女總計（此總計ハ二枚以上用キタル場合ニノミ記入スルモノトス）
一	氏名（欄内記入心得一ヲ見ヨ）																						
二	所帯主トノ續柄又ハ所帯主若ハ所帯トノ關係（欄内記入心得二ヲ見ヨ）																						
三	種族（欄内記入心得三ヲ見ヨ）																						
四	男女ノ別（欄内記入心得四ヲ見ヨ） 男																					男	
五	女																					女	
六	出生ノ年月日（欄内記入心得五ヲ見ヨ）																						
七	緣事上ノ身分（欄内記入心得六ヲ見ヨ）																						
八	職業及其… 本業 業名（欄内記入心得七ヲ見ヨ）																						
九	本業 地位（欄内記入心得八ヲ見ヨ）																						
十	副業 業名（欄内記入心得九ヲ見ヨ）																						

不在者

順番號	一	二	三
氏名			
男			
女			
順番號	四	五	六
氏名			
男			
女			
順番號	七	八	九
氏名			
男			
女			
順番號	十	十一	十二
氏名			

右記入之通相違無之候也

明治三十八年十月　日

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

所帯ノ名（社名）

町名　丁目　番號　住家番號第　號（所帯ノ）

所帯票番號第　號（枚ノ）

準所帯ノ種類及名稱

住家ノ有様（所帯主ニ限ル）

九	地位（欄内記入心得八ヲ見ヨ）
	副業及其ノ地位
十	業名（欄内記入心得九ヲ見ヨ）
十一	業地位（欄内記入心得十ヲ見ヨ）
	用語（欄内記入心得十一、十二ヲ見ヨ）
十二	常用語
十三	常用以外ノ語
十四	讀ミ書キノ程度（欄内記入心得十三ヲ見ヨ）
	不具（欄内記入心得十四、十五ヲ見ヨ）
十五	種類
十六	原因
十七	阿片煙吸食者（欄内記入心得十六ヲ見ヨ）
十八	纒足者（欄内記入心得十七ヲ見ヨ）
十九	出生地（内地人ニ限ル）（欄内記入心得十八ヲ見ヨ）
二十	原籍（内地人ニ限ル）（欄内記入心得十九ヲ見ヨ）
二十一	國籍（外國人ニ限ル）（欄内記入心得二十ヲ見ヨ）
二十二	渡臺ノ年（内地人ニ限ル）（欄内記入心得二十一ヲ見ヨ）
二十三	常住地（一時現在者ニ限ル）（欄内記入心得二十二ヲ見ヨ）

男

女

順番號	氏名	男	女
十			
十一			
十二			
十三			
十四			
合計			

上欄ニ記入シタル者ノ内所帯主アルトキハ更ニ左ノ事項ヲ記入スヘシ
又別荘支店等ノ如キ所帯ニシテ調査ノ時期ニ主人現在セサルトキハ其ノ主人ニ關シ左ノ事項ヲ記入スヘシ

氏名		
本業	業名	
	地位	
副業	業名	
	地位	

調査委員　官職氏名

裏面白紙

アジア歴史資料センター

所帶票記入心得（明治三十八年六月訓令第百三十五號）

此ノ心得中文字ニ圏點ヲ附セルハ原書ニ在リテハ朱書ナリ

一般ノ心得

所帶ノ定義
一 臨時戸口調査ニ於ケル所帶トハ左記ノ二種ヲ謂フ

本來ノ所帶
甲 本來ノ所帶 住所及家事經濟ヲ共ニスル者ハ一所帶トス家事經濟ヲ共ニスルモ住所ヲ異ニスル者ハ亦各一所帶トス

同一ノ住所ニ在ル者（同一住家ノ一室又ハ同一構内ノ別棟ヲ占有スル者ノ如キハ同一住所ノ者ニアラス）ハ家事經濟ヲ共ニスルモノト見做ス

例之ハ左ニ示スカ如シ

同一ノ住所ニ在リテ衣食ヲ共ニスル一家族ハ勿論一所帶トス同一構内又ハ一棟ノ家屋内ニ在ル親族互ニ分房シテ各別ニ家事經濟ヲ立ツル者ハ同爨ト異爨トヲ問ハス一房毎ニ一所帶トス

子女ト家事經濟ヲ共ニスル隱居ノ父母ニシテ別ノ住所ニ在ル者ノ類ハ一住所毎ニ一所帶トス

主人ト同一ノ住所ニ在ル同居人雇人來客ノ類ハ主人ノ所帶ニ屬スルモノト見做ス

主人ノ所有ニ係ル別莊支店租館等ニ在ル家族同居人雇人來客ノ類ハ一別莊一支店又ハ一租館毎ニ一所帶ヲ成スモノト見做ス

准所帶
乙 准所帶 家事經濟ヲ共ニセサル者ノ集合スル箇所ニ在ル者ハ一箇所毎ニ一所帶トス

准所帶中ノ本來ノ所帶
但シ同一ノ箇所ニ在ル者ト雖家事經濟ノ狀態ヲ異ニスル一家族ハ准所帶ニ屬セス各之ヲ一所帶トス

例之ハ寄宿舍、旅店、下宿屋、木賃宿、病院、寺院、工場、監獄、行旅病人救護所、船舶(漁業者又ハ運漕業者等ノ住所ニ専用スルモノヲ除ク)等ニ在ル者ハ其ノ一場舍又ハ一船舶毎ニ一所帶ト爲スヲ本則トシ其ノ除外例トシテ旅店、下宿屋ノ營業主ニ屬スル一家族又ハ下宿屋ノ一室ヲ借切リ自炊ヲ爲ス一家族ノ類ハ准所帶ニ編入セス各一所帶ト爲スカ如シ

調査ノ時期

二　臨時戸口調査ハ各所帶ニ屬スル各人ニ關シ明治三十八年十月一日午前零時(九月三十日ヨリ十月一日ニ移ル夜半)現在ノ事實ヲ調査スルモノトス

蕃地

三　蕃地ニ在リテハ内地人、本島人及外國人ハ之ヲ調査シ蕃人ハ之ヲ調査セス

船舶

四　船舶ニ在リテハ明治三十八年十月一日午前零時ニ港灣又ハ河川ニ碇泊シ及該時刻前ヨリ碇泊中ノモノニ限リ之ヲ調査スヘシ

軍隊、軍艦等

五　軍隊、軍艦、監獄、官立醫院及領事館ハ調査委員ニ於テ調査スルニ及ハス

現在者

六　臨時戸口調査ニ於ケル現在者トハ常住者(戸口調査簿ノ現在者)ナルト常住者以外ノ者ナルトヲ問ハス明治三十八年十月一日午前零時ニ所帶ニ現在シタル者ヲ謂フ即所帶主、家族、同居人、雇人ヨリ一時ノ來客ニ至ルマテ該時刻ニ所帶ニ現在シタル者、該時刻後ニ所帶ヲ去リタル者、死亡シタル者及該時刻前ニ出生シタル者ハ現在者トス

除外例

但シ左記ノ一ニ該當スル者ハ出先ノ所帶ニ記入セス各本人ノ所帶ニ現在シタルモノト見做シテ記入スヘシ

通勤ノ雇人

甲　通勤ノ雇人ニシテ當夜該時刻ニ主人ノ家ニ在リタル者

當夜一時不在者

乙　當夜近隣ニ在ルモ他人ノ家ニ宿泊セスシテ該時刻ヲ經過シタル者

夜業從事者

丙　平生一定ノ住所アル者ニシテ當夜官衙、會社、工場等ニ宿泊シ又ハ右等場舍ニ於テ夜業ニ從事シタル者

不在者

七　臨時戸口調査ニ於ケル不在者トハ常住者ニシテ本調査ノ當時他出不在ノ者ヲ謂フ

所帶票ノ調製

八　所帶票ハ一所帶毎ニ各別ニ調製スヘシ

記入ノ文字墨汁及誤記訂正

九　所帶票ニ記入スル文字ハ楷書ヲ以テ其ノ字體ヲ明確ニシ墨又ハ濃厚ナル黒「インキ」ヲ以テ書スヘシ若誤記ヲ訂正スルトキハ塗抹セス朱線ヲ以テ誤字ヲ消シ其ノ傍ニ墨書スヘシ

同一事項ノ記入方

記入ノ事項同一ナルモ之ヲ略シ又ハ「同」字ヲ以テ表示スヘカラス

空欄ノ塡記

十　所帶票ニ記入スヘキ事項ナキ欄ニハ必「ー」ヲ塡記シテ其ノ誤脱ニアラサルコトヲ證スヘシ

但シ不詳ナルモノハ不詳ト記入スヘシ

欄内記入心得

氏名

一　(第一欄)　氏名

甲　氏名ハ左ノ順序ニ依リ記入スヘシ

イ　本來ノ所帶ニ在リテハ所帶主、尊屬親、配偶者、卑屬親、附籍者、雇人、同居人、來客トス

ロ　准所帶ニ在リテハ先ツ寄宿人、船客等ヲ記入シ次ニ平常其ノ場舍又ハ船舶ニ止宿スル役員、船員等ニシテ別ニ所帶ヲ成ササル者ヲ記入スヘシ

乙　氏名ハ戸口調査簿ニ登記ノ氏名ヲ記入スヘシ

但シ婦人ノ名ハ内地人ニ在リテハ片假名ヲ以テ記入シ本島人及清國人ニ在リテハ氏名ノ間ニ「氏」字ヲ挿入シ何氏某ト記入スヘシ

アジア歴史資料センター

丙　出生後未タ名ヲ付セサル者アルトキハ「名ヲ付セス」ト記入スヘシ

所帶主トノ續柄又ハ所帶主若ハ所帶トノ關係

二　（第二欄）所帶主トノ續柄又ハ所帶主若ハ所帶トノ關係

甲　本來ノ所帶ニ在リテハ所帶主ハ所帶主ト記入シ其ノ他ハ所帶主ニ對スル親族ノ續柄又ハ所帶主若ハ所帶トノ關係ヲ記入スヘシ

但シ同居人、雇人及來客ハ親族ノ續柄アルモ之ヲ記入セス單ニ同居人、雇人又ハ來客ト記入スヘシ

例之ハ所帶主ノ父ナレハ父、長男ナレハ長男、妻ナレハ妻、招夫、妾、媳婦仔、過房子、螟蛉子（招夫以下ハ本島人及清國人ニ限ル）等ナレハ招夫、妾、媳婦仔、過房子、螟蛉子等親族ノ續柄アル者ハ各其ノ續柄ヲ記入シ同居人、雇人、搖媒嫺、來客等ナレハ各其ノ旨ヲ記入スルカ如シ

乙　准所帶ニ在リテハ所帶トノ關係ヲ記入スヘシ

例之ハ寄宿舍ノ生徒、旅店ノ旅客、船舶ノ船客等ハ生徒、旅客、船客等ト記入シ其ノ場合又ハ船舶ノ役員、船員等ニシテ別ニ所帶ヲ成ササル者ハ校長、舍監、船長、船員等ト記入スルカ如シ

種族

三　（第三欄）種族

甲　種族ハ內地人、本島人（福建人、廣東人其ノ他ノ漢人、熟蕃人）生蕃人及外國人ニ區別シ左記ノ如ク略語ヲ以テ記入スヘシ

區別	略語
內地人	內
福建人	福
廣東人	廣
其ノ他ノ漢人	漢
熟蕃人（化蕃ヲ含ム）	熟
生蕃人	生
外國人（清國人ヲ含ム）	外

乙　混血人ハ父ノ種族ニ依リテ記入スヘシ

男女ノ別

四　（第四欄及第五欄）男女ノ別

甲　所帶票ニ記入シタル者男ナレハ第四欄ニ「男」ト記入シ女ナレハ第五欄ニ「女」ト記入スヘシ即第二欄ニ父トアレハ男タルコト、母トアレハ女タルコト分明ナルモ本欄ニハ尙必男女ノ別ヲ記入スヘシ

乙　「男女合計」及「男女總計」ノ二行ニハ本欄ニ記入シタル男女ノ員數ニ限リ之ヲ集算記入スヘシ即一所帶ニ所帶票一枚ヲ使用シタルトキハ「男女合計」ノ行ノミニ記入シ所帶票二枚以上ヲ使用シタルトキハ一枚毎ニ「男女合計」ニ記入シ更ニ其ノ各「男女合計」ヲ合算シタル員數ヲ最終ノ所帶票ノ「男女總計」ノ行ニ記入シ其ノ他ノ所帶票ノ「男女總計」ニハ「—」ヲ塡記スヘシ

出生ノ年月日

五　（第六欄）出生ノ年月日

甲　各人ノ出生シタル年ノ年號月日ヲ記入スヘシ出生ノ年月日ヲ知ラサル者ハ何年（十二支）何歲ト記入シ何歲ナルカヲ知ラサル者ハ推定ヲ以テ何歲ト記入スヘシ

乙　外國人ハ各其ノ本國ノ年號月日ニ依リ記入スルコトヲ得

緣事上ノ身分

六　（第七欄）緣事上ノ身分

緣事上ノ身分ハ未婚者、配偶者、鰥、寡、離婚者ノ五種ニ區別シ左記ノ如ク略語ヲ以テ記入スヘシ

區別	略語
未婚者	未
配偶者	配
鰥	鰥
寡	寡
離婚者	離

未婚者トハ本調査ノ時マテ未タ一度モ結婚シタルコトナキ男又ハ女、配偶者トハ本調査ノ時妻(內地人ニ在リテハ內緣ノ妻ヲ含マス本島人及淸國人ニ在リテハ招夫ノ婦ヲ含ム)アル男又ハ夫(內地人ニ在リテハ內緣ノ夫ヲ含マス本島人及淸國人ニ在リテハ招夫ヲ含ム)アル女、鰥トハ妻ニ死別レタル男、寡トハ夫ニ死別レタル女、離婚者トハ妻ニ生別レタル男又ハ夫ニ生別レタル女ナリ

但シ本島人及淸國人ニ在リテハ媳婦仔ニシテ未タ結婚セサル者及之ニ對スル男ハ未婚者トシ妾及之ニ對スル男ハ配偶者トシ妻及總テノ妾ニ死別レタル男ハ鰥トシ男ニ死別レタル妾ハ寡トシ妻及總テノ妾ニ生別レタル男又ハ男ニ生別レタル妾ハ離婚者トス

又一人ニシテ鰥、寡及離婚者ヲ兼ヌル者ハ最近ノ事實ニ依リ鰥、寡又ハ離婚者ト記入スヘシ

本業

七　(第八欄)　本業名

本欄ハ所帶主ニ限ラス家族、同居人、雇人、來客ニ至ルマテ左記ノ區別ニ依リ職業アル者ハ各其ノ職業名ヲ記入シ職業ナキ者ハ單ニ無職業ト記入セス各其ノ生計ノ途ヲ記入スヘシ

在職文武官及准官吏

甲　在職文武官及准官吏

在職文武官(休職、停職、待命等ヲ含マス)及准官吏(囑託及雇員ヲ含ム)ハ其ノ本官名又ハ本職名ノミヲ記入スヘシ

職業名

乙　職業名

職業名(在職文武官及准官吏ヲ除ク)ハ實際ノ稱呼ニ依リ其ノ細別ヲ記入スヘシ

例之ハ同シク物品販賣業ニテモ米商、吳服商、書籍商等ニ區別シ同シク雇人ニテモ掌櫃、記帳、出街、出庄、僕、婢等ニ區別シ又等シク農業ニテモ普通田畑作ナルカ、茶園作ナルカ、茶園作ナルカヲ區別スルカ如シ其ノ他類推シテ詳細ニ記入スヘシ

本來職業名ニアラスシテ身分ヲ示ス稱呼ナルモ通例職業名ト併セ唱ヘラルル者ハ其ノ併セ唱フル稱呼ヲモ記入スヘシ

例之ハ大工棟梁、左官親方、苦力頭等ト記入スルカ如シ

數種ノ職業アル者

丙　數種ノ職業アル者

一人ニシテ二種以上ノ職業ヲ有スル者ハ收入ノ最多キモノヲ本業トシテ記入シ若收入ニ依リ難キトキハ重モニ一身ヲ委スルモノヲ本業トシテ記入スヘシ季節ニ依リ職業ヲ變スル者ハ之ニ準ス

臨時職業ヲ休止シ又ハ他業ニ從事スル者

丁　臨時職業ヲ休止シ又ハ他業ニ從事スル者

本來ノ職業アル者ハ本調査ノ際臨時休止シ又ハ臨時他ノ業ニ從事スル場合ト雖其ノ本來ノ職業ヲ記入スヘシ

但シ轉業ノ場合ハ其ノ轉業名ヲ記入スヘシ

本業ナキ者

戊　本業ナキ者

イ　一定ノ職業ナキモ所有ノ財產卽土地、家屋ノ收益、公債、株券ノ利子其ノ他恩給、

扶助料ノ類ニ依リ生計ヲ立ツル者ハ其ノ生計ノ基トナル收入ノ種類ヲ記入スヘシ

例之ハ「小作料ニ依ル」「家作收益ニ依ル」「株券ノ利子ニ依ル」「恩給ニ依ル」等ト記入スルカ如シ

ロ　家族又ハ同居人ニシテ平生所帶主又ハ父、母、夫等ノ手助ヲ爲ス者ハ其ノ助クル職業名ヲ記入シ手助ト附記スヘシ

例之ハ農業畑作ナレハ「農業畑作手助」ト記入スルカ如シ

ハ　家族又ハ同居人ニシテ家事ノ傍ラ内職ヲ爲ス者ハ内職トシテ其ノ業名ヲ記入スヘシ

例之ハ豚ノ飼養ヲ内職トスルモノナレハ「内職養豚」ト記入スルカ如シ

ニ　前各項ニ該當セサル學生、生徒ハ無職業ト記入セス「學生」又ハ「生徒」ト記入シ家族又ハ同居人ニシテ專ラ家事ノミニ從事スル者及其ノ所帶内ノ者ニ養ハルル者ハ單ニ「家族」又ハ「同居人」ト記入スヘシ

但シ他ノ所帶内ノ者ニ養ハルル者ハ其ノ養フ者ノ職業名又ハ生計ノ途ヲ併記スヘシ（例之ハ「何業家族」「何業同居人」又ハ「何收入ニ依ル學生」等ト記入スルカ如シ）

ホ　救助等ニ依リ生活スル者ハ無職業ト記入セス「被救助」等ト記入スヘシ

本業ノ地位

八（第九欄）本業ノ地位

本欄ニハ左記ノ區別ニ依リ第八欄ニ記入シタル本業ニ對スル地位ヲ記入スヘシ

甲　職業主又ハ業務ヲ主宰スル地位ニ在ル者

例之ハ獨立ノ農業畑作人ナレハ職業主ト記入シ會社、銀行等ヲ主宰スル地位

ニ在ル者ナレハ社長又ハ頭取等ト記入スルカ如シ

乙　人ニ使ハルル地位ニ在ル者

イ　同シク人ニ使ハルル地位ニ在ル者ニテモ店員、職工等ヲ指揮監督スル地位ニ在ル者

例之ハ商店ノ大番頭、支配人、會社、銀行等ノ部長、課長、顧問等各其ノ名稱ヲ記入スルカ如シ若一定ノ名稱ナキトキハ「人ヲ使フ雇人」又ハ「人ヲ使フ家族」ト記入スヘシ

ロ　一定ノ人ニ使ハルルト臨時人ニ雇ハルルトニ論ナク庶務又ハ一定ノ技能ヲ以テ使ハルル地位ニ在ル者

例之ハ商店、製造所等ニテ簿記ニ從事スル者ハ簿記者ト記入シ裁縫店ノ職人ハ職人ト記入スルカ如シ若一定ノ名稱ナキトキハ其ノ技能即「書ヲ以テ人ニ使ハル」等ト記入スヘシ

ハ　家事又ハ雜役ノ爲ニ人ニ使ハルル地位ニ在ル者

例之ハ家事ノミノ雇人ハ「家事雇人」ト記入シ雜役ニ使ハルル者ハ「雜役」ト記入シ一定ノ人ニ使ハレサル日傭稼ハ「日傭」「苦力」等ト記入スルカ如シ

在職文武官、准官吏及本業ナキ者ノ地位ハ之ヲ記入スルニ及ハス

副業

九（第十欄）副業名

本業ノ傍ラ尙副業者アル者ハ本業ノ記入方ニ準據シ其ノ業名ヲ本欄ニ記入スヘシ

副業ノ地位

十（第十一欄）副業ノ地位

本欄ノ記入方ハ本業ニ對スル地位ノ記入方ニ準據スヘシ

常用語

十一（第十二欄）常用語

甲 本欄ニハ左記ノ區別ニ依リ略語ヲ以テ常用語ヲ記入スヘシ常用語トハ内地語、福建語、廣東語、蕃語、英語、獨逸語等平常其ノ家庭ニ於テ使用スル言語ヲ謂フ

區別	略語
内地語	内
福建語	福
廣東語	廣
蕃語	蕃
英語(又ハ獨逸語等)	英(又ハ獨等)

乙 發音時期ニ達セサル年少者ハ母ノ常用語ヲ記入スヘシ

常用以外ノ語

十二 (第十三欄) 常用以外ノ語

常用語ノ外尙其ノ他ノ言葉ヲ話ス者ハ常用語ノ記入方ニ準據シ略語ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

讀ミ書キノ程度

十三 (第十四欄) 讀ミ書キノ程度

讀ミ書キノ程度ハ假名ヲ標準トシ讀ミ書ク、讀ム、書クニ區別シ左ノ如ク略語ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

區別	略語
假名ヲ讀ミ且書キ得ル者	讀、書
假名ヲ讀ムコトノミヲ爲シ得ル者	讀
假名ヲ書クコトノミヲ爲シ得ル者	書

不具ノ種類

十四 (第十五欄) 不具ノ種類

甲 不具者ハ左記ノ種類ニ限リ之ヲ記入スヘシ

聾啞 聾又ハ啞モ聾啞ト記入スヘシ
　但シ老衰ニ依ル聾ヲ除ク

盲 兩眼ヲ盲シタル者
　但シ老衰ニ依ル盲ヲ除ク

白痴 世人ノ一般ニ白痴ト認メ得ル者

瘋癲 世人ノ一般ニ瘋癲ト認メ得ル者

乙 一人ニシテ二種類以上ノ不具ヲ兼ヌル者ハ盲及白痴ト云フカ如ク記入スヘシ

不具ノ原因

十五 (第十六欄) 不具ノ原因

甲 不具ノ原因ハ左記ノ區別ニ依リ略語ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

區別	略語
生來	生
疾病	疾
負傷	傷

乙 一人ニシテ二種類以上ノ不具ヲ兼ヌル者ハ其ノ各種類ニ對スル原因ヲ各別ニ記入スヘシ

阿片煙吸食者

十六 (第十七欄) 阿片煙吸食者

本欄ニハ阿片煙吸食特許者ニ限リ「阿」字ヲ記入スヘシ

纏足者

十七 (第十八欄) 纏足者

本欄ニハ平常纏足セル者及一旦纏足シタル者ニシテ本調査ノ際旣ニ解纏シタル者ニ限リ左記ノ如ク略語ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

區別	略語

アジア歴史資料センター

出生地

十八（第十九欄）出生地（內地人ニ限ル）

本欄ニハ內地人ニ限リ左記ノ區別ニ依リ其ノ出生地ヲ記入スヘシ

內地ニ於テ出生シタル者ハ　何府縣
本島ニ於テ出生シタル者ハ　何廳
外國ニ於テ出生シタル者ハ　何國

原籍

十九（第二十欄）原籍（內地人ニ限ル）

本欄ニハ內地人ニ限リ左記ノ如ク其ノ原籍ヲ記入スヘシ

何府縣

國籍

二十（第二十一欄）國籍（外國人ニ限ル）

本欄ニハ外國人ニ限リ其ノ國籍ヲ記入スヘシ

例之ハ清國人ナレハ清、英國人ナレハ英ト記入スルカ如シ

渡臺ノ年

二十一（第二十二欄）渡臺ノ年（內地人ニ限ル）

本欄ニハ內地人ニ限リ領臺後始メテ渡臺シタル年（例之ハ二十八年、三十年等）ヲ記入スヘシ

但シ一旦內地ニ引上ケ更ニ渡臺シタル者ハ最終ノ年ヲモ併記スヘシ

常住地

二十二（第二十三欄）常住地（一時現在者ニ限ル）

甲　本欄ニハ常住者ニアラスシテ本調查ノ際他ヨリ一時來レル宿泊者又ハ來客ニ對シ左記ノ區別ニ依リ其ノ常住地ヲ記入スヘシ

常住地內地ニ在ル者ハ　何府縣

常住地本島內ニ在ル者ハ　何廳
常住地外國ニ在ル者ハ　何國

乙　「男女合計」「男女總計」ノ行ニ第四欄及第五欄ノ記入方ニ準據シ男女ノ員數ヲ記入スヘシ

欄外記入心得

調查區畫

一　調查區畫

各廳ニ於テ定メタル監督區及調查區ノ番號ヲ記入スヘシ

所帶所在地

二　所帶所在地

甲　廳名、堡里鄉澚名、街庄社名、土名、町丁目ハ所帶所在ノ行政區域ノ名稱ヲ記入スヘシ

但シ舊地ニ付テハ其ノ社名又ハ土名ヲ記入シ船舶ニ付テハ其ノ港灣名又ハ河川地先ノ總括名稱（例之ハ大稻埕地先、艋舺地先等）ヲ記入スヘシ

乙　住家番號ノ欄ニハ住家ニ付テハ本調查ノ爲定メタル家番號ヲ記入シ船舶等ニ付テハ單ニ「船何丸」等ト記入スヘシ

一住家又ハ一船舶內ニ二所帶以上アルトキハ括弧ノ下ニ「ノ一」「ノ二」等ト記入シ且其ノ最初ノ所帶票ニ限リ括弧內ニ所帶數ヲ記入スヘシ

住家ノ單位

住家ノ單位ハ左記ノ區別ニ依ルヘシ

イ　獨立住家　母屋及其ノ附屬建物ヲモ包含シタル一構

ロ　連接住家　外壁又ハ泥土ヲ以テ塗リタル境壁ノ間ニ在ル一構

但シ廡下ノ類ヲ以テ連接シタルモノハ一構內トス

ハ　二箇以上ノ街、庄、社、土名又ハ町丁目ニ跨ル住家ハ其ノ大部分ノ屬スル街、庄、社、

アジア歴史資料センター

土名又ハ町丁目ニ存在スルモノト見做シテ調査スヘシ

丙 所帶票番號ハ贅番號ヲ適用スルモ妨ナシ

但シ一所帶ニ所帶票二枚以上ヲ使用シタルトキハ括弧ノ下ニ「ノ一」「ノ二」等ト記入シ且其ノ最初ノ所帶票ニ限リ括弧內ニ枚數ヲ記入スヘシ

准所帶ノ種類名稱

三 准所帶ノ種類名稱

本欄ニハ准所帶ノ種類及名稱ヲ記入スヘシ

例之ハ「旅店何屋」「何學校寄宿舍」「汽船何丸」等ト記入スルカ如シ

住家ノ有樣

四 住家ノ有樣（所帶主ニ限ル）

本欄ニハ所帶主ニ限リ其ノ現在者ナルト不在者ナルトヲ問ハス左記ノ區別ニ依リ住家ノ有樣ヲ記入スヘシ

自己ノ業地ニ在ル自己ノ家屋ニ住居スル者ハ　持地持家

他人ノ業地ニ在ル自己ノ家屋ニ住居スル者ハ　借地持家

他人ノ業地ニ在ル他人ノ家屋ニ住居スル者ハ　借地借家

自己ノ業地ニ在ル他人ノ家屋ニ住居スル者ハ　持地借家

署名

五 署名

調査委員官職氏名ノ下ニハ所帶票每ニ擔當調査委員ノ官職及氏名ヲ記入スヘシ

例之ハ屬何ノ誰又ハ巡査何ノ誰ト署名スルカ如シ

監督委員心得（明治三十八年六月訓令第百三十三號）

第一條 監督委員ハ戶口調査委員長ノ指揮監督ヲ承ケ誠實且敏活ニ其ノ監督事務ヲ處理スヘシ

第二條 監督委員ハ戶口調査ニ關スル諸規定ヲ精細ニ曉得シ調査委員ニ對シテ實地調査ノ訓練及指導ヲ爲シ調査ノ統一完備ヲ期スヘシ

第三條 監督委員ハ調査委員ノ爲シタル準備事務ノ整頓セシヤ否ヲ監督スヘシ

第四條 監督委員ハ調査委員ノ實地調査ノ事務ヲ視察シ粗漏又ハ凝滯ナキヤ否ヲ監督スヘシ

第五條 監督委員ハ調査委員ノ整理事務ヲ監督シ且其ノ調査記入シタル所帶票及要計表ノ完全ナルヤ否ヲ檢査スヘシ檢査ノ要項ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 監督委員其ノ職務ニ違背シタルトキハ懲罰ニ處セラルヘシ

第七條 本心得ハ監督補助委員ニ之ヲ準用ス

調査委員心得（明治三十八年六月訓令第百三十四號）

第一章 服務

第一條 調査委員ハ上司ノ指揮監督ヲ承ケ誠實且敏活ニ擔當事務ヲ處理スヘシ

第二條 調査委員ハ臨時戶口調査ニ關スル諸規定ヲ精細ニ曉得シ實地調査ニ臨ミ粗漏又ハ凝滯ナキヲ期スヘシ

第三條 調査委員ハ實地調査ヲ爲スニ當リ人ノ隱微ヲ摘發スルカ如キ言行ナキヲ要ス

第四條 調査委員ハ各個人ニ關シ調査シタル事項ヲ猥リニ他人ニ漏洩スルコトヲ得ス

第五條 調査委員其ノ職務ニ違背シタルトキハ懲罰ニ處セラルヘシ

第二章 準備

第六條 調査委員ハ監督委員ヨリ左ノ員數ノ印刷物ヲ受領スヘシ

一 調査委員心得　一部

二 所帶票　擔當調査區內所帶概數ノ二割增ニ相當スル枚數

三 所帶票記入心得　一部

四 調査委員要計表　三枚
五 住家番號票　擔當調査區内所帶概數ニ相當スル枚數
六 附箋紙　若干枚

第七條　調査委員ハ實地調査前擔當調査區内ノ住家ニ番號ヲ附シ尚左ノ各號ノ調査ヲ爲スヘシ但シ住家ノ番號ハ住家番號票ニ記入シテ之ヲ貼附スヘシ

一 實地調査ヲ施行スヘキ船舶ノ有無及其ノ隻數
二 所帶及准所帶ノ各概數
三 人口ノ概數

前項第二號及第三號ノ調査ハ最近ノ戸口調査表ニ依ルコトヲ得

第八條　調査委員ハ旅人宿、木賃宿、船舶其ノ他現行戸口調査簿ニ登錄セサル所帶ニ付テハ豫メ其ノ管理者ニ所帶票ヲ交付シ各事項ノ下調ヲ爲サシムヘシ

第三章　實地調査

第九條　調査委員ハ擔當調査區内ノ各所帶ニ就キ一人毎ニ現行戸口調査簿ニ照合シテ所帶票ニ記入スヘキ各事項ヲ調査スヘシ

第十條　前條ノ調査ニ依リ現行戸口調査簿ノ誤謬又ハ異動ヲ發見シタルトキハ附箋紙ニ其ノ事項ヲ記載シ之ヲ該簿ノ相當欄内ニ貼附スヘシ

第十一條　第八條ニ依リ管理者ニ下調ヲ爲サシメタル場合ハ實地調査ノ際其ノ所帶票ヲ提出セシメ其ノ記入事項ノ正確ナルヤ否ヲ照査シ若誤謬又ハ脱漏アリタルトキハ直ニ之ヲ訂正スヘシ

第十二條　實地調査ハ明治三十八年十月一日日出ヨリ開始シ可成同日中ニ完了スヘシ

第十三條　調査委員ハ實地調査ヲ完了シタルトキハ直ニ監督委員ニ報告スヘシ

第四章　整理

第十四條　調査委員ハ第九條及第十條ノ調査ヲ爲シタルトキハ該戸口調査簿及附箋紙記載ノ各事項ヲ所帶票ニ記入スヘシ

前項ノ記入ヲ爲シタルトキハ必其ノ事項ニ誤謬又ハ脱漏ナキヤ否ヲ照合スヘシ

第十五條　調査委員ハ各所帶票ノ整理ヲ了シタルトキハ之ニ依リテ調査委員要計表ヲ調製シ實地調査完了後七日以内ニ之ヲ監督委員ニ差出スヘシ

第十六條　調査委員ハ上司ヨリ其ノ擔當ニ係ル所帶票又ハ要計表ニ付推問ヲ受ケタルトキハ速ニ調査答申スヘシ

修正ノ要點

前揭ノ諸規則中評議員會ニ於テ修正セシ要點ヲ擧クレハ左ノ如シ

一 臨時臺灣戸口調査規則中罰則ニ關スル件ハ調査上實ヲ得ムカ爲制裁ノ範圍ヲ擴張シテ修正ヲ加ヘタリ

二 臨時臺灣戸口調査事務取扱規程ハ原案ニ在リテハ多少一般行政系統ノ機關ニ依ルノ組織ナリシモ全然特設機關ノ組織ニ修正セリ

三 所帶票中「種痘」ヲ削リ「讀ミ書キノ程度」ヲ加ヘタリ其ノ理由タル「種痘」ノコトハ衛生機關ニ於テ多少之ヲ知ルノ途アルモ「讀ミ書キノ程度」ハ特ニ調査セサレハ唯〻之ヲ知ル能ハサルノミナラス新教育ノ本島人間ニ普及ノ程度竝母國人トノ比較等ハ今日最必要ヲ認ム依リテ假名ヲ標準トシテ調査スルコトニ修正セリ

四 所帶票記入心得中所帶ノ定義、其ノ種類及區別等ハ最必要ニシテ而モ最困難ナルヲ以テ議論百出セリ然レトモ要ハ最平易通俗ニシテ何人ニモ輙ク了解シ得ル樣記述セム

ト欲スル點ニ於テ一致セリ依リテ之カ原案ヲ多方面ニ示シ其ノ難解ノ點ハ更ニ之ヲ平易ニシ疑問アル點ハ之ヲ解決シテ毫モ疑ナカラシメ且幾多ノ例證ヲ擧ケテ修正ヲ加ヘタリ

右ノ外諮詢ヲ經スシテ發布シタルモノ左ノ如シ

時間數	所帶票整理時間數	
百十時	自十月　日 至十月　日	百十時

ロ

臨時臺灣戶口調查ニ關スル要計表様式

區名	監督區番號
	第　號

調查委員要計表

順番號	堡里街庄社名	住居數 住家	住居數 船舶	住居數 其ノ[illegible]
	一	二	三	[illegible]
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
合計				

右記入之通相違無之候也

明治三十八年十月　日

記入心得

一　本表ハ調查委員ニ於テ所帶票ニ依リ一調查

二　堡里街庄社名ノ欄ニハ一街庄每ニ各其ノ名

港」又ハ「何地先」等ト記入スヘシ

三　實地調查時間數ハ實地ニ就キテ調查シタル

…ニ關スル要計表樣式（明治三十八年六月調令第百三十六號）

名	
監督區番號	第　　號
調査區番號	第　　號

實地調査時間數	自十月　日 至十月　日	百十時
所帶票整理時間數	自十月　日 至十月　日	百十時

名	住居數			所帶數		人口											
						本來ノ所帶ニ在ル者						准所帶ニ在ル者					
						現在者				不在者		現在者				不在者	
						常住者ニシテ現在スル者		常住者ニアラスシテ現在スル者				常住者ニシテ現在スル者		常住者ニアラスシテ現在スル者			
	住家	船舶	其ノ他	本來ノ所帶	准所帶	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八

相違無之候也

月　日

調査委員　官職氏名

監督補助委員　官職氏名

監督委員　官職氏名

記入心得

…於テ所帶票ニ依リ一調査區毎ニ一枚ヲ調製スヘシ

…ニハ一街庄毎ニ各其ノ名稱ヲ記入スヘシ但シ一街庄社ノ一部ナルトキハ「何堡何街ノ内」又ハ「何里何庄ノ内」等ト記入シ港灣河川ナルトキハ「何

…記入スヘシ

…實地ニ就キテ調査シタル月日及其ノ延時間ヲ記入シ所帶票整理時間數ハ所帶票ノ整理ニ要シタル月日及其ノ延時間ヲ記入スヘシ

裏面白紙

アジア歴史資料センター

廳名	
監督區番號	第　　號

監督委員要計表

調査區番號	住居數 住家	住居數 船舶	住居數 其ノ…
順番號 一	二	三	四
第一區			
第二區			
第三區			
第四區			
第五區			
第六區			
第七區			
第八區			
第九區			
第十區			
第十一區			
第十二區			
第十三區			
第十四區			
第十五區			
合計			

右記入之通相違無之候也

明治三十八年十月　日

記入心得

一　本表ハ監督委員又ハ監督補助委員ニ於テ各調

二　検査時間數ハ調査委員要計表及所帯票ノ検查

監督區番號
號

號	住居數 住家	住居數 船舶	住居數 其ノ他	所帶數 本來ノ所帶	所帶數 準所帶	人口 本來ノ所帶ニ在ル者 現在者 常住者ニシテ現在スル者 男	同 女	現在者 常住者ニアラスシテ現在スル者 男	同 女	不在者 男	不在者 女	人口 準所帶ニ在ル者 現在者 常住者ニシテ現在スル者 男	同 女	現在者 常住者ニアラスシテ現在スル者 男	同 女	不在者 男	不在者 女
	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八
區																	
區																	
區																	
區																	
區																	
區																	
區																	
區																	
區																	
區																	
區																	
區																	
區																	
區																	
區																	

檢査時間數
自十月 日 至十月 日 百十時

相違無之候也

月　日

監督補助委員　官職氏名

監督委員　官職氏名

記入心得

一 本表ハ監督補助委員ニ於テ各調査委員ヨリ差出シタル要計表及所帶票ヲ對照檢査シ其ノ要計表ニ依リ之ヲ調製スヘシ

一 委員要計表及所帶票ノ檢査ニ要シタル月日及其ノ延時間ヲ記入スヘシ

裏面白紙

調査區劃ト調査人員

十二 調査區劃ト調査人員 本調査ノ監督區、調査區及監督委員、同補助委員、調査委員、調査委員附通譯竝各豫備委員ニ關シテハ臨時臺灣戶口調査事務取扱規程ニ規定シ又保正、甲長、街庄社長及書記ニ關シテハ臨時臺灣戶口調査規則ニ規定セリ其ノ調査ニ關スル區劃及人員ヲ表示スレハ左ノ如シ

調査區劃

官衙	監督區數	調査區數
臺北廳	六〇	五七九
基隆廳	二八	二三七
宜蘭廳	三五	一三七
深坑廳	二〇	一〇四
桃園廳	四四	二四六
新竹廳	四九	二七八
苗栗廳	二四	二二一
臺中廳	四五	二〇四
彰化廳	七一	二五一
南投廳	三四	一〇九
斗六廳	五〇	二二一
嘉義廳	二五	三一八
鹽水港廳	二〇	三三一
臺南廳	三一	二七三
蕃薯寮廳	一一	一〇三

官衙	監督區數	調査區數
鳳山廳	三二	二〇四
阿緱廳	一五	二〇〇
恆春廳	一一	四八
臺東廳	一〇	一〇四
澎湖廳	一三	八八
臺北醫院	一	一
新竹醫院	一	一
鳳山醫院	一	一
嘉義醫院	一	一
宜蘭醫院	一	一
臺南醫院	一	一
臺中醫院	一	一
臺東醫院	一	一
基隆醫院	一	一
澎湖醫院	一	一
臺中監獄	一	一
臺南監獄	一	二
臺北監獄	三	三
陸軍	八九	八九
海軍	一	一
計	七三二	四三六二

普通調査區委員（其ノ一地方別）

廳	官等	監督委員	監督補助委員	調査委員	豫備委員	計
臺北	高等官	二二		四	三	二九
	判任官	三七	二 △一三四	四五六	一一四	六〇九 △一三四
	囑託、公醫、隘勇、雇、傭員	一		一二〇	四六	一六七
	計	六〇	二 △一三四	五八〇	一六三	八〇五 △一三四
基隆	高等官	一				一
	判任官	一一 △一七	五 △七七	二〇九	九〇	三一四 △九四
	囑託、公醫、隘勇、雇、傭員			二八	三	三一
	計	一二 △一七	五 △七七	二三七	九三	三四七 △九四
宜蘭	高等官					
	判任官	三五	△一三七	一三七	二六	一九八 △一三七
	囑託、公醫、隘勇、雇、傭員					
	計	三五	△一三七	一三七	二六	一九八 △一三七
深坑	高等官					
	判任官	二〇	五 △四五	八七	三二 △一一	一四四 △五六
	囑託、公醫、隘勇、雇、傭員			一六	六	二二
	計	二〇	五 △四五	一〇三	三八 △一一	一六六 △五六
桃園	高等官					
	判任官	四 △四〇	△八九	二二三	二四	二五一 △一二九
	囑託、公醫、隘勇、雇、傭員			二三	二	二五
	計	四 △四〇	△八九	二四六	二六	二七六 △一二九

廳	官等	委員 監督委員	監督補助委員	調査委員	準備委員	計
新竹	高等官	…	…	…	…	…
	判任官	二一 △二六	一 △六四	二三六	二七 △一九	二八五 △一〇九
	囑託、公醫、隘勇、雇傭員	二	…	四二	五	四九
	計	二三 △二六	一 △六四	二七八	三二 △一九	三三四 △一〇九
苗栗	高等官	…	…	…	…	…
	判任官	二一 △二	一 △五〇	一七三	二八 △一五	二二三 △六七
	囑託、公醫、隘勇、雇傭員	一	…	三三	四	三八
	計	二二 △二	一 △五〇	二〇六	三二 △一五	二六一 △六七
臺中	高等官	…	…	…	…	…
	判任官	四五	一 △九四	一九〇	五八 △一	二九四 △九五
	囑託、公醫、隘勇、雇傭員	…	…	一四	七	二一
	計	四五	一 △九四	二〇四	六五 △一	三一五 △九五
彰化	高等官	…	…	…	一	一
	判任官	三八	△七一	二二二	六六	三二六 △七一
	囑託、公醫、隘勇、雇傭員	一	…	二九	一四	四四
	計	三九	△七一	二五一	八一	三七一 △七一
南投	高等官	…	…	…	…	…
	判任官	三三	二 △五二	九八	四二	一七五 △五二
	囑託、公醫、隘勇、雇傭員	一	…	一一	八	二〇
	計	三四	二 △五二	一〇九	五〇	一九五 △五二
斗六	高等官	…	…	…	…	…
	判任官	四〇 △九	三一 △六五	二〇八	八三	三六二 △七四

廳	官等	委員 監督委員	監督補助委員	調査委員	準備委員	計
斗六	囑託、公醫、隘勇、雇傭員	一	…	一三	一四	二八
	計	四一 △九	三一 △六五	二二一	九七	三九〇 △七四
嘉義	高等官	…	…	…	…	…
	判任官	二五	△九二	二九五	四七	三六七 △九二
	囑託、公醫、隘勇、雇傭員	…	…	二三	一三	三六
	計	二五	△九二	三一八	六〇	四〇三 △九二
鹽水港	高等官	…	…	…	…	…
	判任官	二〇	△五二	二九五	一五	三三〇 △五二
	囑託、公醫、隘勇、雇傭員	…	…	三六	三	三九
	計	二〇	△五二	三三一	一八	三六九 △五二
臺南	高等官	一	…	一	二	四
	判任官	三〇	三一	二一八	二〇	二九九
	囑託、公醫、隘勇、雇傭員	…	…	五五	二一	七六
	計	三一	三一	二七四	四三	三七九
蕃薯寮	高等官	…	…	…	…	…
	判任官	一一	四 △二八	八七	…	一〇二 △二八
	囑託、公醫、隘勇、雇傭員	…	…	一四	…	一四
	計	一一	四 △二八	一〇一	…	一一六 △二八
鳳山	高等官	…	…	…	…	…
	判任官	三一	七 △一〇八	一六二	九 △二八	二〇九 △一三六
	囑託、公醫、隘勇、雇傭員	一	…	四二	六 △一	四九 △一
	計	三二	七 △一〇八	二〇四	一五 △二九	二五八 △一三七
	高等官	…	…	…	…	…
	判任官	一三 △二	△四四	一六七	…	一八〇 △四六

廳	官等	監督委員	監督補助委員	調査委員	豫備委員	計
阿緱	囑託、公醫、隘勇雇傭員	…	…	三三	…	三三
	計	一三 △二	△四四	二〇〇	…	二一三 △四六
恒春	高等官	…	…	…	…	…
	判任官	一一	△二五	四四	一五	七〇 △二五
	囑託、公醫、隘勇雇傭員	…	…	四	…	四
	計	一一	△二五	四八	一五	七四 △二五
臺東	高等官	…	…	…	…	…
	判任官	一〇	△一〇	九四	三五	一三九 △一〇
	囑託、公醫、隘勇雇傭員	…	…	一〇	一八	二八
	計	一〇	△一〇	一〇四	五三	一六七 △一〇
澎湖	高等官	…	…	…	…	…
	判任官	一二	△一二	七〇	一六	九八 △一二
	囑託、公醫、隘勇雇傭員	…	…	一八	…	一八
	計	一二	△一二	八八	一六	一一六 △一二
總計	高等官	二四	…	五	六	三五
	判任官	四六八 △九六	九〇 △一、二四九	三、六七〇	七四七 △七四	四、九七五 △一、四一九
	囑託、公醫、隘勇雇傭員	八	…	五六五	一七〇 △一	七四三 △一
	計	五〇〇 △九六	九〇 △一、二四九	四、二四〇	九二三 △七五	五、七五三 △一、四二〇

待遇者ハ各相當欄ニ併記ス△ハ調査委員ヨリ兼務セルヲ示ス

普通調査區委員（其ノ二官職別）

官職名		監督委員	監督補助委員	調査委員	豫備委員	計
高等官（待遇者ヲ含ム）	事務官	六	…	…	三	九
	祕書官	一	…	…	…	一
	警視	二	…	…	一	三
	編修官	一	…	…	…	一
	教授	七	…	…	…	七
	教官	…	…	二	…	二
	舍監	…	…	一	…	一
	海事官	一	…	…	…	一
	技師	四	…	…	二	六
	監視官	一	…	一	…	二
	助教授（醫學校）	…	…	一	…	一
	通信事務官補	一	…	…	…	一
	計	二四	…	五	六	三五
	屬	九七 △一二	…	三〇三	一〇八 △一九	五〇八 △三一
	書記	一七 △一	…	九五	一九 △三	一三一 △四
	編修書記	…	…	二	…	二
	技手	六	…	六七	二七 △一	一〇〇 △一
	通譯	一	…	一七	四	二二
	監視（稅關）	一〇	…	八	一	一〇
	稅關支署長	…	…	…	一	一

官職名	監督委員	監督補助委員	調査委員	豫備委員	計
監吏（稅關）	…	…	五七	二	五九
看守（燈臺）	一	…	一	一	三
助教授（國語學校）	…	…	六	一	七
教諭	五九 △二三	…	一七〇	一七 △四	二四六 △二七
訓導	…	…	六六	五四	一二〇
判任官（待遇者ヲ含ム） 通信書記	七	…	六〇	一二	七九
三等郵便局長	四 △一	…	一一	四	一九 △一
通信技手	…	…	一	…	一
通信書記補	…	…	二七	三	三〇
醫部	一一〇 △一三	…	三二	五二 △一〇	一九四 △二三
醫部補	一六二 △四六	…	九四	一二 △三三	二六八 △七九
巡查	一	九〇 △一,二四九	二,四七六	二三六 △四	二,七九三 △一,二五三
巡查補	…	…	一五八	一九六	三五四
監吏（監獄）	一	…	二	二	五
看守（監獄）	…	…	一六	三	一九
藥局長	一	…	…	一	二
調劑手	…	…	一	…	一
調劑師	…	…	…	一	一
計	四六八 △九六	九〇 △一,二四九	三,六七〇	七四七 △七四	四,九七五 △一,四一九
囑託	二	…	六一	一三 △一	七六 △一
公醫	五	…	二七	一一	四三
雇	一	…	四四五	一二九	五七五

官職名	監督委員	監督補助委員	調査委員	豫備委員	計
囑託、公醫、雇、傭員 臨時雇	…	…	七	二	九
通信事務員	…	…	六	七	一三
通信事務見習	…	…	三	一	四
通信助手	…	…	一	一	二
監視員（專賣局）	…	…	四	…	四
隘勇	…	…	…	二	二
傭	…	…	一一	三	一四
稅關監吏補	…	…	…	一	一
計	八	…	五六五	一七〇 △一	七四三 △一
總計	五〇〇 △九六	九〇 △一,二四九	四,二四〇	九二三 △七五	五,七五三 △一,四二〇

豫備委員ヲ除クノ外△ハ調査委員ヨリ兼務ノ數ヲ示ス

特別調査區委員

前表中調査委員附通譯數ヲ各廳別ニ掲クレハ左ノ如シ

官衙	監督委員	監督補助委員	調査委員	豫備委員	計
醫院	一〇	…	一七	…	二七
監獄	五	…	一七	二	二四
陸軍	八九	…	八九	…	一七八
海軍	一	…	一	…	二
計	一〇五	…	一二四	二	二三一

廳	官吏通譯	雇上內地人通譯	雇上本島人通譯	計
臺北	三九 △三七	…	一五〇	一八九 △三七
基隆	二 △六六	二〇	一一六	一三八 △六六
宜蘭	二三 △一三	…	…	二三 △一三
深坑	一三 △二六	六	一七	三六 △二六
桃園	一五	…	一一五	一三〇
新竹	…	…	六四	六四
苗栗	一四	…	三四	四八
臺中	四五	六	七五	一二六
彰化	二五 △五五	…	…	二五 △五五
南投	△三三	一〇	二六	三六 △三三
斗六	△五六	…	…	△五六
嘉義	三二	…	六〇	九二
鹽水港	四一	五	三五	八一
臺南	一一	八	一六二	一八一
蕃薯寮	…	一〇	二〇	三〇
鳳山	五八	…	七七	一三五
阿緱	一八	…	六〇	七八
恒春	…	…	二	二
臺東	一 △三一	…	二〇	二一 △三一
澎湖	四〇	…	二〇	六〇
合計	三七六 △三一七	六五	一,〇五三	一,四九四 △三一七

△ハ豫備調查委員ニシテ通譯ニ從事セシ人員ナリ

十三　印刷物　所帶票ヲ始トシ本調查ニ要スル印刷物ハ其ノ數量ノ夥多ナルト急速印行ヲ要スルカ故唯ニ印刷校合ノ頻繁ナルノミナラス本島ニハ戶口調查用語(福建及廣東ノ二種)ノ如キ特種印刷物ノ必要アル等意外ノ時日ト手數トヲ要シタルモ幸ニ必要ノ時期ヲ失スルニ至ラス而シテ是等印刷物ハ悉ク臺北ニ於テ其ノ需用ヲ滿足セリ今其ノ印刷物ノ種類名稱數量及價額ヲ表示スレハ左ノ如シ

	名稱	數稱	數量	價額
冊子	戶口調查規則	部	一〇,〇〇〇	七〇・〇〇〇円
	事務取扱規程	同	一,〇〇〇	一〇・〇〇〇
	監督員心得	同	二,〇〇〇	一四・〇〇〇
	調查員心得	同	一一,〇〇〇	八〇・〇〇〇
	所帶票記入心得	同	一一,〇〇〇	四二五・〇〇〇
	職業名報告	同	三〇〇	四四・四〇〇
	臺灣職業豫察報文	同	四,〇〇〇	一五二・〇〇〇
	所帶票及要計表檢查手續	同	三,〇〇〇	一二六・〇〇〇
	戶口調查用語(福建)	同	六,五〇〇	二九七・八〇〇
	同(廣東)	同	一,五〇〇	一四四・〇〇〇
	諸法規問答錄	同	六,五〇〇	五〇三・六八五
用紙	監督委員要計表	枚	三,〇〇〇	九・五〇〇
	調查委員要計表	同	二八,〇〇〇	六七・三〇〇
	所帶票	同	八二五,〇〇〇	三,三九〇・五〇〇

名稱		數稱	數量	價額
用紙	印刷物交付目錄	枚	八、〇〇〇	円 五八〇〇
	島ノ子辭令用紙	同	一二、〇〇〇	二一三・六〇〇
	模造紙辭令用紙	同	一〇、二〇〇	三二・九〇〇
	住家番號票	同	六〇〇、五〇〇	二五三・〇〇〇
	附箋用紙	同	大 二四〇、〇〇〇 小 四四五、〇〇〇	四五・六〇〇 三七・二〇〇
其ノ他	年齡早見表	枚	一〇、五〇〇	一七・〇〇〇
	臺灣親戚名稱圖	同	一〇、〇〇〇	六七・〇〇〇
	告諭文	同	五三〇〇	四四八・九〇〇
	所帶票記入例	同	二〇、〇〇〇	一一二・〇〇〇
總計				六、五六七・一八五

郵便ノ便法

十四 郵便ノ便法　臨時臺灣戶口調査部、戶口調査委員長、監督委員、同補助委員、調査委員等ノ間ヲ往復スル所帶票、要計表其ノ他ノ諸用紙類ハ其ノ數多量而モ送受ノ間敏速ヲ要スルヲ以テ特ニ一種ノ徽章ヲ附シ郵稅後納ノ便法ヲ取リ明治三十八年七月ヨリ同三十九年四月マテ之ヲ施行セシメ大ニ利益ヲ得タリ

視察及監督

十五 視察及監督　地方廳ニ於ケル準備ノ狀況ニ關シ視察セシムルノ必要アルヲ以テ先ツ明治三十八年七月十三日ヨリ交通不便又ハ遠隔ノ地方ヨリ視察ヲ始ム卽チ七月ニ在リテハ澎湖廳ニ一名、臺東廳ニ一名、鳳山、阿緱、蕃薯寮及恒春ノ四廳ニ二名、八月ニ在リテハ臺北、桃園、基隆、深坑及宜蘭ノ五廳ニ一名、斗六、嘉義、鹽水港及臺南ノ四廳ニ一名ヲ出張セシメ九月ニ入リテハ十月三日ニ亙リテ監督ヲ兼ネ臺南及鹽水港ノ二廳ニ一名、宜蘭及深坑ノ二廳ニ一名、桃園、新竹及苗栗ノ三廳ニ一名、臺中、彰化及南投ノ三廳ニ一名、斗六及嘉義ノ二廳ニ一名、蕃薯寮、鳳山及阿緱ノ三廳ニ一名、臺北及基隆ノ二廳ニ一名、臺北廳ヨリ鳳山廳ニ至ル鐵道沿線ニ一名ヲ出張セシメタリ右ノ外十月一日ニハ主事二名ヲシテ臺北附近ヲ視察セシメタリ

明治三十八年十月一日實査ノ當日ハ內務省ヨリ出張ノ有吉臺灣課長ハ臺南ニ在リテ視察シ內閣ヨリ出張ノ高橋統計審査官ハ臺北ニ在リテ視察シ爾後前者ハ漸ク北進シ後者ハ漸ク南進シテ各廳ニ於ケル實査及整理中ノ狀況ヲ精査セリ

地方部ノ準備

十六 地方部ノ準備　本部ニ於ケル準備ハ既ニ成ルモ地方ニ在リテハ更ニ廳長トシテ戶口調査簿ノ整理ヲ要シ又委員長トシテノ準備アリ以下監督委員又ハ調査委員ニ至ルマテ各準備事務アリ右ハ臨時臺灣戶口調査事務取扱規程（明治三十八年六月訓令第一三二號）監督委員心得（明治三十八年六月訓令第一三三號）調査委員心得（明治三十八年六月訓令第一三四號）ニ規定セリ而シテ其ノ準備事務ハ地方ニ依リ時ニ多少ノ伸縮アリ事務ニ幾分ノ精粗ナキニ非スト雖要スルニ一定標準ノ下ニ統一シタルヲ以テ各地方略〻同一ナリト謂フヲ得ヘシ依リテ其ノ一例トシテ臺北廳戶口調査委員長佐藤友熊ノ報告ヲ左ニ揭ケ以テ全體ヲ概見スルノ資ニ供ス

臺北地方委員長ノ報告

甲 普通行政系統ニ於ケル準備

一 戶口調査簿ノ整理

元來警察ニ於ケル戶口調査簿ハ至リテ單純ニシテ調査ノ事項ハ專ラ警察取締上ノ用ニ供スルヲ限度トセリ故ニ其ノ調査ノ項目ハ僅々六七種ニ過キサリシモ客年十二月本島ニ於テ國勢調査ヲ施行スルコトニ府

アジア歴史資料センター

議決定セシト同時ニ調査ノ基礎ヲ戶口調査簿ニ採ルコトトナリ從來戶口調査ニ於テ調査シツツアル事項ノ外ニ十數種ノ調査事項ヲ追加セラレ明治三十八年三月末日迄ニ完成セシムヘキ旨ノ通達ニ接セリ仍テ本年一月ヨリ之カ整理ニ著手シ著々其ノ緒ニ就ケリ然ルニ本年十月一日ヲ期シ愈〻國勢調査ヲ施行セラルルコトニ確定シ諸般規則ヲ發布セラルルニ至リテ戶口調査ノ方法等全ク所帶票記入心得ヲ準用セラルルコトトナリ戶口調査簿ノ整理ハ日一日モ忽ニスヘカラサルニ至レリ是ニ於テ乎委員部職員ヲシテ警察官吏ニ對シ所帶票記入心得ニ就キ講習ヲ爲サシメ調査事項ノ提覽ヲ計リ戶口調査簿記入事項一覽表ヲ調製シ之ヲ各人ニ配付シ七月初旬ヨリ巡査ヲ督勵シテ實地ノ調査ニ著手シタリ而シテ七月末日迄ニ全部ノ調査ヲ了スルノ豫定ナリシモ調査事項ノ煩雜ナル一人ノ巡査ニテ一日ニ調査シ得ル所辛ウシテ平均三十戶ニ過キス此ノ如クニシテ管內六萬ヲ以テ數フル戶數ニ對シ每戶ニ就キ調査ヲ了スルハ尋常一樣ノ手段ヲ以テ遂行シ得ヘカラサルコトヲ認メ警察力ノ大部分ヲ擧ケテ調査ニ傾注シタリ而シテ實査結了ノ分ニ對シテハ監督者ニ於テ細密ナル檢閱ヲ爲シ不備ノ點ニ就テハ之ニ符箋ヲ施シ擔當巡査ニ還付シ一々實地ニ就テ訂正ヲ命シ再度監督者ニ差出サシメ再査ヲ爲シ尙不備ノ點アルトキハ又符箋ノ上還付スル等數回ヲ繰返シ辛ウシテ全部ノ調査ヲ終フルヲ得其ノ間實地調査ノ回數ハ少キモ三回多キハ五回若ハ六回ニ達セリ然ルニ異動ノ頻繁ナル實ニ驚クヘキ程ニテ特ニ臺北三市街ノ如キハ一回ノ調査ニ續テ二回ノ調査ヲ行フトキハ一戶トシテ多少ノ異動ナキモノハ殆ト稀ナリ左ナキタニ困難ナルニ一層困難ニ陷リタルモ熱心事務ニ從事シタル結果八月末日ニ至リ全部ノ整理ヲ了シ九月五日ヨリ委員部ノ檢閱ニ供スルノ運ニ至レリ

乙　委員部ニ於ケル準備

一　講習員ノ召集及廳長會議

明治三十八年十月一日ヲ期シ臺灣及澎湖列島ニ對シ臨時臺灣戶口調査ナル名目ノ下ニ國勢調査ヲ施行セラルルコトトナリ官制其ノ他諸規則ノ發布ヲ見ルニ至レリ盛ナリト云フヘシ

總督府ニ於テハ諸般規則ノ發布ト共ニ調査事務練習ノ爲廳員二名ヲ召集スルコトトシ三十八年五月二十九日附ヲ以テ各廳長ニ通達セラル

官文第二七一號

臨時戶口調査ニ關スル諸規則及心得等訓練ノ爲來ル六月十一日ヨリ約一週間ノ豫定ヲ以テ當府內ニ講習會相開候間六月十日迄ニ當府ニ到著候樣廳員二名派遣相成度尤モ右ニ要スル旅費ハ地方稅支辨ノ筈ニ付追テ精算額ヲ豫算ニ追加可相成候ニ付豫メ承知可相成依命此段及通達候也

明治三十八年五月二十九日　　民政長官　後藤新平

臺北廳長　佐藤友熊殿

追テ本文廳員二名ノ內一名ハ臨時戶口調査ニ關シ主任ト爲スヘキ警部、一名ハ統計主務又ハ其ノ他適當ト認メラレタル者ヲ選出可相成儀ト承知相成度申添候也

本廳ハ右ノ通達ニ基キ講習員トシテ左記二名ノ廳員ヲ派遣セリ

屬兼警部　森田高一郎

屬　江口形太郎

右二名ノ廳員ハ六月十日出府同十八日所定ノ講習ヲ了シ歸廳シタリ總督府ハ更ニ地方官會議ヲ召集スルコトトナリ左ノ通達ヲ發セラル

民總第三、三九八號

來ル十六日ヲ期シ地方官會議被相開候ニ付右期日迄ニ出府可相成依命此段及通達候也

明治三十八年六月六日　　民政長官　後藤新平

臺北廳長　佐藤友熊殿

追テ今回ハ主トシテ戶口調査ノ準備ニ關シ召集相成タル儀ニ有之爲念申進候也

廳長五月十六日出府同月二十二日議事ヲ了シ歸廳シタリ次テ又總督府ニ於テハ主トシテ戶口調査ニ關シ總務課長及警務課長ヲ召集シ會議アリタリ總督府カ是等ノ擧ヲ爲ス蓋シ事務ノ統一ヲ期スルノ主旨ニ外ナラサルヘシ

二　委員部ノ設置

廳員ハ調査事務ノ講習ヲ了シテ歸廳シ廳長モ亦會議ヲ了シテ歸廳セルヲ以テ六月二十四日廳長室ニ於テ

會議ヲ開キ戸口調査委員長直屬ノ機關トシテ委員部ヲ設置スルコトトシ專務四名兼務六名都合十名ノ事務員ヲ廳員中ヨリ充用シタリ其ノ官職氏名左ノ如シ

兼務	警務課長警視	大山綱岳
兼務	總務課長屬	木村松之助
兼務	税務課長屬	渡邊國重
兼務	警部	石橋正光
兼務	警部	小林利應
兼務	雇	今井昌次
專務	屬	岩本多助
專務	屬兼警部	森田高一郎
專務	警部	深町定次郎
專務	屬	江口形太郎
專務	屬	小野庄策

右ノ内屬渡邊國重ハ休職トナリ屬小野庄策ハ轉勤セリ

三　支廳長及直轄各監視區監督警部會議

委員部ノ設置ト共ニ本廳ニ於ケル準備事務ノ第一著トシテ第一種警察會議ヲ兼子主トシテ調査區域設定ニ關シ七月二十七日支廳長及直轄各監視區監督警部ノ會議ヲ召集シ臨時戸口調査ノ目的及機關ノ組織調査ノ順序方法竝戸口調査簿ノ整理ニ關シ詳細ナル訓示ヲ爲シ次テ左ノ會議事項ヲ審議シ最後ニ嚢ニ總督府ヘ召集セラレ調査事務ノ講習ヲ受ケタル森田高一郎江口形太郎ノ兩屬ヲシテ所帶票記入心得ニ就キ大體ノ講話ヲ爲サシメタリ

會議ノ結果調査區ハ大體ニ於テ保甲ノ區劃ニ依リ一保ヲ以テ一調査區トナスコトニ決シ調査上ノ便益ニ從ヒ保甲ノ區劃ニ多少ノ修正ヲ加ヘ實地調査ノ上八月五日迄ニ報告スヘキコトニ決定シタリ

四　調査區劃ノ設定

支廳長等ノ報告ハ期日迄ニ到著セシヲ以テ戸口數ト面積ト地形トニ考ヘ且十分ノ審査ヲ遂ケ區劃ヲ定メタルモ戸口數ハ昨年末ノ調査ニ係ルヲ以テ更ニ八月末日ノ現在數ヲ調査シタリ此ニ至リテ調査區劃ハ確定シタルヲ以テ之ヲ印刷ニ附シ戸口調査事務取扱規程第六條ニ依リ七月十五日調査部長ヘ報告ヲ了シ同時ニ準備調査ノ任ニ當レル各支廳長及直轄各監視區監督警部ヘ配布シ準備調査ノ便益ニ供シタリ而シテ監督區ノ數ハ六十ニシテ調査區ノ數ハ實ニ五百七十九ノ多キニ達セリ

五　委員竝通譯ノ選出

監督區及調査區ノ區劃既ニ決定シ之ニ要スル委員數亦確定セリ監督委員六十名調査委員五百七十九名都合六百三十九名ノ正員ト百名ノ豫備ヲ置クコトトシテ七百三十九名ノ委員ヲ要スルヲ以テ委員部ハ之レカ選定ニ著手シ先ッ廳及廳所屬各官衙學校職員中ヨリ選出シ得ヘキ委員數ヲ四百名ト定メ不足三百三十九名ヲ他官廳ニ仰クコトトシ他官衙長官ニ向テ委員長ヨリ一應ノ豫議ヲ爲シ然ル後左ノ協議書ヲ發セリ

臺北戸第一七號

來ル十月一日ヲ以テ施行セラルル臨時戸口調査事務ニ關シ之ニ從事スヘキ人員管内ニ於テ七百三十九名ヲ要シ候處其ノ内四百名ハ臺北廳員ヨリ充用致候得共殘三百三十九名ハ民政部及民政所屬諸官衙ヨリ助力御願致度候ニ付テハ乍御手數貴廳職員中ヨリ監督委員及調査委員タルニ最適任ト認メラルル人員何名ヨリ何名位御選擇ノ上其ノ官職氏名等左ノ例ニ依リ來ル七月十五日迄ニ御通報相煩度此段及御協議候也

明治三十八年七月十日

臺北臨時戸口調査委員長　佐藤友熊

各官衙長官宛

左例

監督委員適任者調

官職	姓名	摘要
		土語ニ通スルモノハ此ノ欄ニ其ノ旨記入セラレタシ

調査委員適任者調

官職	姓名	摘要
		土語ニ通スルモノハ此ノ欄ニ其ノ旨記入セラレタシ

期日ニ至リ委員ノ官職氏名等悉ク通報シ來リシヲ以テ之ヲ本廳選出ノ委員ト合シ所要ノ七百三十九名ノ委員ヲ得タリ然ルニ委員中警察官吏及公學校職員ヲ除キテハ土語ニ通スルモノ至ッテ少ナク少クモ三百名ノ通譯ヲ要スルコトト爲レリ之ヲ民間ニ仰クハ容易ニ得ヘカラサノミナラス經費ノ點ニ於テ元來不可能ノ事ニ屬ス故ニ之ヲ國語學校及醫學校ノ生徒管内各公學校第五年生第六年生若ハ卒業生中ノ希望者ヨリ充用スルコトトシ國語學校長及醫學校長ニ對シ選出方ヲ依賴セリ但シ其ノ人員ハ國語學校百二十六名醫學校三十五名ナリ

臺北戶第二八號

來ル十月一日ヲ以テ施行セラルル臨時臺灣戶口調査ニ關シ臺北三市街及其ノ附近ニ配當スル調査委員附通譯約百六十名ヲ要シ候處右ハ他ニ補充ノ途モ無之候ニ付貴校在學生徒中ヨリ何名採用致度幸ニ御承諾ノ上ハ乍御手數人名御通報相煩度此段及御依賴候也

明治三十八年八月十六日

臺北臨時臺灣戶口調査委員長　佐藤友熊

國語學校長醫學校長宛

尙管内各公學校長ヘモ同時ニ左ノ照會ヲ爲セリ

臺北戶第二八號

來ル十月一日ヲ以テ施行セラルル臨時臺灣戶口調査ニ關シ地方ニ配當スル調査委員附通譯トシテ貴校在學生徒中ヨリ別記人員採用ノ豫定ニ付上級者ニシテ可成身體健全成績優等ノモノヲ選擇シ調査事項ノ通譯ニ差支無之樣豫メ練習置相成度尙其ノ氏名ハ來ル八月三十一日迄ニ報告相成度此段及照會候也

明治三十八年八月十二日

臺北臨時臺灣戶口調査委員長　佐藤友熊

各公學校長宛

左記

八芝蘭公學校	二七	錫口公學校	二四
和尙洲公學校	一〇	新庄山脚公學校	二二
興直公學校	一五	枋橋公學校	三〇
老梅公學校	五	海厝公學校	五
滬尾公學校	一四	計	一五二

國語學校長及醫學校長ハ此ノ空前ノ大事業タル戶口調査ニ生徒ヲシテ參加セシムルハ大ナル名譽ナリトシテ直ニ快諾ヲ與ヘラレ氏名等ノ通報アリ又各公學校長ヨリモ報告ニ接シタルヲ以テ戶口調査部ノ編纂ニ係ル戶口調査用語ヲ各人ニ送付シ練習ノ便ニ供シタリ

調査委員監督委員及監督補助委員竝通譯等ノ選出ヲ了シタルヲ以テ委員ニハ八月二十二日通譯ニハ九月七日辭令ヲ下付シタリ

六　委員ノ訓練

委員ノ訓練ニ關シテハ臨時臺灣戶口調査事務取扱規程第十四條ニ於テ左ノ如ク規定セリ

第十四條戶口調査委員長ハ監督委員ニハ明治三十八年八月十五日迄ニ調査委員ニハ同年九月十五日迄ニ調査ニ關スル訓練及實地ノ指導ヲ爲スヘシ

法文ノ旨趣ハ戶口調査委員長ハ先ツ監督委員ヲ訓練シ然ル後調査委員ヲ訓練スルヲ順序トナスモノノ如シ又調査委員ノ訓練ヲ特ニ九月十五日迄ト規定セラレタルハ蓋シ實地調査ニ可成接近セシムルノ主旨ナルヘシト雖警察官ニ在リテハ準備調査上特ニ訓練急施ノ必要ヲ認ムルヲ以テ敢テ序次ヲ追ハス監督委員

調査委員ノ別ナク一堂ニ會シテ七月一日ヨリ最先ニ警察官吏次ニ本廳員次ニ他官衙員ト逐次開始スルコトトシ講師ハ森田、江口ノ兩屬專ラ之ヲ擔當シ訓練ノ方法ハ調査規則調査委員心得等ノ諸般規則ニ就キ一應ノ解釋ヲ爲シ特ニ所帶票記入心得ニ就テハ詳細ナル講話ヲ爲シ終リテ假定ノ問題ヲ與ヘ所帶票ニ記入セシメ一々之ニ評點ヲ附セリ

豫定ニ先ツコト二日卽チ八月二十六日ニ至リ事務ノ訓練全ク終リヲ告ケシヲ以テ特ニ各員ノ爲臨時戶口調査部主事水科七三郎ニ囑シ調査ノ目的方法等ニ就キ大體ノ講話ヲ請フコトトシ國語學校雨天體操場ヲ借リ受ケ全員ヲ二組ニ分チ九月二日ヨリ三日ニ亙リ二日間講演會ヲ開設セリ

七　各委員ニ擔當區ヲ命ス

調査事務ノ訓練終了セシヲ以テ各委員ノ擔當區ヲ定メ九月七日附ヲ以テ辭令ヲ交付シ同時ニ各支廳長及直轄各監視區監督警部ヲシテ監督委員ノ事務所ニ充用スヘキ適當ノ場所ヲ調査セシメ其ノ報告ニ依リテ事務所ヲ設置シタリ

八　委員及通譯ノ會同

各委員擔當區ノ決定ト調査委員附通譯ノ配當成ルト共ニ委員及通譯ヲ會シ事務ノ打合ヲ兼テ紹介ヲ爲スノ必要ヲ認メタルヲ以テ全員ヲ臺北ニ在住スルモノト地方ニ在ルモノトノ二組ニ分チ臺北ニ在住スル委員ニ對シテハ九月八日ヨリ同月九日ニ至ル二日間第二小學校ニ於テ會同セシメ地方在住者ニ對シテハ九月十一日書院街武德殿ニ於テ會同セシメタリ尤モ通譯ハ之ヲ各監督區ニ配當シ調査委員ニ對シテハ監督委員ヲシテ適宜配當セシムルコトトシタルヲ以テ九月十三日各監督委員ノミヲ第二小學校ニ召集シテ引渡ヲ爲シタリ

九　監督委員ニ對スル注意事項

規定ノ訓練ハ既ニ了シタルモ調査上記憶スヘキ事項ニ就テハ常ニ注意ヲ怠ラス時々監督委員ニ向テ通牒セリ

十　戶口調査簿ノ檢査

警察ニ於ケル戶口調査簿ノ整理ハ豫定ノ如ク八月末日迄ニ全部結了ノ旨報告ニ接セシヲ以テ委員部事務員森田、江口ノ兩屬ヲシテ九月五日ヨリ該簿ノ檢査ヲ爲サシメ同月二十日ニ至リ檢査ヲ了セリ檢査ノ方法トシテハ各派出所及之ニ相當スル廳、支廳直轄ノ巡査ニ就キ其ノ擔當簿冊中一冊宛ヲ檢査スルコトトシテ不備ノ點ハ一々符箋ヲ附シテ訂正セシメタリ

十一　調査簿ノ授受及所帶票等ノ配布

戶口調査簿ノ授受ニ就テハ責任ノ分界ヲ極メテ明ニスル爲左記ノ方法ニ依リ先ツ廳長ヨリ戶口調査委員長ニ引渡ヲ爲シタリ

一　廳直轄ノ戶口調査簿ハ各監視區監督警部之ヲ委員部ニ携帶シ一々簿冊ノ紙數ヲ査閱シテ授受ヲ爲スコト

二　各支廳長ニ屬スル戶口調査簿ハ廳長代理トシテ支廳長ヨリ前項ノ手續ニ依リ戶口調査委員長代理ニ引渡スコト

九月二十四日前項ノ手續ニ依リ戶口調査簿ノ授受ヲ了セシヲ以テ之ヲ各調査區每ニ分綴シ卷首ニ略圖ト調査事項ノ一覽表ヲ添附シ之ニ依リテ住家ノ所在ト調査事項ノ提覽ニ供ヘ簿冊ニハ悉ク厚紙ヲ附シ表紙ノ中軸ニ戶口調査簿ト記入シ左肩ニ其ノ監督區名及調査區名右方ノ上部ニ調査區域同下部ニ紙數ヲ記入シ綴目ニハ封印ヲ施シ之ヲ各監督區ニ纒メ文庫ニ格納シ勉メテ授受上ノ紛亂ヲ防ケリ

所帶票住家番號票其ノ他ノ印刷物ハ各調査區每ニ分チ油紙ヲ以テ十分ナル包裝ヲ爲シ之ヲ各監督區每ニ一括シ之ニ監督委員事務所ノ貼札ヲ添ヘ戶口調査簿ト共ニ又文庫ニ納メタリ

準備全ク成リシヲ以テ九月二十五日本廳所在地擔當ノ監督委員ニハ委員部ニ於テ地方擔當ノ監督委員等ニハ各支廳ニ於テ受領書ヲ徵シ引渡ヲ爲シタリ

所帶票其ノ他印刷物ハ規定ニ依リ配布シタルモ尙萬一不足等ノ場合ヲ慮リ豫備トシテ本廳直轄ノ分ハ委員部及第二第三監視區警察官吏派出所ヘ地方ハ各支廳ヘ各々若干枚ヲ備ヘ置ケリ

十二　旅費規則ノ制定

明治三十八年九月二十日各委員ニ支給スヘキ旅費規則ヲ制定シ尋テ通譯ノ手當等ヲ定ム

十三　調査事務ノ監督

本廳管內ニ於ケル調査事務ハ九月二十八日ヨリ愈〻實地ノ行動ヲ始メ各監督委員事務所モ當日ヨリ開設セラレ調査委員心得第七條乃至第八條ノ準備調査ヲ開始スルコトトナリシヲ以テ期ニ先ツコト一日卽チ

九月二十七日三市街及士林支廳管內ノ各監督事務所ヲ巡視シ設備ノ整否及準備事務ノ實況ヲ視察セリ實査及整理ニ當リテハ一層ノ注意ヲ以テ事務ノ監督上遺憾ナキヲ期セリ

十月一日卽チ實査當日ニハ豫備委員中ヨリ二十人ヲ委員部ニ五名ヲ滬尾支廳ニ召集シ補缺ノ準備ヲ爲シ特ニ當日ハ各委員ト委員長トノ照覆ヲ爲ス爲電話掛三名ヲ置クコトトセリ

十四　其ノ他雜件

委員及通譯ニ對シ辭令ヲ交付セシ後一日トシテ異動ヲ見サルコトナク其ノ時々部長へ報告シ一面ハ關係者等へ通報ヲ爲ササルヘカラス之ヲ一々普通文書ノ取扱ニ依ルトキハ事務ノ敏活ヲ期スル上ニ遺憾少カラサルヲ以テ部長へノ報告用トシテ異動報告書用紙關係者等へノ通報用トシテ通知書ナルモノヲ案出シ又調査ニ際シ委員長トノ照覆等ハ可成電話ニ依ルコトトシ各監督委員ニ本廳備付ノ電話番號票ヲ配布シタリ

臺南地方委員長ノ告諭

又臺南廳長山形脩人ハ明治三十八年九月左ノ告諭ヲ發シ調査ヲ受クル者ニ注意ヲ與ヘタリ

臺南廳告諭第二號

臨時臺灣戶口調査ハ來十月一日ヲ以テ施行セラルルコトハ一般民衆ノ洽ク諒知スル所ナラム其ノ目的タルヤ既ニ本年八月二日臺灣總督ノ論告ニ詳ナルヲ以テ今玆ニ贅言セサルモ其ノ目的ヲ貫徹スルニハ調査委員ノ調査ヲシテ最敏活ニ正確ニ之ヲ遂行セシムルニ在リ而シテ民衆ノ義務モ亦玆ニ在ルヤ多言ヲ俟タス抑〻本調査ハ動モスレハ錯誤ノ生シ易キ事業ニシテ一歩ヲ過マタハ其ノ害ノ及フ所猶本廳下ノミニ止マラサルナリ故ニ其ノ之ヲシテ完璧ヲ得セシムルト否トハ民衆ニ於テ其ノ義務ヲ盡スト盡ササルトニ頼テ分タル一般民衆深ク此ノ意ヲ體シ調査ノ完璧ヲ得セシメムコトヲ望ム今玆ニ其ノ盡ササルヘカラサル義務ノ梗概ヲ左ニ掲ク

一　調査委員ハ十月一日日出ヨリ同月三日マテノ內ニ每戶ニ就キ調査スルヲ以テ其ノ期間調査ノ濟マサル間ハ家人ノ可成的外出ヲ爲ササルコト

但シ止ムヲ得ス外出スルトキハ調査ニ對シ答辯シ得ヘキモノヲ殘シ置クコト

二　調査委員ノ尋問ニ對シテハ最迅速ニ且明瞭ニ答辯シ徒ラニ時間ヲ要セサル樣注意スヘキコト

三　不在者其ノ他ノ來客宿泊者等ニ就テハ氏名、生年月日、職業、行先地、常住地等ヲ書留メ置キ遺漏ナク且錯誤ナキ樣注意スヘキコト

明治三十八年九月二十二日

臺南廳長　山形脩人

地方委員部訓練ノ遲速

尙地方ニ於ケル各委員訓練指導ノ遲速ヲ擧クレハ左ノ如シ

廳	結了月日
臺北	八月二十六日
基隆	八月三十日
宜蘭	八月三十一日
深坑	八月十三日
桃園	九月十二日
新竹	八月二十四日
苗栗	八月十五日
臺中	八月十五日
彰化	九月十日
南投	九月十一日
斗六	七月十五日
嘉義	八月二十三日
鹽水港	九月一日
臺南	九月十三日
蕃薯寮	九月十三日
鳳山	九月十二日

廳	結了月日
阿緱	九月十一日
恒春	七月十八日
臺東	八月九日
澎湖	八月三十日

第三章 實査

調査ノ時

國勢調査ニハ調査スヘキ事實ノ屬スル時ト調査ヲ施行スル時トノ區別アリ而シテ今次臺灣ニ施行シタル臨時戸口調査ニ於テハ原則トシテ事實ノ屬スル時ヲ明治三十八年十月一日午前零時トシ施行ノ時ヲ同十月一日トセリ然レトモ一日ニ完了シ難キトキハ同月三日迄施行スルヲ得ルコトトシ尚天災事變其ノ他避クヘカラサル事由ニ處スル場合ヲ規定セリ（明治三十八年六月府令第三十九號臨時臺灣戸口調査規則第一條參照）

調査ノ要項

所帶票ニ記入スヘキ現在者ニ對スル調査事項ハ二十三箇條アリ然レトモ内地人、本島人及外國人ニ依リ多少ノ差異アリ其ノ他常住者ニ對スル調査事項數箇條アリ之ヲ調査ノ要項トス（同上第二條參照）

調査ノ方法

明治三十八年九月下旬ニハ何レノ地方ニ於テモ監督委員及調査委員ノ部署既ニ定マリ準備ニ準備ヲ整ヘ注意ニ注意ヲ加ヘ早ク十月一日ノ來ルヲ待テリ鷄鳴一聲十月一日ノ曉ヲ報スルヤ六千ノ調査委員ハ皆蹶起結束シテ擔當區ノ調査ニ著手セリ蓋シ各自言合ササルモ可及的一日間ニ査了セムト期スル點ニ於テ異ナル所ナケレハナリ而シテ其ノ調査ノ方法ハ調査委員心得第九條（調査委員ハ擔當調査區内ノ各所帶ニ就キ一人毎ニ現行戸口調査簿ニ照合シテ所帶票ニ記入スヘキ各事項ヲ調査スヘシ）及第十條（前條ノ調査ニ依リ現行戸口調査簿ノ誤謬又ハ異動ヲ發見シタルトキハ附箋紙ニ其ノ事項ヲ記載シ之ヲ該簿ノ相當欄内ニ貼附スヘシ）ノ手續ニ依リ調査シタルハ勿論ナレトモ調査委員ニシテ實査ニ接近シテ再三ノ豫備調査

ヲ爲シタルモノニ在リテハ單ニ其ノ異動分子ヲ詳査セハ他ハ前日ト異ナラス殊ニ人民ハ極メテ靜肅ニ調査ヲ受ケタルヲ以テ各地舊正月元日ノ如クナリシ唯〻人民ノ一部ニ一種ノ誤解アリテ原籍地ニ於テ調査ヲ受クルニ非サレハ本島人ニ非スト認メラレムコトヲ恐レ官憲又ハ保甲ノ說諭ニ服セス輕擧歸來シタルモノアリタルハ遺憾ノ現象トス然レトモ大勢上ヨリ通觀スレハ其ノ少數ナルハ特ニ此ノ種ノ調査ヲ爲シタルモノノ中ニ就キ多數ノ異動アリト認メタル鳳山廳ニ徵スルモ決シテ大體ニ影響ナキヲ證スルニ足ル是レ偶〻以テ本島人カ如何ニ本調査ヲ重要視シタルヤヲ察スヘシ殊ニ保正甲長ヲ始トシ各戶皆調査委員ヲ歡迎シテ誠實ノ答ヲ爲シ速ニ査了セラレムコトヲ切望シ其ノ後レムコトヲ憂フル者アルニ至リテハ寧ロ愛スヘキニ堪ヘス故ヲ以テ本調査ニ際シ虛僞ノ答申ヲ爲シ府令ノ制裁ヲ受ケタルモノ全島中僅ニ二人アリシノミ

被調査者ノ實況

障碍

事情此ノ如キヲ以テ實査ハ概ネ豫定以上ノ速度ヲ以テ進行シタリ但基隆、宜蘭及深坑各廳方面ニ降雨アリシ爲調査上稍〻困難ヲ感セシト蕃薯寮廳ノ一部ニ蕃害アリシ爲事變ノ場合ニ處スルノ除外例ヲ適用シタリ當時我カ國ハ露國ト交戰中ナルニ拘ラス此ノ大事業ヲ斷行シタルニ調査ノ當日ニ至リ本島ニ於テハ一面文明的ノ國勢調査ヲ施行スルト同時ニ一面蕃人ヲ擊退シ而シテ後全部ノ調査ヲ結了シタルハ實ニ好成績ト謂ハサルヘカラス左ニ各地方ニ於ケル調査ノ進度ヲ示サム

調査ノ進度

完了月日	完了區域	
	普通調査區	特別調査區
十月一日	阿緱、臺東、澎湖各廳	臺北、新竹、基隆、臺中、臺南、嘉義、鳳山、宜蘭、臺東、澎湖各醫院、臺北臺南各監獄及陸海軍隊
二日	深坑、桃園、斗六、鹽水港、臺南、鳳山、恒春各廳	
三日	臺北、基隆、宜蘭、新竹、苗栗、臺中、彰化、南投、嘉義各廳	臺中監獄
二十五日	蕃薯寮廳 大部分ハ三日ニ了リタルモ第十及第十一監督區ニ蕃害アリシ爲九日ニ至リ第十一監督區第九調査區ノ外査了シ同調査區モ二十五日ニ完了セリ	

嘉義地方委員長ノ報告

今地方ニ於ケル實地調査ノ一端ヲ示サムカ爲嘉義廳戶口調査委員長岡田信興ノ報告ヲ左ニ揭ク

實地調査ノ第一日タル十月一日ハ朝來天氣晴朗ニシテ風塵ナシ各調査委員ハ前夜來其ノ受持區內便宜ノ地ニ出張シ居リ黎明ヲ竢テ保甲役員又ハ街庄長ヲ先導トシ豫定ノ線路ニ依リ實査ニ著手シ各戶各人ニ就キ戶口調査簿ト對照氏名續柄、種族、男女別、生年月日等ノ各事項ヲ愼重ニ詩問シ甲家ヨリ乙家、乙ヨリ丙ト順次調査ノ步ヲ進ム各戶人民ハ到ル處挨ニ調査委員ノ來著ヲ待受ケ愼重ノ敬意ヲ表シテ之ヲ迎ヘ調査委員ノ問ニ對シ敏捷ニ應答スル等人民自ラ調査ノ便ヲ計ルコトニ注意セシ爲何等ノ支障阻碍ナク其ノ進行豫想外ニ捗取リ人家密接セル市街地ノ如キハ初一日ヲ以テ大部分ノ實査ヲ了ヘ庄村部落ニシテ調査區域ノ稍〻廣濶ナル地方ハ第二日ニ涉リ蕃地又ハ蕃界附近ノ調査區ト雖第三日ノ午前中ニハ廳下全部ノ調査完了ヲ告クルニ至レリ此ノ間各監督委員ハ最敏活ノ行動ト周到ノ注意ヲ取リ各調査區ニ涉リ實査ノ適否ヲ監査督勵ニ努メタルノ結果最圓滿ニ實査ノ終了ヲ見ルニ至レリ蓋シ這回ノ調査ハ豫定計畫ノ通遂行サレ全廳各區共調査定刻ニ於ケル正確ナル人口調査ノ實ヲ失ハサリシハ本委員長ノ固ク信スル所ナリ

第四章　整理

要旨

玆ニ謂フ所ノ整理トハ調査委員ニ於テ實地調査ノ後七日以內ニ所帶票ニ所定ノ事項ヲ記入照査シ該所帶票ニ依リ調査委員要計表ヲ作成シ共ニ其ノ完備ヲ認メタル上當該監督委員ニ提出シ監督委員ハ調査委員ノ整理事務ヲ監督シ且其ノ調査記入シタル所帶票及要計表ヲ檢査シ不備ノ點アルトキハ之ヲ調査委員ニ訂正セシメ然ル後監督委員要計表ヲ作成シ明治三十八年十月二十日迄ニ戶口調査委員長ヲ經由シテ之ヲ臨時臺灣戶口調査部長ニ提出シ調査部ニ於テ之ヲ檢査シテ不備ヲ發見シタルトキハ當該責任者ヲシテ訂正セシムル迄ノ事務ヲ總稱ス

所帶票及要計表提出及受理

故ニ玆ニ所謂整理ノ事務ハ實査ノ終了ト共ニ始マリ訂正ノ完了ト共ニ終ルモノトス且又監督委員ト調査委員間連絡上ノ必要ヨリ概ネ監督委員事務所ニ於テ其ノ事務ヲ取扱ヒ早出遲退以テ其ノ整理ニ從事シ中ニハ徹宵シテ其ノ進程ヲ早メタル等各地皆熱心ニ從事シタルハ多トスル所ナリ各廳ヨリ所帶票及要計表ノ最終提出期及本部ニ於テ之カ最終受理期ハ左ノ如シ

所帶票及要計表提出及受理月日

	官衙	最終提出月日	最終受理月日
普通調查區	臺北廳	十月十三日	十月十三日
	基隆廳	十月十八日	十月十九日
	宜蘭廳	十一月九日	十一月十一日
	深坑廳	十月十二日	十月十三日
	桃園廳	十月十六日	十月十六日
	新竹廳	十月十八日	十月十九日
	苗栗廳	十月十六日	十月十六日
	臺中廳	十月十六日	十月十九日
	彰化廳	十月二十日	十月二十二日
	南投廳	十月十九日	十月二十四日
	斗六廳	十月二十日	十月二十日
	嘉義廳	十月十七日	十月十九日
	鹽水港廳	十月十二日	十月十三日
	臺南廳	十月二十一日	十月二十三日
	蕃薯寮廳	十月二十五日	十月三十日
	鳳山廳	十月十七日	十月二十七日
	阿緱廳	十月十七日	十月二十日
	恒春廳	十月十六日	十月二十九日
	臺東廳	十月二十四日	十一月六日
	澎湖廳	十月二十一日	十月二十九日
特別調查區	臺北醫院	十月六日	十月六日
	新竹醫院	十月四日	十月四日
	基隆醫院	十月一日	十月一日
	臺中醫院	十月一日	十月一日
	臺南醫院	十月二日	十月二日

官衙	最終提出月日	最終受理月日
特別調査區		
嘉義醫院	十月一日	十月一日
鳳山醫院	十月一日	十月一日
宜蘭醫院	十月一日	十月一日
臺東醫院	十月二日	十月十日
澎湖醫院	十月一日	十月一日
臺北監獄	十月五日	十月五日
臺中監獄	十月六日	十月六日
臺南監獄	十月二日	十月二日
陸軍	十月二十三日	十月二十三日
海軍	十月一日	十月九日

本表最終提出月日トハ各廳監督委員ヨリ戸口調査委員長ヲ經テ最終ニ戸口調査部ニ提出シタル月日又最終受理月日トハ前記ノモノヲ最終ニ戸口調査部ニ於テ受理シタル月日トス

特別調査區設置ノ理由

醫院

右醫院、監獄及軍隊ハ之ヲ本部長ニ直屬シ特別調査區ト爲セリ其ノ事由左ノ如シ

一　醫院ニハ重病傷者ヲ收容スルヲ以テ醫院長ニ於テ適任者ヲ擧ケテ調査委員ト爲シ且患者安靜ノ時ニ調査スルヲ妥當ト認メタルコト

監獄及軍隊

一　監獄及軍隊ハ別乾坤ナルヲ以テ外來調査委員ニ於テ調査ヲ爲スニ困難ノ事情ナシトセス依リテ監獄長又ハ軍隊長指揮ノ下ニ調査セシムルノ得策ナルヲ認メタルコト

領事館

又領事館ハ委員長ノ管理ニ屬スルモ普通調査委員ヲ以テスルトキハ言語事情等ノ能ク疏通セサル爲進行ヲ阻害スルノ虞ナキヲ保セス依リテ外國語ニ熟達シタル外事係ノ者ニ特命シテ之ヲ擔任セシムルノ自他便益ナルヲ認メタルコト

戸口數

今要計表ニ依リテ得タル各廳ノ戸口ヲ表示スレハ左ノ如シ

戸口表

廳	住居數 住家	住居數 船舶	住居數 其ノ他	住居數 計	所帶數 本來所帶	所帶數 准所帶	所帶數 計	現在人口 男	現在人口 女	現在人口 計	常住人口 男	常住人口 女	常住人口 計
臺北	一九、七五〇	二一六	二	一九、九六八	五五、二一四	三二四	五五、五三八	一五五、二九三	一三四、九〇七	二九〇、二〇〇	一五六、三四六	一三五、四四四	二九一、七九〇
基隆	一七、七六五	九九	二〇	一七、八八四	二二、八二三	一四〇	二二、九六三	六四、五五一	五〇、九二二	一一五、四七三	六四、二二二	五一、〇二九	一一五、二五一
宜蘭	一八、三六一	二四	…	一八、三八五	二〇、九九一	四二六	二一、四一七	五九、七八九	五二、九三〇	一一二、七一九	六〇、七八八	五三、二四七	一一四、〇三五
深坑	六、六七二	三	二一	六、六九六	八、七七三	一二九	八、九〇二	二五、一九二	二〇、八三二	四六、〇二四	二五、〇七四	二〇、八八六	四五、九六〇
桃園	二五、一〇九	一一	一	二五、一二一	三一、八〇六	一九〇	三一、九九六	一〇六、六九七	九八、〇八二	二〇四、七七九	一〇六、六二〇	九八、一五三	二〇四、七七三
新竹	二七、三六二	二四	七	二七、三九三	三一、二一一	一七八	三一、三八九	八八、六八一	八一、八五七	一七〇、五三八	八八、九三一	八二、一二六	一七一、〇五七
苗栗	二一、二七〇	一五	…	二一、二八五	二五、六九一	三七〇	二六、〇六一	七六、四一三	七〇、三六二	一四六、七七五	七六、九四三	七〇、六八二	一四七、六二五
臺中	三二、四二二	五四	四	三二、四八〇	三七、九五〇	一九〇	三八、一四〇	一一一、二一二	九六、一四三	二〇七、三五五	一一一、五六六	九六、二〇五	二〇七、七七一
彰化	四七、七五三	一三	三	四七、七六九	五二、八三七	三二	五二、八六九	一五一、六二九	一二九、七七〇	二八一、三九九	一五三、二四五	一二九、八四七	二八三、〇九二
南投	一一、八七六	三	…	一一、八七九	一三、四九一	三六六	一三、八五七	三八、八八〇	三二、九三九	七一、八一九	三八、〇五九	三二、九七五	七一、〇三四
斗六	三七、三八六	一四	三	三七、四〇三	四三、四七一	一八八	四三、六五九	一一五、〇六七	九九、九七〇	二一五、〇三七	一一五、〇一四	九九、九七九	二一四、九九三
嘉義	三五、五七二	二二	八	三五、六〇二	四一、二五八	四八	四一、三〇六	一〇五、九〇六	九二、九八二	一九八、八八八	一〇五、七七〇	九二、九六二	一九八、七三二
鹽水港	四五、六八二	一八	五	四五、七〇五	五五、二二二	二八	五五、二五〇	一四四、六〇五	一二六、八五九	二七一、四六四	一四四、九八二	一二六、八八九	二七一、八七一
臺南	三三、三五五	七八	三	三三、四三六	四一、四五二	一二九	四一、五八一	一〇二、六〇四	八九、七七五	一九二、三七九	一〇二、五五三	八九、八七七	一九二、四三〇
蕃薯寮	八、五九三	…	二	八、五九五	九、七五五	八	九、七六三	二四、八〇五	二三、七四九	四八、五五四	二四、八八六	二三、七六六	四八、六五二
鳳山	二九、一〇四	八六	二	二九、一九二	三六、九二六	七三	三六、九九九	九三、七〇九	八四、五九七	一七八、三〇六	九三、七四四	八四、六〇七	一七八、三五一

訂正

廳	住居數 住家	住居數 船舶	住居數 其ノ他	住居數 計	所帶數 本來所帶	所帶數 准所帶	所帶數 計	現在人口 男	現在人口 女	現在人口 計	常住人口 男	常住人口 女	常住人口 計
阿緱	二九、八八八	二七	四	二九、九一九	三一、四五一	四〇	三一、四九一	八三、〇三三	八〇、〇一四	一六三、〇四七	八三、〇二三	八〇、〇五九	一六三、〇八二
恒春	二、九七八	五	…	二、九八三	三、四〇七	九	三、四一六	一〇、〇六六	九、三八〇	一九、四四六	一〇、一二八	九、四二一	一九、五四九
臺東	九、〇七一	九	…	九、〇八〇	九、一九九	二八	九、二二七	二五、二六九	二三、九五四	四九、二二三	二五、四九五	二四、〇四〇	四九、五三五
澎湖	八、五二〇	五六	二	八、五七八	一一、三〇四	八八	一一、三九二	二七、四一五	二八、九一二	五六、三二七	二八、八六七	二八、九四二	五七、八〇九
總計	四六六、四八九	七七七	八七	四六七、三五三	五八二、三一一	二、八八四	五八五、一九五	一、六一〇、八一六	一、四二八、九三五	三、〇三九、七五一	一、六一六、三五六	一、四三一、一三五	三、〇四七、四九一

又誤謬脫落等不備件數ヲ訂正報告セシメタル遲速ハ檢査著手ノ早晩交通ノ便否訂正ノ多少ニ依リ同カラスト雖各廳ニ對スル最終ノ照會及其ノ回答ヲ表示スレハ左ノ如シ

廳	最終照會發送年月日	最終回答到達年月日
臺北	明治三十八年十二月八日	明治三十九年一月四日
基隆	同 十二月十八日	同 一月四日
宜蘭	同 十二月十八日	同 一月四日
深坑	同 十二月十四日	同 一月十五日
桃園	同 十二月十六日	同 一月十九日
新竹	同 十二月二十七日	同 一月六日
苗栗	同三十九年 一月二十五日	同 二月八日
臺中	同 二月一日	同 三月十八日
彰化	同 二月十六日	同 二月二十八日
南投	同 二月十日	同 三月十二日
斗六	同 二月十四日	同 二月二十八日
嘉義	同 二月十九日	同 三月一日
鹽水港	同 二月九日	同 三月二十四日
臺南	同三十八年 十二月二十三日	同 一月一日
蕃薯寮	同 十二月二十七日	同 一月九日
鳳山	同三十九年 二月一日	同 二月十九日
阿緱	同 一月二十七日	同 二月十五日
恒春	同三十八年 十二月十八日	同 一月四日
臺東	同 十二月二十日	同三十九年 一月二十七日
澎湖	同 十二月十三日	同 三月十日
其他ノ諸官衙	同三十九年 一月十二日	同 一月十五日

彰化地方委員長ノ報告

地方ニ於ケル整理事務卽チ所帶票及要計表作成ニ關スル一斑ヲ示サムカ爲彰化廳戶口調査委員長加藤尙志ノ報告ヲ左ニ揭ク

（イ）各調査員ノ所帶票記入數ハ一人一日平均三十枚乃至四十枚位ナリシモ中ニハ一人一日六十枚以上ノ記入ヲ爲シタルモノアリ而シテ後者ニ屬スルモノハ記入事項粗略ニ流レタル爲檢査ノ際數多書替ヲ爲サシムルノ必要ヲ生シ最終ニ至リテ他ヨリ却テ後レヲ取リタル有樣ナリシカ九日ニ至リ全部ノ記入整理ヲ見ルニ至レリ

（ロ）所帶票檢査ハ左ノ方法ニ依リタリ

一 第一回ハ各調査委員所帶票ヲ記入スルト同時ニ其ノ記入濟ニ係ルモノヲ各監督委員ニ於テ一々之ヲ檢閱シ一日（晝夜十三時間位）ニ百枚乃至百五十枚ヲ檢査シタリ

二 第二回ハ各監督補助委員ヲシテ之ヲ檢セシメ第三回ハ各調査員要計表ヲ調製後監督委員ニ於テ檢査シタリ而シテ第一回ノ監督委員檢査ハ殊ニ精密ニ檢査シ記入違等アレハ直ニ訂正ヲ命スル等嚴密ニ之ヲ行ハシメタリ

三 檢査中錯誤シタルモノノ重ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

（イ）所帶主ト家族ノ續柄ヲ誤リタルモノ
（ロ）第八欄（本業名）第九欄（本業ノ地位）ノ記入ニ於テ誤リタルモノ
（ハ）第三欄（種族）ト第七欄（緣事上ノ身分）ト往々活字ヲ以テ捺シタル爲轉倒シタルモノ
（ニ）以上ノ外所帶主不在ノ場合又ハ不勤文字ニ付活字ヲ以テ捺シタル箇所或ハ合計欄其ノ他ノ箇所ニ於テ往往脫漏又ハ誤記等アルヲ發見シタリ

地方部ニ於ケル所帶票及要計表ノ檢查手續ハ左記ノ如ク規定シタリ而シテ中央部ニ於ケル檢查モ亦此ノ手續ヲ準用セリ故ニ同一標準ニ依リテ少クモ二回ノ檢查ヲ爲シタルニ同シ

檢查手續

所帶票及要計表檢查手續（明治三十八年七月戶第八六號通達）

第一 所帶票檢查手續

一般ノ注意

監督委員又ハ監督補助委員ニ於テ所帶票ヲ檢查スルトキハ先ツ左記ノ注意ヲ爲スヘシ

一 記入ノ文字明確ナリヤ
二 略字又ハ「同」ノ字ヲ記入シタルモノナキヤ
三 記入ノ事項ナキ欄ニハ「一」ノ塡記アリヤ
四 成ルヘク主欄ニ依テ檢查スルヲ要ス然レトモ檢查ノ順序トシテ跡戾セサルヲ善シトスルカ故ニ主欄ノ檢查ハ前ノ關係欄ニ於テ檢查濟トナルコトアリ此ノ場合ニ於テハ交互二重ノ檢查ヲ爲スニ及ハス
五 各欄對照檢查ノ證トシテ當該事項ニ鉛筆（黑色ニ限ル）ヲ以テ「レ」ヲ附スヘシ
六 調查委員兼監督委員ノ調查シタル所帶票ハ監督補助委員ニ於テ之ヲ檢查スヘシ

欄內ノ檢查

現在者ノ部

第一欄 氏名

一 本欄ニハ「一」ヲ塡記スルコトナシ
二 本欄ハ第二欄第三欄第四欄第五欄及第六欄ト對照ヲ要ス
但シ歸化人又ハ混血兒ニ在リテハ第三欄對照ノ外尙第二十欄又ハ第二十一欄ヲ對照スヘシ
三 第二欄トノ對照
男子ノ名ニシテ第二欄ニ妻、長女等女性固有ノ續柄、女子ノ名ニシテ父、次男等男性固有ノ續柄ノ記入ナキヤ
四 第三欄トノ對照
婦人ノ名ヲ片假名ニテ記入シタルモノ第三欄ニ內トアリヤ
氏名ノ間ニ「氏」ノ字ヲ挿入シタルモノ第三欄ニ福、廣、漢、熟又ハ外（第二十一欄ニ清ト アルモノニ限ル）トアリヤ
氏名トモ片假名ヲ以テ記入シタルモノ第三欄ニ生又ハ外トアリヤ
但シ清國人又ハ韓國人ニシテ漢文字ヲ以テ記入シタルモノハ此ノ限リニアラス
五 第四欄及第五欄トノ對照
男子ノ名ニシテ第五欄ニ女、女子ノ名ニシテ第四欄ニ男ト記入ナキヤ
片假名ヲ以テ名ヲ記入シ又ハ氏名ノ間ニ「氏」ノ字ヲ挿入シタルモノ第五欄ニ女トアリヤ
六 第六欄トノ對照
「名ヲ附セス」トアルモノ出生後多クノ日數ヲ經過シタルモノナキヤ

第二欄 所帶主トノ續柄又ハ所帶主若ハ所帶トノ關係

一 本欄ニハ「一」ヲ塡記スルコトナシ
二 本欄ハ第一欄對照ノ外尙第四欄第五欄第六欄第七欄第八欄第二十欄第二十一欄第二十三欄

アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records

及不在者ノ欄竝欄外准所帶ノ種類及名稱、住家ノ有樣（所帶主ニ限ル）ト對照ヲ要ス

三　第四欄及第五欄トノ對照

本欄ニ父、兄、招夫等男性固有ノ續柄ヲ記入シタルモノ第四欄ニ男ト記入アリヤ

本欄ニ母、妻、妾等女性固有ノ續柄ヲ記入シタルモノ第五欄ニ女ト記入アリヤ

四　第六欄トノ對照

父ノ年、子ノ年ヨリ少ナク弟ノ年、兄ノ年ヨリ多キ等ノコトナキヤ

五　第七欄トノ對照

本欄ニ招夫、妻、妾、媳婦ト記入シタルモノ第七欄ニ配ト記入アリヤ

六　第八欄トノ對照

本欄ニ所帶主ト記入シタルモノ第八欄ニ職業名又ハ生計ノ途ノ記入アリヤ

來客、船客、旅客等ト記入シタルモノニシテ第八欄ニ家族、同居人、學生等トアルモノハ其ノ養フ者ノ職業名又ハ生計ノ途ノ附記アリヤ

七　第二十欄トノ對照

本欄ニ在ル內地人ニシテ所帶主又ハ父、母、妻、子等家族ノ續柄アルモノ第二十欄ニ記入ノ原籍地皆ナ同一ナリヤ

八　第二十一欄トノ對照

本欄ニ在ル外國人ニシテ所帶主又ハ父、母、妻、子等家族ノ續柄アルモノ第二十一欄ニ記入ノ國籍皆ナ同一ナリヤ

九　第二十三欄トノ對照

本欄ニ來客、旅客、船客等一時ノ現在者タルコトヲ表明スル關係ヲ記入シタルモノ第二十三欄ニ常住地ノ記入アリヤ

平常其ノ所帶ニ住居セサル主人及其ノ家族又ハ雇人等ニシテ支店別莊ノ類ニ一時宿泊セルモノニアリテハ本欄ニ所帶主又ハ所帶主トノ續柄若ハ關係ヲ記入シ第二十三欄ニ常住地ノ記入アリヤ

十　不在者欄トノ對照

本欄ニ所帶主トノ續柄又ハ關係ノ記入アリテ所帶主ノ記入ナキトキ不在者所帶主ノ欄ニ記入アリヤ

十一　欄外准所帶ノ種類及名稱トノ對照

本欄ニ所帶トノ關係（例之ハ旅客、船客、下宿人等）ヲ記入シタルトキハ准所帶ノ種類及名稱欄ニ記入アリヤ

十二　欄外住家ノ有樣トノ對照

本欄ニ所帶主ノ記入アリタルトキハ住家ノ有樣欄ニ記入アリヤ

第三欄　種族

一　本欄ニハ「一」ヲ塡記スルコトナシ

二　本欄ハ第一欄ト對照ノ外尙第十七欄第十八欄第十九欄第二十欄第二十一欄及第二十二欄ト對照ヲ要ス

但シ歸化人又ハ混血兒ニ在リテハ本欄ニ記入ノ種族別ニ拘ラス第二十欄第二十一欄ニ注意スヘシ

三　第十七欄トノ對照

本欄ニ內又ハ外（第二十一欄ニ淸ト アルモノヲ除ク）ト記入シタルモノ第十七欄ニ「阿」ト記入ナキヤ

四　第十八欄トノ對照

本欄ニ內又ハ外（第二十一欄ニ淸ト アルモノヲ除ク）ト記入シタルモノ第十八欄ニ「糸」又ハ「解」ト記入ナキヤ

アジア歴史資料センター

五　第十九欄トノ對照

本欄ニ內ト記入シタルモノ第十九欄ニ出生地ノ記入アリヤ

六　第二十欄トノ對照

本欄ニ內ト記入シタルモノ第二十欄ニ原籍ノ記入アリヤ

七　第二十一欄トノ對照

本欄ニ外ト記入シタルモノ第二十一欄ニ國籍ノ記入アリヤ

但シ歸化人又ハ混血兒ハ此ノ限リニアラス

八　第二十二欄トノ對照

本欄ニ內ト記入シタルモノ第二十二欄ニ渡臺ノ年ノ記入アリヤ

但シ第十九欄記入ノ出生地本島內ニ在リテ引續キ在住ノ者、領臺以前ノ渡臺者ニシテ引續キ在住ノ者及常住地本島外ニアル者卽チ旅行中ノ者ニハ渡臺ノ年ナシ

第四欄　男

一　本欄ニハ「男」ノ外記入スルコトナシ

二　本欄ハ第一欄第二欄ト對照ノ外尙第五欄第七欄第八欄第九欄第十欄第十一欄及第十八欄ト對照ヲ要ス

三　第五欄トノ對照

本欄ニ文字ノ記入アリタルトキ第五欄ニ「Ⅰ」ノ塡記アリヤ

四　第七欄トノ對照

本欄ニ記入シタルモノ第七欄ニ寡トナキヤ

五　第八欄第九欄第十欄及第十一欄トノ對照

本欄ニ記入シタルモノ第八欄第九欄第十欄及第十一欄ニ產婆、下女等女性特有ノ職業名又ハ

地位ノ記入ナキヤ

六　第十八欄トノ對照

本欄ニ記入シタルモノ第十八欄ニ「糸」又ハ「解」トノ記入ナキヤ

第五欄　女

一　本欄ニハ「女」ノ外記入スルコトナシ

二　本欄ハ第一欄第二欄ト對照ノ外尙第四欄第七欄第八欄第九欄第十欄及第十一欄ト對照ヲ要ス

三　第四欄トノ對照

本欄ニ文字ノ記入アリタルトキハ第四欄ニ「Ⅰ」ノ塡記アリヤ

四　第七欄トノ對照

本欄ニ記入シタルモノ第七欄ニ鰥トナキヤ

五　第八欄第九欄第十欄及第十一欄トノ對照

本欄ニ記入シタルモノ第八欄第九欄第十欄及第十一欄ニ下男、作男等男性特有ノ職業名又ハ地位ノ記入ナキヤ

第六欄　出生ノ年月日

一　本欄ニハ「Ⅰ」ヲ塡記スルコトナシ

二　年號月日ヲ記入シタルモノ其ノ年號ニ相違ナキヤ（例之ハ天保十五年、安政七年、元治二年ト云フカ如キモノナキヤ）（年齡表參照）

三　年齡ノ上ニ十二支ヲ冠シタルモノ其ノ十二支ト年齡ト符合スルヤ（年齡表參照）

四　本欄ハ第一欄第二欄ト對照ノ外尙第七欄第八欄第九欄第十欄第十一欄第十二欄第十四欄第十七欄第二十一欄及第二十二欄ト對照ヲ要ス

五　第七欄トノ對照

年少者ニシテ第七欄ニ配、孀又ハ寡等ト記入ナキヤ

六　第八欄第九欄第十欄及第十一欄トノ對照

年少者ニシテ第八欄第九欄第十欄第十一欄ニ相當ノ年齡、勞力ヲ要スル職業名又ハ地位ノ記入ナキヤ

七　第十二欄トノ對照

發音時期ニ達セサルモノニシテ第十二欄ニ記入ノ常用語母ノ常用語ト相違ナキヤ

八　第十四欄トノ對照

相當年齡ニ達セサルモノニシテ第十四欄ニ「讀、書」「讀」又ハ「書」ト記入ナキヤ

九　第十七欄トノ對照

阿片烟吸食特許年齡(二十歲)ニ達セサルモノニシテ第十七欄ニ「阿」ト記入ナキヤ

十　第二十一欄トノ對照

外國ノ年號月日ヲ記入シタルモノ第二十一欄ニ國籍ノ記入アリヤ

十一　第二十二欄トノ對照

出生ノ年月日ニシテ第二十二欄ニ記入セル渡臺ノ年ヨリ遲キモノナキヤ

第七欄　緣事上ノ身分

一　本欄ニハ「一」ヲ塡記スルコトナシ

二　本欄ハ第二欄第四欄第五欄第六欄ト對照ノ外尙第十八欄ト對照ヲ要ス

三　第十八欄トノ對照

本欄ニ孀ト記入シタルモノ第十八欄(本島人、清國人ニ限ル)ニ「糸」又ハ「解」ト記入ナキヤ

第八欄　本業ノ業名

一　本欄ニ記入ノ職業名ハ其ノ實ヲ代表スルニ足ル小分類以下ノ適切ナル稱呼ナルヤ(例之ハ漢然商業、工業、雜業等ト記入ナキヤ)

二　本欄ハ第二欄第四欄第五欄第六欄ト對照ノ外尙第九欄第十欄第十四欄及第十七欄ト對照ヲ要ス

三　第九欄トノ對照

在職文武官、准官吏及本業ナキ者ノ外本欄ニ記入シタル職業名ニ對スル地位ヲ第九欄ニ記入アリヤ

四　第十欄トノ對照

本欄ニ在職文武官、准官吏及本業ナキ者トシテ記入シタルモノ第十欄ニ副業名ノ記入ナキヤ

五　第十四欄トノ對照

本欄ニ記入シタル職業名ニシテ官吏、准官吏、學生其ノ他相當ノ讀ミ書キノ力ヲ要スルモノナルトキ第十四欄ニ「一」ノ塡記ナキヤ

六　第十七欄トノ對照

本欄ニ記入シタル官職名(例之ハ巡查補ノ如キ阿片煙吸食ヲ許サレサルモノ)ニシテ第十七欄ニ「阿」ト記入ナキヤ

第九欄　本業ニ對スル地位

一　本欄ニハ第八欄ニ記入シタル職業名ニ對スル地位ノ外記入スルコトナシ

二　本欄記入ノ地位ハ其ノ職業主ナルカ役員ナルカ勞働者ナルカ卽チ職業ノ主宰者ナルカ同シク雇人ニテモ人ヲ使フ雇人ナルカ人ニ使ハルル雇人ナルカ等ヲ表明スルニ足ル適切ノ稱呼ナルヤ

三　本欄ハ第二欄第四欄第五欄第六欄第八欄ト對照ノ外尙第十四欄ト對照ヲ要ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

四　第十四欄トノ對照

本欄ニ記入シタル地位ニシテ相當ノ讀ミ書キノ力ヲ要スヘキモノナルトキ第十四欄ニ「一」ノ填記ナキヤ

第十欄　副業ノ業名

一　本欄ニハ第八欄ニ職業名第九欄ニ其ノ地位ヲ記入シタルモノノ外記入スルコトナシ

二　本欄記入ノ職業名ハ其ノ實ヲ代表スルニ足ル小分類以下ノ適切ナル稱呼ナルヤ（例之ハ漠然商業、工業、雜業等ト記入ナキヤ）

三　本欄ハ第四欄第五欄第六欄第八欄第九欄ト對照ノ外尚第十一欄第十四欄ト對照ヲ要ス

四　第十一欄トノ對照

本欄ニ副業名ヲ記入シタルトキハ其ノ副業名ニ對スル地位ヲ第十一欄ニ記入アリヤ

五　第十四欄トノ對照

本欄ニ記入シタル職業名ニシテ相當ノ讀ミ書キノ力ヲ要スヘキモノナルトキ第十四欄ニ「一」ノ填記ナキヤ

第十一欄　副業ニ對スル地位

一　第十欄ニ記入シタルモノニシテ本欄ニ「一」ヲ填記スルコトナシ

二　本欄記入ノ地位ハ其ノ職業主ナルカ役員ナルカ勞働者ナルカ卽チ職業ノ主宰者ナルカ同シク雇人ニテモ人ヲ使フ雇人ナルカ、人ニ使ハルル雇人ナルカ等ヲ表明スルニ足ル適切ノ稱呼ナルヤ

三　本欄ハ第四欄第五欄第六欄第十欄ト對照ノ外尚第十四欄トノ對照ヲ要ス

四　第十四欄トノ對照

本欄ニ記入シタル地位ニシテ相當ノ讀ミ書キノ力ヲ要スヘキモノナルトキ第十四欄ニ「一」ノ填記ナキヤ

第十二欄　常用語

一　本欄ニハ第十五欄ニ聾啞トアルモノニアラサレハ「一」ヲ填記スルコトナシ

二　本欄記入ノ常用語ハ唯一種ニ限ル

三　本欄ハ第六欄ト對照ノ外尚第十五欄トノ對照ヲ要ス

四　第十五欄トノ對照

本欄ニ常用語ヲ記入シタルモノ第十五欄ニ聾啞ト記入ナキヤ

但シ聾ニシテ啞ニ至ラサルモノヲ除ク

第十三欄　常用以外ノ語

一　常用語以外ニ二以上ノ語ヲ話スモノアルトキハ本欄ニ二種以上ノ語ヲ記入スルヲ要ス

二　本欄ニハ第十二欄ニ記入シタルモノニアラサレハ記入スルコトナシ

三　本欄ハ第六欄及第十二欄ト對照ヲ要ス

四　第六欄トノ對照

發音時期ニ逢セサル幼者ニシテ本欄ニ何等カノ記入ナキヤ

五　第十二欄トノ對照

第十二欄ニ「一」ヲ填記シタルニ拘ハラス本欄ニ何等カノ記入ナキヤ

第十四欄　讀ミ書キノ程度

一　本欄ハ第六欄第八欄第九欄第十欄第十一欄ト對照ノ外尚第十五欄ト對照ヲ要ス

二　第十五欄トノ對照

本欄ニ讀、書ト記入シタルモノ第十五欄ニ「盲及白痴」等ト記入スルノ類ナキヤ

第十五欄　不具ノ種類

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

一　本欄ニハ聾啞、盲、白痴、瘋癲ノ外記入スルコトナシ
二　本欄ハ第十二欄第十四欄ト對照ノ外尙第八欄第九欄及第十六欄ト對照ヲ要ス
三　第八欄及第九欄トノ對照
本欄ニ記入シタル不具者ノ從事シ能ハサル職業名ヲ第八欄又ハ第九欄ニ記入ナキヤ
四　第十六欄トノ對照
本欄ニ記入シタルモノ第十六欄ニ不具ノ原因ノ記入アリヤ

第十六欄　不具ノ原因
一　本欄ニハ生、疾又ハ傷ト記入アリヤ
二　本欄ハ第十五欄ト對照ヲ要ス
三　第十五欄トノ對照
第十五欄ニ記入シタル二種以上ノ不具ニ對シテハ各別ニ其ノ原因ノ記入アリヤ

第十七欄　阿片煙吸食者
一　本欄ハ第三欄第六欄第八欄ト對照ノ外尙第二十一欄ト對照ヲ要ス
但シ歸化人、混血兒ニ在リテハ尙第二十欄ト對照ヲ要ス
二　第二十一欄トノ對照
本欄ニ「阿」ト記入シタルモノ第二十一欄ニ清トアリヤ

第十八欄　纏足
一　本欄ハ第三欄第四欄第七欄ト對照ノ外尙第五欄第二十欄及第二十一欄ト對照ヲ要ス
二　第五欄トノ對照
本欄ニ「糸」又ハ「解」ト記入シタルモノ第五欄ニ女ト記入アリヤ
三　第二十欄トノ對照

本欄ニ「糸」又ハ「解」ト記入シタルモノ第二十欄ニ原籍ノ記入ナキヤ
四　第二十一欄トノ對照
本欄ニ「糸」又ハ「解」ト記入シタルモノ第二十一欄ニ清國以外ノ國籍ノ記入ナキヤ

第十九欄　出生地
一　本欄ハ第三欄ト對照ノ外尙第二十欄及第二十二欄ト對照ヲ要ス
二　第二十欄トノ對照
本欄ニ出生地ヲ記入シタルモノ第二十欄ニ原籍ノ記入アリヤ
三　第二十二欄トノ對照
本欄ニ出生地ヲ記入シタルモノ第二十二欄ニ渡臺ノ年ノ記入アリヤ
但シ出生地本島內ニ在リテ引續キ在住ノ者、領臺前ノ渡臺者ニシテ引續キ在住ノ者及常住地本島外ニアル者卽チ旅行中ノ者ニハ渡臺ノ年ナシ

第二十欄　原籍
一　本欄ハ第一欄第二欄第三欄第十七欄第十八欄第十九欄ト對照ノ外尙第二十一欄及第二十二欄ト對照ヲ要ス
二　第二十一欄トノ對照
本欄ニ記入シタルモノ第二十一欄ニ「|」ノ塡記アリヤ
三　第二十二欄トノ對照
本欄ニ記入シタルモノ第二十二欄ニ渡臺ノ年ノ記入アリヤ
但シ第十九欄ニ記入シタル出生地本島內ニ在リテ引續キ在住ノ者、領臺前ノ渡臺者ニシテ引續キ在住ノモノ及常住地本島外ニアル者卽チ旅行中ノ者ニハ渡臺ノ年ナシ

第二十一欄　國籍

一　本欄ハ第二欄第三欄第六欄第十七欄第十八欄第二十欄ト對照ノ外尚第二十二欄ト對照ヲ要ス

二　第二十二欄トノ對照

本欄ニ記入シタルモノ第二十二欄ニ「一」ノ塡記アリヤ

第二十二欄　渡塞ノ年

一　本欄ニ明治二十八年以前ノ年號記入ナキヤ

二　本欄ハ第三欄第六欄第十九欄第二十欄第二十一欄ト對照ノ外尚第二十三欄ト對照ヲ要ス

三　第二十三欄トノ對照

本欄ニ渡塞ノ年ヲ記入シタルモノ第二十三欄ノ常住地本島外ニ在ルモノナキヤ

第二十三欄　常住地

一　本欄ハ第二欄及第二十二欄ト對照ヲ要ス

二　常住者ノ現在者ニシテ本欄ニ常住地ノ記入ナキヤ

男女合計

一　本欄ハ各所帶票每ニ記入アリヤ

二　第四欄ニ記シタル男ノ字ノ數ト合計男ノ欄ノ數ト符合スルヤ

三　第五欄ニ記シタル女ノ字ノ數ト合計女ノ欄ノ數ト符合スルヤ

四　男女ヲ合シタル數ハ順番號最終ノ數ト符合スルヤ

男女總計

一　本欄ハ一所帶ニ所帶票二枚以上ヲ使用シタル場合ニ於テ最終ノ所帶票ノミニ記入シ其ノ他ノ所帶票ニハ「一」ノ塡記アリヤ（欄外所帶票番號ノ欄括弧內ノ枚數及括弧ノ下對照）

二　本欄男總計ノ數ハ所帶票番號同一ノ所帶票合計男ノ欄ノ數ヲ合シタルモノト符合スルヤ

三　本欄女總計ノ數ハ所帶票番號同一ノ所帶票合計女ノ欄ノ數ヲ合シタルモノト符合スルヤ

四　男女ヲ合シタル總數ハ最終ノ所帶票順番號ノ終リノ數ニ其ノ他ノ所帶票ノ枚數ニ二十ヲ乘シタル數ヲ加ヘタルモノト符合スルヤ

常住地ノ男女合計

一　男合計ノ數ハ第二十三欄ニ常住地ヲ記入シタル第四欄ノ男ノ數ト符合スルヤ

二　女合計ノ數ハ第二十三欄ニ常住地ヲ記入シタル第五欄ノ女ノ數ト符合スルヤ

三　男女ヲ合シタル數ハ第二十三欄ニ常住地ヲ記入シタル數ト符合スルヤ

常住地ノ男女總計

一　本欄ハ一所帶ニ所帶票二枚以上ヲ使用シタル場合ニ於テ最終ノ所帶票ノミニ記入シ其ノ他ノ所帶票ニハ「一」ノ塡記アリヤ（欄外所帶票番號ノ欄括弧內ノ枚數及括弧ノ下對照）

二　本欄男總計ノ數ハ所帶票番號同一ノ所帶票第二十三欄合計男ノ數ヲ合シタルモノト符合スルヤ

三　本欄女總計ノ數ハ所帶票番號同一ノ所帶票第二十三欄合計女ノ欄ノ數ヲ合シタルモノト符合スルヤ

四　男女ヲ合シタル總數ハ所帶票同一番號ノ所帶票第二十三欄ニ常住地ヲ記入シタル數ト符合スルヤ

不在者ノ部

一　現在者ト對照シ同一氏名ノ者ナキヤ

二　男子ノ氏名ニシテ女ト記入ナキヤ

三　片假名ヲ以テ名ヲ記入シ又ハ氏名ノ間ニ「氏」ノ字ヲ挿入シタルモノ男ト記入ナキヤ

四　合計男ノ數ハ男ノ欄ニ記入シタル數ト符合スルヤ

五　合計女ノ數ハ女ノ欄ニ記入シタル數ト符合スルヤ

六　男女ヲ合シタル總數ハ順番號ノ最終ノ數ト符合スルヤ

七　第二欄ニ所帶主トノ續柄又ハ關係ヲ記入シ所帶主ノ記入ナキトキ更ニ不在所帶主ノ欄ニ氏名、職業名又ハ生計ノ途及職業ニ對スル地位ノ記入アリヤ（職業名又ハ生計ノ途及職業ニ對スル地位ノ檢査ハ第八欄第九欄第十欄第十一欄參照）

八　支店、別莊ノ類ニ在リテハ不在所帶主ノ欄ノミニ其ノ主人ノ氏名、職業名又ハ生計ノ途及職業ニ對スル地位ノ記入アリヤ

九　不在所帶主ノ欄ニ記入シタルトキハ欄外住家ノ有樣ノ欄ニ記入アリヤ

欄外ノ檢査

一　調査區畫

總名、監督區番號及調査區番號ノ欄ニハ「一」ヲ塡記スルコトナシ

調査區番號ハ各監督區每ニ第一番ヨリ之ヲ起シ缺番號又ハ重複番號アルコトナシ

二　所帶所在地

本欄ニハ堡、里（臺南、蕃薯寮、阿緱、恒春ノ四廳ニ限ル）鄕（臺東廳ニ限ル）澳（澎湖廳ニ限ル）街、庄、社名、土名、町（澎湖廳ニ限ル）丁目等ノ記入適當ナリヤ

本欄ニ社名又ハ土名ノミヲ記入セルハ番地ニ屬スルモノナリヤ

本欄ニ港灣名又ハ河川地先ノ總括名稱ヲ記シタルモノニ在リテハ住家番號ノ欄ニ「船何丸」（名稱ナキトキハ「船」何某所有）等ト記入アリヤ

住家番號ノ欄ニハ「一」ヲ塡記スルコトナシ

住家番號括弧內ニ所帶數ヲ記入シタルトキハ括弧ノ下ニ「ノ一」ト記入アリヤ

括弧內ノ所帶數ハ住家番號欄ニ記入シタル同一番號又ハ同一名稱ノ船ノ括弧ノ下ニ記入シタル最終ノ番號ト符合スルヤ

所帶票番號ノ欄ニハ番號ノ記入アリヤ

所帶票番號括弧內ニ枚數ヲ記入シアルトキハ括弧ノ下ニ「ノ一」ト記入アリヤ

括弧內ノ所帶數ハ所帶票番號欄ニ記入シタル同一番號ノ括弧ノ下ニ記入シタル最終ノ番號ト符合スルヤ

三　准所帶ノ種類及名稱

本欄ニ種類及名稱ヲ記入シタルモノニシテ欄內第二欄ニ所帶主又ハ所帶主トノ續柄若ハ關係ノ記入ナキヤ

本欄ニ記入シタルモノ船舶ナルトキハ所帶所在地ノ欄ニ港灣名又ハ河川地先ノ總括名稱及住家番號ノ欄ニ「船何丸」等ノ記入アリヤ

本欄ニ記入シタルモノニシテ住家ノ有樣ノ記入ナキヤ

四　住家ノ有樣

本欄ニ記入シタルモノノ欄內現在者又ハ不在者ノ欄ニ所帶主トシテノ記入アリヤ

本欄ニ記入シタルモノノ所帶所在地ノ欄ニ地名及住家番號ノ欄ニ番號ノ記入アリヤ

本欄ニ記入シタルモノニシテ住家ノ有樣ノ記入ナキヤ

五　署名

調査委員官職氏名ノ下ニハ所帶票每ニ官職氏名ノ記入アリヤ

六　日附

明治三十八年十月ノ下ニ所帶票每ニ日附ノ記入アリヤ

第二　調査委員要計表檢査手續

一般ノ注意

監督委員又ハ監督補助委員ハ要計表ノ檢査ヲ爲スニ當リ先ツ左ノ注意ヲ要ス

一　各欄ノ調査ニ著手スル前所帶票ヲ一調査區毎ニ所帶票欄外所帶所在地欄ニ記入シタル街、庄社名別ニ依リ之ヲ纒メ本表欄內第一欄記入ノ堡、里、街、庄、社名ト突合シタル後街、庄、社名毎ニ各欄ノ檢査ヲ爲スヘシ

但シ河川港灣ニシテ別ニ調査區ヲ設ケラレタルモノハ街、庄、社別ノ例ニ依ル

二　本表ハ一調査區毎ニ一枚ヲ調製セシヤ

三　記入ノ文字明確ナリヤ

四　記入計數ノ不分明ナルモノ卽チ「一　二　〇」ヲ「三　〇」ト「一　一　〇」ヲ「二　〇」ト「二　一　〇」ヲ「三　〇」ト等ノ如キ疑ハシキモノナキヤ

五　記入計數ナキ欄ニハ「―」ノ塡記アリヤ

六　各欄檢査ノ證トシテ當該欄ニ鉛筆（黑色ニ限ル）ヲ以テ「レ」ヲ附スヘシ

欄內ノ檢査

第一欄　堡里街庄社名

一　本欄記入ノ街庄社名一街、庄、社ノ一部ナルトキハ「何堡何街ノ內」等ト記入アリヤ

二　本欄ニ港灣名又ハ河川地先名ヲ記入シタルモノハ第二欄及第四欄ニ「―」ノ塡記アリヤ

第二欄　住家數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外住家番號欄ニ番號ヲ記入シタル家ノ數ト符合スルヤ

但シ全家不在者ノ住家アルトキハ其ノ數ヲ除ク

第三欄　船舶數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外住家番號欄ニ記入シタル船舶ノ數ト符合スルヤ

第四欄　其ノ他ノ住居數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外住家番號欄ニ番號又ハ船舶ト記入シタルモノヲ除キタルモノノ數ニ符合スルヤ

第五欄　本來ノ所帶數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外所帶票番號欄ニ番號ヲ記入シタル所帶ノ數ヨリ所帶票欄外ニ准所帶ノ種類及名稱ノ記入アルモノヲ除キタルモノノ數ト符合スルヤ

但シ全所帶不在者ノ所帶アルトキハ其ノ數ヲ除ク

第六欄　准所帶ノ數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外ニ准所帶ノ種類及名稱ノ記入アルモノノ數ト符合スルヤ

但シ全所帶不在者ノ准所帶アルトキハ其ノ數ヲ除ク

第七欄　本來ノ所帶ニ在ル常住者ニシテ現在スル男ノ數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ本表第五欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票ノ欄內男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヨリ一時現在者卽チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヲ減シタルモノヲ合シタル數ト符合スルヤ

第八欄　本來ノ所帶ニ在ル常住者ニシテ現在スル女ノ數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ本表第五欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票ノ欄內男女合計若ハ男女總計ノ女ノ數ヨリ一時現在者卽チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ女ノ數ヲ減シタルモノヲ合シタル數ト符合スルヤ

第九欄　本來ノ所帶ニ在ル常住者ニアラスシテ現在スル男ノ數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ本表第五欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票一時現在者卽チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ

第十欄　本來ノ所帶ニ在ル常住者ニアラスシテ現在スル女ノ數

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

一　本欄ニ記入シタル員數ハ本表第五欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票一時現在者卽チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ女ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ

第十一欄　本來ノ所帶ニ在ル不在者男ノ數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外ニ准所帶ノ種類及名稱ノ記入ナキ各所帶票ノ不在者合計ノ男ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ

第十二欄　本來ノ所帶ニ在ル不在者女ノ數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外ニ准所帶ノ種類及名稱ノ記入ナキ各所帶票ノ不在者合計ノ女ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ

第十三欄　准所帶ニ在ル常住者ニシテ現在スル男ノ數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ本表第六欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票ノ欄內男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヨリ一時現在者卽チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヲ減シタルモノヲ合シタル數ト符合スルヤ

第十四欄　准所帶ニ在ル常住者ニシテ現在スル女ノ數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ本表第六欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票ノ欄內男女合計若ハ男女總計ノ女ノ數ヨリ一時現在者卽チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ女ノ數ヲ減シタルモノヲ合シタル數ト符合スルヤ

第十五欄　准所帶ニ在ル常住者ニアラスシテ現在スル男ノ數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ本表第六欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票一時現在者卽チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ男ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ

第十六欄　准所帶ニ在ル常住者ニアラスシテ現在スル女ノ數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ本表第六欄ニ記入シタル所帶ノ各所帶票一時現在者卽チ常住地男女合計若ハ男女總計ノ女ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ

第十七欄　准所帶ニ在ル不在者ノ男ノ數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外ニ准所帶ノ種類及名稱ノ記入アル各所帶票ノ不在者合計ノ男ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ

第十八欄　准所帶ニ在ル不在者女ノ數

一　本欄ニ記入シタル員數ハ所帶票欄外ニ准所帶ノ種類及名稱ノ記入アル各所帶票ノ不在者合計ノ女ノ數ヲ合シタル數ト符合スルヤ

合計

一　合計各欄ノ員數ハ其ノ內譯ノ員數ヲ集算シタルモノト符合スルヤ

欄外ノ檢査

一　調査區畫

總名、監督區番號、調査區番號ハ所帶票欄外記入ノ總名、監督區番號、調査區番號ト符合スルヤ

二　實地調査時間數

開始ノ日ハ一日トアリヤ

但シ天災事變等ノ爲メ調査ヲ延期シタルトキハ其ノ調査ニ着手シタル日ノ記入アリヤ

終了ノ日ハ遲クモ三日トアリヤ

但シ天災事變等ノ爲メ調査ヲ延期シタルトキハ其ノ終了ノ日ノ記入アリヤ

實地調査ニ要シタル時間數ノ記入アリヤ

三　所帶票整理時間數

開始ノ日ハ實地調査終了ノ日又ハ翌日ト同一ナリヤ

終了ノ日ハ實地調査終了ノ日ヨリ七日以上ヲ經過セサルヤ

所帶票整理ニ要シタル時間數ノ記入アリヤ又其ノ記入ノ時間數ハ適實ナリヤ

四　署名

調査委員官職氏名ノ下ニハ調査委員トシテ調査ニ從事シタル者ノ官職氏名ノ記入アリヤ

五　日附

明治三十八年十月ノ下ニ記入ノ日附ハ實地調査終了ノ日ヨリ七日以上ヲ經過セサルヤ

要旨

所帶票ノ檢査

各廳別成績

第五章　檢査及製表

第一節　檢査

所帶票及要計表ノ各監督委員ヨリ戸口調査委員長ヲ經由シテ本部ニ集中スルヤ可及的迅速ニ且精細ノ檢査ヲ爲シ時機ヲ逸セスシテ之ヲ訂正セシムルノ必要アリ而シテ之ニ要スル檢査員ハ統計ノ素要アルモノナラサルヘカラス少クトモ臨時戸口調査殊ニ所帶票及要計表所定ノ事項ヲ能ク理解シタルモノナラサルヘカラス故ニ其ノ人選ニ難キニモ拘ラス從來任用セシ舊共立統計學校ノ卒業者東京統計講習會ノ修業者又ハ新ニ採用セシ地方廳ニ在リテ委員長ヲ補佐シタル臺灣總督府統計講習會ノ修業者等ヲ以テ其ノ任ニ當ラシメタリ而モ尙必要ノ數ヲ滿スコト能ハス依リテ中途ヨリ夜ヲ以テ日ニ繼キ其ノ檢査ニ從事セシメタリ卽チ所帶票ノ檢査ハ明治三十八年十月二十日ヨリ同三十九年一月二十九日マテ百二日間(内十二月一日以後ハ毎夜午後九時マテ執務セリ)ニ於テ完了スルヲ得タル所以ナリ其ノ結果左ノ如シ

所帶票檢査成績

廳	從事延人員	所帶數	不備件數	所帶數百ニ對スル不備件數
臺北	二〇八	五五、六七四	八、〇七三	一四・五〇
基隆	三九	二二、九一五	七、一五四	一三・二一
宜蘭	五一	二〇、八五二	二、六〇九	一二・五一

廳別	從事延人員	所帶數	不備件數	所帶數百ニ對スル不備件數
深坑	二八	八,九〇三	一,八〇四	二〇・二六
桃園	五二	三二,〇一四	二,七七一	八・六六
新竹	二九	三一,四二六	七,五五九	二四・〇五
苗栗	三七	二六,一〇三	三,五三五	一三・五四
臺中	五三	三八,一二八	五,五九五	一四・六七
彰化	三九	五二,八六八	二,一一一	三・九九
南投	二二	一三,八七九	五,八六六	四二・二六
斗六	四三	四三,六三五	二,三七六	五・四五
嘉義	二七	四一,二七三	四,四〇〇	一〇・六六
鹽水港	五二	五三,二六五	六,〇七七	一一・四一
臺南	三九	四一,五〇四	四,〇〇〇	九・六四
蕃薯寮	八	九,七六三	五七五	五・八九
鳳山	二八	三六,九九五	二,四二三	六・五五
阿緱	二三	三一,五三三	一,一四五	三・六三
恒春	四	三,四一五	五二八	一五・四六
臺東	一八	九,二六三	一,〇四四	一一・二七
澎湖	二五	一一,一九六	一,五五一	一三・八五
其ノ他	一	八三六	七八	九・三三
合計	八二六	五八五,四四〇	七一,二七四	一二・一七

此ノ表ヲ一見セハ檢查ニ依リテ不備事項ノ如何ニ訂正セラレタルカヲ知ルニ足ラム

所帶票檢查旬報

旬別		就業日數	從事延人員	檢查濟所帶數	一日一人平均
第一旬	從三十八年十月二十日 至同十月三十一日	九	五〇	六,八二八	一三六・五六
第二旬	從同十一月一日 至同十一月十日	八	六九	一五,一八八	二二〇・一一
第三旬	從同十一月十一日 至同十一月二十日	七	七〇	二〇,一七八	二八八・二六
第四旬	從同十一月二十一日 至同十一月三十日	八	八七	三〇,九六一	三五五・五六
第五旬	從同十二月一日 至同十二月十日	九	一〇三	六四,八二七	六三五・五八
第六旬	從同十二月十一日 至同十二月二十日	一〇	一二九	一二三,六八一	九五八・七七
第七旬	從同十二月二十一日 至同十二月二十七日	七	九三	七三,五四五	七九〇・八〇
第八旬	從三十九年一月六日 至同一月十日	五	五七	五三,〇二四	九三〇・二五
第九旬	從同一月十一日 至同一月二十日	一〇	一〇七	一二〇,一一〇	一,一二二・五二
第十旬	從同一月二十一日 至同一月二十九日	七	六一	七七,〇九八	一,二六三・九〇
計		八〇	八二六	五八五,四四〇	七〇八・七七

此ノ表ヲ一見セハ最初ノ一旬ニ在リテハ一日一人ノ平均檢查數ハ僅ニ百三十七所帶ニ過キサリシモ漸次累加シテ最終ノ一旬ニハ千二百六十四所帶ヲ算スルニ至レリ蓋シ分業的熟練ノ效ト勤務時間ヲ延長セシ結果ニ起因スルモノトス

又要計表ノ檢查ハ明治三十八年十二月四日ヨリ同三十九年一月十一日マテ一人同年一月十二日ヨリ三月二十九日マテ二人ヲ以テ從事セシメ之ヲ了セリ

單名票形式

第二節 製表

第一 小票作成

所帶票ノ檢査既ニ終リタル以上ハ第一回戸口調査ノ結果ヲ製表スルノ第一著手トシテ目錄式ノ所帶票ヨリ計牌式ノ單名票ヲ作成セサルヘカラス今回臨時臺灣戸口調査部ニ於テ使用シタル單名票ノ形式ハ左ノ如シ

單名票

氏名順號	…………	常用語	……
種族	……	常用以外ノ語	…… …… ……
男女ノ別	……	讀ミ書キノ程度	…… ……
出生ノ年月日	……年……月……日（出生年月日不詳ナレハ）……歳		
續柄上ノ身分	……	不具 種類	…… …… ……
有業者 無業家族 家事雇人	……	不具 原因	…… …… ……
本業名	……	（注意）無業家族 家事雇人 ナレハ所帶主ノ	
本業ノ地位	……		
副業名（內職）	……	阿片煙吸食者	……
副業ノ地位		纏足者 解纏足者	……
廳番號		出生地	…… …
監督區番號		原籍	…………
調査區番號		國籍	…………
堡里番號		渡臺ノ年 初	……年
街庄社番號		渡臺ノ年 終	……年
所帶票番號	……	常住地	…… ……

（原紙ノ文字及線ハ代赭）

（實物大）

作成

單名票ノ作成ハ單ニ單名票ノ謄寫ヲ以テ終ルモノニアラス先ツ所帶票記入ノ職業及地位ニ對シ相當符號ヲ記入セシメ然ル後始テ寫字生ヲシテ所帶票ヨリ既定ノ符號ヲ單名票用紙ニ記入セシメ次ニ校正員ヲシテ之ヲ原票ニ照查セシムルヲ以テ終ト爲ス然レトモ尚萬一ノ誤謬ヲ避ケムカ爲更ニ他ノ檢查員ヲシテ關係事項例之ハ職業ト地位ノ關係、纒足者ト體性ノ關係、聾啞ト用語ノ關係、內地人ト原籍若ハ渡臺ノ關係又ハ外國人ト國籍ノ關係等相互關係ノ果シテ適實ナルヤ否、絕對的ニ有得ヘカラサル事項ノ記入ナキヤ否ヲ對觀檢查セシメ然ル後始テ之ヲ集計セシムルノ順序トシ明治三十九年二月五日著手同年十一月十六日完了セリ其ノ

成績

成績左ノ如シ

單名票作成成績

種別	著手月日	結了月日	期間	最多時人員 一日	最多時人員 半日	延人員 一日	延人員 半日	備考
準備	二月五日	二月八日	四日	九人	……人	三六人	……人	午前九時ヨリ午後十時マテ執務
所帶票職業及地位符號打	二月九日	四月十六日	六七	八	……	四四七	……	〃
單名票謄寫	二月十九日	四月十九日	六〇	三二	二一	一,五三九	一,一二〇	午前七時ヨリ午後十時マテ執務
單名票校合	二月十九日	四月二十二日	六三	二〇	七	四二七	四一五	午前九時ヨリ午後十時マテ執務
單名票スタンプ押	二月二十日	五月八日	七八	四	……	一九五	……	四月二十二日迄ハ午前九時ヨリ午後十時迄、同二十三日以後三十日マテハ午前九時ヨリ午後四時マテ五月一日以後ハ午前八時ヨリ午後四時マテトス
單名票檢查	六月十日	十一月十六日	一六〇	八	……	五八六	……	

「スタンプ」押トハ單名票ニ在ル廳番號ヨリ街庄社番號ニ至ル番號ヲ同時ニ押字器ヲ以テ押捺スルヲ謂フ是レ寫字ヲ省クノ便法ナリ

所帶單位票

單名票ハ其ノ名ノ自明スルカ如ク個人ヲ單位トシテ觀察スルノ用ニ供スルモノナリ然ルニ今次ノ戶口調查ニハ所帶其ノモノヲ單位トシテ觀察スヘキモノ少カラス例之ハ住居數、住家ノ有樣、所帶數、所帶ノ種類、所帶人員、所帶構成別、所帶主ノ職業及地位ノ如キ是ナリ是等ニ對シテハ更ニ所帶單位票ヲ作成スルノ必要アリ而シテ臨時臺灣戶口調查部ニ於テ使用シタル所帶單位票ノ形式ハ左ノ如シ

形式

所帶單位票

住家番號（其他ハ種類）	....
所帶票番號	....
一住居中ノ所帶數	....（..........）
一所帶中ノ住居數	......
住家ノ有樣	....地....家
所帶主ノ種族	......
所帶主ノ本業名	....
所帶主ノ本業地位	......
所帶ノ種類	....

廳番號		所帶構成別	1 所帶主
監督區番號			2 家族
調査區番號			3 家事上ノ雇人
保里番號			4 職業上ノ雇人
街庄社番號			5 同居人
			6 來客

現在者		
總數	男	女

（原紙ノ文字及線ハ代赭）

（實物大）

作成及成績

所帶單位票ノ作成ハ明治三十九年四月二十六日ヨリ著手シ同年九月二十五日完了セリ其ノ成績左表ノ如シ

所帶單位票作成成績

種別	著手月日	結了月日	期日	從事人員 最多時人員 一日	從事人員 最多時人員 半日	從事人員 延人員 一日	從事人員 延人員 半日
單位票謄寫準備	四月二十日	六月二十日	六二日	八	…	四九六	…
單位票謄寫	四月二十六日	八月六日	一〇三	一一	一	五三〇	三七
單位票校合	四月二十六日	九月二十二日	一五〇	七	…	一,〇〇〇	…
單位票スタンプ押	五月九日	九月二十五日	一四〇	一	…	一四〇	…

諸心得及注意事項

職業及地位略符記入心得

以上ニ關スル諸心得及注意事項等ヲ左ニ掲ク

職業及地位略符記入心得

第一　總則

一　職業分類ノ各目ニ入ルヘキ職業名ハ個人的職業ヲ目的トシテ各其ノ主題ノ下ニ類集スヘシ但シ官吏ノ內鐵道ニ關スルモノ、郵便電信及電話ニ關スルモノ、電氣ニ關スルモノ、醫治及公衆衛生（防疫及檢疫ヲ含ム）ニ關スルモノ、教育ニ關スルモノ、專賣ニ關スルモノ等ハ「一六九目」ヨリ分離シテ各相當目ニ編入スヘシ

二　本島ニ於テ公共團體ト認ムルモノハ左記ノ種類ニ限ル

一　街庄社

一　埤圳組合

一保甲

三　「一七五目」（其ノ他ノ自由業）ニ入ルヘキモノハ左記ノ種類トス

一日本赤十字社
一武德會
一市場
一屠獸所
一衛生組合
一慈惠院ノ類
一農會、農業組合（勵令ニ依ル）
一米商組合、精業組合（勵令ニ依ル）
一消防組
一內地人組合
一以上類似ノ自由業ニ從事スル者

四　職業上ノ地位ヲ分チテ左記ノ五種ト爲ス
但シ內職名及內職ノ地位ハ副業相當欄ニ記入スヘシ

一職業主
一役員
一手助家族
一勞働者
一家事雇人

五　符號ハ片假名ヲ以テ、番號ハ日本數字（一、二、三等）ヲ以テ明確ニ朱記スヘシ

六　職業名及地位ニ關シ本心得ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ其ノ都度係長ニ協議決定スヘ

シ

第二　職業

一　所帶票ニ在ル本業名ハ其ノ本業欄ニ、副業名（內職ヲ含ム）ハ其ノ副業欄ニ職業分類目ノ番號ヲ朱記スヘシ

二　有業者、無業家族、家事雇人ニ對シテハ本業欄ノ上ニ左記下段ノ符號ヲ朱記スヘシ

一有業者	ウ
一無業家族	ム
一家事雇人	ヤ

第三　地位

一　本業及副業ノ地位ハ左ノ區別ニ依リ下段ノ數字ヲ朱記スヘシ

一職業主	一
一役員	二
一手助家族	三
一勞働者	四
一家事雇人	五

二　內職ノ地位ハ職業主トス
但シ內職名ニシテ絕對ニ役員又ハ勞働者タルモノハ各其ノ地位ニ從フ

三　官吏ノ地位ハ左ノ區別ニ依リ記入スヘシ

一行政官	高等官（待遇者ヲ含ム）ハ	一
	判任官（准官ヲ含ム）ハ	二
吏	囑託雇員以下ハ	四

二　政府ノ事業（專賣、郵便、電信、鐵道等）
其ノ事業ノ長官及高等官ハ　一
同上ノ判任官（准官ヲ含ム）ハ　二
同上ノ囑託雇員以下ハ　四

第四　記入例

一　職業又ハ地位ニ關スル符號及番號ノ記入方ハ左記ノ例ニ依ルヘシ

	職業及其ノ地位			
	本業		副業	
	業名	地位	業名	地位
ウ	田畑作	職一業主	米一小三賣三商	掌二櫃
ヤ	田畑作手助	三		
ム	内職養豚		三	一
ム	家族			
ウ	田畑作雇人	作四男		
ヤ	下婢	家事五雇人		

寫字生規程

第一條　人口靜態單名票並所帶單位票ノ謄寫ニ從事スル者ハ當該主任官ノ指揮監督ヲ承クヘシ

第二條　就業時間ハ午前七時ヨリ午後十時迄トス

第三條　遲參、早退、缺勤ハ主任官ニ屆出ヘシ

第四條　就業時間內ニ於ケル外出、應接等ハ主任官ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　人口靜態單名票若ハ所帶單位票ノ謄寫ニ要スル所帶票ハ毎始業時十分前主任官ヨリ受領シ終業時十分前ニ之ヲ主任官ニ返納スヘシ

第六條　前條ノ所帶票ハ鄭重ニ取扱ヒ改竄塗抹シ又ハ汚損スルヲ得ス

第七條　用紙ハ一定ノ書箱ニ藏置シテ汚損セサル樣注意シ部外ニ搬出スルヲ得ス

第八條　一調査區ノ謄寫ヲ終リタルトキハ豫テ交付ノ帶紙ヲ施シ枚數及謄寫終了月日ヲ記入シ捺印ノ上主任官ニ提出スヘシ帶紙樣式左ノ如シ

	月日	枚數	誤謬件數	捺印
謄寫				
校合				

第九條　寫字生ハ退廳ノ際豫テ交附ノ寫字生日報用紙ニ所要ノ記入ヲ爲シ之ヲ主任官ニ提出スヘシ其ノ樣式左ノ如シ

○　○

寫字生日報　（　月　日）

區名		單名票枚數			校合	
監督區番號	調査區番號	受領	謄寫	殘數	誤謬件數	月日

寫字生

第十第　謄寫料ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十一條　謄寫料ノ支給ハ毎月二十四日迄ノ分ヲ二十五日ニ請求書ヲ主任官ニ提出シ各自會計課ヨリ受領スヘシ但シ校合未濟ノ分ニ對シテハ謄寫枚數ノ二割引ヲ以テ料金ヲ支給シ翌月分ニ於テ其ノ過不足ヲ精算ス

第十二條　誤寫等ノ爲メ廢紙ニ屬シタルモノ謄寫總枚數(一箇月毎ニ)百分ノ二ヲ超過シタルトキハ其ノ超過枚數一枚ニ付二枚分ノ謄寫料及誤謬件數一件毎ニ一枚分ノ謄寫料ヲ支給金額ヨリ控除ス

第十三條　誤寫等ノ爲メ廢紙ニ屬シタルモノ及殘用紙ハ一調査區ノ謄寫ヲ了リタルトキ之ヲ主任官ニ提出シ新ニ用紙ノ交付ヲ受クヘシ

第十四條　活字其ノ他ノ印刷ヲ以テ謄寫ニ代用スルコトヲ得ス

第十五條　中途ニシテ寫字生ヲ辭セムトスル者ハ現在セル寫字生ノ内ヨリ殘務引受人ヲ定メ双方連署ヲ以テ主任官ニ屆出ヘシ

第十六條　謄寫ノ方法ハ別ニ定ムル所ノ單名票謄寫心得若ハ所帶單位票謄寫心得ニ依ルヘシ

第十七條　各月優等ノ者ニハ終業ノ際特ニ賞與スルコトアルヘシ

第十八條　寫字生ニハ宿舍若ハ宿舍料ヲ支給セス

單名票謄寫心得

單名票謄寫心得

第一　總則

一　單名票ノ謄寫ハ本心得ニ依リ謄寫スヘシ

二　單名票ハ所帶票現在人員一人毎ニ一枚ヲ謄寫スヘシ

三　謄寫ノ際疑義アルトキハ主任官ニ質問スヘシ

四　字體ハ楷書ニテ正確ニ點線上ニ認ムヘシ

五　謄寫ノ文字ハ一字タリトモ改竄塗抹スルヲ許サス

六　謄寫ハ「ペン」ヲ用フヘシ但シインキヲ官給トシインキ壺及ペン先竝ペン軸ヲ自辨トス

七　謄寫ノ數字ハ總テ左記字體ノ亞剌比亞數字ヲ用フヘシ

0　1　2　3　4　5　6　7　8　9

八　所帶票ニ不詳ト記載セルモノハ當該點線上ニ×ヲ記入スヘシ

九　所帶票ニ記入ノ事項ナキモノハ何等ノ記入ヲ要セス

第二　氏名順號

一　氏名順號ニハ所帶票氏名ノ上欄ニ印刷セル數字ヲ記入スヘシ

第三　種族

一　種族ハ左記下段ノ符號ヲ以テ記入スヘシ

内	ナ
福	フ
廣	カ
漢	ハ
熟	シ
生	セ
外	ク

第四　男女ノ別

一　男女ノ別ハ左記下段ノ符號ヲ以テ記入スヘシ

男	ナ
女	ニ

第五　出生ノ年月日

一　出生ノ年月日ハ所帶票記載ノ通リ數字ヲ以テ記入スヘシ
但シ年號ハ左記下段ノ略字ヲ以テ記入シ何年（トシ）何歳若ハ單ニ何歳トアルモノハ單名票何歳ノ前ノ點線上ニ數字ヲ以テ何歳ト記入スヘシ

明治	（明治ノ二字ハ全部省略ス）
慶應	广
元治	元
文久	文
萬延	万
安政	安
嘉永	嘉
弘化	弘
天保	天
文政	文政
文化	文化

第六　緣事上ノ身分

一　緣事上ノ身分ハ左記下段ノ符號ヲ以テ記入スヘシ

未	ミ
配	ハ
鰥	チ
寡	メ
離	リ

第七　有業者、無業家族、家事雇人

一　有業者、無業家族、家事雇人ハ左記下段ノ符號ヲ以テ記入スヘシ

有業者	ウ
無業家族	ム
家事雇人	ヤ

第八　本業名

一　本業名ハ所帶票本業名ニ附セル數字ヲ記入スヘシ

第九　本業ノ地位

一　本業ノ地位ハ所帶票本業ノ地位ニ附セル數字ヲ記入スヘシ

第十　副業名及内職

一　副業名及内職ハ本欄ニ記入スルモノニシテ本心得第八ニ準シ記入スヘシ

第十一　副業ノ地位

一　副業ノ地位ハ本心得第九ニ準シ記入スヘシ

第十二　常用語及常用以外ノ語

一　常用語及常用以外ノ語ハ左記ノ種類ニ限リ下段ノ符號ヲ用ヒ其ノ他ハ所帶票記載ノ通リ記入スヘシ但シ常用以外ノ語數種アルトキハ本文ニ依リ各別ニ記入スヘシ

内	ナ
福	フ
廣	カ
蕃	ハ
清	シ

アジア歴史資料センター

第十三　讀ミ書キノ程度

一　讀ミ書キノ程度ハ左記下段ノ符號ヲ以テ記入スヘシ

讀、書	ヨカ
讀	ヨ
書	カ

第十四　不具ノ種類及原因

一　不具ノ種類及原因ハ左記下段ノ符號ヲ以テ種類ト原因トヲ相對シテ記入スヘシ其ノ數種アルトキモ亦之ニ準ス

聾啞	ロ
盲	メ
白痴	ハ
瘋癲	フ
生	セ
疾	シ
傷	フ

第十五　阿片煙吸食者

一　阿片煙吸食者ハ「ア」ト記入スヘシ

第十六　纏足者、解纏足者

一　纏足者、解纏足者ハ左記下段ノ符號ヲ以テ記入スヘシ

系	テ
解	カ

第十七　出生地及原籍

一　出生地及原籍ハ左記ノモノニ限リ下段ノ略字ヲ用ヒ其ノ他ハ所帶票記載ノ通記入スヘシ

東京	東	三重	三	高知	高	富山	富	石川	石	桃園	桃
京都	京	靜岡	靜	愛知	愛	岡山	岡	香川	香	新竹	竹
兵庫	兵	岐阜	岐	愛媛	媛	福岡	福	北海道	海	苗栗	苗
新潟	新	巖手	岩	長野	野	福井	井	臺北	北	彰化	彰
埼王	埼	青森	青	長崎	長	福島	福島	臺中	中	斗六	斗
群馬	群	秋田	秋	宮崎	宮	廣島	廣	臺東	台	嘉義	嘉
千葉	千	佐賀	佐	宮城	城	德島	德	臺南	南	鹽水港	鹽
滋賀	滋	熊本	熊	山梨	梨	鹿兒島	鹿	南投	投	蕃薯寮	蕃
茨城	茨	沖繩	沖	山形	形	島根	根	基隆	基	鳳山	鳳
栃木	栃	大阪	大	山口	山	鳥取	鳥	宜蘭	宜	阿緱	阿
奈良	奈	大分	分	和歌山	和	神奈川	神	深坑	深	恒春	恒
澎湖	澎										

（右ノ上段府、縣、廳ノ字ヲ略セリ）

第十八　國籍

一　國籍ハ清國人ニ限リ左記下段ノ符號ヲ用ヒ其ノ他ハ所帶票記載ノ通記入スヘシ

清	シ

第十九　渡臺ノ年

一　渡臺ノ年一回ノモノハ初ノ行ニ二回ノモノハ初終ト各別ニ所帶票記載ノ通數字ヲ以テ記入スヘシ

第二十　常住地

一　常住地ノ內地及木島內ニ在ル者ハ心得第十七ニ準シ記入シ其ノ外國ニ在ル者ノ內清國ニ在ル者ハ心得第十八ニ準シ其ノ他ハ所帶票記載ノ通記入スヘシ

第二十一　總番號、監督區番號、調査區番號、街庄番號

一　總、監督區、調査區、街庄番號ハ記入スルニ及ハス

第二十二　所帶票番號

一　所帶票番號ハ所帶票記載ノ數字ヲ記入スヘシ

單名票校合手續

單名票校合手續

第一　係員ハ校合スヘキ單名票及所帶票ヲ係長ヨリ受領スヘシ

第二　校合ノ手續ハ單名票謄寫心得ニ依リ各自單獨ニ單名票ト所帶票トヲ對照スヘシ

第三　校合ノ際誤記ヲ發見シタルトキハ左式ニ依リ之ヲ附箋ニ明記シ當該欄ニ貼附スヘシ

附箋記載様式

ヽヽハヽヽノ誤記　ヽヽヲ脱スヽヽハ衍

第四　一調査區ノ校合ヲ結了シタルトキハ所帶票順ニ單名票ヲ整頓シ之ニ帶紙ヲナシ誤謬ノ件數及單名票枚數ヲ記入シ捺印ノ上謄寫主任ニ交付スヘシ但退廳時迄ニ校合ノ結了セサルモノハ五分前係長ニ返付スヘシ

第五　寫主任前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ當該寫字生ヲシテ誤記ヲ訂正セシメ係長ニ提出スヘシ

第六　係長前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ番號打專務者ヲシテ押字器ヲ使用シ青色單名票ニ記載セル番號ヲ當該欄ニ押捺セシムヘシ

第七　係各ハ員自左式ノ校合功程日報ヲ作リ毎日校合シタル單名票數及校合ノ際發見シタル誤謬件數ヲ登錄シ毎日退廳時十分前ニ之ヲ係長ニ提出スヘシ

校合功程日報　月　日

總名	監督區番號	調査區番號	單名票枚數	誤謬件數

係員

單名票校合注意事項

單名票校合注意事項

一　內地人ニ在テハ必ス出生地及原籍ノ記入ヲ要ス

二　內地人ニ在テハ左ノ場合ヲ除クノ外必ス渡臺ノ年アリ

甲　出生地臺灣ナルトキ

乙　一時現在者ニシテ常住地內地ナルトキ

三　職業欄ニ於テ手助卽チ「三」ノ符號アルモノハ本業欄ニ限ルモノトス若シ副業欄ニ「三」ノ地位記入アルトキハ其ノ業名番號及地位番號共ニ削除スヘキモノトス

四　職業欄ニ就テ左ノ注意ヲ要ス

（一）「ウ」トアルトキハ必ラス職業番號及其ノ地位ノ記入アルコト而シテ地位ノ番號ハ一、二、三四ノ內ナルコト

（二）「ム」トアルトキハ地位ノ記入アルコトナシ

（三）「ヤ」トアルトキハ其ノ地位必ス五ナルコト

所帶單位票略符記入心得

所帶單位票略符記入心得

第一　總則

一　所帶單位票謄寫ノ準備トシテ所帶票ニ略符ヲ記入ス

二　略符ヲ記入スヘキ所帶票ハ現在所帶ニ限ル

三　略符ヲ記入スヘキ事項左ノ如シ

一　所帶主ノ種族
二　所帶ノ種類
三　所帶ノ構成別

四　略符ノ記入ハ所帶票中指定ノ箇所ニ對シテ明確ニ朱書スヘシ

第二　所帶主ノ種族

五　所帶主ノ種族ハ本來所帶ニシテ其ノ所帶主不在ナルトキニ限リ其ノ氏名竝其ノ所帶構成者ノ種族等ヲ參酌シ其ノ所帶主又ハ主人ノ種族ヲ所帶票不在者ノ下部氏名欄（卽チ氏名ト印刷セル中間空白ノ箇所）ニ記入スヘシ
但シ別莊、支店ノ類ニシテ主人現在セサルトキハ之ヲ所帶主不在者ト見做ス

第三　所帶ノ種類

六　所帶ノ種類ハ本來所帶ニ限リ一人所帶、親族所帶及混合所帶ニ細別シ左記下段ノ略字ヲ所帶票氏名欄最初ノ下部餘白ニ記入スヘシ
一　一人所帶　　一
二　親族所帶　　シ
三　混合所帶　　コ

七　一住居中ノ所帶數ニ關スル本來所帶及準所帶ノ符號ハ左ノ區別ニ依リ所帶票住家番號右側ノ餘白ニ記入スヘシ
一　一住居内ニ在ル所帶總テ本來所帶ナルトキハ何等ノ符號ヲモ記入スヘカラス
二　一住居内ニ在ル所帶總テ準所帶ナルトキハ「シ」ト記入スヘシ
三　一住居内ニ在ル所帶本來所帶及準所帶ナルトキハ「ホシ」ト記入スヘシ

八　本來所帶ノ細別符號ハ左記ノ標準ニ依リ所帶票氏名欄最初ノ下部餘白ニ記入スヘシ

一　一人所帶　一人所帶トハ所帶構成者一人ニシテ現在スルモノヲ謂フ
所帶主不在ナルトキ又ハ別莊、支店ノ類ニシテ主人現在セサルトキハ假令現在者一人ナルモ之ヲ一人所帶トセス其ノ關係ニ依リ親族所帶又ハ混合所帶トスヘシ
但シ不在者ノ關係ハ所帶主又ハ主人以外ニ及ホササルモノトス

二　親族所帶　親族所帶トハ所帶構成者二人以上ニシテ左記範圍ノモノヲ謂フ
甲　内地人、外國人（清國人ヲ除ク）所帶
- 六親等内ノ血族
- 配偶者
- 三親等内ノ姻族

乙　本島人、清國人所帶
- 家事上又ハ職業上ノ雇人
- 同居人（寄留者ヲ含ム）
- 來客（宿泊者ヲ含ム）

ヲ除キタル以外ノ家族

丙　所帶主内地人又ハ外國人（清國人ヲ除ク）ナルトキハ甲ニ、所帶主本島人又ハ清國人ナルトキハ乙ニ依ルヘシ

三　混合所帶　混合所帶トハ前二種以外ノ所帶ヲ謂フ

第四　所帶構成別

九　所帶構成別ハ本來所帶ニ限ル
所帶構成別ノ符號ハ其ノ所帶ニ於ケル所帶主トノ續柄又ハ關係若ハ所帶トノ關係ヲ檢シ左記下段ノ數字ヲ所帶票第二欄最初ノ中央ニ記入スヘシ但シ所帶主不在ナルトキ又ハ別莊、支店ノ類ニシテ主人現在セサルトキニ限リ其ノ所帶主又ハ主人ヲ所帶構成者ノ一員（一所帶計）ト見做シ之カ記入ヲ要ス
所帶主　　一

家族（附籍者ヲ含ム）　二
家事上ノ雇人　三
職業上ノ雇人（營業上ノ雇人ヲ含ム）　四
同居人（寄留者ヲ含ム）　五
來客（宿泊者ヲ含ム）　六

所帶單位票謄寫心得

第一　總則

一　所帶單位票ノ謄寫ハ本心得ニ依ルヘシ
二　所帶單位票ハ一所帶毎ニ一枚ヲ謄寫スヘシ
三　謄寫ノ際疑義アルトキハ主任官ニ質問スヘシ
四　文字ハ楷書ヲ以テ明確ニ點線上ニ認ムヘシ
五　謄寫ノ文字ハ一字タリトモ改竄塗抹スルヲ許サス
六　謄寫ニハ「ペン」ヲ用フヘシ但シ「インキ」ヲ官給トシインキ壺及ペン先竝ペン軸ヲ自辨トス
七　謄寫ノ數字ハ總テ左記字體ノ亞剌比亞數字ヲ用フヘシ

0　1　2　3　4　5　6　7　8　9

第二　住家番號（其ノ他ハ種類）

一　本欄ニハ住家ニ在リテハ所帶票ニ記載セル住家番號ヲ記入スヘシ但シ住家番號二箇以上アルトキハ最右側ヨリ順次横列ニ記入スヘシ
二　所帶票ニ記載セル住家番號ニシテ枝番ヲ附セルモノアルトキハ左記ノ例ニ依リ記入スヘシ
例之ハ所帶票記載ノ住家番號一三ノ一、一三ノ二、一三ノ三トアルトキハ 13—1　13—2　13—3 ト記入スルカ如シ
三　所帶票ニ住家番號ヲ記載セスシテ假小家、船何丸等ト記入セルモノアルトキハ左記ノモノニ限リ下段ノ略字ヲ用ヒ其ノ他ハ所帶票記載ノ通記入スヘシ

假小家　假
船（筏ヲ含ム）　舟
洞窟　洞

第三　所帶票番號

一　本欄ニハ所帶票ニ記載セル所帶番號ヲ記入スヘシ但シ枝番ヲ附セルモノアルトキハ第二第二項ノ例ニ依リ記入スヘシ

第四　一住居中ノ所帶數

一　本欄ニハ一住居中ニ一所帶ノミナルトキハ括弧外ノ點線上ニ／ト記入シ二所帶以上アルトキニ限リ所帶票住家番號第號ノ下括弧内ニ記入セル數字卽チ二、三等ヲ括弧外ノ點線上ニ記入シ所帶票住家番號右側ノ餘白ニ朱記セル「シ」又ハ「シホ」ヲ括弧内ノ點線上ニ記入スヘシ

第五　一所帶中ノ住居數

一　本欄ニハ一所帶ニシテ數住家ヲ有スルモノ卽チ所帶票住家番號欄ニ記載ノ番號二箇以上アルモノニ限リ其ノ數ヲ記入スヘシ

第六　住家ノ有様

一　本欄ニハ所帶票ニ依リ左記下段ノ符號（片假名）ヲ記入スヘシ

持地持家　モ地○モ家○
持地借家　モ地○カ家○
借地持家　カ地○モ家○
借地借家　カ地○カ家○

○印ヲ附セルハ單位票ニ印刷ノ不動文字ナリ

第七　所帶主ノ種族

一　本欄ニハ所帶主ニ限リ左記下段ノ符號ヲ記入スヘシ但シ所帶主不在ノ場合ニハ左側下段ノ氏名欄ニ朱記セル符號ヲ記入スヘシ

内　ナ
福　フ
廣　カ
漢　ハ
熟　シ
生　セ
外　ク

第八　所帶主ノ本業名

一　本欄ニハ所帶主ニ限リ所帶票本業名ニ附セル數字ヲ記入スヘシ但シ所帶主不在ノ場合ニハ所帶票左側下段ノ本業名欄ニ朱記セル數字ヲ記入スヘシ

第九　所帶主ノ本業地位

一　本欄ニハ所帶主ニ限リ所帶票本業ノ地位ニ附セル數字ヲ記入スヘシ但シ所帶主不在ノ場合ニハ前項但書ニ同シ

第十　所帶ノ種類

一　本欄ニハ所帶票氏名欄最初ノ下部餘白ニ朱記セル左記下段ノ略字ヲ記入スヘシ但シ準所帶ニ在リテハ所帶票欄外準所帶ノ種類及名稱ノ下ニ記入セル其ノ種類ノミヲ記入スヘシ

一人所帶　一
親族所帶　シ
混合所帶　コ

第十一　所帶構成別

一　本欄ニハ所帶票第二欄最初ノ中央ニ朱記セル左記下段ノ數字ニ依リ右側各空欄ノ右上部隅ヨリ左下部隅ニ向ヒ斜線ヲ畫引スヘシ

所帶主　一
家族　二
家事上ノ雇人　三
職業上ノ雇人　四
同居人　五
來客　六

第十二　現在者

一　本欄男及女ノ行ニハ所帶票男女合計又ハ總計（所帶票二枚以上使用ノトキニ限ル）ノ男及女ノ數ヲ記入シ本欄總數ノ行ニハ既ニ記入シタル男女ノ總數ヲ記入スヘシ

第十三　廳番號、監督區番號、調查區番號、堡里番號、街庄社番號

一　廳、監督區、調查區、堡里、街庄社ノ各番號ハ記入スルニ及ハス

要旨

第二　原表集計

集計原表ハ單名票ヨリスルモノ二十四種、單位票ヨリスルモノ六種ニシテ無慮三十種トス而シテ集計ノ方法ハ單名票ト單位票トニ論ナク各原表ニ對シテ分類シ計票シ記表シ檢査ス然

集計原表ノ樣式

ル後整理スルノ順序ニシテ明治三十九年六月二十六日ヨリ臺北廳以下各廳ニ對シ逐次計票集算ニ著手シタルニ其ノ功程豫定以上ニ進捗シタルニ依リ第七表(有業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族及體性ニ分チタル有業數)ハ最初臺北臺中及臺南ノ三市街ニ限リタルモ更ニ各廳別ヲ加ヘ職業目別ノ表章ヲシテ遺憾ナカラシムルヲ期セリ

集計原表ノ樣式左ノ如シ但シ本樣式ノ編成ハ事實集計ノ前ニ係ルヲ以テ其ノ後ノ結果ニ比スレハ多少ノ相違アルヲ免レス是レ勢ノ止ムヲ得サル所ナリ

臨時戸口調査

集計原表樣式

目次

第一表	各年齡者ヲ生年、種族及體性ニ分チタル人口	廳別
第二表	一歳以下ノ幼兒ヲ月數、種族及體性ニ分チタル人口	廳別
第三表	本業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族、體性、年齡及緣事ニ分チタル人口	廳別(職業項)
第四表	本業從屬者ノ屬スル職業及職業上ノ從屬關係ヲ種族、體性、年齡及緣事ニ分チタル人口	廳別(職業項)
第五表	副業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族、體性、年齡及緣事ニ分チタル人口	廳別(職業項)
第六表	副業ヲ有スル本業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ副業、種族、體性及緣事ニ分チタル人口	廳別(職業項)
第七表	有業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族及體性ニ分チタル有業數	廳別及三市街(職業目)
第八表	言語ノ種類ヲ常用語、副用語、種族及體性ニ分チタル人口	廳別
第九表	言語ノ種類ヲ種族、體性及年齡ニ分チタル人口	廳別
第十表	讀ミ書キノ程度ヲ種族、體性及年齡ニ分チタル人口	廳別
第十一表	不具ノ種類ヲ種族、體性及緣事ニ分チタル人口	廳別
第十二表	不具ノ種類ヲ種族、體性及職業ニ分チタル人口	廳別(職業項)
第十三表	不具ノ種類及原因ヲ種族、體性及年齡ニ分チタル不具數	廳別
第十四表	阿片煙膏吸食者ヲ種族、體性、年齡及緣事ニ分チタル人口	廳別
第十五表	阿片煙膏吸食者ヲ種族、體性及職業ニ分チタル人口	廳別(職業項)

第十六表	纏足者ヲ種族、年齡及緣事ニ分チタル人口	廳別
第十七表	纏足者ヲ種族及職業ニ分チタル人口	廳別(職業項)
第十八表	解纏足者ヲ種族、年齡及緣事ニ分チタル人口	廳別
第十九表	解纏足者ヲ種族及職業ニ分チタル人口	廳別(職業項)
第二十表	最初渡臺ノ內地人ヲ渡臺ノ年次、體性、職業及職業上ノ地位ニ分チタル人口	廳別(職業項)
第二十一表	二回以上渡臺ノ內地人ヲ渡臺ノ年次、體性、職業及職業上ノ地位ニ分チタル人口	廳別(職業款)
第二十二表	內地人ヲ出生地、原籍及體性ニ分チタル人口	廳別
第二十三表	外國人ヲ國籍及體性ニ分チタル人口	廳別
第二十四表	住居ノ種類ヲ所帶ノ種類及所帶數ニ分チタル員數	支廳別
第二十五表	本來所帶ヲ所帶ノ種類及種族ニ分チ一人所帶ヲ種族ニ分チタル員數	支廳別
第二十六表	准所帶ヲ其ノ種類ニ分チタル員數	支廳別
第二十七表	混合所帶(本來所帶中ノ)ヲ所帶ノ構成及種族ニ分チタル員數	支廳別
第二十八表	住家及住地ノ權利關係ヲ所帶主ノ種族、職業及職業上ノ地位ニ分チタル員數	支廳別(職業項)
第二十九表	所帶ノ人員ヲ所帶ノ種類及體性ニ分チタル人口	支廳別
第三十表	種族ヲ體性ニ分チタル人口	支廳及堡里別

アジア歴史資料センター

第一表　各年齢者ヲ生年、種族及證性ニ分チタル人口

(縣別)

年齢級	總數			内地人		本島人		外國人	
	總數	男	女	男	女	男	女	男	女
總數									
自零歳至五歳									
一歳迄(明治三十八年生) 二歳迄(明治三十七年生) 三歳迄(明治三十六年生) 四歳迄(明治三十五年生) 五歳迄(明治三十四年生)									
自六歳至十歳									
六歳迄(明治三十三年生) 七歳迄(明治三十二年生) 八歳迄(明治三十一年生) 九歳迄(明治三十年生) 十歳迄(明治二十九年生)									
自十一歳至十五歳									
十一歳迄(明治二十八年生) 十二歳迄(明治二十七年生) 十三歳迄(明治二十六年生) 十四歳迄(明治二十五年生) 十五歳迄(明治二十四年生)									
自十六歳至二十歳									
十六歳迄(明治二十三年生) 十七歳迄(明治二十二年生) 十八歳迄(明治二十一年生) 十九歳迄(明治二十年生) 二十歳迄(明治十九年生)									
自二十一歳至二十五歳									
二十一歳迄(明治十八年生) 二十二歳迄(明治十七年生) 二十三歳迄(明治十六年生) 二十四歳迄(明治十五年生) 二十五歳迄(明治十四年生)									
自二十六歳至三十歳									
二十六歳迄(明治十三年生) 二十七歳迄(明治十二年生) 二十八歳迄(明治十一年生) 二十九歳迄(明治十年生) 三十歳迄(明治九年生)									
自百十一歳至百十五歳迄									
百十一歳迄(寛政七年生) 百十二歳迄(寛政六年生) 百十三歳迄(寛政五年生) 百十四歳迄(寛政四年生) 百十五歳迄(寛政三年生)									
自百十六歳至百二十歳									
百十六歳迄(寛政二年生) 百十七歳迄(寛政元年生) 百十八歳迄(　) 百十九歳迄(　) 百二十歳迄(　)									
年齢不詳									

アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records http://www.jacar.go.jp

第二表　一歳以下ノ幼兒ヲ月數、種族及體性ニ分チタル人口　（廳別）

種族	男女	總數	一箇月	二箇月	三箇月	四箇月	五箇月	六箇月	七箇月	八箇月	九箇月	十箇月	十一箇月	十二箇月	不詳
總數	總數														
	男														
	女														
內地人	男														
	女														
本島人	男														
	女														
外國人	男														
	女														

第三表 本業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族、體性、年齡及縁事ニ分チタル人口

種族地位性別				總數	配偶者	未婚者	離婚者	鰥寡	不詳
總數	總數	內地人	男						
			女						
		本島人	男						
			女						
		外國人	男						
			女						
	獨立	內地人	男						
			女						
		本島人	男						
			女						
		外國人	男						
			女						
	役員	內地人	男						
			女						
		本島人	男						
			女						
		外國人	男						
			女						
	手助家族	內地人	男						
			女						
		本島人	男						
			女						
		外國人	男						
			女						
	職工其ノ他	內地人	男						
			女						
		本島人	男						
			女						
		外國人	男						
			女						
第一款 農業牧畜林業漁業等（六款迄） 總數	總數	內地人	男						
			女						
		本島人	男						
			女						
		外國人	男						
			女						
	獨立	內地人	男						
			女						
		本島人	男						
			女						
		外國人	男						
			女						
	役員	內地人	男						
			女						
		本島人	男						
			女						
		外國人	男						
			女						
	手助家族	內地人	男						
			女						
		本島人	男						
			女						
		外國人	男						
			女						
	職工其ノ他	內地人	男						
			女						
		本島人	男						
			女						
		外國人	男						
			女						

Age column groups (each subdivided into 總數, 配偶者, 未婚者, 離婚者, 鰥寡, 不詳):

總數	自零歲至十歲	十一歲	十二歲	十三歲	十四歲	十五歲	十六歲	十七歲	十八歲	十九歲	二十歲

自二十一歲至二十五歲	自二十六歲至三十歲	自三十一歲至三十五歲	自三十六歲至四十歲	自四十一歲至四十五歲	自四十六歲至五十歲	自五十一歲至五十五歲	自五十六歲至六十歲	自六十一歲至六十五歲	自六十六歲至七十歲	七十一歲以上	不詳

第四表 本業從屬者ノ屬スル職業及業職ノト從屬關係ヲ種族、體性、年齡及線事ニ分チタル人口

(職業項)(別類)

款 / 項 \ 地 / 種族 / 體性			總數 (總數・配偶者・未婚者・離婚者・鰥寡・不詳)	自零歳至十歳	自十一歳至十三歳	自十四歳至十八歳	自十九歳至二十五歳	自二十六歳至三十歳	自三十一歳至三十五歳	自三十六歳至四十歳	自四十一歳至四十五歳	自四十六歳至五十歳	自五十一歳至五十五歳	自五十六歳至六十歳	自六十一歳至六十五歳	自六十六歳至七十歳	七十一歳以上	不詳
總數	總數	內地人 男/女																
		本島人 男/女																
		外國人 男/女																
	家族 職業ナキ	內地人 男/女																
		本島人 男/女																
		外國人 男/女																
	家事雇人	內地人 男/女																
		本島人 男/女																
		外國人 男/女																
第一款 農業牧畜林業漁業等	總數	內地人 男/女																
		本島人 男/女																
		外國人 男/女																
	家族 職業ナキ	內地人 男/女																
		本島人 男/女																
		外國人 男/女																
	家事雇人	內地人 男/女																
		本島人 男/女																
		外國人 男/女																
第一項 農業牧畜養蠶等	總數	內地人 男/女																
		本島人 男/女																
		外國人 男/女																
	家族 職業ナキ	內地人 男/女																
		本島人 男/女																
		外國人 男/女																
	家事雇人	內地人 男/女																
		本島人 男/女																
		外國人 男/女																

第五表 副業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族、體性、年齡及緣事ニ分チタル人口（廳別）（職業項）

Each age column is divided into: 總數 | 配偶者 | 未婚者 | 離婚者 | 鰥寡 | 不詳

職業項	地位	種族	性	總數	自零歲至十歲	自十一歲至十五歲（十一歲、十二歲、十三歲、十四歲、十五歲）	自十六歲至二十歲（十六歲、十七歲、十八歲、十九歲、二十歲）	自二十一歲至二十五歲	自二十六歲至三十歲	自三十一歲至三十五歲	自三十六歲至四十歲	自四十一歲至四十五歲	自四十六歲至五十歲	自五十一歲至五十五歲	自五十六歲至六十歲	自六十一歲至六十五歲	自六十六歲至七十歲	七十一歲以上	不詳
總數	總數	內地人	男																
			女																
		本島人	男																
			女																
		外國人	男																
			女																
	獨立	內地人	男																
			女																
		本島人	男																
			女																
		外國人	男																
			女																
	役員	內地人	男																
			女																
		本島人	男																
			女																
		外國人	男																
			女																
	職工其ノ他	內地人	男																
			女																
		本島人	男																
			女																
		外國人	男																
			女																
第一款 農業牧畜林業漁業等（六款迄） 總數	總數	內地人	男																
			女																
		本島人	男																
			女																
		外國人	男																
			女																
	獨立	內地人	男																
			女																
		本島人	男																
			女																
		外國人	男																
			女																
	役員	內地人	男																
			女																
		本島人	男																
			女																
		外國人	男																
			女																
	職工其ノ他	內地人	男																
			女																
		本島人	男																
			女																
		外國人	男																
			女																

第六表　副業ヲ有スル本業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ副業種族體性及縁事ニ分チタル人口（類別）（職業項）

款項	本業上ノ地位	種族	體性	副業 總數：總數	配偶者	未婚者	離婚者	鰥寡	不詳	第（一款）總數：總數	配偶者	未婚者	離婚者	鰥寡	不詳
總數（六款迄）	本業 總數	內地人	男												
			女												
		本島人	男												
			女												
		外國人	男												
			女												
	獨立														
	役員														
	職工其ノ他														
第一款　農業、牧畜、林業、漁業等	本業 總數														

款項	業名 第一款 農業牧畜養蠶等					林業及狩獵					漁業及製鹽					第二款 總數				
第一款　農業、牧畜、林業、漁業等　第一項　農業、牧畜、養蠶等　本業																				

第七表 有業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族及性體ニ分チタル有業數

(職業目)(廳別及三市街)

款項目 / 地位	有業者									本業者									副業者 本業アル者									副業者 本業ナキ者								
	總數			內地人		本島人		外國人		總數			內地人		本島人		外國人		總數			內地人		本島人		外國人		總數			內地人		本島人		外國人	
	總數	男	女	男	女	男	女	男	女	總數	男	女	男	女	男	女	男	女	總數	男	女	男	女	男	女	男	女	總數	男	女	男	女	男	女	男	女
總數 總數																																				
總數 獨立																																				
總數 役員																																				
總數 手助家族																																				
總數 職工其ノ他																																				
第一款 總數																																				
第一款 第一項 農業 總數																																				
第一款 第一項 農業 農作																																				
第一款 第一項 農業 植木作																																				
第一款 第一項 牧畜養蠶等 牧畜																																				
第一款 第一項 牧畜養蠶等 養蠶																																				
第一款 第一項 牧畜養蠶等 其他ノ																																				
第一款 第二項 林業及狩獵 林業																																				
第一款 第三項 漁業及製鹽 總數																																				
第一款 第三項 漁業及製鹽 漁業																																				
第一款 第三項 漁業及製鹽 養魚																																				

第八表 言語ノ種類ヲ常用語、副用語、種族及體性ニ分チタル人口 (總別)

種類		總數			內地人			本島人 漢人 總數			福建		廣東		其ノ他		熟蕃		生蕃		外國人		
		總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	總數	男	女
常用語	總數																						
	內地語																						
土語	總數																						
	福建語																						
	廣東語																						
	漢語																						
	蕃語																						
外國語	總數																						
	清語																						
	英語																						
	佛語																						
	獨語																						
	韓語																						
	語																						
	語																						
	不詳																						
	聾啞																						
副用語 (重ナルモノ一ヲ取ル)																							

第九表 言語ノ種類ヲ種族、體性及年齢ニ分チタル人口（廳別）

種類		種族	總數 總數	總數 男	總數 女	二歳以下 男	二歳以下 女	自三歳至六歳 男	自三歳至六歳 女	自七歳至十歳 男	自七歳至十歳 女	自十一歳至十五歳 男	自十一歳至十五歳 女	自十六歳至二十歳 男	自十六歳至二十歳 女	二十一歳以上 男	二十一歳以上 女	不詳 男	不詳 女
總數		内地人																	
		本島人																	
		外國人																	
内地語ノミ		内地人																	
		本島人																	
		外國人																	
土語ノミ	總數	内地人																	
		本島人																	
		外國人																	
	福建語	内地人																	
		本島人																	
		外國人																	
	廣東語																		
	渓語																		
	蕃語																		
外國語ノミ	總數																		
	語																		
	語																		
	語																		
	語																		
	語																		
	語																		
二種以上ヲ話スモノ	總數																		
	語																		
	語																		
	語																		
	語																		
	語																		
	語																		
不詳																			

第十表　讀ミ書キノ程度ヲ種族、體 性及年齡ニ分チタル人口　（別紙）

種族	程度	總數 總數	總數 男	總數 女	自零至六歲 男	自零至六歲 女	七歲 男	七歲 女	八歲 男	八歲 女	九歲 男	九歲 女	十歲 男	十歲 女	十一歲 男	十一歲 女	十二歲 男	十二歲 女	十三歲 男	十三歲 女
總數	總數																			
總數	讀ミ書キシ得ル者																			
總數	讀ミ得ル者																			
總數	書キ得ル者																			
總數	讀ミ書キシ得ザル者																			
內地人																				
本島人 總數																				
本島人 漢人	總數																			
本島人 漢人	福建																			
本島人 漢人	廣東																			
本島人 漢人	其ノ他																			
本島人 熟蕃																				
本島人 生蕃																				
外國人																				

種族	程度	十四歲 男	十四歲 女	十五歲 男	十五歲 女	自十六至二十歲 男	自十六至二十歲 女	自二十一至二十五歲 男	自二十一至二十五歲 女	自二十六至三十歲 男	自二十六至三十歲 女	自三十一至四十歲 男	自三十一至四十歲 女	自四十一至五十歲 男	自四十一至五十歲 女	自五十一至六十歲 男	自五十一至六十歲 女	自六十一至七十歲 男	自六十一至七十歲 女	自七十一至八十歲 男	自七十一至八十歲 女	自八十一至九十歲 男	自八十一至九十歲 女	自九十一至百歲 男	自九十一至百歲 女	百一歲以上 男	百一歲以上 女	年齡不詳 男	年齡不詳 女
總數	總數																												
總數	讀ミ書キシ得ル者																												
總數	讀ミ得ル者																												
總數	書キ得ル者																												
總數	讀ミ書キシ得ザル者																												
內地人																													
本島人 總數																													
本島人 漢人	總數																												
本島人 漢人	福建																												
本島人 漢人	廣東																												
本島人 漢人	其ノ他																												
本島人 熟蕃																													
本島人 生蕃																													
外國人																													

第十一表　不具ノ種類ヲ種族、體性及縁事ニ分チタル人口（別紙）

種族縁事	總數			一種ノモノ											二種ヲ兼ヌルモノ		
	總數	男	女	總數	男	女	盲 男	盲 女	聾啞 男	聾啞 女	白痴 男	白痴 女	瘋癲 男	瘋癲 女	總數	男	女
總數 總數																	
總數 內地人																	
總數 本島人 總數																	
總數 本島人 漢人 總數																	
總數 本島人 漢人 福建																	
總數 本島人 漢人 廣東																	
總數 本島人 漢人 其ノ他																	
總數 本島人 熟蕃																	
總數 本島人 生蕃																	
總數 外國人																	
配偶者																	
未婚者																	
離婚者																	
鰥寡																	
不詳																	

種族縁事	二種ヲ兼ヌルモノ												三種ヲ兼ヌルモノ											四種ヲ兼ヌルモノ		
	盲、聾啞 男	盲、聾啞 女	盲、白痴 男	盲、白痴 女	盲、瘋癲 男	盲、瘋癲 女	聾啞、白痴 男	聾啞、白痴 女	聾啞、瘋癲 男	聾啞、瘋癲 女	白痴、瘋癲 男	白痴、瘋癲 女	總數	男	女	盲、聾啞、白痴 男	盲、聾啞、白痴 女	盲、聾啞、瘋癲 男	盲、聾啞、瘋癲 女	聾啞、白痴、瘋癲 男	聾啞、白痴、瘋癲 女	白痴、瘋癲、盲 男	白痴、瘋癲、盲 女	總數	男	女
總數 總數																										
總數 內地人																										
總數 本島人 總數																										
總數 本島人 漢人 總數																										
總數 本島人 漢人 福建																										
總數 本島人 漢人 廣東																										
總數 本島人 漢人 其ノ他																										
總數 本島人 熟蕃																										
總數 本島人 生蕃																										
總數 外國人																										
配偶者																										
未婚者																										
離婚者																										
鰥寡																										
不詳																										

アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records

第十二表　●不具ノ種類ヲ種族、性體及職業ニ分チタル人口

(總別)(項業職)

體性・種族・種類			總數	第一款 總數	第一款 農業、牧畜、養蠶等	第一款 林業及狩獵	第一款 漁業及製鹽	第二款	第三款	第四款	第五款	第六款 收入ニ依ルモノ	第七款 職業ヲ申告セサル者及無職業
總數	總數	總數											
		男											
		女											
	內地人	男											
		女											
	本島人	男											
		女											
	外國人	男											
		女											

（下ニ揭クル職業ニ從事スル者）

一種ノ者		總數	第一款 總數	第一款 農業、牧畜、養蠶等	第一款 林業及狩獵	第一款 漁業及製鹽	第二款	第三款	第四款	第五款	第六款 收入ニ依ルモノ	第七款 職業ヲ申告セサル者及無職業
	總數											
	盲											
	聾											
	啞											
	白痴											
	瘋癲											

（下ニ揭クル職業ニ從事スル者）（其ノ職業ニ屬スル者セサル事）

（二種ヲ兼ヌル者、三種ヲ兼ヌル者、四種ヲ兼ヌル者）

第十三表　不具ノ種類及原因ヲ種族、體性及年齢ニ分チタル不具數（縣別）

年齢級	種族	體性	總數					盲					聾啞					瘋癲					白痴				
			總數	生來	疾病	負傷	不詳	總數	生來	疾病	負傷	不詳	總數	生來	疾病	負傷	不詳	總數	生來	疾病	負傷	不詳	總數	生來	疾病	負傷	不詳
總數	總數	總數																									
		男																									
		女																									
	內地人	男																									
		女																									
	本島人	男																									
		女																									
	外國人	男																									
		女																									
一歲																											
二歲																											
三歲																											
四歲																											
五歲																											
自六歲至十歲																											
十一歲以上七十歲迄ハ十歲級別																											
年齢不詳																											

第十四表 阿片烟膏吸食者ヲ種族、體性、年齢及縁事ニ分チタル人口（總別）

種族	體性	總數 總數	總數 配偶者	總數 未婚者	總數 離婚者	總數 鰥寡	總數 不詳	二十歳以下 總數	二十歳以下 配偶者	二十歳以下 未婚者	二十歳以下 離婚者	二十歳以下 鰥寡	二十歳以下 不詳	自二十一歳至三十歳 總數	自二十一歳至三十歳 配偶者	自二十一歳至三十歳 未婚者	自二十一歳至三十歳 離婚者	自二十一歳至三十歳 鰥寡	自二十一歳至三十歳 不詳	自三十一歳至四十歳 總數	自三十一歳至四十歳 配偶者	自三十一歳至四十歳 未婚者	自三十一歳至四十歳 離婚者	自三十一歳至四十歳 鰥寡	自三十一歳至四十歳 不詳
總數	總數																								
	男																								
	女																								
福建人																									
廣東人																									
其ノ他ノ漢人																									
熟蕃																									
生蕃																									
淸國人																									

種族	體性	自四十一歳至五十歳 總數	自四十一歳至五十歳 配偶者	自四十一歳至五十歳 未婚者	自四十一歳至五十歳 離婚者	自四十一歳至五十歳 鰥寡	自四十一歳至五十歳 不詳	自五十一歳至六十歳 總數	自五十一歳至六十歳 配偶者	自五十一歳至六十歳 未婚者	自五十一歳至六十歳 離婚者	自五十一歳至六十歳 鰥寡	自五十一歳至六十歳 不詳	自六十一歳至七十歳 總數	自六十一歳至七十歳 配偶者	自六十一歳至七十歳 未婚者	自六十一歳至七十歳 離婚者	自六十一歳至七十歳 鰥寡	自六十一歳至七十歳 不詳	七十一歳以上 總數	七十一歳以上 配偶者	七十一歳以上 未婚者	七十一歳以上 離婚者	七十一歳以上 鰥寡	七十一歳以上 不詳	年齢不詳 總數	年齢不詳 配偶者	年齢不詳 未婚者	年齢不詳 離婚者	年齢不詳 鰥寡	年齢不詳 不詳
總數	總數																														
	男																														
	女																														
福建人																															
廣東人																															
其ノ他ノ漢人																															
熟蕃																															
生蕃																															
淸國人																															

第五章 檢査及製表 一七〇

第十五表 阿片烟膏吸食者ヲ種族、體性及職業ニ分チタル人口（職業項別）

種族 體性		下ニ揭クル職業ニ從事スル者 總數	第一款 總數	第一款 農業、牧畜、養蠶等	第一款 林業及狩獵	第一款 漁業及製鹽	第二款	第三款	第四款	第五款	第六款 收入ニ依ルモノ	第七款 無職業及職業ヲ申告セサル者
總數	總數											
	男											
	女											
福建人												
廣東人												
其ノ他ノ漢人												
熟蕃												
生蕃												
清國人												

下ニ揭クル職業ニ從事セサルモノ其ノ職業ニ屬スル者 總數	第一款 總數	第一款 農業、牧畜、養蠶等	第一款 林業及狩獵	第一款 漁業及製鹽	第二款	第三款	第四款	第五款	第六款 收入ニ依ルモノ	第七款 無職業及職業ヲ申告セサル者

第十六表 纏足者ヲ種族、年齡及緣事ニ分チタル人口

種族	總數						自零歲至十歲					
	總數	配偶者	未婚者	離婚者	鰥寡	不詳						
總數												
福建人												
廣東人												
其ノ他ノ漢人												
熟番												
生番												
清國人												

種族	自十一歲至十五歲										
	總數	十一歲	十二歲	十三歲	十四歲						十五歲
					總數	配偶者	未婚者	離婚者	鰥寡	不詳	
總數											
福建人											
廣東人											
其ノ他ノ漢人											
熟番											
生番											
清國人											

種族	自十六歲至二十歲										
	總數	十六歲	十七歲	十八歲	十九歲						二十歲
					總數	配偶者	未婚者	離婚者	鰥寡	不詳	
總數											
福建人											
廣東人											
其ノ他ノ漢人											
熟番											
生番											
清國人											

種族	自二十一歲至二十五歲	自二十六歲至三十歲	自三十一歲至三十五歲	自三十六歲至四十歲	自四十一歲至四十五歲	自四十六歲至五十歲	自五十一歲至五十五歲	自五十六歲至六十歲	自六十一歲至六十五歲	自六十六歲至七十歲	七十一歲以上	不詳
總數												
福建人												
廣東人												
其ノ他ノ漢人												
熟番												
生番												
清國人												

第十七表 纏足者ヲ種族及職業ニ分チタル人口（總別）（職業項）

種族	總數	下ニ掲クル職業ニ從事スル者 第一款 總數	農業、牧畜、養蠶等	林業及狩獵	漁業及製鹽	第二款	第三款	第四款	第五款	第六款 收入ニ依ルモノ	第七款 無職業及職業ヲ申告セサル者
總數											
福建人											
廣東人											
其他ノ漢人											
熟蕃											
生蕃											
清國人											

下ニ掲クル職業ニ從事セサルモ其ノ職業ニ屬スル者 總數	第一款 總數	農業、牧畜、養蠶等	林業及狩獵	漁業及製鹽	第二款	第三款	第四款	第五款	第六款 收入ニ依ルモノ	第七款 無職業及職業ヲ申告セサル者

第十八表 解纏足者ヲ種族、年齡及緣事ニ分チタル人口 (別總)

種族	總數：總數	配偶者	未婚者	離婚者	鰥寡	不詳	自零歲至十歲	總數	十一歲	十二歲	十三歲
總數											
福建人											
廣東人											
其ノ他ノ漢人											
熟蕃人											
生蕃人											
清國人											

自十四歲至十五歲：總數	配偶者	未婚者	離婚者	鰥寡	不詳	十四歲	十五歲	自十六歲至十八歲：總數	十六歲	十七歲	十八歲

自十九歲至二十歲：總數	配偶者	未婚者	離婚者	鰥寡	不詳	十九歲	二十歲	自二十一歲至二十五歲	自二十六歲至三十歲	自三十一歲至三十五歲	自三十六歲至四十歲

自四十一歲至四十五歲	自四十六歲至五十歲	自五十一歲至五十五歲	自五十六歲至六十歲	自六十一歲至六十五歲	自六十六歲至七十歲	七十一歲以上	不詳

第十九表 解纏足者ヲ種族及職業ニ分チタル人口

(廳別)(職業項)

種族	總數	下ニ揭クル職業ニ從事スル者								
		第一款				第二款	第三款	第四款	第五款	第六款	第七款
		總數	農業、牧畜、養蠶等	林業及狩獵	漁業及製鹽					收入ニ依ルモノ	無職業及職業ヲ申告セサル者
總數											
福建人											
廣東人											
其ノ他ノ漢人											
熟蕃											
生蕃											
清國人											

總數	下ニ揭クル職業ニ從事セサルモ其ノ職業ニ屬スル者									
	第一款				第二款	第三款	第四款	第五款	第六款	第七款
	總數	農業、牧畜、養蠶等	林業及狩獵	漁業及製鹽					收入ニ依ルモノ	無職業及職業ヲ申告セサル者

アジア歴史資料センター

第二十表 最初渡臺ノ內地人ヲ渡臺ノ年次、體性、職業及職業上ノ地位ニ分チタル人口 （鑿別）（職業項）

款項		職業ノ有無及地位		總數 總數	總數 男	總數 女	明治二十八年 男	明治二十八年 女	明治二十九年 男	明治二十九年 女	明治三十年 男	明治三十年 女	明治三十一年 男	明治三十一年 女	明治三十二年 男	明治三十二年 女	明治三十三年 男	明治三十三年 女	明治三十四年 男	明治三十四年 女	明治三十五年 男	明治三十五年 女	明治三十六年 男	明治三十六年 女	明治三十七年 男	明治三十七年 女	明治三十八年 男	明治三十八年 女	年次不詳 男	年次不詳 女	本島出生 男	本島出生 女
總數		總數																														
		有業者	獨立																													
		有業者	非獨立																													
		無業家族																														
		家事雇人																														
第一款 農業、牧畜、林業、漁業等	總數	總數																														
		有業者	獨立																													
		有業者	非獨立																													
		無業家族																														
		家事雇人																														
	農業牧畜、蠶等																															
	林業及狩獵																															
	漁業及製鹽																															
第二款 工業	總數																															

第二十一表 二回以上渡臺ノ內地人ヲ渡臺ノ年次、體 性、職業及職業上ノ地位ニ分チタル人口 （職業別）（續）

職業及地位		最初渡臺ノ年次 總數			明治二十八年		明治二十九年		明治三十年		明治三十一年		明治三十二年		明治三十三年		明治三十四年		明治三十五年		明治三十六年		明治三十七年		年次不詳	
		總數	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
最後渡臺ノ年次 總數	總數 總數																									
	有業者 獨立																									
	有業者 非獨立																									
	無業家族																									
	家事人																									
	農業、漁業、牧畜、林業等 總數																									
	有業者 獨立																									
	有業者 非獨立																									
	無業家族																									
	家事人																									
	工業																									
	商業及交通業																									
	公務及自由業																									
	其他ノ有業者																									
	收入ニ依リテ生活スルモノ																									
	職業ヲ申告セサルモノ及無職業																									
最後渡臺ノ年次 明治二十九年																										
最後渡臺ノ年次 明治三十八年																										
最後渡臺ノ年次 年次不詳																										

第二十二表　內地人ヲ出生地、原籍地及體性ニ分チタル人口（總　別）

原籍府縣	總數			內地出生																		
				總數			東京		京都		大阪		神奈川		兵庫		長崎		新潟		埼玉	
	總數	男	女	總數	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
總數																						
東京																						
京都																						
大阪																						
神奈川																						
兵庫																						
長崎																						
新潟																						
埼玉																						
群馬																						
千葉																						
茨城																						
栃木																						
奈良																						
三重																						
愛知																						
靜岡																						
山梨																						
滋賀																						
岐阜																						
長野																						
宮城																						
福島																						
巖手																						
青森																						
山形																						
秋田																						
福井																						
石川																						
富山																						
鳥取																						
島根																						
岡山																						
廣島																						
山口																						
和歌山																						
德島																						
香川																						
愛媛																						
高知																						
福岡																						
大分																						
佐賀																						
熊本																						
宮崎																						
鹿兒島																						
沖繩																						
北海道																						
不詳																						

原籍府縣	（內地出生）				本島出生																			外國出生		出生地不詳	
	、、		、、		總數			臺北		基隆		宜蘭		深坑		桃園		新竹		、、		、、					
	男	女	男	女	總數	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
總數																											
東京																											
京都																											
大阪																											
神奈川																											
兵庫																											
長崎																											
新潟																											
埼玉																											
群馬																											
千葉																											
茨城																											
栃木																											
奈良																											
三重																											
愛知																											
靜岡																											
山梨																											
滋賀																											
岐阜																											
長野																											
宮城																											
福島																											
巖手																											
青森																											
山形																											
秋田																											
福井																											
石川																											
富山																											
鳥取																											
島根																											
岡山																											
廣島																											
山口																											
和歌山																											
德島																											
香川																											
愛媛																											
高知																											
福岡																											
大分																											
佐賀																											
熊本																											
宮崎																											
鹿兒島																											
沖繩																											
北海道																											
不詳																											

第二十三表 外國人ヲ國籍及體性ニ分チタル人口 (廳別)

廳	總數 總數	總數 男	總數 女	清國 男	清國 女	何國 男	何國 女	何國 男	何國 女	、、 男	、、 女	、、 男	、、 女	、、 男	、、 女	、、 男	、、 女	、、 男	、、 女	、、 男	、、 女

第二十四表 住居ノ種類ヲ所帶ノ種類及所帶數ニ分チタル員數 (支廳別)

種類		總數 總數	總數 住家	總數 船舶	總數 其ノ他	一住居一所帶 總數	一住居一所帶 住家	一住居一所帶 船舶	一住居一所帶 其ノ他	二所帶以上一住居 總數	二所帶以上一住居 住家 總數	住家 二所帶	住家 三所帶	住家 四所帶	住家 五所帶	住家 六所帶乃至十所帶	住家 十一所帶乃至十五所帶	住家 十六所帶乃至二十所帶	住家 二十一所帶以上	船舶 二所帶以上	其他 二所帶以上	一所帶二住居以上 總數	住家 總數	住家 二住家	住家 三住家	住家 四住家	船舶 總數	船舶 二住居	船舶 三住居	船舶 四住居	其ノ他 總數	其ノ他 二住居	其ノ他 三住居	其ノ他 四住居
住居數	總數																																	
	本來所帶																																	
	准所帶																																	
	本來所帶及准所帶																																	

第五章 檢査及製表

アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records

第二十五表　本來所帶ヲ所帶ノ種類及種族ニ分チ一人所帶ヲ種族ニ分チタル員數（支廳別）

種族	總數											一人	親族所帶											混合所帶										
	總數	一人	二人	三人	四人	五人	六人乃至十人	十一人乃至十五人	十六人乃至二十人	二十一人乃至三十人	三十一人以上		總數	一人	二人	三人	四人	五人	六人乃至十人	十一人乃至十五人	十六人乃至二十人	二十一人乃至三十人	三十一人以上	總數	一人	二人	三人	四人	五人	六人乃至十人	十一人乃至十五人	十六人乃至二十人	二十一人乃至三十人	三十一人以上
總數																																		
內地人																																		
本島人　總數																																		
本島人　漢人　總數																																		
本島人　漢人　福建																																		
本島人　漢人　廣東																																		
本島人　漢人　其ノ他																																		
本島人　熟蕃																																		
本島人　生蕃																																		
外國人																																		

第二十六表　準所帯ヲ其ノ種類ニ分チタル員數

(別　紙　支)

支廳	總數	宿屋	下宿屋	何々	何々							

第二十七表　混合所帯(本來所帯中ノ)ヲ所帯ノ構成及種族ニ分チタル員數

(別　紙　支)

種族	總數	所帯主若ハ所帯主及其ノ家族ト：家事上ノ雇人	職業上ノ雇人	同居人	來客	家事職業上雇人	家事上雇人同居人	家事上雇人來客	職業上雇人同居人	職業上雇人來客	同居人來客	家事上雇人職業上雇人同居人	家事職業上雇人來客	職業上雇人同居人來客	家事上雇人同居人來客	家事上雇人同居人職業上雇人來客
總數																
內地人																
本島人 總數																
本島人 漢人 福建																
本島人 漢人 廣東																
本島人 漢人 其ノ他																
本島人 熟蕃																
本島人 生蕃																
外國人																

第二十八表 所帶主ノ種族、住家及住地ノ權利關係ヲ職業及職業上ノ地位ニ分チタル員數（支廳別）

所帶主種族 / 權利關係	總數 總數	總數 地位アル者 總數	總數 地位アル者 獨立	總數 地位アル者 役員	總數 地位アル者 職工其他	總數 地位アル者 家事雇人	總數 地位ナキ者及不詳ノ者	第一款 總數 總數	第一款 總數 地位アル者 總數	第一款 總數 地位アル者 獨立	第一款 總數 地位アル者 役員	第一款 總數 地位アル者 職工其他	第一款 總數 地位アル者 家事雇人	第一款 總數 地位ナキ者	第一款 農業、牧畜、養蠶等	第一款 林業及狩獵	第一款 漁業及製鹽	第二款 總數	第二款 鑛業及冶金業
總數 總數																			
總數 內地人																			
總數 本島人 總數																			
總數 本島人 漢人 總數																			
總數 本島人 漢人 福建																			
總數 本島人 漢人 廣東																			
總數 本島人 漢人 其ノ他																			
總數 本島人 熟蕃																			
總數 本島人 生蕃																			
總數 外國人																			
持地持家																			
持地借家																			
借地持家																			
借地借家																			

アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records

第二十九表 所帶ノ人員ヲ所帶ノ種類及體性ニ分チタル人口（支廳別）

支廳 / 體性		總數	本來所帶 總數											本來所帶 一人	本來所帶 親族所帶	所帶	混合所帶	準所帶 總數	準所帶 宿屋	準所帶 下宿屋
			總數	一人	二人	三人	四人	五人	六人乃至十人	十一人乃至十五人	十六人乃至二十人	二十一人乃至三十人	三十一人以上	人				數	屋	屋
何々	總數																			
	男																			
	女																			

第三十表 種族ヲ體性ニ分チタル人口 (支廳及堡里別)

支廳及堡里	總數 總數	總數 男	總數 女	內地人 總數	內地人 男	內地人 女	本島人 總數 總數	本島人 總數 男	本島人 總數 女	漢人 總數 總數	漢人 總數 男	漢人 總數 女	漢人 福建 男	漢人 福建 女	漢人 廣東 男	漢人 廣東 女	漢人 其ノ他 男	漢人 其ノ他 女	熟蕃 總數	熟蕃 男	熟蕃 女	生蕃 總數	生蕃 男	生蕃 女	外國人 總數 總數	外國人 總數 男	外國人 總數 女	外國人 清國 男	外國人 清國 女	外國人 其ノ他 男	外國人 其ノ他 女	不詳 總數	不詳 男	不詳 女
臺北廳																																		
直轄																																		
大加蚋堡																																		
擺接堡																																		
士林																																		
芝蘭一堡																																		
芝蘭二堡																																		
錫口																																		
大加蚋堡																																		
芝蘭一堡																																		

第五章 檢査及製表

集計原表調製ノ順序

又集計原表調製ノ順序ハ左記ノ如ク定メタリ

集計原表調製順序

凡例

集計原票ヲ作ルハ係長ノ任ナリ係長ニ於テ集計原票ヲ作リ之ヲ分類主任ニ交付ス分類主任ハ分類員ヲシテ之ニ依リテ小票ノ分類ヲ爲シ各分類毎ニ集計票ヲ添ヘ表番號ヨリ分類名稱又ハ符號マテノ記入ヲ爲サシメ集計原票ヲ計票主任ニ交付ス計票主任ハ計票員ヲシテ其ノ計票ヲ爲シ集計票ニ計票枚數ヲ記入セシメ各集計票ヲ該當ノ集計原票ニ挿入添附シ之ヲ記表主任ニ傳送ス記表主任ハ記表員ヲシテ集計原票及ヒ集計票ニ依リテ集計原表ノ記入ヲ爲シ表全體ノ記入ヲ終リタルトキ總數算出ヲ爲サシメ集計原票ヲ係長ニ回送シ各表此ノ手續ニ依リテ製表ヲ終ルモノトス

但シ當初ノ時期ニ在テハ各主任ノ間直接原票ノ授受ヲ爲サス一々係長ヲ經由スルノ制ニ依リシモ徒ニ煩雜ニ亙ルノミニシテ何等ノ必要ナキヲ認メ八月初旬ヨリ之ヲ改メタリ

甲　單名票

採票ニ入ルニ先チ左ノ準備行爲ヲ要ス

一　單名票ヲ男女別ニ分ツコト

二　男女別ノ單名票ヲ調査區毎ニ(一調査區内ニ二以上ノ堡里アルモノハ尙ホ堡里毎ニ)單位票ニテ確定シタル男女數ト照合スルコト

三　單名票ヲ各廳ノ直轄支廳別且ツ堡里別ニ纒ム

第一　第三十表　種族ヲ體性ニ分チタル人口

單名票現在ノ有様

男女別各支廳毎ノ堡里別

一　堡里毎ニ男女各別ニ種族別ノ原票ヲ作ル

二　國籍、原籍地攙出ノ原票ヲ作ル(中途ヨリ追加)

本項ハ第二十表乃至二十三表ノ内地人、外國人ノ數ヲ見ル目的ニシテ第三十表ニハ直接ノ關係ナシ然レトモ實際ハ本島種族ニシテ國籍又ハ原籍ノ記入アリ或ハ内地人又ハ外國人種ニシテ原籍又ハ國籍ノ記入ナキモノアリ斯ノ如ク單名票ヲ所帶票ニ照合スルニ種族ノ誤記ナルモノ多數アリ故ニ此ノ攙出ヲナササリシ初期ニ於テハ後ノ採票ニ至リ其ノ誤謬ナルコトヲ發見シ既ニ記表ヲ了シタル關係表ヲ全部訂正スルカ如キ繁雜ヲ來シタルコトアリ此ノ手數ヲ防カム爲最初ノ分類ニ於テ内地人、外國人ヲ確定スルコトト爲シタリ

三　分類

但シ外國人種族ハ國籍ニ依リ淸國人及其ノ他ノ外國人ニ分類ス

四　計票

五　記表

六　總數算出

七　各種族ヲ廳ニ纒メ集計票ニ依リ其ノ枚數ヲ算出ス(係長)

第二　第八表　言語ノ種類ヲ常用語、副用語、種族及體性ニ分チタル人口

第八表ハ第九表ト類似且密著ノモノナルヲ以テ本順序ヲ變更シ第九表ト同時ニ採票ヲ爲スコトニ改メタルコト第六第九表ノ部ニ記スルカ如シ

單名票現在ノ有様

廳ノ男女及種族ノ細別

一　各種族毎ニ男女各別ニ常用語別ノ原票ヲ作ル

二　分類

三　計票
四　記表
五　總數算出
六　男女各別ニ種族別ニ纏ム
七　男女及各種族毎ニ副用語撰出ノ原票ヲ作ル
八　副用語撰出
九　計票
十　記表
十一　男女及各種族毎ニ副用語種類別ノ原票ヲ作ル
十二　分類
十三　計票
十四　記表
十五　總數算出
十六　副用語別ヲ廢シ(八)ノ撰出殘部ニ合シ男女各別ニ内本外ノ三種族ニ纏ム

第三　第一表　各年齡者ヲ生年種族及體性ニ分チタル人口

第五第十表及第六第八表(第八表ハ初メ第二ナリシモ後ニ第六ト爲リシコト第二ノ冒頭ニ記シタル如シ)ノ種族別ノ手數ヲ省ク爲種族細別ノ儘生年別ヲナシ本島人ハ記表主任ニ於テ補助集計原票ヲ作リ種族細別ヲ合數ノ上記表スルコトニ變更ス

單名票現在ノ有様
總ノ男女及内本外ノ三種族別

一　男女及種族別毎ニ年齡一歳別ノ原票ヲ作ル
二　分類

三　計票
四　記表
五　總數算出

第四　第二表　一歳以下ノ幼兒ヲ月數、種族及體性ニ分チタル人口

單名票現在ノ有様
第三ニ於ケル男女種族及年齡一歳別中ノ一歳及二歳

一　一箇月乃至十二箇月及十二箇月以上別ノ原票ヲ作ル
二　分類
三　計票
四　記表
五　總數算出
六　單名票ヲ一歳二歳ニ纏ム
七　男女及各種族毎ニ年齡ヲ二歳迄六歳迄七歳乃至二十歳ノ各歳別二十一歳乃至七十歳ノ五歳別七十一歳乃至百歳ノ十歳別百一歳以上年齡不詳ノ三十一階級ニ纏ム
八　集計票ニ依リ(七)ノ各年齡階級ノ枚數ヲ算出ス(係長)

第五　第十表　讀ミ書キノ程度ヲ種族、體性及緣事ニ分チタル人口

單名票現在ノ有様
男女種族及年齡三十一階級別

一　本島種族ニ限リ男女及年齡三十一階級毎ニ種族細別ノ原票ヲ作ル
二　分類
三　計票

後ニ至リ第三ノ生年別チ種族細別ノ儘ナスコトトナリ一項乃至三項ノ手續チ省略ス

四　男女種族(細別)及年齡階級每ニ讀ミ書キ程度別ノ原票チ作ル

五　分類

六　計票

七　集計票ニ依リ男女及種族(細別)及讀ミ書キノ程度別ノ各年齡階級ノ補助集計票チ作リ六歲迄、七歲乃至十五歲ノ一歲別、十六歲乃至三十歲ノ五歲別、三十一歲乃至百歲ノ十歲別、百一歲以上、年齡不詳ノ二十二階級トナス

八　補助集計票ニ依リ記表

九　總數算出

十　男女各別ニ年齡チ二歲迄、六歲迄、十歲迄、十一歲乃至二十歲ノ一歲別、二十一歲乃至七十歲ノ五歲別、七十一歲以上年齡不詳ノ二十五階級トナシ種族チ內本外ノ三トナス第二ノ第八表ノ採票手續チ廢スルニ至リテハ尙ホ種族細別チ存ス

第六　第九表　言語ノ種類チ種族、體性及年齡ニ分チタル人口

第八表ハ第九表ト類似シ同時ニ分類計票チ爲シ得ル便宜アルノミナラス時ニ或ハ兩表相符合セサルカ如キ虞アルチ以テ苗栗廳ノ分以後ハ第二ノ第八表採票手續チ省略シ種族細別ノ儘(第八表ハ種族ノ細別チ要ス)常用語全部ニ依テ分類計票チ爲シ卽チ第八表第九表チ同時ニ採票シ記表主任ニ於テ補助集計票チ作リ二表チ作製スルコトニ變更ス

單名票現在ノ有樣

男女種族(內、本、外)及年齡二十五階級

一　用語別ノ原票チ作ル

二　分類

三　計票

四　年齡二歲迄、六歲迄、十五歲迄、二十歲迄、二十一歲以上、不詳ノ六階級ノ補助集計票チ作ル

五　集計票及補助集計票ニ依リ記表

六　總數算出

七　用語別チ廢シ年齡チ十歲迄、十一歲乃至二十歲ノ一歲別、二十一歲乃至七十歲ノ五歲別、七十一歲以上、年齡不詳ノ二十三階級ニ纏ム

第七　第三表　本業者ノ職業及職業上ノ地位チ種族、體性、年齡及緣事ニ分チタル人口

第四表　本業從屬者ノ屬スル職業及職業上ノ從屬關係チ種族、體性、年齡及緣事ニ分チタル人口

單名票現在ノ有樣

男女種族(內、本、外)及年齡二十三階級別

一　本業地位別ノ原票チ作ル

二　分類

三　計票

備考　地位ニ依リ第三表第四表ノ集計票ハ自然識別スルコトチ得

四　記表

五　男女種族(內、本、外)年齡二十三階級及地位別各緣事別原票チ作ル

六　分類

七　計票

八　記表

九　男女種族(內、本、外)年齡二十三階級地位及緣事別ノ各職業中分類(卽チ項別)原票チ作ル

十　分類

十一　計票

十二　記表

備考　（九）ノ一原票毎ニ（十）（十一）（十二）ノ手續ヲナシ其ノ單名票ハ職業中分類ヲ爲シタル儘順次打重ネ行キ年齡階級及緣事ヲ廢シ本業者、本業從屬者ニ分チ職業中分類ニ纒ム

十三　總數算出

第八　第七表（三市街ノ分）ノ一　有業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族及體性ニ分チタル有業數（其ノ一）

單名票現在ノ有樣

男女種族（內、本、外）職業中分類本業人口ノ分

一　市街ノ分ノミヲ撰出スヘキ原票ヲ作ル

二　撰出（監督區調査區番號又ハ堡里番號ニ依ル）

三　計票

四　記表

五　本業地位別ノ原票ヲ作ル

六　分類

七　計票

八　記表

九　各地位ヲ日別トナスヘキ原票ヲ作ル

十　分類

十一　計票

十二　記表

十三　本業者ノ總數算出

十四　副業撰出ノ原票ヲ作ル

十五　撰出

十六　計票

十七　記表

十八　副業地位別ノ原票ヲ作ル

十九　分類

二十　計票

二十一　記表

二十二　副業目別ノ原票ヲ作ル

二十三　分類

二十四　計票

二十五　記表

二十六　副業者ノ本業アル者總數算出

二十七　單名票ハ本業中分類トシ市街撰出殘部ニ合ス

第九　第六表　副業ヲ有スル本業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ副業、種族、體性及緣事ニ分チタル人口

單名票現在ノ有樣

男女種族（內、本、外）職業中分類ニシテ其ノ地位一、二、三、四

一　副業有ルモノノミヲ撰出スヘキ原票ヲ作ル

二　撰出

三　計票

四　記表

五　本業地位別ノ原票ヲ作ル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

六　分類
七　計票
八　記表
九　緣事別ノ原票ヲ作ル
十　分類
十一　計票
十二　記表
十三　本業地位別、緣事身分別ノ副業中分類ノ原票ヲ作ル
十四　分類
十五　計票
十六　記表
十七　總數算出
十八　單名票ハ本業ヲ廢シ身分別副業中分類ニ纏ム

第十　第五表　副業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族、體性、年齡及緣事ニ分チタル人口

單名票現在ノ有樣

男女種族（內、本、外）緣事別ヲナシタル本業者ニシテ副業アルモノノ副業中分類

準備

一　本業從屬者ヨリ副業撰出ノ原票ヲ作ル
二　撰出
三　計票
四　緣事別トナスヘキ原票ヲ作ル
五　分類

六　計票
七　副業中分類トナスヘキ原票ヲ作ル
八　分類
九　計票
十　本業アル副業者ニ合ス

一　副業地位別原票ヲ作ル
二　分類
三　計票
四　記表
五　年齡二十三階級トナスヘキ原票ヲ作ル
六　分類
七　計票
八　記表
九　總數算出
十　單名票ハ本業者、本業從屬者ニ分チ各副業撰出殘部ニ合ス

第十一　第七表（市街地ノ分）ノ二　有業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族及體性ニ分チタル有業數（其ノ二）

單名票現在ノ有樣

第十ノ準備二ニ於テ撰出シタル本業ナキ副業者

一　市街撰出ノ原票ヲ作ル
二　撰出（監督區調査區番號又ハ街里番號ニ依ル）
三　計票

四　記表
五　副業地位別ノ原票ヲ作ル
六　分類
七　計票
八　記表
九　副業目別ノ原票ヲ作ル
十　分類
十一　計票
十二　記表
十三　總數算出
十四　單名票ハ市街撰出殘部ニ合ス

第十二　第十二表　不具ノ種類ヲ種族、體性及職業ニ分チタル人口

單名票現在ノ有樣
男女種族(內、本、外)及職業ノ本業者、本業從屬者ノ別

一　不具者撰出ノ原票ヲ作ル
二　撰出
三　計票
四　本業者ノ分チ從事スルモノニ、本業從屬者ノ分チ屬スルモノニ記表
五　不具ノ種類別ノ原票ヲ作ル
六　分類
七　計票

八　記表
九　職業中分類トナスヘキ原票ヲ作ル
十　分類
十一　計票
十二　記表
十三　單名票ヲ男女種族(內、本、外)及不具ノ種類ニ纏ム

第十三　第十一表　不具ノ種類ヲ種族、體性及緣事ニ分チタル人口

單名票現在ノ有樣
男女種族(內、本、外)及不具ノ種類別

一　緣事別ノ原票ヲ作ル
二　分類
三　計票
四　記表
五　本島人ノ種族細別ノ原票ヲ作ル
六　分類
七　計票
八　記表
九　總數算出
十　單名票ハ男女種族(內、本、外)及不具ノ種類ニ纏ム

第十四　第十三表　不具ノ種類及原因ヲ種族、體性及年齡ニ分チタル不具數

單名票現在ノ有樣

不具者ノ男女種族及種類別

一　年齢一歳乃至五歳ノ各歳別、十歳迄、十一歳乃至七十歳ノ十歳別、七十一歳以上、年齢不詳ノ十四階級トナスヘキ原票ヲ作ル

二　分類

三　計票

四　各年齢階級別ニ不具ノ原因別ノ原票ヲ作ル

五　分類

但シ二種以上ヲ兼ネタルモノハ先ツ第一種ニ依リ分類シ第二種以下ハ各種類ノ原因毎ニ分類主任ニ於テ其ノ集計票ノミヲ作リ其ノ單名票ニ添附シ置クヘシ

六　計票

但シ二種以上ヲ兼ネタルモノアレハ各種類毎ニ之ニ添附ノ集計票ニ記入ヲ要ス

七　記表

八　總數算出

九　單名票ヲ本業者、本業從屬者ニ分チ第十二ノ二ニ於ケル不具者撰出殘部ト合シ男女種族(內、本、外)別ニ纏ム

第十五　第十五表　阿片煙膏吸食者ヲ種族、體性及職業ニ分チタル人口

第十五表ハ當初ハ第十四表ノ後ニ採票セシモ單名票カ本業者ト本業從屬者トニ分タレアルヨリ職業ノ本表ヲ先ニスルヲ便トシ之ヲ改メタリ

單名票現在ノ有樣

男女種族(內、本、外)及本業者、本業從屬者ノ別

一　本島人及清國人ノ中ヨリ阿片煙膏吸食者撰出ノ原票ヲ作ル

二　撰出

三　計票

四　記表

五　本島人種族細別ノ原票ヲ作ル

六　分類

七　計票

八　記表

九　職業中分類ノ原票ヲ作ル

十　分類

十一　計票

十二　記表

十三　總數算出

十四　單名票ヲ男女、本島人種族細別及清國人ニ纏ム

第十六　第十四表　阿片煙膏吸食者ヲ種族、體性、年齢及緣事ニ分チタル人口

單名票現在ノ有樣

阿片煙膏吸食者ノ本島人種族ノ細別及清國人ノ男女別

一　身分別ノ原票ヲ作ル

二　分類

三　計票

四　記表

五　年齢八階級別ノ原票ヲ作ル

アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records

六　分類

七　計票

八　記表

九　總數算出

十　單名票ハ第十五ノ二ニ於ケル撰出殘部ト合シ男女種族(内、本、外)及本業者、本業從屬者トナス

第十七

第十七表　纒足者ヲ種族及職業ニ分チタル人口

第十九表　解纒足者ヲ種族及職業ニ分チタル人口

第十七表及第十九表ハ當初第十六表及第十八表ノ後ニ採票セシモ單名票カ本業(ト本業從屬者トニ分タレアルヨリ職業ノ本表ヲ先ニスルヲ便トシ之ヲ改メタリ

單名票現在ノ有樣

本業者、本業從屬者ニ分チタル本島人及淸國人ノ女

一　纒足及解纒足ヲ撰出スヘキ原票ヲ作ル

二　纒足及解纒足ヲ各別ニ撰出

三　計票

四　本島人種族ノ細別ト爲スヘキ原票ヲ作ル

五　分類

六　計票

七　記表

八　職業中分類トナスヘキ原票ヲ作ル

九　分類

十　計票

十一　纒足ノ分チ第十七表ニ解纒足ノ分チ第十九表ニ記表

十二　總數算出

十三　單名票ヲ纒足、解纒足各別ニ本島人種族ノ細別及淸國人ニ纒ム

第十八　第十六表　纒足者ヲ種族、年齡及緣事ニ分チタル人口

單名票現在ノ有樣

本島人種族ノ細別及淸國人ノ纒足者

一　緣事別ノ原票ヲ作ル

二　分類

三　計票

四　記表

五　年齡階級別ノ原票ヲ作ル

六　分類

七　計票

八　記表

九　總數算出

十　單名票ハ分類シタル儘順次積重ネ第十七ノ二ノ撰出殘部ニ合ス

第十九　第十八表　解纒足者ヲ種族、年齡及緣事ニ分チタル人口

單名票現在ノ有樣

本島人種族ノ細別及淸國人ノ解纒足者

一　緣事別ノ原票ヲ作ル

二　分類

三　計票

アジア歴史資料センター

四　記表

五　年齡階級別ノ原票ヲ作ル

六　分類

七　計票

八　記表

九　總數算出

十　單名票ハ分類シタル儘順次積重ネ第十七ノ二ノ撰出殘部ニ合ス

第二十　第二十表　最初渡臺ノ內地人ヲ渡臺ノ年次、體性、職業及職業上ノ地位ニ分チタル人口

單名票現在ノ有樣

男女別ヲナシタル內地人種族

一　原籍撰出ノ原票ヲ作ル

二　原籍ナキモノヲ撰出シ之ヲ省ク

三　本島人外國人種族ニシテ原籍アルモノヲ合ス

四　最初渡臺ノ年次別ノ原票ヲ作ル

五　分類

六　計票

七　記表

八　職業ノ地位ヲ獨立、非獨立、無業家族、家事雇人ニ分ツヘキ原票ヲ作ル

九　分類

十　計票

十一　記表

十二　職業中分類ノ原票ヲ作ル

十三　分類

十四　計票

十五　記表

十六　總數算出

十七　單名票ハ男女各別ニ纏ム

第二十一　第二十一表　二回以上渡臺ノ內地人ヲ渡臺ノ年次、體性、職業及職業上ノ地位ニ分チタル人口

一　第二十ノ九項ニ於テ一地位每ニ項別ヲナシタル時直ニ最後ノ渡臺ノ年ヲ撰出シ之ヲ款ニ纏メタル後最後ノ渡臺ノ年次ニ分類ス

二　計票

三　記表

四　總數算出

第二十二　第二十二表　內地人ヲ出生地、原籍地及體性ニ分チタル人口

單名票現在ノ有樣

國籍ニ依ル內地人ノ男女別

一　原籍別ノ原票ヲ作ル

二　分類

三　計票

四　記表

五　出生地別ノ原票ヲ作ル

六　分類

七　計票
八　記表
九　總數算出
十　單名票ハ分類シタル儘順次積重ネ一纏トナス
　第二十三　第二十三表　外國人ヲ國籍及體性ニ分チタル人口
單名票現在ノ有樣
　男女別ヲナシタル外國人種族
一　國籍攢出ノ原票ヲ作ル
二　國籍ナキモノヲ攢出シ之ヲ省ク
三　內地人本島人種族ニシテ國籍アルモノヲ合ス
四　國籍別ノ原票ヲ作ル
五　分類
六　計票
七　記表
八　總數算出
九　單名票ハ分類シタル儘順次積重ネ一纏トナス
十　一廳ノ單名票ヲ總テ一纏トナス
　第二十四　第七表（廳別ノ分）有業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族及體性ニ分チタル有業數
　　本表ハ追加ノ採票ニ係ルヲ以テ單名票ノ有樣其ノ他ノ事情ニ於テ他諸表ノ
　　例ニ依ラス特別ノ手續ヲ用キタリ
一　本業地位別及本業目別ノ原票ヲ作ル

二　分類
三　計票
四　本業者ニシテ副業アル者ノ副業地位別及目別ノ原票ヲ作ル
五　分類
六　計票
七　本業ナキ副業者ノ地位別及目別ノ原票ヲ作ル
八　分類
九　計票
十　本表全部記表
　乙　單位票
　　第一　第二十九表　所帶ノ人員ヲ所帶ノ種類及體性ニ分チタル人口
　　第一　第二十六表　准所帶ヲ其ノ種類ニ分チタル員數
單位票現在ノ有樣
　調査區毎ニ靑色小票ヲ添ヘ帶紙ヲナシタルモノ各支廳別
備考
　帶紙記載ノ枚數ト檢査係ヨリ送付ノ單位票確定數トノ照合、帶紙記載ノ枚數ト單位票實數トノ照合、單位票記載ノ總數及男女數ヲ各別ニ合計シ之ニ添附ノ靑色小票記載ノ總數及男女數トノ照合及住居ト所帶トノ關係調等ハ既ニ結了セリ
一　所帶ノ種類別原票ヲ作ル
　但シ帶紙ト其ノ靑色小票トハ之ヲ合シテ一支廳毎ニ一括トナシ係長ニ提出スヘシ
二　分類
三　計票
四　准所帶ノ種類別符合ヲ附ス

五　所帶ノ種別中親族、混合ノ二ハ人員別（第二十九表）ニ准所帶ハ准所帶ノ種類別（第二十六表）トナスヘキ原票ヲ作ル

六　分類

七　計票

八　第二十六表記表

九　總數及男女數算出ノ原票ヲ作ル

十　算出

十一　所帶各種類ノ總數及男女數ヲ各別ニ合計シテ其ノ支廳ノ總數及男女數ニ照合

十二　記表

十三　總數算出

十四　單位票中准所帶ハ一括トシ其ノ他ハ現在分類ノ儘保存ス

第二　第二十五表　本來所帶ヲ所帶ノ種類及種族ニ分チ一人所帶ヲ種族ニ分チタル員數

單位票現在ノ有樣

一人所帶、親族及混合兩所帶ノ人員階級別

一　所帶主ノ種族別原票ヲ作ル

二　分類

三　計票

四　記表

五　總數算出

六　單位票ハ人員階級ヲ廢シ所帶ノ種別及所帶主ノ種別ニ纒ム

第三　第二十七表　混合所帶（本來所帶中ノ）ヲ所帶ノ構成及種族ニ分チタル員數

單位票現在ノ有樣

混合所帶ノ所帶主ノ種族別

一　所帶構成別ノ原票ヲ作ル

二　分類

三　計票

四　記表

五　總數算出

六　單位票ヲ所帶主ノ種族ニ纒ム

第四　第二十八表　住家及住地ノ權利關係ヲ所帶主ノ種族、職業及職業上ノ地位ニ分チタル員數

單位票現在ノ有樣

所帶主ノ種族ニ依リ分チタル一人所帶、親族及混合ノ兩所帶

一　住家以外撰出ノ原票ヲ作ル

二　住家以外ヲ撰出シ之ヲ省ク

三　一人、親族、混合ノ三所帶ヲ所帶主ノ種族ニ依リ合ス

四　住家及住地ノ權利關係ニ分ツヘキ原票ヲ作ル

五　分類

六　計票

七　記表

八　所帶主ノ職業ノ地位別ノ原票ヲ作ル

九　分類

十　計票
十一　記表
十二　所帶主ノ職業中分類ニ分ツヘキ原票ヲ作ル
十三　分類
十四　計票
十五　記表
十六　總數算出
十七　單位票ハ分類ノ儘一括トス

單位票現在ノ有様

第五　第二十四表　住居ノ種類ヲ所帶ノ種類及所帶數ニ分チタル員數

各支廳別

一　一住居中ノ所帶數又ハ一所帶中ノ住居數欄ニ數字ヲ記入シタルモノノミヲ撰出スヘキ原票ヲ作ル
二　撰出
三　一所帶一住居、二所帶以上一住居及一所帶二住居以上ノ三種ニ別ツヘキ原票ヲ作ル
四　分類
五　計票
六　記表
七　住家、船舶、其ノ他ニ分ツヘキ原票ヲ作ル
八　分類
九　計票

成績

十　記表
十一　二所帶以上一住居ニ在リテハ所帶階級ニ一所帶二住居以上ニ在リテハ住居數ニ分ツヘキ原票ヲ作ル
十二　分類
十三　計票
十四　記表(二所帶以上一住居ノ分ノミ)
十五　本來所帶、准所帶、本來所帶及准所帶ノ三ニ分ツヘキ原票ヲ作ル
十六　分類
十七　計票
十八　一所帶一住居及二所帶以上一住居ノ分ノミ記表
十九　一所帶二住居以上ノ分ハ各分類ノ所帶數ニ其ノ住居數ヲ乘シタル數即住居數ヲ算出スヘキ原票ヲ作ル
二十　算出
二十一　記表
二十二　總數算出
二十三　單位票ハ一支廳毎ニ現在分類ノ儘順次積重ネ一括トナス

而シテ單位票ハ明治三十九年十一月十四日單名票ハ四十年二月二十六日全部其ノ記表ヲ了ヘタリ其ノ成績左ノ如シ

所帶單位票及單名票集計成績

種別	著手年月日	結了年月日	期間	從事人員 最多時人員	從事人員 延人員
單位票分類計票	明治三十九年六月二十六日	明治三十九年九月二十九日	九六日	八三	八、三三六
單名票分類計票	同	同　四十年一月十九日	二〇八		
單位票記表	同	同　三十九年十一月十四日	一四二	五三	三、九〇六
單名票記表	同	同　四十年二月二十六日	二四六		

記表ニハ全島表ノ算出ヲ含ム

原表ノ檢査ハ先ツ事項ノ檢査ヲ爲シ然ル後各關係表トノ對照ヲ了シ最後ニ其ノ檢算ヲ施セリ而シテ單位票ヨリ成ル六種ノ原表ノ檢査ハ明治三十九年九月十八日著手シ同年十一月十五日終了單名票ヨリ成ル二十四種ノ原表檢査ハ同年十一月十七日著手四十年三月八日結了セリ其ノ成績左ノ如シ

原表檢査ノ成績

種別	著手年月日	結了年月日	期間	從事人員 最多時人員	從事人員 延人員
單位票原表檢査	明治三十九年九月十八日	明治三十九年十一月十五日	五九日	一三	四二五
單名票原表檢査	同　年十一月十七日	同　四十年三月八日	一一三		

第三　整表

各種ノ原表ハ取扱上ノ便宜ト保存上ノ必要トニ依リテ之ヲ一定ノ形體及大小ト爲シ且用紙ニ裏打ヲ爲スコトトシ明治四十年二月十二日之ニ著手シ同年十二月十四日之ヲ完了セリ最初一名ノ職工ヲ以テ從事セシメ同年六月二十日ニ至リ又一名ヲ增シ同年九月二日更ニ一名ヲ增シ三名ト爲セリ其ノ間月ヲ閱スルコト十一箇月延日數九二一日延時間ハ六、〇九八時ナリ今事務ノ順序及功程ノ概況ヲ左ニ略序セム

一　編綴ノ形體及大小

集計原表ハ其ノ數三十種ニシテ各表其ノ內容ハ勿論樣式亦概ネ異ナルヲ以テ大小不同ニシテ保管上ノ不便少カラス依リテ各表ノ大小ヲ一定スルノ要アリ卽チ之ヲ所帶票ノ幅員ト均カラシメ縱一尺七寸五分橫一尺二寸五分トシ表ノ內容ト樣式トニ依リテ縱綴橫綴ノ二種ニ區分セリ其ノ表名及冊數左ノ如シ

縱綴ト爲セシ者

第一表	第九表	第十一表	五冊
第二十五表	第二十七表		

橫綴ト爲セシ者

第二表	第三表	第四表	一八五冊
第五表	第六表	第七表	
第八表	第十表	第十二表	
第十三表	第十四表	第十五表	
第十六表	第十七表	第十八表	
第十九表	第二十表	第二十一表	
第二十二表	第二十三表	第二十四表	
第二十六表	第二十八表	第二十九表	
第三十表			

二　編綴册數

一表ヲ一册ニ編綴スルハ整理上望ムヘキ所ナリト雖各表概ネ浩瀚ニシテ分綴ノ止ムヲ得サルモノアリ而シテ各表ノ大小一ナラサルニ依リ各表編綴ノ册數ニ多少アリ卽チ全島ヲ通シテ一册ニ編綴シ得ヘキモノアリ或ハ一表ヲ各廳每ニ分綴シ全島表ヲ合シテ二十一册トナスモノアリ或ハ數廳ヲ合シテ一册ト爲シ一表ヲ五册ニ分綴スヘキモノアリテ其ノ結果ハ總册數百九十册ト爲レリ卽チ左ノ如シ

整表目錄

表番號	表題	册數	摘要
第一表	各年齡者ヲ生年、種族及體性ニ分チタル人口	一	全島及各廳合綴
第二表	一歲以下ノ幼兒ヲ月數、種族及體性ニ分チタル人口	一	同
第三表	本業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族、體性、年齡及緣事ニ分チタル人口	二一	全島及各廳分綴
第四表	本業從屬者ノ屬スル職業及職業上ノ從屬關係ヲ種族、體性、年齡及緣事ニ分チタル人口	二一	同
第五表	副業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族、體性、年齡及緣事ニ分チタル人口	二一	同
第六表	副業ヲ有スル本業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ副業、種族、體性及緣事ニ分チタル人口	四二	全島及各廳ヲ各二册ニ分綴
第七表	有業者ノ職業及職業上ノ地位ヲ種族及體性ニ分チタル有業數	二四	全島及各廳分綴一册 三市街(臺北、臺中、臺南)各一册
第八表	常語ノ種類ヲ常用語、副用語、種族及體性ニ分チタル人口	一	全島及各廳合綴
第九表	盲語ノ種類ヲ種族、體性及年齡ニ分チタル人口	一	同
第十表	讀ミ書キノ程度ヲ種族、體性及年齡ニ分チタル人口	一	同
第十一表	不具ノ種類ヲ種族、體性及緣事ニ分チタル人口	一	同
第十二表	不具ノ種類ヲ種族、體性及職業ニ分チタル人口	五	全島及各廳分綴
第十三表	不具ノ種類及原因ヲ種族、體性及年齡ニ分チタル不具數	一	全島及各廳合綴
第十四表	阿片烟膏吸食者ヲ種族、體性、年齡及緣事ニ分チタル人口	一	同
第十五表	阿片烟膏吸食者ヲ種族、體性及職業ニ分チタル人口	一	同
第十六表	纏足者ヲ種族、年齡及緣事ニ分チタル人口	一	同
第十七表	纏足者ヲ種族及職業ニ分チタル人口	一	同
第十八表	解纏足者ヲ種族、年齡及緣事ニ分チタル人口	一	同
第十九表	解纏足者ヲ種族及職業ニ分チタル人口	一	同
第二十表	最初渡臺ノ內地人ヲ渡臺ノ年次、體性、職業及職業上ノ地位ニ分チタル人口	五	全島及各廳分綴
第二十一表	二回以上渡臺ノ內地人ヲ渡臺ノ年次、體性、職業及職業上ノ地位ニ分チタル人口	五	同
第二十二表	內地人ヲ出生地、原籍地及體性ニ分チタル人口	五	同
第二十三表	外國人ヲ國籍及體性ニ分チタル人口	一	全島及各廳合綴
第二十四表	住居ノ種類ヲ所帶ノ種類及所帶數ニ分チタル員數	一	同
第二十五表	本來所帶ヲ所帶ノ種類及種族ニ分チ一人所帶ヲ種族ニ分チタル員數	一	同
第二十六表	准所帶ヲ其ノ種類ニ分チタル員數	一	同
第二十七表	混合所帶(本來所帶中ノ)ヲ所帶ノ構成及種族ニ分チタル員數	一	同
第二十八表	住家及住地ノ權利關係ヲ所帶主ノ種族、職業及職業上ノ地位ニ分チタル員數	二一	全島及各廳分綴
第二十九表	所帶ノ人員ヲ所帶ノ種類及體性ニ分チタル人口	一	全島及各廳合綴
第三十表	種族ヲ體性ニ分チタル人口	一	同

三　方法及順序

原表ハ元來非常ニ長大ナルヲ以テ集計上ノ便宜ニ依リテ縱橫共ニ適當ノ大サニ切斷編綴セルヲ以テ其ノ總枚數ハ實ニ七萬ヲ算セリ今之ヲ一定ノ形體及大小ニ整理セムトセハ各種ノ原表ハ悉ク先ツ個々別々ニ其ノ編綴ヲ解除セサルヘカラス而シテ各表共ニ必ス整表著手前

更ニ從前編綴上過誤ノ有無ヲ檢査シ而シテ後切斷スヘキ箇所及接合スヘキ箇所トヲ調査シ其ノ切斷スヘキ箇所ニハ之ニ符號ヲ記シ接合スヘキ箇所ニハ都テ番號ヲ附セリ而シテ其ノ番號ハ分チテ主番號及從番號ノ二種ト爲シ主番號ハ悉ク從前帖附セシ縱横列ノ番號ヲ直ニ移記シ之ヲ基礎トシテ從番號ヲ設ケ接合スヘキ箇所ヲ示スト同時ニ整表前後ノ關係ヲ確實ニシ必要ノ場合ニ於テハ直ニ從前ノ編綴ニ復舊スルニ支障ナカラシメ且整表檢査ニ當リ過誤發見ノ指針ニ供セリ之ヲ整表準備ノ事務ト爲シ以上準備事務ヲ終リタル後初テ之ヲ職工ニ交付シ而シテ職工ノ從事スヘキ作業ヲ分チテ左ノ五種ト爲ス

イ　切斷　ロ　接合　ハ　裏打　ニ　製本準備　ホ　製本

イ　切斷

切斷トハ所定ノ形體及大小ニ整表セムトスル第一歩ノ作業ニシテ記入セラレタル切斷符號ニ依リテ切斷スルモノヲ謂フ此ノ作業ハ事甚輕易ナルカ如キモ實際ニ於テハ之ニ反シ假令一表ヲ一時ニ切斷シ得サルモ數十枚乃至數枚ヲ同時ニ切斷シ得ハ事敢テ困難ナラサルモ僅カニ二枚ヲ重ヌルモ既ニ切斷スルコトヲ得ス必ヤ一枚毎ニ之ヲ切斷セサル可ラス何トナレハ偶〻些少ノ注意ヲ缺キ切斷口ノ正カラサルモノアラムカ表中記入ノ數字ヲ損スルノ虞アリ又其ノ接合正カラス境界線灣曲シ爲ニ豫想外ノ手數ト時間トヲ費シタリ

ロ　接合

既ニ切斷セシモノヲ既定ノ形體及大小ニ接合スルニ當リ表ノ種類ニ依リテ接合箇所ノ數ニ多少アルハ勿論ニシテ少クモ縱横ノ接合箇所ヲ合スレハ毎紙三四箇所ヲ下ラスシテ其ノ手數少カラス加フルニ原表ニ用キタル紙質不同ナルト界線間隔ノ均一ナラサルモノアリシトハ著シク作業ノ進捗ヲ妨ケタリ

ハ　裏打

主トシテ保存上ノ必要ニ依リ裏打ヲ爲スモノニシテ本紙ハ前段ニ述ヘタルカ如ク縱横數箇所ノ接合ヨリ成レルヲ以テ之ヲ普通ノ裏打作業ニ比シテ困難ナルハ敢テ贅言ヲ要セサルモ裏打用紙（機造紙六十斤）ノ稍〻薄キニ過キタルト乾燥ニ意外ノ手數ト時間トヲ要シタルハ作業ノ進捗ニ少カラサル影響ヲ及ホシタリ

因ニ記ス裏打用ノ糊ハ如何ナルモノヲ用ウルカハ最先ニ研究スヘキ問題ニシテ理想トシテハ鼠族及蟲類ノ害ヲ防クハ勿論紙質ヲ損セス衞生ニ害ナキモノナラサルヘカラス從來慣用ノ製造法ニ種々アリト雖孰モ一得一失アルヲ免レス依リテ專問家ニ謀リ他ノ實驗ニ徵シ生麩ニ柿澁及「サルチルサン」ヲ混シテ製造スルノ比較的勝レルコトヲ認メ之ヲ用ヰルコトトシタリ

ニ　製本準備

各種ノ原表ハ切斷及接合ノ作業ヲ經テ裏打ヲ了スルモ未タ直ニ製本スルコト能ハス蓋シ原表ハ既ニ所定ノ形體及大小ニ調製セラレタルモ毎紙縱横數箇所ノ接合ヲ爲シタルト裏打ヲ爲シタル爲用紙ノ四邊悉ク凸凹ヲ生セリ而シテ頭部以外ノ三邊ハ編綴ヲ了シタル後ニ於テ切斷スルヲ得ヘキモ獨リ頭部ハ製本ニ先チテ劃一ニ切斷セサレハ臺紙ニ附著セシムルコトヲ得ス而モ又必ス一枚毎ニ切斷セサルヘカラス將又原表用紙ハ裏打ヲ爲シタル

爲四邊甚シク收縮セリ之ヲ平滑ナラシムルニ非サレハ臺紙上ニ堆積セシムルコトヲ得ス而シテ此ノ作業亦一枚毎ニ之ヲ施行セサルヲ得ス實ニ各表各冊悉ク此ノ種ノ準備作業ヲ要シ豫期以外ノ手數ト多大ノ時間トヲ費シタリ

ホ　製本

所定ノ形體及大小ニ整理シタル各種ノ原表ヲ所定ノ冊數ニ編綴スルハ普通ノ製本作業ト異ナルコトナキモ各種ノ原表ハ其ノ枚數ノ多少ヲ論セス其ノ接合箇所一表悉ク其ノ位置ヲ同ウセルヲ以テ編綴スルニ當リテ接合箇所ハ著シク凸起セルカ爲ニ表側ノ三邊ヲ切斷セムトスルヤ定規ヲ密著セシムルコトヲ得ス故ニ凹處ニ紙片ヲ挾ミテ稍〻平坦トナシ僅カニ切斷ヲ得タリ

四　模型及索引

原表ハ縱横列共ニ少クモ數箇多キハ數十箇ニ切斷シテ之ヲ堆積シタルヲ以テ頗ル浩瀚ト爲リ其ノ組織亦複雜ナリ是ヲ以テ各冊共ニ表紙ノ裏面ニ其ノ表ノ模型ト索引トヲ附シ開卷先ツ之ニ依リテ其ノ表ノ組織ヲ察知シ索引ニ依リテ所要事項ノ觀覽ノ便ニ供セリ即チ左圖ノ如シ

表紙圖面

表紙表面

明治三十八年
臨時臺灣戸口調査
集計原表
第二表
一歳以下ノ幼兒ヲ月數、種
族及體性ニ分チタル人口

全島及各廳
臨時臺灣戸口調査部
表紙ヲ除キ紙數二一枚

表紙裏面

本表ノ模型及索引

		總數	一箇月	二箇月	三箇月	四箇月	五箇月	六箇月	七箇月	八箇月	九箇月	十箇月	十一箇月	十二箇月	不詳
イ	全島							1							
ロ	臺北							2							
ハ	基隆							3							
ニ	宜蘭							4							
ホ	深坑							5							
ヘ	桃園							6							

イ縱列（ロ縱列以下同シ）

全島	總數	總數
		男
		女
	內地人	男
		女
	本島人	男
		女
	外國人	男
		女

五 從事人員及所要日時

使役セシ職工ハ都合三名ニシテ内一名ハ明治四十年二月十二日、一名ハ同年六月二十日、一名ハ同年九月二日ノ採用ニ屬ス而シテ整表ニ著手セシハ明治四十年二月十二日最初職工採用ト同時ニ著手シ爾後著々事務ノ進捗ヲ企圖シ來リシモ普通ノ勤務時間ノミヲ以テシテハ到底急速ニ事務ヲ結了セシムルコト能ハサルヲ認メシニ依リ同年八月二十九日ヨリ日曜祝祭日等ノ公暇ヲ全廢シ尚平日ニ於テモ三時間宛ノ時間外勤務ヲ命セリ斯ノ如クシテ同年十二月十四日ニ至リ始テ事務全般ノ結了ヲ見ルヲ得タリ今其ノ著手ヨリ終了ニ至ル所要ノ日時ヲ算出スルニ左表ノ如シ

整表成績

月次	普通勤務 就業延日數	普通勤務 就業延時間	時間外勤務 就業延日數	時間外勤務 就業延時間	計 就業延日數	計 就業延時間
二月	一七	一三六	—	—	一七	一三六
三月	三一	二四八	—	—	三一	二四八
四月	三〇	二四〇	—	—	三〇	二四〇
五月	三一	二四八	—	—	三一	二四八
六月	四一	三二八	—	—	四一	三二八
七月	六一	四八八	—	—	六一	四八八
八月	六二	四九六	六	一八	六八	五一四
九月	八九	七一二	八二	二九一	一七一	一,〇〇三
十月	九三	七四四	八八	三三九	一八一	一,〇八三
十一月	八七	六九六	七九	二八二	一六六	九七八
十二月	九二	七三六	三二	九六	一二四	八三二
計	六三四	五,〇七二	二八七	一,〇二六	九二一	六,〇九八

本表普通勤務中ニハ日曜祝祭日ノ百二十三日(九百八十四時間)ヲ包含セリ

六 經費

整表ニ直接要シタル經費ハ其ノ總額九百八十四圓九十四錢ニシテ之ヲ製本原表ノ總冊數百九十冊ニ割當ツレハ平均一冊ニ付五圓十八錢四厘ヲ費シタル計算ナリ若夫事務ニ關與セシ本部職員ノ俸給等ヲ打算セハ其ノ額決シテ僅少ノモノニ非ス直接費ノ內譯左表ノ如シ

整表直接費

費途	金額	費途	金額
俸給	五三一・二〇〇円	器械器具費	二五・七三〇円
時間外勤務料	一一五・六五〇	材料品費	二三五・三六〇
年末賞與金	五三・〇〇〇	計	九八四・九四〇
特別賞與金	二四・〇〇〇		

七 整理

整表中又ハ整表後ニ於テ本部職員ノ從事シタルモノ凡左ノ如シ

イ 接合及編綴方檢査

事務ノ監督上當然ノ事ニ屬シ特記スヘキコトナシ

ロ 縱橫列番號ノ改訂

原表ハ整表ノ結果第二十八表ノ從前九横列ナリシモノノ十三横列トナリシ外概ネ縦横列共其ノ數ヲ減少セリ隨テ從前帖付セシ縦横列ノ番號ハ又概ネ不用ニ歸セシヲ以テナリ

ハ　廳名及支廳名等ノ記入

原表ハ專ラ集計ノ便宜ニ從ヒ數字ノ番號ヲ用ヰ來リシヲ以テ此ノ際現實ノ名稱ニ改定スルノ必要アリシニ由ル

第三節　倉庫

倉庫内ノ整理

倉庫内ニハ大小二十二個ノ棚架ヲ設ケ各五段若ハ六段ニ區劃シ上二段ヲ單位票及單名票其ノ他ヲ所帶票ノ格納ニ充テ地方廳監督區順ニ納置シ一見其ノ所在ヲ明ナラシメ出入ニ便ニセリ而シテ此ノ出入ハ專任者ヲ置キテ從事セシメ何人ト雖規定ノ手續ニ依リ主任者ヨリ交付ヲ受ケ若ハ納入スルノ外猥ニ倉庫内ニ出入スルコトヲ嚴禁シ其ノ紛失及混雜ヲ防ケリ明治四十年二月集計ノ事務大半結了シ倉庫内ノ出入又漸ク緩トナリ專任者ノ必要ナキニ至リタルヲ以テ爾後倉庫ハ常ニ鎖錠ヲ施シ必要ノ場合ニ開閉スルコトトセリ

所帶票ノ處分

所帶票ノ處分　集計ノ事務既ニ結了シ各種ノ統計表亦逐次出版公布シ所帶票保存ノ必要ナキニ至レリ蓋シ所帶票ハ海外諸國ニ於テハ調査結了後之ヲ燒棄スルノ慣例アルモ要ハ所帶票ヲ調査以外ノ目的ニ使用セサル事ニ限定シ人民ヲシテ安シテ事實ヲ申告セシムルノ精神ニ外ナラス然レトモ本島ニ於テハ其ノ趣ヲ異ニスル所アリ且最初ノ調査ニシテ戸口簿ノ歷史上ニ多大ノ參考トモナルヘキニ付之ヲ其ノ主管廳ニ於テ保存セシムルノ計畫アリシモ各

廳ニ於テ保管上困難ノ事情アリシヲ以テ後來ノ參考トシテ普通調査區ニ在リテハ各廳一調査區以上此ノ調査區數三十一又特別調査區ニ在リテハ一種類宛此ノ種類四ヲ保存シ其ノ他ハ要部ヲ切斷燒棄シ他ハ之カ利用ノ途ヲ講セリ

保存シタル所帶票

將來ノ參考トシテ保存シタル所帶票左ノ如シ

普通調査

廳	監督區	調査區	區域
臺北	二	六	臺北城内東門街（内地人所帶）
基隆	八	一	基隆港内（船舶）
	一五	六	武丹坑金山
宜蘭	一	一	宜蘭街
	二九	一	叭哩沙（熟蕃部落）
深坑	二〇	一	蕃地（隘勇線前進隊）
桃園	三五	三	桃澗堡三座屋庄（全島最大ノ所帶）
新竹	四〇	三	蕃地（化蕃部落）
苗栗	二一	一	大甲街（女子内職大甲帽製造）
臺中	三三	三	葫蘆墩街
	三三	四	
	三七	三	岸裡社（熟蕃部落）
彰化	二四	一	鹿港街
南投	二三	二	埔里社街
斗六	一九	一〇	沙連堡小半天庄（山ノ手所帶）

廳	監督區	調査區	區域
嘉義	一八	六	打猫東頂堡大草埔庄（製紙）
鹽水港	五	五	布袋嘴庄（製鹽）
臺南	一	三	臺南市大人廟街（土人所帶）
	一五	一	安平街（外國人雜居）
蕃薯寮	一〇	三	甲仙埔（製腦）
	一二	九	蕃地（蕃害ノ爲調査遲延）
鳳山	二	一	橋仔頭庄（製糖）
	一二	六	打狗
阿緱	一四	九	琉球嶼
恒春	四	三	龜仔角（化蕃部落）
	七	一	蚊蟀庄（熟蕃部落）
臺東	一	七	卑南社（プユマ族部落）
	八	一〇	成廣澳（アミス族部落）
澎湖	一	一	媽宮街
	一二	四	網垵澚將軍澚（極西ノ地）

特別調査區

臺南
- 領事館
- 監獄
- 醫院
- 陸軍

單名票及所帶單位票ノ處分

單名票及所帶單位票ノ處分　集計ノ事務結了シ單名票及所帶單位票ノ保存亦其ノ要ナキニ至リタルヲ以テ明治四十年十二月十七日之ヲ廢棄處分ヲ爲セリ

要計表ノ保存

要計表ノ保存　要計表ハ普通調査區タルト特別調査區タルト將又監督委員要計表タルト調査委員要計表タルトヲ問ハス一廳一括トシテ裝釘ノ上全部保存セリ

要旨

調査ノ方法、機關及種類

報告規程其ノ他

第六章　人口動態

人口ノ靜態調査ト動態調査トハ其ノ性質異ナリト雖兩々相待テ始テ完全ノ用ヲ爲スモノナリ殊ニ靜態調査ニシテ一度完全ナルニ至ラハ年々地方ニ於テ不完全ノ靜態調査ヲ反覆セス正確ノ基礎ニ其ノ正確ノ異動ヲ加除シテ算定人口ヲ得ルノミナラス且異動ノ結果ヲ明ニスルヲ得ヘシ從來本島ニ於ケル動態人口ノ信ヲ措クニ足ラサルハ其ノ原因一ニシテ足ラサルヘシト雖調査ノ方法宜シキヲ得サル亦其ノ一强因タラスムハ非ス依リテ第一回戶口調査施行後卽チ三十八年十月一日以後ハ人口動態調査モ亦本部ノ一事業トシテ具體的調査ヲ爲スニ至レリ

本島ノ人口動態調査ハ大體其ノ範ヲ內地ノ現行法ニ採リ小票式ヲ用キ中央集査ノ方法ニ依リタリト雖事情ノ稍〻異ナルモノアリ卽チ其ノ調査機關ハ警察系統ニ依リタルト本島ニ於テハ動態ノ事實ニ轉住ヲ加ヘタルト是ナリ

人口動態報告規程ハ左ノ如シ但シ人口動態ニ關シテ此ノ他ノ諸法規ヲ知ラムト欲セハ明治三十八年及同三十九年ノ臺灣人口動態統計ノ附錄ニ就テ見ルヘシ

◎訓令第二百二號（明治三十九年三月訓令第四十一號、同年四月訓令第七十九號、四十年十月訓令第百八十一號及四十一年五月訓令第八十二號ヲ以テ改正）

民政部
臨時臺灣戶口調査部
廳

人口動態報告規程左ノ通相定ム

明治三十八年九月十九日　臺灣總督男爵兒玉源太郎

人口動態報告規程

第一條　人口動態報告ハ生產（棄子ヲ含ム）死產、死亡、結婚（婿養子緣組、入夫、招夫等ノ婚姻ヲ含ム）離婚（婿養子、入夫、招夫等ノ離婚ヲ含ム）及轉住ノ六種トス

第二條　人口動態報告ハ別記樣式ノ小票ヲ用キ警務課又ハ支廳ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第三條　警務課又ハ支廳ハ其ノ管轄區域內ニ於ケル現住者ノ異動ニ關スル屆書ニ依リテ小票所定ノ事項ヲ記入スヘシ

轉住票ニハ住所移轉ニ關係アル屆書中異ナリタル街庄社ニ住所ヲ移轉シタル者ニ限リ記入スヘシ但シ街庄社ノ異ナリタル新舊兩住所ニシテ同一警察官吏派出所內ニ在ルトキハ其ノ屆書ニ依リ轉住票二枚ヲ作製スヘシ內地、外國又ハ蕃地ニ於テ戶口規則第六條ノ屆出事項發生シ其ノ屆出ヲ爲シタルトキハ其ノ戶口調査簿ヲ備ヘタル警務課又ハ支廳ニ於テ前各項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　警務課又ハ支廳ニ於テ每月記入シタル小票ハ別記樣式ノ送致目錄ヲ添附シ翌月十五日迄ニ臺灣總督府ニ發送スヘシ

第五條　警務課又ハ支廳ノ管轄區域ニ變更アリタルトキハ戶口ニ關スル簿册又ハ其ノ書類ノ引繼ヲ受ケタル警務課又ハ支廳ニ於テ此ノ規程ノ報告ヲ爲スヘシ

第六條　人口動態報告ニ關シテハ臺灣總督府ト警務課又ハ支廳トノ間ニ直接往復スルモノトス

第七條　廳長ハ隨時監督員ヲ派遣シ此ノ規程實施ノ狀況ヲ監視セシムヘシ

附則

本令ハ明治三十八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

（様式）

生　産　票（　　）

（番號）第　　　　號

（受理）明治　　十　　年　　　月

(一) 氏　名			
(二) 男女ノ別			
(三) 種族 父ノ			
種族 母ノ			
(四) 嫡出子、庶子、私生子ノ別			
(五) 出生ノ時	明治　十　年　月　日		
(六) 職業 父ノ	（業名）	（地位）	
職業 母ノ	（業名）	（地位）	
(七) 出生ノ場所	廳　名	堡(里鄉澳)名	街(庄社)名
(八) 原籍又ハ國籍			

廳　　　　支廳

記　入　心　得

（　　）内ニハ棄兒ニ限リ「棄兒」ト記入スヘシ

（番號）ニハ生產（棄兒ヲ含ム）屆書受理ノ順號ヲ記入スヘシ

（受理）ニハ本事件ノ屆書受理ノ月ヲ記入スルモノニシテ事件發生ノ時ヲ記入スヘカラス例ヘハ明治三十八年十二月ニ生レタルモノノ屆書ヲ同三十九年一月ニ於テ受理シタルトキハ明治三十九年一月ト記入スルカ如シ

本欄ニハ生兒ノ氏名ヲ點線上ニ記入スヘシ以下點線アル欄ニハ總テ點線上ニ其ノ事實ヲ記入スヘシ

本欄ニハ生兒男ナレハ男、女ナレハ女ト記入スヘシ假令氏名ニ依リ男女ノ別ヲ判知シ得ルモノト雖必之カ記入ヲ要ス

本欄ニハ其ノ生兒嫡出子又ハ庶子ナルトキハ父ノ種族ヲ、私生子ナルトキハ母ノ種族ヲ下ニ揭ケタル括弧內ノ略語ヲ以テ記入スヘシ●內地人（內）●本島人〔福建人（福）廣東人（廣）其ノ他ノ漢人（漢）熟蕃人（熟）生蕃人（生）〕●外國人（外）●父母ノ氏名ハ記入ヲ要セス

本欄ニハ生兒ノ嫡出子（嫡）庶子（庶）私生子（私）ノ別ヲ各括弧內ノ略語ヲ以テ記入スヘシ

本欄ニハ生兒ノ生レタル年月日ヲ記入スヘシ●棄兒ニ在リテハ發見ノ年月日ヲ記入シ且ツ其ノ下ニ推定何歲（月.日）ト記入スヘシ

本欄ニハ其ノ生兒嫡出子又ハ庶子ナルトキハ父ノ職業ヲ、私生子ナルトキハ母ノ職業ヲ記入スヘシ●職業名ハ農工商等ノ概括名稱ヲ用キス實際稱呼ノ細別ヲ揭ケ其ノ地位ヲ業主、家族、被傭人ニ分チテ記入スヘシ●職業ナキモノハ業名ノ箇所ニ其ノ生計ノ途ヲ詳記スヘシ

本欄ニハ廳、堡里、街庄名ヲ記入スヘシ但シ外國又ハ船中等ノ場合ハ此ノ欄界ニ拘ハラス其ノ場所ヲ記入スヘシ

本欄ニハ內地人ニ在リテハ原籍部道縣、府、縣名ヲ、外國人ニ在リテハ其ノ國籍ヲ記入スヘシ

本項ニハ本票ヲ記入セシ廳名又ハ支廳名ヲ記入スヘシ●本票取扱者ハ「廳又ハ支廳」ノ下ニ其ノ認印ヲ押捺スヘシ

死　産　票

（番號）第　　　　號

（受理）明治　　十　　年　　　月

(一) 男女ノ別			
(二) 死胎分娩ノ時	明治　十　年　月　日		
(三) 姙娠月數	箇月		
(四) 嫡出子、庶子、私生子ノ別			
(五) 種族 父ノ			
種族 母ノ			
(六) 職業 父ノ	（業名）	（地位）	
職業 母ノ	（業名）	（地位）	
(七) 死胎分娩ノ場所	廳　名	堡(里鄉澳)名	街(庄社)名
(八) 原籍又ハ國籍			

廳　　　　支廳

記　入　心　得

（番號）ニハ死產屆書受理ノ順號ヲ記入スヘシ

（受理）ニハ本事件ノ屆書受理ノ月ヲ記入スルモノニシテ事件發生ノ時ヲ記入スヘカラス例ヘハ明治三十八年十二月ニ死胎ヲ分娩シタル者ノ屆書ヲ同三十九年一月ニ於テ受理シタルトキハ明治三十九年一月ト記入スルカ如シ

本欄ニハ死兒男ナレハ男、女ナレハ女ト點線上ニ記入スヘシ以下點線アル欄ニハ總テ點線上ニ其ノ事實ヲ記入スヘシ

本欄ニハ死胎ヲ分娩シタル年月日ヲ記入スヘシ

本欄ニハ何箇月ニテ死胎ヲ分娩セシカヲ記入スルモノニシテ五箇月ナレハ五、六箇月ナレハ六ト箇月ナル不動文字前ニ屆書ニ依リ記入スヘシ

本欄ニハ死兒ノ嫡出子（嫡）庶子（庶）私生子（私）ノ別ヲ各括弧內ノ略字ヲ以テ記入スヘシ

本欄ニハ其ノ死兒嫡出子又ハ庶子ナルトキハ父ノ種族ヲ、私生子ナルトキハ母ノ種族ヲ下ニ揭ケタル括弧內ノ略語ヲ以テ記入スヘシ●內地人（內）●本島人〔福建人（福）廣東人（廣）其ノ他ノ漢人（漢）熟蕃人（熟）生蕃人（生）〕●外國人（外）●父母ノ氏名ハ記入ヲ要セス

本欄ニハ其ノ死兒嫡出子又ハ庶子ナルトキハ父ノ職業ヲ、私生子ナルトキハ母ノ職業ヲ記入スヘシ●職業名ハ農工商等ノ概括名稱ヲ用キス實際稱呼ノ細別ヲ揭ケ其ノ地位ヲ業主、家族、被傭人ニ分チテ記入スヘシ●職業ナキモノハ業名ノ箇所ニ其ノ生計ノ途ヲ詳記スヘシ

本欄ニハ廳、堡里、街庄名ヲ記入スヘシ但シ外國又ハ船中等ノ場合ハ此ノ欄界ニ拘ハラス其ノ場所ヲ記入スヘシ

本欄ニハ內地人ニ在リテハ原籍部道縣、府、縣名ヲ、外國人ニ在リテハ其ノ國籍ヲ記入スヘシ

本項ニハ本票ヲ記入セシ廳名又ハ支廳名ヲ記入スヘシ●本票取扱者ハ「廳又ハ支廳」ノ下ニ其ノ認印ヲ押捺スヘシ

死亡票

(番號) 第　　　號

(受理) 明治　十　年　　月

(一) 氏名 ……

(二) 男女ノ別 ……

(三) 種族 ……

(四) 嫡出子、庶子、私生子ノ別 ……

(五) 出生ノ時　　年　　月　　日

(六) 死亡ノ時　明治　十　年　　月　　日

(七) 職業　(業名) ……　(地位) ……

(八) 死因
- 病死(病名) ……　(主治醫) ……
- 自殺(因由) ……　(手段) ……
- 其他(種類) ……

(九) 死亡ノ場所	廳名	堡(里鄉澳)名	街(庄社)名

(十) 原籍又ハ國籍

廳　　支廳

記入心得

(番號)ニハ死亡屆書受理ノ順號ヲ記入スヘシ ●屆書受理ノ順號ハ每年一號ヨリ起シ其ノ間決シテ同一番號ヲ附スヘカラス

(受理)ニハ本事件ノ屆書受理ノ月ヲ記入スルモノニシテ事件發生ノ時ヲ記入スヘカラス 例ヘハ明治三十八年十二月ニ死亡シタルモノノ屆書ヲ同三十九年一月ニ於テ受理シタルトキハ明治三十九年一月ト記入スルカ如シ

本欄ニハ死亡者ノ氏名ヲ點線上ニ記入スヘシ 以下點線アル欄ニハ總テ點線上ニ其ノ事實ヲ記入スヘシ

本欄ニハ死亡者男ナレハ男、女ナレハ女ト記入スヘシ假令氏名ニ依リ男女ノ別ヲ判知シ得ルモノト雖必之カ記入ヲ要ス

本欄ニハ死亡者ノ種族ヲ下ニ揭ケタル括弧内ノ略語ヲ以テ記入スヘシ ●內地人(內)●本島人〔福建人(福)廣東人(廣)其ノ他ノ漢人(漢)熟蕃人(熟)生蕃人(生)〕●外國人(外)

本欄ニハ六歲未滿ノ死亡者ニ限リ 嫡出子(嫡)庶子(庶)私生子(私)ノ別ヲ各括弧內ノ略語ヲ以テ記入スヘシ

本欄ニハ死亡者ノ生レタル年月日ヲ記入スヘシ ●出生ノ時不詳ナル者ニ在リテハ不動文字ニ關セス推定何歲(月、日)ト記入スヘシ

本欄ニハ死亡ノ年月日ヲ記入スヘシ 死亡ノ年月日詳ナラサルモノハ醫師ノ檢案書又ハ警察官吏ノ檢視調書ニ依リ推定ノ年月日ヲ記入シ 且ツ其ノ前ニ(推定)ト記入スヘシ

本欄ニハ死亡者ノ職業ヲ記入スヘシ ●職業名ハ農工商等ノ概括名稱ヲ用キス實際稱呼ノ細別ヲ揭ケ 其ノ地位ヲ業主、家族、被傭人ニ分チテ記入スヘシ ●職業ナキモノハ業名ノ箇所ニ其ノ生計ノ途ヲ詳記スヘシ

本欄ニハ病死ナレハ病名及主治醫ノ種類卽官廳奉職醫、公醫、開業醫、臺灣總督府醫學校卒業者、醫生ノ別ヲ記入スヘシ●病名不詳ナレハ不詳ト記入シ主治醫ナキモノハ×ヲ記入スヘシ

自殺ナレハ其ノ因由及其ノ手段ヲ記入スヘシ ●因由若ハ其ノ手段不詳ナレハ不詳ト記入スヘシ

其ノ他ニ就テハ種類ヲ詳記スヘシ例ヘハ中毒ナレハ河豚ノ中毒、「アヘン」ノ中毒、溺死ナレハ川ニテ溺死、海ニテ溺死ト記入スルカ如シ

本欄ニハ廳、堡里、街庄名ヲ記入スヘシ 但シ外國又ハ船中等ノ場合ハ此ノ欄界ニ拘ラス其ノ場所ヲ記入スヘシ

本欄ニハ內地人ニ在リテハ原籍卽道廳、府、縣名ヲ、外國人ニ在リテハ其ノ國籍ヲ記入スヘシ

本項ニハ本票ヲ記入セシ廳又ハ支廳名ヲ記入スヘシ ●本票取扱者ハ「廳又ハ支廳」ノ下ニ其ノ認印ヲ押捺スヘシ

結婚票

(番號) 第　　　號

(受理) 明治　十　年　　月

	夫ノ	妻ノ
(一) 氏名	……	……
(二) 種族	……	……
(三) 職業	(業名) ……　(地位) ……	(業名) ……　(地位) ……
(四) 緣事上ノ有樣	……	……

(五) 結婚種別 ……

(六) 結婚ノ時　明治　十　年　　月　　日

(七) 出生ノ時
- 夫ノ　　年　　月　　日
- 妻ノ　　年　　月　　日

(八) 結婚ノ所在地	廳名	堡(里鄉澳)名	街(庄社)名	原籍又ハ國籍
夫ノ				
妻ノ				

廳　　支廳

記入心得

(番號)ニハ結婚(婿養子緣組、入夫、招夫ノ婚姻ヲ含ム)屆書受理ノ順號ヲ記入スヘシ

(受理)ニハ本事件ノ屆書受理ノ月ヲ記入スルモノニシテ事件發生ノ時ヲ記入スヘカラス例ヘハ明治三十八年十二月ニ結婚シタル者ノ屆書ヲ同三十九年一月ニ於テ受理シタルトキハ明治三十九年一月ト記入スルカ如シ

本欄ニハ夫及妻ノ氏名ヲ點線上ニ記入スヘシ 以下點線アル欄ニハ總テ點線上ニ其ノ事實ヲ記入スヘシ

本欄ニハ夫及妻ノ種族ヲ下ニ揭ケタル括弧內ノ略語ヲ以テ記入スヘシ ●內地人(內)●本島人〔福建人(福)廣東人(廣)其ノ他ノ漢人(漢)熟蕃人(熟)生蕃人(生)〕●外國人(外)

本欄ニハ結婚時ニ於ケル夫及妻ノ職業ヲ記入スヘシ ●職業名ハ農工商等ノ概括名稱ヲ用キス實際稱呼ノ細別ヲ揭ケ其ノ地位ヲ業主、家族、被傭人ニ分チテ記入スヘシ ●職業ナキモノハ業名ノ箇所ニ其ノ生計ノ途ヲ詳記スヘシ

本欄ニハ結婚時ニ於テ初婚者ナレハ(初)鰥ナレハ(鰥)寡ナレハ(寡)離婚者ナレハ(離)ナル略語ヲ以テ記入スヘシ

本欄ニハ夫カ妻ヲ娶リタル普通結婚ナレハ(普)入夫ナレハ(入)婿養子ナレハ(婿)又招夫ナレハ(招)ナル略語ヲ以テ記入スヘシ

本欄ニハ結婚ノ年月日ヲ記入スヘシ

本欄ニハ夫妻ノ出生シタル年月日ヲ記入スヘシ 若其ノ屆書ニ何(十二支)ノ何歲又ハ單ニ何歲トノミアルトキハ不動文字ニ關セス 屆書ノ儘ヲ記入スヘシ

本欄ニハ廳、堡里、街庄名ヲ記入スヘシ 但シ外國等ノ場合ハ此ノ欄界ニ拘ハラス其ノ場所ヲ記入スヘシ ●末段原籍又ハ國籍ノ行ニハ內地人ニ在リテハ原籍卽道廳、府、縣名ヲ外國人ニ在リテハ其ノ國籍ヲ記入スヘシ

本項ニハ本票ヲ記入セシ廳名又ハ支廳名ヲ記入スヘシ ●本票取扱者ハ「廳又ハ支廳」ノ下ニ其ノ認印ヲ押捺スヘシ

離婚票

離婚　(番號)第　　　號　離婚

(受理)明治　十　年　　月

	夫ノ	妻ノ
(一)氏名		
(二)種族		
(三)職業	(業名)　(地位)	(業名)　(地位)
(四)離婚原因　裁判上	訴ヲ提起セシモノ 民法第八百十三條第　　號（內地人ニ限ル）	
(五)離婚ノ時　離婚ノ日	明治　十　年　月　日	
(五)離婚ノ時　裁判確定ノ日	明治　十　年　月　日	
(六)結婚ノ時	年　月　日	
(七)出生ノ時　夫ノ	年　月　日	
(七)出生ノ時　妻ノ	年　月　日	

(八)離婚ノ時所在地	廳名	堡(里鄉澳)名	街(庄社)名	原籍又ハ國籍
夫ノ				
妻ノ				

離　　廳　　支廳　　離

記入心得

(番號)ニハ離婚(入夫.招夫ノ離婚ヲ含ム)屆書受理ノ順號ヲ記入スヘシ

(受理)ニハ本事件ノ屆書受理ノ月ヲ記入スルモノニシテ事件發生ノ時ヲ記入スヘカラス例ヘハ明治三十八年十二月ニ離婚シタル者ノ屆書ヲ同三十九年一月ニ於テ受理シタルトキハ明治三十九年一月ト記入スルカ如シ

本欄ニハ夫及妻ノ氏名ヲ點線上ニ記入スヘシ以下點線アル欄ニハ總テ點線上ニ其ノ事實ヲ記入スヘシ

本欄ニハ夫及妻ノ種族ヲ下ニ掲ケタル括弧內ノ略語ヲ以テ記入スヘシ●內地人(內)●本島人〔福建人(福)廣東人(廣)其ノ他ノ漢人(漢)熟蕃人(熟)生蕃人(生)〕●外國人(外)

本欄ニハ離婚當時ニ於ケル夫及妻ノ職業ヲ記入スヘシ●職業名ハ農工商等ノ概括名稱ヲ用キス實際稱呼ノ細別ヲ揭ケ其ノ地位ヲ業主.家族.被傭人ニ分ケテ記入スヘシ●職業ナキ者ハ業名ノ箇所ニ其ノ生計ノ途ヲ詳記スヘシ

本欄一段ニハ協議上ノ離婚ニ限リ(協)ト記入シ二段及三段ニハ裁判上ノ離婚ニ限リ記入スヘシ

本欄一段ニハ協議上ノ離婚ニ限リ記入シ二段ニハ裁判上ノ離婚ニ限リ記入スヘシ

本欄ニハ結婚ノ年月日ヲ記入スヘシ

本欄ニハ夫妻ノ出生シタル年月日ヲ記入スヘシ若其ノ屆書ニ何(十二支)ノ何歲又ハ單ニ何歲トノミアルトキハ不動文字ニ關セス屆書ノ儘ヲ記入スヘシ

本欄ニハ廳.堡里.街庄名ヲ記入スヘシ但シ外國等ノ場合ハ此ノ欄界ニ拘ラス其ノ場所ヲ記入スヘシ●末段原籍又ハ國籍ノ行ニハ內地人ニ在リテハ原籍卽道廳.府.縣名ヲ.外國人ニ在リテハ其ノ國籍ヲ記入スヘシ

本項ニハ本票ヲ記入セシ廳又ハ支廳名ヲ記入スヘシ●本票取扱者ハ「廳又ハ支廳」ノ下ニ其ノ認印ヲ押捺スヘシ

轉住票

轉住　(番號)第　　　號　轉住

(受理)明治　十　年　　月

(一)氏名	
(二)男女ノ別	
(三)種族	
(四)職業	(業名)　(地位)
(五)出生ノ時	年　月　日
(六)轉住ノ時	明治　十　年　月　日

(七)住所	廳名	堡(里鄉澳)名	街(庄社)名
舊			
新			

(八)原籍又ハ國籍

入　　廳　　支廳　　入

記入心得

(番號)ニハ轉住票番號索引ノ順號ヲ記入スヘシ

(受理)ニハ本事件ニ關スル屆書受理ノ月ヲ記入スルモノニシテ事件發生ノ時ヲ記入スヘカラス例ヘハ明治三十八年十二月ニ轉住シタル者ノ屆書ヲ同三十九年一月ニ於テ受理シタルトキハ明治三十九年一月ト記入スルカ如シ

本欄ニハ轉入者ノ氏名ヲ點線上ニ記入スヘシ以下點線アル欄ニハ總テ點線上ニ其ノ事實ヲ記入スヘシ

本欄ニハ轉入者男ナレハ男.女ナレハ女ト記入スヘシ假令氏名ニ依リ男女ノ別ヲ判知シ得ルモノト雖必之カ記入ヲ要ス

本欄ニハ轉入者ノ種族ヲ下ニ掲ケタル括弧內ノ略語ヲ以テ記入スヘシ●內地人(內)●本島人〔福建人(福)廣東人(廣)其ノ他ノ漢人(漢)熟蕃人(熟)生蕃人(生)〕●外國人(外)

本欄ニハ轉入者ノ職業ヲ記入スヘシ●職業名ハ農工商等ノ概括名稱ヲ用キス實際稱呼ノ細別ヲ揭ケ其ノ地位ヲ業主.家族.被傭人ニ分チテ記入スヘシ●職業ナキモノハ業名ノ箇所ニ其ノ生計ノ途ヲ詳記スヘシ

本欄ニハ轉入者ノ出生シタル年月日ヲ記入スヘシ若其ノ屆書ニ何(十二支)ノ何歲又ハ單ニ何歲トノミアルトキハ不動文字ニ關セス屆書ノ儘ヲ記入スヘシ

本欄ニハ轉入ノ年月日ヲ記入スヘシ

本欄ニハ廳.堡里.街庄名ヲ記入スヘシ但シ內地若ハ外國ヨリ轉入ノ場合ニハ此ノ欄界ニ拘ハラス其ノ場所ヲ記入スヘシ

本欄ニハ內地人ニ在リテハ原籍卽道廳.府.縣名ヲ.外國人ニ在リテハ其ノ國籍ヲ記入スヘシ

本項ニハ本票ヲ記入セシ廳又ハ支廳名ヲ記入スヘシ●本票取扱者ハ「廳又ハ支廳」ノ下ニ其ノ認印ヲ押捺スヘシ

本票ハ轉入者一人每ニ一枚ノ調製ヲ要ス但シ同一街庄社內ノ轉住ニ在リテハ本票ノ調製ヲ要セス

轉住票（　　）

（番號）第　　　號

（受理）明治　十　年　　月

轉住				
(一) 氏名				
(二) 男女ノ別				
(三) 種族				
(四) 職業	（業名）		（地位）	
(五) 出生ノ時		年	月	日
(六) 轉住ノ時	明治	十　年	月	日
(七) 住所	廳名	堡（里郷澳）名	街（庄社）名	
舊				
新				
(八) 原籍又ハ國籍				

出　　廳　　支廳　　出

記入心得

（　）内ニハ失踪者ニ限リ「失踪者」ト記入スヘシ

（番號）ニハ轉住票番號索引ノ順號ヲ記入スヘシ

（受理）ニハ本事件ニ關スル屆出受理ノ月ヲ記入スルモノニシテ事件發生ノ時ヲ記入スヘカラス例ヘハ明治三十八年十二月ニ轉住シタル者ノ屆出ヲ明治三十九年一月ニ於テ受理シタルトキハ明治三十九年一月ト記入スルカ如シ

本欄ニハ轉出者ノ氏名ヲ點線上ニ記入スヘシ以下點線アル欄ニハ總テ點線上ニ其ノ要項ヲ記入スヘシ

本欄ニハ轉出者男ナレハ男、女ナレハ女ト記入スヘシ假令氏名ニ依リ男女ノ別ヲ判知シ得ルモノト雖必之カ記入ヲ要ス

本欄ニハ轉出者ノ種族ヲ下ニ掲ケタル括弧内ノ略語ヲ以テ記入スヘシ●內地人（內）●本島人〔福建人（福）廣東人（廣）其ノ他ノ漢人（漢）熟蕃人（熟）生蕃人（生）〕●外國人（外）

本欄ニハ轉出者ノ職業ヲ記入スヘシ●職業名ハ農工商等ノ概括名稱ヲ用ヰス實際稱呼ノ細別ヲ掲ケ其ノ地位ヲ業主、家族、被傭人ニ分チテ記入スヘシ●職業ナキモノハ業名ノ箇所ニ其ノ生計ヲ途ヲ詳記スヘシ

本欄ニハ轉出者ノ出生シタル年月日ヲ記入スヘシ若其ノ屆出ニ何（十二支）ノ何歲又ハ單ニ何歲トノミアルトキハ不動文字ヲ關セス屆出ノ儘ヲ記入スヘシ

本欄ニハ轉出ノ年月日ヲ記入スヘシ但シ失踪者ニ在リテハ內地人ハ官吿ノ年月日本島人ハ生存ヲ知得シタル最終ノ年月日ヲ記入スヘシ

本欄ニハ廳、堡里、街庄名ヲ記入スヘシ但シ內地者ハ外國ヘ轉出ノ場合ニハ此ノ欄外ニ拘ハラス其ノ場所ヲ記入スヘシ●失踪者ニ在リテハ新住所欄ヘ×ヲ畫スヘシ

本欄ニハ內地人ニ在リテハ原籍即道縣、府、縣名ヲ、外國人ニ在リテハ其ノ國籍ヲ記入スヘシ

本項ニハ本票ヲ記入セシ廳又ハ支廳名ヲ記入スヘシ●本票取扱者ハ「廳又ハ支廳」ノ下ニ其ノ認印ヲ押捺スヘシ

本票ハ轉出者一人每ニ一枚ノ調製ヲ要ス但シ同一街庄社內ノ轉住ニ在リテハ本票ノ調製ヲ要セス

第七章　調查機關

中央機關

臨時臺灣戶口調查ノ機關ハ中央機關トシテ明治三十八年五月勅令第百七十五號ヲ以テ臨時臺灣戶口調查部官制ヲ制定セラレタリ蓋シ同年十月一日ヲ以テ臺灣ニ施行スヘキ臨時戶口調查ハ名ハ戶口調查ナレトモ實ハ一種ノ國勢調查ニシテ全ク臨時特別ノ一大事業ナルヲ以テ之ヲ民政部ノ一部局等ニ屬セシムヘキモノニ非ス依リテ之カ特設機關ヲ設ケ其ノ事業ヲ完成セムトスルニ外ナラス而シテ本部ハ調查部本來ノ性能ニ從テ諸般ノ事務ヲ進行スルト同時ニ地方機關ノ事務ヲ統督セリ其ノ官制及官制廢止ノ勅令ハ左ノ如シ

戶口調查部官制

臨時臺灣戶口調查部官制　（明治三十八年五月勅令第一七五號）

第一條　臺灣總督府ニ臨時臺灣戶口調查部ヲ置キ明治三十八年十月一日ヲ以テ臺灣ニ施行スル戶口調查ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ラシム

第二條　臨時臺灣戶口調查部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長	一人
副部長	一人
主事	二人
屬 專任	十三人　判任

第三條　部長ハ臺灣總督府民政長官ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ部中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第四條　副部長ハ臺灣總督府高等官ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

副部長ハ部長ヲ補佐シ部長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條　主事ハ臺灣總督府高等官ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

主事ハ上官ノ命ヲ承ケ部務ヲ分掌ス

第六條　屬ハ上官ノ命ヲ承ケ調査及庶務ニ從事ス

第七條　臺灣總督ハ臨時臺灣戸口調査部ノ職員ニ非サル臺灣總督府所屬行政各官衙及學校ノ職員竝公吏ヲシテ部長ノ指揮ヲ承ケ第一條ニ掲ケタル事務ニ從事セシムルコトヲ得

官制廢止

臨時臺灣戸口調査部官制廢止ノ件（明治四十一年三月勅令第五三號）

臨時臺灣戸口調査部官制ハ明治四十一年三月三十一日限リ之ヲ廢止ス

調査部内ノ組織

今中央機關タル戸口調査部分課規程及調査課事務規程竝同課各係ノ事務規程ヲ左ニ掲ケ其ノ内容ヲ示サム

分課規程

臨時臺灣戸口調査部分課規程（明治三十八年六月訓令第一二七號）

第一條　臨時臺灣戸口調査部ニ庶務課及調査課ヲ置ク

第二條　課ニ長ヲ置キ主事ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　部長ノ官印及部印ノ保管ニ關スル事項

二　人事ニ關スル事項

三　文書ノ發受ニ關スル事項

四　經費ニ關スル事項

五　印刷ニ關スル事項

六　物品ニ關スル事項

七　前各號ノ外調査課ノ主管ニ屬セサル事項

第四條　調査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　調査ノ計劃ニ關スル事項

二　調査事務ノ訓練及指導ニ關スル事項

三　調査ノ監督ニ關スル事項

四　所帶票及各種要計表ノ檢査ニ關スル事項

五　統計ノ編成及論究ニ關スル事項

調査課事務規程

調査課事務規程

第一條　調査課ニ倉庫係、檢査係、集計係、結果係及動態係ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム

第二條　各係ニ長ヲ置ク各係長ハ調査課長ニ對シ其ノ責ニ任スルモノトス

各係中事務ノ種類ニ依リ別ニ主任ヲ定メ其ノ責ニ任セシムルコトアルヘシ

第三條　倉庫係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　所帶票及要計表ノ受理ニ關スル事項

一　所帶票、要計表、單名票、所帶單位票、動態小票及統計表ノ保管及出入ニ關スル事項

第四條　檢査係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　所帶票及要計表ノ檢査ニ關スル事項

二　單名票及所帶單位票ノ調製及檢査ニ關スル事項

三　各種統計表ノ檢査ニ關スル事項

第五條　集計係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　集計準備ニ關スル事項

二　各種統計表ノ集計ニ關スル事項

第六條　結果係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　記述論究ニ關スル事項
二　他係ノ主管ニ屬セサル事項
第七條　動態係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　動態報告ニ關スル事項

倉庫係事務規程

倉庫係事務規程

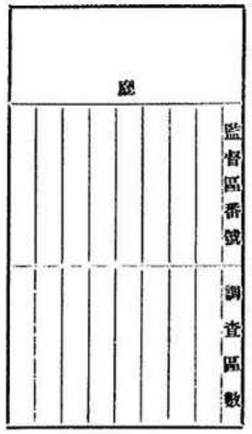
第一　所帯票受理手續

庶務課ヨリ送付ノ所帯票ハ受附主任之ヲ受理ス
受附主任所帯票ヲ受ケタルトキハ直ニ左ノ手續ヲナスヘシ
一　各監督區ニ屬スル所帯票ノ調査區括數ト監督委員要計表「一」欄ノ調査區數トヲ照合シ各順番號數字ノ上ニ青色鉛筆ヲ以テ「レ」ヲ附スヘシ
二　別紙甲號樣式ノ受附簿ニ記載シタル各監督區ノ調査區數ト送付ヲ受ケタル所帯票ノ調査區括ノ數トヲ照合シ監督委員要計表「一」欄ノ「一」ノ字ノ上ニ青色鉛筆ヲ以テ「レ」ヲ附スヘシ
三　調査委員要計表ニ記載ノ堡里街庄社名ト受附簿ニ記載ノ堡里街庄社名トヲ照合シ調査委員要計表當該順番號數字ノ上ニ青色鉛筆ヲ以テ「レ」ヲ附スヘシ
四　前三項ノ手續ヲ終リタルトキハ各調査委員要計表ヲ其ノ所帯票ニ添附ノ儘監督區括トナシ監督委員要計表ヲ最上部ニ添附シ規定ノ紐ヲ以テ縱橫ニ括リ之ニ監督區番號及調査區數ヲ記入シタル左記ノ紙牌ヲ附スヘシ

五　第一項乃至第三項ノ手續ニ於テ不符合ノ點アルトキハ取扱者ヨリ其ノ都度之ヲ係長ニ申出ヘシ
六　係長ニ於テ前項ノ申出ヲ受ケ審査ノ上照會ヲ要スルモノト認ムルトキハ直ニ其ノ手續ヲナスヘシ
七　前各項ノ手續ヲ終リタルトキハ其ノ所帯票ヲ直ニ倉庫主任ニ引渡スヘシ但シ授受ノ際ハ受附簿ノ欄外ニ倉庫主任ノ認印ヲ求ムヘシ

第二　所帯票保管手續

所帯票ハ倉庫主任之ヲ保管ス
倉庫主任ハ豫メ所帯票納置ノ棚架ヲ定メ置クヘシ
倉庫主任受附主任ヨリ所帯票ヲ受ケタルトキハ直ニ左ノ手續ヲナスヘシ
一　所帯票ヲ監督區順ニ其ノ棚架ニ重ネ置クヘシ
二　全各廳ノ所帯票ノ受領ヲ終ラハ各廳ノ所帯票ヲ納置スヘキ棚架ノ區域ヲ確定シ廳名監督區番號及調査區數ヲ記入シタル左記ノ紙牌ヲ見易キ場所ニ貼附シ尚其ノ所在ノ略圖二葉ヲ作リ一ヲ調査課長ニ差出シ一ハ本係ニ備ヘ置キ所帯票出入ノ便ニ供スヘシ



第三　所帯票授受

他係ト所帯票ノ授受ニハ左ノ手續ヲナスヘシ

一　所帶票交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ別紙乙號様式ノ所帶票授受簿當該監督區相當欄ニ交付月日及其ノ請求係名ヲ記入シ受領者ノ認印ヲ徴シ然ル後之ヲ交付スヘシ

二　所帶票ノ返付ヲ受ケタルトキハ所帶票授受簿當該欄ニ必ス其ノ返付月日ヲ記入スヘシ

三　返付セラレタル所帶票前項ノ手續ヲ終ラハ遲滯ナク之ヲ所定ノ棚架ニ納置スヘシ但シ同一係ニ於テ尙引續キ使用ノ見込アレハ假棚架ニ納メ置クコトヲ得

四　檢査係ニ於テ所帶票審査ノ結果再査ノ爲メ監督區ノ全部又ハ一部返戻ノ交渉ヲ受ケタルトキハ所帶票授受簿當該監督區備考欄ニ其ノ旨ヲ明記スヘシ

五　前項ノ所帶票ニシテ返付セラレタルトキハ備考欄ニ朱書ヲ以テ其ノ旨ヲ記入スヘシ

第一乃至第三手續ニ於テ所帶票トアルハ之ニ添附ノ調査委員要計表及監督委員要計表ヲ包含ス

所帶單位票、單名票、動態小票及各種統計表ノ授受保管ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム

（甲號様式）

監督區番號	調査區番號	街庄社名	廳、支廳直轄又ハ派出所名	受附 月 日	照會 月 日	完結 月 日	備考

（乙號様式）

第　　監督區						
交付 月日						
交付 係名						
受領者印						
返付 月日						
備考						

第　　監督區						
交付 月日						
交付 係名						
受領者印						
返付 月日						
備考						

第　監督區	第　監督區	第　監督區
第　監督區	第　監督區	第　監督區

檢査係事務規程

第一　係員ハ係長ノ命スル所ニ從ヒ檢査スヘキ所帶票及要計表ヲ倉庫係ヨリ受領スヘシ

第二　檢査ノ手續ハ明治三十八年七月戸第八六號通達所帶票及要計表檢査手續ニ依ル

第三　所帶票及要計表ノ檢査ニ際シ各欄對照檢査ノ證トシテ當該事項ニ赤色鉛筆ヲ以テ「レ」ヲ附スヘシ

第四　檢査ノ際不備ノ事項ヲ發見シタルトキハ其ノ要旨ヲ附箋ニ明記シ之ヲ當該欄ニ貼附スヘシ

第五　係員ハ各自別紙甲號樣式ノ檢査功程日報ヲ作リ每日檢査シタル所帶數及檢査ノ際發見シタル不備件數並其ノ他重要事項ヲ登錄シ每日退廳時十分前ニ之ヲ係長ニ提出スヘシ

第六　所帶票及要計表ハ每日倉庫係ヨリ受領シ退廳時五分前ニ之ヲ倉庫係ニ返付スヘシ

第七　檢査ヲ了シタル所帶票及要計表ニハ欄外右方上部ニ「檢査」ノ印ヲ捺シ其ノ下ニ擔當者檢印スヘシ

第八　一調査區ノ所帶票及要計表ノ檢査ヲ了シタルトキハ之ヲ係長ニ提出スヘシ

第九　係長ハ每日係員ヨリ提出シタル檢査功程日誌ヲ檢シ之ニ依リ別紙乙號樣式ノ檢査功程日報ヲ作リ每日午前中ニ之ヲ課長ニ提出シ檢閲ヲ受クヘシ

第十　係長ハ係員ヨリ提出シタル檢査濟所帶票及要計表ヲ審査シ其ノ不備事項中別ニ照會ヲ要セスシテ訂正シ得ヘキモノハ直ニ之ヲ訂正シ其ノ照會再査ヲ要スルモノハ案ヲ具シテ上官ノ指揮ヲ承クヘシ

第十一　前條ニ依リ所帶票及要計表ノ全部又ハ一部ノ返戻ヲ要スルモノアルトキハ倉庫係ノ承認ヲ得且一部ヲ返戻シタルトキハ其ノ旨關係所帶票綴ニ附箋ヲ以テ明記シ置クヘシ

第十二　係長ハ一監督區ノ所帶票及要計表ノ檢査ヲ結了シタルトキハ單名票謄寫主任ヲシテ之カ謄寫ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十三　單名票謄寫手續ハ別ニ之ヲ定ム

（甲號）

檢査功程日報

官 氏 名

係長檢印	月日	廳名	監督區	調査區	着手月日	結了月日	檢査所帶數	不備件數	備考

（乙號）

檢査功程日報

課長檢印	月日	氏名	廳名	監督區	調査區	着手月日	結了月日	檢査所帶數	不備件數	備考

集計係事務規程

總則

第一　本係ハ小票（單名票及單位票）ニ依リ規定ノ統計表ヲ作成ス

第二　本係ノ事務ヲ分チテ分類、計票、記表及整表ノ四ト爲ス

第三　前項ノ事務ヲ處理スル爲メ係長ノ下ニ主任ヲ置ク

第四　主任ハ係長ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ヲ分擔ス

第五　必要ニ依リ主任ノ下ニ組ヲ置クコトヲ得

第六　組ニ組長ヲ置ク

第七　組長ハ主任ノ指揮ヲ承ケ其ノ組ノ事務ヲ分擔ス

第八　係員執務上左ノ場合ニ遭遇シタルトキハ上官ノ指揮ヲ承クヘシ

一　疑義ヲ生シタルトキ

二　照合ノ符合セサルトキ

三　檢算又ハ合計ノ內容ト符合セサルトキ

四　先例ナキ處分ヲ爲サムトスルトキ

第九　主任事務進行中小票ニ事故アルヲ發見シタルトキハ之ニ其ノ事故ヲ簡明ニ記シタル附箋ヲ爲シ之ヲ係長ニ提出スヘシ

第十　前項ノ場合ニ於テ係長其ノ事故ヲ審査シ必要ト認メタルトキハ第一號樣式單名票（單位票）事故通牒ニ依リ檢査係ニ移牒シ且事故ノ決了迄其ノ事務ヲ中止セシム

第十一　係長前項ニ對スル回答ヲ受ケタルトキハ審査ノ上當該小票ヲ訂正シ附箋ヲ除キテ之ヲ其ノ主任ニ交付シ前ニ中止ノ事務ヲ繼續進行セシム

分類

第十二　分類主任ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　單位票ニ記載ノ住居ト所帶トノ關係

二　單名票及單位票ノ支廳別單名票ニ在リテハ更ニ其ノ堡里別

三　單名票及單位票ノ分類

第十三　係長ハ前項ノ事務ニ必要ナル左ノ書類ヲ分類主任ニ交付ス

一　支廳別調査區配當表、調査區地名簿及支廳管轄堡里名稱

二　各廳小票ノ總枚數

三　小票及第二號樣式集計原票

第十四　分類主任前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ其ノ集計原票ニ依リ分類函ヲ適當ニ裝置シ之ニ集計原票ヲ添ヘ分類牌ヲ掲ケ分類員ヲシテ分類セシム但シ第十二項第一號乃至第三號ニ對シテハ尙特ニ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　第一號ニ在リテハ分類主任ハ分類員ヲシテ一住居内ノ所帶數二以上アルトキハ其ノ住家番號ノ同番號數ハ其ノ所帶ノ異番號ト同數ナリヤ否ヲ檢セシムヘシ

二　第二號ニ在リテハ支廳別調査區配當表ニ依リ小票ヲ支廳別ト爲スヘシ

小票又ハ小票添附ノ青色小票ニ堡里番號ナキモノハ調査區地名簿ニ依リ番地又ハ水面ニ區別スヘシ

單位票ニ在リテハ帶紙記載ノ枚數ニ依リ各支廳及番地又ハ水面ノ總枚數ヲ算出シ其ノ各數ヲ合シテ廳ノ總數ト照合スヘシ單名票ニ在リテハ男女各別ニ男女別集計票記載ノ枚數ニ依リ前號ノ手續ヲ爲シ更ニ一支廳毎ニ單名票押捺ノ堡里番號ニ依リ之ヲ堡里別ト爲シ支廳管轄堡里名稱ニ照合スヘシ

三　一支廳中ノ各堡里毎ニ單名票ノ枚數ヲ算出シ之ヲ合シテ其ノ支廳ノ總數ト照合スヘシ

第三號中ノ單名票男女別ニ在リテハ分類主任ハ一調査區毎ニ又一調査區中ニ二堡里以上ヲ含ムモノハ青色小票毎ニ各別ニ分類函ニ納ムヘシ

第十五　分類員ハ分類牌ヲ掲ケタル分類函ニ就キ小票ノ分類ヲ爲シ分類終了ノ上ハ分類牌ヲ撤シ分類終了牌ヲ掲ケ置クヘシ

第十六　分類員ハ前項分類著手及終了ノ際集計原票當該欄ニ其ノ月日時ヲ記入シ且認印ヲ押捺スヘシ

第十七　分類主任ハ分類終了牌ヲ掲ケタル分類函ニ就キ各分類毎ニ分類事項其ノ他必要ナル事項ヲ記入シタル第四號樣式集計票ヲ(男女別ニ在リテハ第三號ㇾ式男女別集計票ヲ男女各別ニ)挿入シ分類終了牌ヲ撤シ計票牌ヲ掲ケ其ノ集計原票ハ之ヲ係長ニ提出スヘシ

計票

第十八　計票主任ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　單位票帶紙記載ノ枚數ト其ノ實數トノ照合

二　單位票記載ノ男女及總數ヲ各別ニ合計シタルモノト之ニ添附ノ青色小票記載ノ男女及總數トノ照合

三　分類主任ニ於テ計票牌ヲ掲ケタル分類函中ニ在ル小票ノ集計

第十九　係長ハ前項ノ事務ニ必要ナル左ノ書類ヲ計票主任ニ交付ス

一　檢査係ヨリ送付ノ各廳各調査區別單名票ノ確定數

二　各廳各調査區別單名票ノ確定數ヲ記載シタル單位票ニ挿入ノ青色小票

三　集計原票

第二十　計票主任ハ分類主任ニ於テ計票牌ヲ掲ケタル分類函ニ就キ計票員ヲシテ集計セシムヘシ

但シ第十八項第一號乃至第三號ニ對シテハ尙特ニ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　小票帶紙記載ノ枚數ト其ノ確定數トヲ照合スヘシ

二　計票主任ハ前號照合濟單位票ニ限リ計票員ヲシテ之ニ記載ノ男女及總數ヲ各別ニ合計シタルモノト之ニ添附ノ青色小票記載ノ男女及總數トヲ照合セシムヘシ

三　計票主任ハ第一號及第二號照合濟小票ヲ計票員ヲシテ集計セシメ單名票ニ在リテハ男女各別ニ男女別確定數ニ照合セシメ單位票ニ在リテハ帶紙記載ノ枚數ニ照合セシムヘシ

四　計票主任ハ一廳ノ小票ニシテ右第一號乃至第三號ノ手續ヲ終リタル毎ニ其ノ集計原票ヲ係長ニ提出スヘシ

第二十一　計票員前項小票ノ集計ヲ命セラレタルトキハ其ノ分類函ニ就キ各分類ノ枚數ヲ數ヘ之ニ挿入ノ集計票當該欄ニ其ノ枚數ヲ記入シ計票牌ヲ撤シ計票終了牌ヲ掲ケ置クヘシ

第二十二　計票員ハ計票著手及終了ノ際集計原票當該欄ニ其ノ月日時ヲ記入シ且認印ヲ押捺スヘシ

第二十三　計票主任ハ第二十一項計票濟ノ分類函ヨリ集計票ヲ取出シ之ニ記載ノ枚數ヲ合計シ其ノ集計原票記載ノ枚數ニ照合ノ上集計原票及集計票ヲ係長ニ提出シ其ノ小票ハ其ノ儘分類函ニ納メ置クヘシ

第二十四　計票員集計中ニ分類ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ其ノ旨主任ニ申出スヘシ

第二十五　計票主任前項ノ申出ヲ受ケタルトキハ分類主任ヘ交渉ノ上其ノ集計原票ノ當該欄ニ分類誤ノ枚數ヲ記入捺印スヘシ

第二十六　係長第二十三項ノ集計原票及集計票ノ提出ヲ受ケタルトキハ審査ノ上之ニ依リ第五號樣式分類(計票)事務比較表ヲ作リ之ヲ課長ニ提出スヘシ

記表

第二十七　記表主任ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　記表前ニ必要ナル集計票ニ依ル總數算出

二　集計票及集計原票ニ依ル記表

三　前號ノ總數算出

四　全島表ノ算出

第二十八　係長ハ前項ノ事務ニ必要ナル左ノ書類ヲ記表主任ニ交付ス

一　記入ニ必要ナル確定數

二　集計票及集計原票

三　各廳ノ各統計表

第二十九　記表主任前項第一號及第二號ノ書類ヲ受ケタルトキハ製表用紙ニ必要ナル確定數ヲ記入シ集計票及集計原票ヲ添附シ記表員ヲシテ之ニ依リ記入セシムヘシ

第三十　記表員記入ヲ命セラレタルトキハ集計票及集計原票ニ依リ製票用紙當該欄ニ其ノ數字ヲ記入シ之ヲ合計シテ既記ノ總數ト照合シ集計票又ハ集計原票ニ捺印ノ上之ニ製表用紙（濺部記入済）ヲ添ヘ記表主任ニ提出スヘシ

第三十一　記表主任前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ審査ノ上其ノ集計票及集計原票ハ直ニ係長ニ提出スヘシ

第三十二　一表ノ記入ヲ終リタルトキハ記表主任ハ之ニ關スル總テノ集計票及集計原票ヲ係長ヨリ受取リ記表員ニ交付シ其ノ表ノ總數ヲ算出セシムヘシ

第三十三　記表員一表ノ總數算出ヲ終リタルトキハ其ノ總數算出濟集計用紙ニ捺印ノ上集計票及集計原票ヲ添ヘ之ヲ主任ニ提出シ主任ハ審査ノ上之ヲ係長ニ提出スヘシ

第三十四　係長全島ノ檢査濟統計表ヲ受ケタルトキハ之ヲ記表主任ニ交付スヘシ

第三十五　記表主任前項ノ統計表ヲ受ケタルトキハ記表員ヲシテ全島表ヲ作成スヘシ

第三十六　記表員前項ノ製表ヲ終リタルトキハ一定ノ箇所ニ捺印シ各廳ノ統計表ヲ添ヘ之ヲ記表主任ニ提出シ記表主任ハ審査ノ上之ヲ係長ニ提出スヘシ

第三十七　係長記表主任ヨリ記入濟統計表又ハ算出濟全島表ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ第六號樣式記表事務比較表ニ其ノ月日ヲ記入シ第七號樣式統計表授受簿ヲ以テ之ヲ檢査係ニ廻付スヘシ

第三十八　前項統計表中不備ノ爲メ檢査係ヨリ返付ノモノアリタルトキハ直ニ審査ノ上當該主任ヲシテ訂正セシメ檢査係ニ返付スヘシ

整表

第三十九　整表主任ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　檢査濟統計表ヲ規定ノ樣式ニ依リ整表ス

第四十　係長ハ檢査濟統計表ヲ順次整表主任ニ交付ス

第四十一　整表主任前項統計表ノ交付ヲ受ケタルトキハ整表員ヲシテ整表セシメ之ヲ係長ニ提出スヘシ

第四十二　係長前項ノ統計表ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ統計表收受簿ヲ以テ其ノ小票ト共ニ倉庫係ニ引繼ヲ爲スヘシ

（第一號様式）

單名票事故通牒
（位）

通牒番號	廳名	監督區番號	調査區番號	所帶番號	氏名順號	生年月	事故摘要	事故訂正記入欄
						年月		
						年月		
						年月		
						年月		
						年月		
						年月		
						年月		
						年月		
						年月		

明治十　年　月　日照會　　明治十　年　月　日訂正

集計係　　檢査係

（第二號様式）

集計原票

廳番號		表番號
支廳番號		分類種目
堡里番號		
男女別		
種族別		單名票枚數
分類	著手　月　日午前後　時 6 / 終了　月　日午前後　時 6	延時間　6
計票	著手　月　日午前後　時 6 / 終了　月　日午前後　時 6	延時間　6
計票再査	著手　月　日午前後　時 6 / 終了　月　日午前後　時 6	延時間　6
分類誤ノ枚數		製表著手　月　日
計票誤ノ枚數		製表終了　月　日

（第三號様式）

男女別集計票

廳番號		男女ノ別
監督區番號		計票枚數
調査區番號		計票再査枚數
分類	著手　月　日午前後　時 6 / 終了　月　日午前後　時	延時間　6
計票	著手　月　日午前後　時 6 / 終了　月　日午前後　時 6	延時間　6
計票再査	著手　月　日午前後　時 6 / 終了　月　日午前後　時 6	延時間　6
分類誤ノ枚數		計票誤ノ枚數

（第四號樣式）

集　計　票

廳番號	表番號
支廳番號	男女別
集里番號	種族別
分類種目	計票枚數
[illegible]	[illegible]

分　類	着手……月……日午前後……時 6	延時間……6
	終了……月……日午前後……時 6	
計　票	着手……月……日午前後……時 6	延時間……6
	終了……月……日午前後……時 6	
計票再査	着手……月……日午前後……時 6	延時間……6
	終了……月……日午前後……時 6	

分類誤ノ枚數……	製表着手……月……日
計票誤ノ枚數……	製表終了……月……日

（第五號樣式）

第　　表　　事務比較表　（一時間豫定率　　枚）

廳名	支廳番號	本表內譯	總枚數	延時間	平均一時間枚數	擔當者姓名

明治　十　年　月　日

課　長　　　　集計係長

（第六號樣式）

第　　表記表事務比較表

廳名	支廳番號	着手		中止		終了		事故摘要	擔當者氏名
		月	日	月	日	月	日		

明治　十　年　月　日

課　長　　　　集計係長

（第七號樣式）

廳名	支廳番號	表番號	檢査係へ廻付		同上受領者印	檢査係ヨリ返附		倉庫係へ引繼		同上受領者印
			月	日		月	日	月	日	

結果係事務規程

結果係事務規程

總則

第一　本係ハ集計原表ニ依リ規定ノ結果表ヲ作製シ之ニ依リテ臨時戸口調査ノ結果ヲ記述ス

第二　本係ノ事務ヲ分チテ製表及記述ノ二トス

第三　前項ノ事務ヲ處理スル爲係長ノ下ニ主任ヲ置ク

第四　主任及係員ハ係長ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ事務ヲ分擔ス

第五　事務上ニ疑義ヲ生シタルトキハ上官ノ指揮ヲ承クヘシ但シ一旦決定ノ事項ヲ變更シ若ハ重要ノ事項ト認ムルトキハ係長之ヲ調査課長ニ提出シ其ノ指揮ヲ承クヘシ

第六　數字及文字ハ楷書ヲ以テ明確ニ書シ記入及計算ハ錯誤ナキヲ期スヘシ

第七　諸表及其ノ他ノ書類ハ鄭重ニ取扱ヒ汚損散逸セサル樣注意スヘシ

第八　結果表ノ記入、計算及檢査ヲ了シタルトキハ其ノ都度附箋ノ當該欄ニ取扱者ノ認印ヲ押捺スヘシ

製表

第九　製表主任ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　結果表ノ記入ニ關スルコト

二　結果表ノ總數及比例算出ニ關スルコト

三　結果表ノ檢算及對照ニ關スルコト

第十　製表主任記述主任ヨリ原表ノ配付ヲ受ケタルトキハ其ノ附箋(附箋ナキモノハ製表順序一覽)及樣式ノ備考ニ依リテ結果表ニ記入スヘシ

第十一　記入シタル結果表ハ必ス之ヲ原表(又ハ其ノ他ノ母表)ニ照査シ原表ハ記述主任ニ返付スヘシ

第十二　前項ノ手續ヲ了シタルトキハ先ツ其ノ總數ヲ算出シ次ニ比例ヲ算出スヘシ

第十三　比例ハ小數二位ヲ算出シ其ノ末位ニ於テ四捨五入シ小數一位ニ止ムヘシ

第十四　比例ノ内譯ハ其ノ總數ト必ス一致スルヲ要ス若シ一致セサルトキハ比例數ノ最多キモノニ就キ加除スヘシ但シ之カ爲比例ノ位置ヲ轉倒スルカ若ハ實數ノ順序ト相伴ハサル結果ヲ生スル場合ニ限リ適宜ノ箇所ニ於テ加除スルヲ得

第十五　記入及計算ヲ了シタルトキハ各表毎ニ左ノ事項ヲ檢査スヘシ

一　各表ノ總數ト他ノ關係表ト一致スルヤ否ヤ

二　各欄ノ内譯ト其ノ總數ト符合スルヤ否ヤ

三　比例ノ算出及數字文字等ニ錯誤又ハ不明瞭ノモノナキヤ否ヤ

第十六　前項ノ檢査ニ依リ誤謬ヲ發見シタルトキハ各其ノ取扱者ニ質シタル上之ヲ訂正スヘシ但シ原表ノ誤謬ニ基クモノナルトキハ其ノ旨ヲ附箋シテ係長ニ提出スヘシ

第十七　以上ノ手續ヲ了シタルトキハ別紙甲號書式製表功程簿ニ記入シテ之ヲ係長ニ提出スヘシ

記述

第十八　記述主任ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　結果ノ論究及記述ニ關スルコト

第十九　結果表ノ樣式ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十　結果表ノ樣式ニハ一表毎ニ番號ヲ附シ且ツ之ニ記入スヘキ原表ノ番號及記入計算ノ方法等ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第二十一　集計係ヨリ原表ヲ受ケタルトキハ別紙乙號書式原表授受簿ニ記入シ且ツ之ニ依リテ作成スヘキ結果表ノ番號ヲ附箋シ之ヲ製表主任ニ送付スヘシ

第二十二　本係事務ノ系統及順序ヲ明ニスル爲原表及結果表ノ總目錄(表名及番號ヲ記シタル)並製表順序一覽ヲ調製スヘシ

但シ其ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十三　製表主任ヨリ記入濟原表ノ返付アリタルトキハ原表授受簿ニ其ノ月日ヲ記入シ之ヲ所定ノ箇所ニ格納スヘシ

第二十四　結果ノ記述ハ調査課長ノ意見ニ從ヒ係長專ラ之ニ任ス

第二十五　研究ノ綱目、範圍及各種統計表ノ種目等ハ別ニ定ムル所ニ依ル

(甲號書式)

製表功程簿

○廳別表ノ一(二、三等)臺北

結果表ノ番號	母表番號	記入濟月日	計算及比例濟月日	檢査濟月日	備考
一ノ一	第一表	三十九年十一月三日	三十九年十一月五日	三十九年十一月八日	
一ノ二	一ノ一	十一月四日	／	十一月九日	

○全島總數表

結果表ノ番號	母表番號	記入濟月日	計算比例月日	檢査濟月日	備考

(乙號書式)

原表授受簿

廳別第一表(二、三等)(順次三十表ニ至ル)

廳名	集計係ヨリ受領月日	記入科ヘ廻付 月日	記入科ヘ廻付 受附	記入科ヨリ返付 月日	記入科ヨリ返付 受附	備考
臺北	三十九年十月二日	三十九年十月二日	㊞	三十九年十月三日	㊞	月　日訂正ノ爲集計係ヘ廻付　月　日返付
基隆	十月十日	十月十一日	㊞	十月十二日	㊞	
宜蘭						
深坑						
(順次二十廳列記)						

全島之部

表名	集計係ヨリ受領月日	記入科ヘ廻付 月日	記入科ヘ廻付 受附	記入科ヨリ返付 月日	記入科ヨリ返付 受附	備考
第一表						
第二表						
第三表						
第四表						
第五表						
(順次三十表ニ至ル)						

動態係事務規程

動態係事務規程

總則

第一　本係ハ人口動態統計ノ調製其ノ他之ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二　本係ノ事務ヲ分チテ庶務、檢査及製表ノ三ト爲ス

第三　前項ノ事務ヲ處理スル爲係長ノ下ニ主任ヲ置ク

第四　主任及係員ハ係長ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ事務ヲ分擔ス

第五　執務上ニ疑義ヲ生シタルトキハ上官ノ指揮ヲ承クヘシ

第六　動態小票ハ勿論其ノ他一切ノ書類ハ執務後必ス之ヲ倉庫内ニ納ムヘシ

庶務

第七　庶務主任ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　報告類ノ收發及倉庫ニ關スルコト

二　動態統計ノ記述論究ニ關スルコト

三　本係中他ノ主任ニ屬セサル事項

第八　庶務主任ハ動態小票(以下單ニ小票ト書ス)ヲ受理シ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　小票ノ番號及枚數ヲ精査シ送致目錄ト照合ノ上同目錄ニ捺印シ受付簿當該欄ニ枚數及最終番號ヲ記入シ且各種毎ニ帶封ヲ爲シ其ノ枚數ヲ「アラビヤ」數字ニテ記載シ取扱者ノ認印ヲ押捺スヘシ

二　小票ト送致目錄ト符合セサルトキハ之カ照會ノ手續ヲ爲スヘシ

三　毎年一月分ノ報告ハ前年ノ事實ト本年ノ事實トヲ區分シ各別ニ目錄ヲ調製シ廳又ハ支廳提出ノ送致目錄ハ本年分ニ合併スヘシ

第九　庶務主任ハ毎月約束郵便物ノ發著數及小票受附枚數ヲ廳別ニ調製シテ之ヲ係長ニ提出スヘシ

第十　庶務主任ハ倉庫ノ開閉及其ノ他ノ取締ヲ爲スヘシ

第十一　庶務主任ハ小票及其ノ他一切ノ書類ヲ整理保管スヘシ

第十二　人口動態統計ノ記述論究ハ調査課長ノ意見ニ從ヒ係長專ラ之ニ任ス

檢査

第十三　檢査主任ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　小票ノ檢査ニ關スルコト

二　不備事項ノ照會ニ關スルコト

三　訂正濟小票ノ整理ニ關スルコト

第十四　小票ハ左ノ順序及區別ニ從ヒ檢査スヘシ

一　種族別檢査ヲ爲スヘシ

二　男女別檢査ヲ爲スヘシ

三　職業名ハ檢査ト同時ニ別ニ定ムル所ノ職業分類原簿ニ依リ符號ヲ記入スヘシ但シ轉住小票ハ廳外出入ノ者ニ限リ之カ符號ヲ記入スヘシ

四　轉住小票ハ別ニ定ムル所ノ廳直轄又ハ支廳管轄區域原簿ニ照合シテ轉出轉入ヲ檢査確定スルト同時ニ之ヲ各廳内外及其ノ出入ニ區分スヘシ

五　死亡小票中ノ死因ハ別ニ定ムル所ノ死因類別原簿ニ依リ檢査ト同時ニ符號ヲ記入スヘシ

六　前各項以外ノ檢査ヲ爲スヘシ

第十五　不備ノ小票ニハ青色鉛筆ニテ不備ノ箇所ニ目標ヲ劃シ且質疑ノ點ヲ附箋ニ詳記シ不備小票返付目錄ヲ添ヘ檢査主任ヨリ庶務主任ニ其ノ照會方ヲ請求スヘシ

第十六　檢査主任庶務主任ヨリ小票ノ訂正報告ヲ受ケタルトキハ更ニ之ヲ精査シ尙不備ノ點アラハ再照會ノ手續ヲ爲シ其ノ完備スルヲ待チ小票ノ種類毎ニ番號ノ順序ヲ追フテ整理スヘシ但シ

轉住票ハ第十四第四項後段ノ儘整理スヘシ

第十七　前項照會ノ結果小票數ニ增減ヲ生シタルトキハ檢査主任ハ庶務主任ニ對シ送致目錄及受附簿訂正方ヲ請求スヘシ

第十八　檢査主任又ハ係員ハ第一號乃至第六號樣式ノ事務整理簿ヲ備ヘ各自擔任事務ノ進度ヲ每日係長ニ提出スヘシ

第十九　檢査主任ハ每月不備小票ノ枚數ヲ廳別ニ調製シテ之ヲ係長ニ提出スヘシ

製表

第二十　製表主任ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　別ニ定メタル樣式ニ依リ人口動態統計ヲ調製スルコト

二　別ニ定メタル樣式ニヨリ各年末現住人口ヲ算出スルコト

第二十一　前項製表ノ手續ハ別ニ之ヲ定ム

第一號　種族別檢査整理簿

廳及支廳名												
臺北廳												
士林												
錫口												

第二號　男女檢査整理簿（樣式第一號ニ同シ）

第三號　轉住票檢査整理簿（樣式第一號ニ同シ）

第四號　死亡票死因檢査整理簿（樣式第一號ニ同シ）

第五號　職業名檢査整理簿但シ各種類別（樣式第一號ニ同シ）

第六號　各項檢査照會整理簿

廳及支廳名	何月分				何月分				何月分			
	檢査	照會	整理	完了	檢査	照會	整理	完了	檢査	照會	整理	完了
臺北廳												
士林												
錫口												

決議

右ニ記載ノ外尙本部事務取扱方ニ關シテハ左記ノ決議アリタリ

臨時臺灣戶口調査部事務取扱方（明治三十八年六月決議）

第一條　臨時臺灣戶口調査部ノ事務取扱方ハ明治三十四年十一月訓令第三百五十五號臺灣總督府處務規程ニ準據ス（訓令文ハ之ヲ略ス）

第二條　臨時臺灣戶口調査部文書ノ保存ハ官房及民政部文書保存規則ニ依ル但シ所帶票及要計表ニ關スルモノハ此ノ限ニアラス（保存規則ハ之ヲ略ス）

臨時臺灣戶口調査部委任事項（明治三十八年六月及同年七月決議）

戶口調査ニ關シ明治三十四年十一月決議委任事項第一條第二號ニ記載ノ事項ハ部長ニ同第二條、第三條及第四條ニ記載ノ事項竝明治三十四年十一月祕甲第一四七九號道達月俸三十圓以內ノ囑託、雇ヲ總督府ノ名ヲ以テ進退スルコトハ課長ニ於テ部長ニ代リ處理スルコト（各條ノ本文ハ之ヲ略ス）

地方機關

地方機關亦中央機關設置ノ主旨ニ則リ地方委員長、監督委員、監督補助委員及調査委員等ノ特設機關ヲ設ケ全ク特種ノ系統ヲ立テ以テ調査ノ統一ト運用ノ敏活ヲ期セリ地方機關ノ要務ハ次ノ如シ

地方機關ノ用務

地方戸口調査委員長ハ廳長ヲ以テ之ニ充テ諸般ノ事務ヲ管理セシムルコト、監督區、調査區ヲ設置シテ其ノ番號、區域、戸口概數ヲ三十八年七月十五日迄ニ報告スルコト、監督委員、同補助委員、調査委員並各其ノ豫備委員ヲ定メ同年七月二十五日迄ニ戸口調査部長ニ報告スルコト、監督委員ニハ同年八月十五日迄ニ調査委員ニハ同年九月十五日迄ニ調査ニ關スル訓練及實地ノ指導ヲ爲スコト、實地調査ニ對シテハ嚴密ノ監督ヲ爲スコト、實地調査ノ報告ヲ戸口調査部長ニ爲スコト、所帶票及要計表ハ監督委員ヨリ同年十月二十日迄ニ戸口調査部長ニ報告セシムルコト、誤謬脱漏等ハ當該責任者ヲシテ訂正セシムルコト等ナリ（明治三十八年六月訓令第百三二號臨時臺灣戸口調査事務取扱規程參照）

第八章　職員及參加章

第一節　職員

定員

臨時臺灣戸口調査部ノ職員ハ官制上部長一人、副部長一人、主事二人、屬十三人ニシテ主任補助タル雇員以上ノ職員任免左ノ如シ

任免異動

明治三十八年五月二十九日	部長	民政長官	後藤新平
同　三十八年六月一日	副部長	警視總長	大島久滿次
	主事	財務局長	祝辰巳
	主事	總督府技師	水科七三郎
	屬　調査課勤務	總督府屬	竹村諫
	屬　庶務課勤務	同	小倉信一
	屬　調査課勤務	同	藤村孝之進
	兼屬　調査課勤務	總督府警部	都筑能悌
	兼屬　調査課勤務	總督府屬	福田眞鷹
	囑託　調査課勤務	總督府囑託	永山嘉一
同　三十八年六月二日	屬　調査課勤務	內閣屬	阪本敦
同　三十八年六月三日			

庶務課長　主事　親　辰巳
調査課長　主事　水科七三郎
同　三十八年六月十四日
兼屬　調査課勤務　總督府屬　大竹猪壽
同　三十八年七月十三日
兼屬　調査課勤務　總督府醫部　鹽尻彌太郎
兼屬　調査課勤務　同　角井才太郎
事務取扱　調査課勤務　同　藤村源太郎
同　三十八年九月三十日
囑託　調査課勤務　休職北海道廳屬　濱田文之進
同　三十八年十月十六日
調査課檢査係長　屬　竹村諫
調査課倉庫係長兼檢査係　屬　福田眞應
調査課集計係長兼檢査係勤態係　屬　阪本敦
調査課結果係長兼檢査係　囑託　永山嘉一
調査課勤態係長兼檢査係　囑託　濱田文之進
調査課檢査係　屬　都筑能悌
同　屬　大竹猪壽
同　屬　藤村幸之進
同　三十八年十月二十三日
屬　調査課勤務檢査係　臺北廳屬　江口形太郎

明治三十八年十月二十七日
屬　調査課勤務檢査係　斗六廳屬　牟森利夫
同　三十八年十月三十一日
屬　調査課勤務檢査係　鳳山廳屬　堤一馬
屬　調査課勤務檢査係　臺中廳屬　高木保太郎
同　三十八年十一月六日
兼調査課檢査係　屬　小倉信一
同　三十九年二月一日
兼調査課檢査係ヲ解ク　囑託　永山嘉一
兼調査課檢査係ヲ解ク　同　濱田文之進
同　三十九年二月五日
檢査係謄寫主任　屬　小倉信一
同　三十九年三月十五日
兼調査課集計係計票主任　屬　堤一馬
兼調査課集計係分類主任　同　高木保太郎
兼調査課集計係記表及整表主任　同　江口形太郎
同　三十九年三月三十一日
屬　調査課勤態係長　囑託　濱田文之進
通信書記　屬　藤村幸之進
同　三十九年四月十六日
兼調査課勤態係　屬　牟森利夫

年月日	事項	官職	氏名
同　三十九年七月八日	調査課檢査係ヲ解ク	屬	堤　一馬
同		屬	高木保太郎
同		屬	江口形大郎
同　三十九年七月二十五日	免兼官	總督府屬兼戸口調査部屬	都筑能悌
同		同	大竹猪壽
同		總督府屬兼戸口調査部屬	鹽尻彌太郎
同		同	岡野才太郎
	事務取扱ヲ解ク	事務取扱	藤村源太郎
同　三十九年九月二十一日	專賣局書記	屬	年森利夫
同　三十九年十月一日	調査課集計係分類主任補助	雇	今村鐵太郎
	調査課集計係記表主任補助	雇	村井吾市
	調査課集計係計票主任補助	雇	越後喜久治
	調査課集計係長附主任補助	雇	右田留造
同　三十九年十一月十三日	依願免官	民政長官男爵	後藤新平
	部長	民政長官	祝　辰巳
	兼庶務課長	主事	水科七三郎

年月日	事項	官職	氏名
明治三十九年十一月十九日	兼調査課倉庫係、檢査係	屬	高木保太郎
同　四十年一月十日	調査課集計係長不在中代理	屬	堤　一馬
同　四十年一月二十一日	調査課結果係	屬	高木保太郎
同　四十年一月二十三日	調査課動態係	雇	越後喜久治
同　四十年二月一日	御用濟	雇	今村鐵太郎
同　四十年二月四日	調査課結果係記述主任 調査課集計係長代理如故	屬	堤　一馬
	調査課結果係製表主任	屬	高木保太郎
	調査課結果係製表主任補助	雇	松本繊二
	庶務課兼務	屬	福田眞鷹
同　四十年三月一日	調査課結果係	雇	村井吾市
	御用濟	雇	右田留造
同　四十年三月四日	調査課動態係庶務主任	雇	丹下幸作
	調査課動態係檢査主任	雇	幸　恒德

	調査課動態係製表主任	雇　越後喜久治
	調査課結果係記述主任補助	雇　村井吾市
同　四十年三月五日	兼調査課結果係	屬　竹村諫
	同	屬　福田眞鑒
同　四十年三月六日	調査課動態係長附主任補助	雇　眞倉民治
同　四十年四月九日	依願免官	屬　阪本敦
同　四十年四月二十六日	兼調査課集計係長	屬　竹村諫
同　四十年四月三十日	總督府屬	屬　小倉信一
同　四十年七月十日	御用濟	雇　丹下幸作
同　四十年八月十六日	御用濟	雇　幸恒德
	調査課動態係檢査主任	雇　眞倉民治
同　四十年八月三十一日	免本官專任戶口調査部屬	總督府屬兼戶口調査部屬　福田眞鑒
	總督府屬兼戶口調査部屬	屬　堤一馬

明治四十年九月二日	調査課動態係庶務主任	雇　櫛田壯吾
同　四十年十一月十五日	御用濟	雇　村井吾市
同　四十年十二月十八日	兼調査課動態係	屬　竹村諫
同　四十一年一月十四日	兼調査課動態係	屬　堤一馬
同　四十一年一月三十一日	嘉義廳屬	屬　江口形太郎

廢廳當時ノ職員

廢廳ノ際ニ於ケル主任補助タル雇員以上ノ職員及人員左ノ如シ

部長		民政長官　祝辰巳
副部長		警視總長　大島久滿次
主事		總督府技師　水科七三郎
庶務課	課長（兼）	主事　水科七三郎
	係長（兼）	屬　福田眞鑒
	課員	雇　專務一人　兼務一人
調査課	課長	主事　水科七三郎
	檢査係長兼集計係長結果係動態係	屬　竹村諫

職	員
倉庫係長兼檢査係結果係	屬 福田眞麿
動態係長	屬 濱田文之進
結果係長	囑託 永山嘉一
結果係記述主任兼動態係	屬 堤一馬
結果係製表主任補助	雇 松本轍二
動態係庶務主任	雇 櫛田壯晉
動態係檢査主任	雇 眞倉民治
動態係製表主任	雇 越後喜久治
課員	囑託 四人
	雇 五人
	臨時雇 二人
	事務傭 五人
分課未定	雇 一人

地方委員部ニ於ケル職員ハ左ノ如シ

廳	委員長	委員部付 警視	委員部付 屬	委員部付 警部	委員部付 技手	委員部付 警部補	委員部付 巡査	委員部付 囑託	委員部付 雇	計
臺北	一	一	四	三	…	…	…	…	一	一〇
基隆	一	…	二	一	…	一	一	…	一	七
宜蘭	一	…	八	四	…	一	…	…	…	一四
深坑	一	…	五	二	…	…	…	…	一	九

又監督委員、同補助委員、調査委員ハ第二章第十二ニ揭載ノ委員數ノ如シ

廳	委員長	委員部付 警視	委員部付 屬	委員部付 警部	委員部付 技手	委員部付 警部補	委員部付 巡査	委員部付 囑託	委員部付 雇	計
桃園	一	…	一	一	…	…	…	…	…	三
新竹	一	…	一	一	…	…	…	…	…	三
苗栗	一	…	三	三	…	…	…	…	二	九
臺中	一	…	一一	四	一	…	…	…	…	一七
彰化	一	…	七	三	…	…	…	…	…	一一
南投	一	…	五	三	…	…	二	…	一	一二
斗六	一	…	…	四	…	…	二	…	…	七
嘉義	一	…	四	二	…	…	一	…	一	九
鹽水港	一	…	二	一	…	…	…	…	…	四
臺南	一	…	五	八	一	…	一	…	…	一六
蕃薯藔	一	…	二	二	一	…	一	…	一	八
鳳山	一	…	一	一	…	一	…	…	一	五
阿猴	一	…	三	三	…	…	…	一	一	九
恒春	一	…	三	二	…	…	一	…	…	七
臺東	一	…	三	二	…	一	…	…	二	九
澎湖	一	…	四	二	…	…	一	…	…	八
總計	二〇	一	七四	五二	三	四	一〇	一	一二	一七七

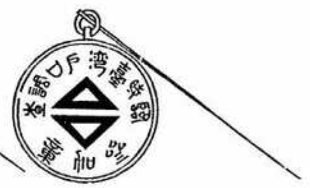
第二節 參加章

臨時戶口調査ニ參加スルハ一ノ名譽ナリ而シテ實査ノ際徽章ヲ佩用スルハ其ノ職責ヲ明ニ

セムカ爲ナリ依リテ臨時戶口調查部職員ハ上、部長ヨリ下、調查委員ニ至ルマテ準備調查ヨリ實查終了マテ之ヲ佩用セシメ查了ノ後ハ永ク其ノ名譽ヲ表章スルノ紀念トシテ各自ニ之ヲ交付セリ地質銀ニシテ佩用ノ位置ハ上衣ノ右胸部トス而シテ其ノ形式左ノ如シ

表面

中央ノハ朱七寶



裏面

第九章　經費

要旨

國勢調查ノ費用ハ調查機關ノ組織ナリ調查ノ方法ナリ調查事項ノ多少ナリ監督檢查ノ程度ナリ結果編成ノ疎密ナリ民人文化ノ程度ナリ一トシテ費用ニ關係セサルハナシ是等ノ關係ヲ參酌シテ適實ノ豫算額ヲ定ムルハ至難ナリ蓋シ母國ニ於テ國勢調查ノ施行難ヲ唱フルハ其ノ必要ナキカ爲ニ非ス又當局者ノ勇斷ニ乏シキカ爲ニモ非ス要スルニ四圍ノ事情殊ニ費用支出ノ難キニ存スルヤ必セリ總督府ニ於ケル豫算額ハ當初五十二萬四千百九十五圓五十錢ト計上セシモ漸次削減シテ三十五萬圓ト爲リ二十五萬圓ト爲リ遂ニ十八萬五千八百四十圓ト爲リ之ヲ最終ノ決定案トシテ議會ノ協賛ヲ求ムルコトト爲レリ蓋シ審議精查以テ大ニ費用ヲ節シテ良好ノ結果ヲ得ルノ方案ヲ講シタルニ由ル今明治三十八年度內務省所管臺灣總督府特別會計歲入歲出豫定計算書ニ依リ豫算ニ關スル要項ヲ摘錄スレハ左ノ如シ

豫算

憲法第六十八條ニ據リ繼續費トシテ協賛ヲ要スル件

一本島ニ於ケル現在戶口ノ狀態ハ其ノ統計甚確實ナラサルヲ以テ正確ナル戶口ノ實況ヲ調查スルノ必要アリ之ニ要スル經費ハ總額十八萬五千八百四十圓ニシテ其ノ調查又頗ル困難ナル事業ニシテ一箇年度ヲ以テ處分ヲ了スル能ハサルヲ以テ本年度ヨリ明治四十年度ニ亙ル三箇年度繼續費トシテ左表ノ通支出ヲ要ス

款	項	目	總額	三十八年度支出	三十九年度支出	四十年度支出
戶口調查費			円 一八五、八四〇・〇〇〇	円 七九、七四〇・〇〇〇	円 五五、四一二・〇〇〇	円 五〇、六八八・〇〇〇
	戶口調查費		一八五、八四〇・〇〇〇	七九、七四〇・〇〇〇	五五、四一二・〇〇〇	五〇、六八八・〇〇〇

款	項	目	總額	三十八年度支出	三十九年度支出	四十年度支出
		俸給	円 二三、四〇〇・〇〇〇	円 四、六八〇・〇〇〇	円 九、三九〇・〇〇〇	円 九、三三〇・〇〇〇
		退官及死亡賜金	四八〇・〇〇〇	一六〇・〇〇〇	一六〇・〇〇〇	一六〇・〇〇〇
		廳費	二六、二四〇・〇〇〇	一〇、七八〇・〇〇〇	八、三二二・〇〇〇	七、一三八・〇〇〇
		旅費	四二、一二〇・〇〇〇	四〇、一二〇・〇〇〇	一、〇〇〇・〇〇〇	一、〇〇〇・〇〇〇
		雜給及雜費	九三、六〇〇・〇〇〇	二四、〇〇〇・〇〇〇	三六、五四〇・〇〇〇	三三、〇六〇・〇〇〇

決算

右ハ原案ノ儘貴衆兩院ヲ通過確定セリ而シテ其ノ決算ハ總額十八萬四千九十圓二十一錢八厘ニシテ各年度科目別ニ掲ケムニ卽チ左表ノ如シ

款	項	目	總額	三十八年度	三十九年度	四十年度
戸口調査費			円 一八四、〇九〇・二一八	円 七四、七九一・〇〇九	円 三七、五〇〇・二九九	円 七一、七九八・九一〇
	戸口調査費		一八四、〇九〇・二一八	七四、七九一・〇〇九	三七、五〇〇・二九九	七一、七九八・九一〇
		俸給	一五、六〇二・二九〇	三、八九〇・一五〇	六、二四七・五三〇	五、四六四・六一〇
		退官及死亡賜金	四五・〇〇〇	……	……	四五・〇〇〇
		廳費	五〇、〇一一・七三二	一六、四二八・六三三	五、二七九・五八九	二八、三〇三・五一〇
		旅費	三一、二一九・五三五	二八、九五六・四二五	六八二・五七〇	一、五八〇・五四〇
		雜給及雜費	八七、二一一・六六一	二五、五一五・八〇一	二五、二九〇・六一〇	三六、四〇五・二五〇

一人當リ

本調査ニ依リテ得タル本島總人口三百三萬九千七百五十一人ヲ以テ前掲ノ決算額十八萬四千九十圓餘ヲ除スルニ一人ニ付僅ニ六錢强ニ過キス之ヲ明治十二年甲斐國現在人別調ノ一人ニ付一錢四厘弱ニ比スレハ稍〻多キノ感アルモ當時ト今日トハ物價及賃銀ニ大差アルノミ

ナラス調査全體ノ上ニ於テモ非常ノ相違アリ卽チ本島ノ戸口調査ハ近世ノ最進歩シタル方法ニ依リ施行シタルヲ以テ決シテ日ヲ同ウシテ論スヘカラス否本島ノ現況ニ照セハ寧ロ其ノ一人當ノ甚少額ナルヲ知ルヘシ何トナレハ歐米先進國ノ事ハ姑ラク措テ問ハサルモ曾テ明治三十六年度ニ於テ我カ政府ヨリ議會ニ提出シタル國勢調査費總額二百三十六萬六千六百六十五圓ヲ最近ノ日本帝國統計年鑑ニ掲載ノ人口四千六百七十三萬二千百三十八人ヲ以テ除スルニ一人ニ付五錢一厘弱タルヲ思ハハ本島ノ母國ヨリ總テノ點ニ於テ多費ヲ要スルニ拘ラス其ノ較差ノ極テ微細ナルニ至リテハ其ノ費用ノ意外ニ少額ナルヲ證スルニ足ラム是レ經費ノ點ニ於テモ優ニ成功シタルモノト謂フヘシ況ンヤ實査及編成ノ速ニ成功ヲ見ルニ於テヲヤ

倉庫建設

所帶票單名票其ノ他緊要ナル書類ヲ藏置スル爲不燃質ノ倉庫ヲ要シ又事務ノ擴張ニ從ヒ事務室ノ增築ヲ要スルハ固ヨリ當然ナリ依リテ明治三十九年度ニ於テ該費用トシテ七千二百圓ノ豫算ヲ要求シ議會ノ協贊ヲ得タルモ其ノ金額僅少ナルヲ以テ前記ノ一人當ニハ之ヲ算入セサリシカ今其ノ一人當二厘强ヲ加フルモ尙六錢二厘强ニ過キサルナリ

旅費支給規程

經費ノ節約ヲ圖ル爲明治三十八年七月臨時臺灣戸口調査ニ關スル旅費支給規程ヲ戸口調査委員長ニ訓令シ監督委員、監督補助委員、調査委員及調査委員附通譯ニ旅費ノ給否並支給ノ場合ハ日額一圓五十錢以內タルコトヲ規定セリ其ノ規程左ノ如シ

臨時臺灣戸口調査ニ關スル旅費支給規程（明治三十八年七月訓令第一六九號）

第一條　本規程ハ監督委員、監督補助委員、調査委員及調査委員附通譯ニ之チ適用ス

本島人採用

第二條　月額旅費ノ支給ヲ受クル者ニハ月額以外ノ旅費ヲ支給セス但シ月額旅費ノ支給ヲ受クル者其ノ擔當區域外ニ出テタル場合ニハ各廳ニ於テ定メタル其ノ官職相當ノ日額旅費ヲ支給スルコトヲ得

第三條　調査委員ノ擔當區域其ノ住居附近ニ在リテハ調査上宿泊ヲ要セサルトキハ旅費ヲ支給セス

監督委員、監督補助委員又ハ調査委員附通譯前項ニ該當スルトキ亦同シ

第四條　前二條以外ノ者ニ對シテハ日額旅費一圓五十錢以内ヲ支給スルコトヲ得但シ其ノ額ハ戸口調査委員長ニ於テ之ヲ定ム

第五條　本規程ニ關スル施行細則ハ戸口調査委員長之ヲ定ム

又經費ノ節約ト新教育ノ實益トヲ期シ兼ネテ臺灣「センサス」ノ一部ニ本島人使用ノ途ヲ啓キ計牌ノ如キ簡易ナル業務ニ從事セシメムト欲シ先ツ試驗的ニ公學校卒業生數名ヲ採用シタルニ其ノ成績觀ルニ足ルモノアリ依テ此ノ種ノ業務ニ從事スル者ハ主トシテ本島人ヲ採用シ其ノ最多時ニ在リテハ四十六人ヲ使用セリ

要旨

第十章　褒賞

由來臨時戸口調査ニ從事スルハ國民ノ名譽ナリ故ニ監督委員、同補助委員及調査委員ハ其ノ本官本職ノ如何ヲ問ハス各其ノ擔當事務ヲ誠實敏活ニ處理シ其ノ規律ノ整然タルト職務ニ熱心ナルトハ從來多ク見サル所ナリ蓋シ各委員ノ本調査ノ性質ト其ノ價値トヲ知了セシニ依ルナリ是ニ依テ臺灣總督府ハ其ノ勤勞ヲ多トシ監督委員ニ七圓以内、監督補助委員ニ四圓以内、調査委員ニ三圓以内ノ範圍ニ於テ明治三十八年十二月二十二日慰勞金ヲ交付セリ其ノ辭令文竝各廳賞與人員及金額左ノ如シ

辭令文

委員名　氏　名

臨時臺灣戸口調査ニ從事シタル慰勞トシテ金　圓ヲ給ス

明治三十八年十二月二十二日

臺灣總督府

右受賞者ヲ各廳別ニ掲クレハ左ノ如シ

人員及金額

賞與人員

廳	監督委員	監督補助委員	調査委員
臺北	三三	一三五	二〇二
基隆	二五	八四	六二
宜蘭	一八	八三	…
深坑	一一	四七	三一
桃園	三	八一	六三
新竹	三〇	五五	一二八
苗栗	一四	五二	八三
臺中	二六	九五	五二
彰化	一三	六七	〇四
南投	二〇	五四	四六
斗六	一九	九七	一一〇
嘉義	一五	九二	一六六
鹽水港	一一	五二	一八〇
臺南	三〇	三一	一八四
蕃薯寮	九	三五	五六
鳳山	一四	一一四	二三
阿緱	一五	四四	八一
恒春	九	二五	一七
臺東	九	一〇	八〇
澎湖	二	一二	三一
計	三一六	一二六五	一七〇九

賞狀

又保正街庄社長ニシテ臨時戸口調査ノ際當該職員ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ヲ補助シテ功勞アリタル者ニ對シテハ明治三十八年十一月二日ヲ以テ部長ヨリ左ノ賞狀ヲ交付シタリ

辭令文

廳街庄社長(保正) 氏名

臨時臺灣戸口調査ノ事務ヲ補助シ其功勞不尠仍テ賞狀ヲ授與ス

明治三十八年十一月二日

臨時臺灣戸口調査部長 後藤新平

受賞人員

右受賞者ヲ各廳別ニ掲クレハ左ノ如シ

各廳受賞者

廳	保正	街庄社長
臺北	四七〇	三八
基隆	一八六	一四
宜蘭	一六二	三
深坑	七三	一三
桃園	二七〇	…
新竹	二三〇	四
苗栗	二一三	…

廳	保正	街庄社長
臺中	三二三	三三
彰化	四六九	三七
南投	一二八	一二
斗六	一七七	五
嘉義	二九六	一〇
鹽水港	三三四	一八
臺南	二五一	一七

廳	保正	街庄社長	廳	保正	街庄社長
蕃薯寮	八三	一三	臺東	五	一八
鳳山	二八六	一五	澎湖	九二	一三
阿緱	二五三	二六			
恒春	二四	一〇	計	四,三一四	二九八

行賞

本部ノ事業ハ豫期以上ノ效果ト功程ヲ以テ豫定ノ通明治四十年度ヲ以テ完結セムトス是ニ於テ乎總督府ハ明治四十一年三月三十一日ヲ以テ本事業ニ對スル功勞者部長、副部長、主事、評議員、地方委員長、本部員、地方委員部職員及部外功勞者ニ行賞ス各等差アリ其ノ辭令文左ノ如シ

辭令文

（慰勞金ノ分）

官　氏　名

臨時臺灣戸口調査ニ關シ勤勞不尠ニ依リ金　圓ヲ給ス

明治四十一年三月三十一日　臺灣總督府

（賞與ノ分）

官　氏　名

臨時臺灣戸口調査ニ關シ勤勞不尠ニ依リ金　圓ヲ賞與ス

明治四十一年三月三十一日　臺灣總督府

敍勳又ハ賜盃

紀念品

後又本部員評議員等特ニ勳功アル者ニ對シ敍勳又ハ賜盃ノ恩典アラムトス

本事業ノ終ニ臨ミ當初ヨリ直接又ハ間接ニ至大ノ功勞アリシ前部長男爵後藤新平及內閣統計局長法學博士花房直三郎ニ銀製硯屏各一基（本調査ノ梗概ヲ表裏ニ刻ミタルモノ）ヲ、本部員ニシテ廢廳ノ月迄在職ノ者、評議員、地方委員長、部員外ニシテ本部ノ事務ヲ執リタル者（本部ニハ金錢ノ仕拂、物品ノ購買等ニ關スル機關ノ設ケナキ爲該事務ヲ執リタル者）等ニ銀盃各一箇（成功ノ意匠ヲ刻シタルモノ）ヲ紀念トシテ贈與セリ但シ以上ノ紀念品ハ參加章ノ殘餘ヲ以テ材料ト爲シタルモノニ係ル其ノ種類及贈與人員左ノ如シ

紀念品種類及贈與人員

種類	本部員	評議員	地方委員長	其ノ他	計
銀製硯屏	…	…	…	二	二
銀盃大	三	八	二〇	三	三四
銀盃小	二六	…	…	一四	四〇

第十一章　執務時間

明治三十八年ニ於テハ諸準備ノ漸ク急ヲ要スルト共ニ實査期ノ漸ク近ツクニ從ヒ愈〻益〻事務ノ繁劇ヲ加ヘ廢休夜勤以テ之ニ應セシメタリ而シテ實査當時ノ忙殺ハ言ヲ俟タス實査後ハ先ツ各委員最多忙ナリシモ所帶票及要計表ノ提出ト同時ニ戸口調査部ノ多忙ト爲リ爾來鋭意之カ料理安排ニ從事スルニ日モ亦足ラサルノ感アリ依リテ明治三十九年五月一日ヨリ調査部ノ執務時間ヲ左ノ如ク改正セリ

延長

五月一日ヨリ九月三十日マテ
午前八時ヨリ午後四時ニ至ル
十月一日ヨリ四月三十日マテ
午前九時ヨリ午後五時ニ至ル

蓋シ有限ノ年間ニ於テ無限ノ事業ヲ爲スコト能ハスト雖既定ノ短期ナル繼續年間ニ於テ詳言スレハ餘ス所僅ニ二年足ラスノ時間ニ於テ少クトモ三年以上ノ事業ヲ爲サントスルニ在リ

復舊

此ノ如クニシテ本部ノ事務ハ豫定ノ如ク進捗シ最早延長ノ必要ナキニ至リタルヲ以テ四十一年一月ヨリ一般官衙ノ執務時間ニ復セリ

第十二章　出版公布

要計表

臨時臺灣戸口調査要計表　本書ハ調査委員要計表ニ依リ主トシテ街庄社ノ住居數所帶數及人員ヲ表章シ且之ヲ括約シ傍ラ調査委員及監督委員要計表ヨリ得タル實地調査及所帶票整理竝之カ檢査ニ要セシ時間數其ノ他調査區劃調査委員及監督委員ノ官職別等ヲ收錄セリ又戸口調査ノ後卽チ三十八年十二月地方廳管轄區域ニ改正アリ尋テ戸口規則ヲ發布セラレ從來ノ戸番號ヲ地番號ニ改メラレタル結果街庄社區域ニ異動ヲ來シタルモノアリ依リテ是等ハ將來比較ノ正確ヲ期セムカ爲之カ報告ヲ徵シ調査當時ニ遡リテ當該所帶ヲ照查加除シ改正區域ト全然一致セシメタリ而シテ三十九年六月二十五日其ノ編纂ニ著手シ同年十二月一日脫稿四十年五月二十八日印刷ヲ了レリ

職業名字彙

臨時臺灣戸口調査職業名字彙　本書ハ所帶票ニ依リ知リ得タル職業名ヲ分類、内地語、土語ニ分チ此ノ三者ヲシテ相互對觀スルヲ得セシムルノ目的ヲ以テ分類引イロハ引字畫引ノ三種ニ區分シ三十九年八月編纂ニ著手シ四十年五月脫稿同年十二月二十五日印刷ヲ了レリ而シテ一職業ニシテ二種以上ノ名稱ヲ有スルモノハ其ノ名稱ノ所帶票ニ在リタルト否トヲ問ハス之ヲ網羅セリ其ノ數四千二百九十九ナリ

集計原表

臨時臺灣戸口調査集計原表　本書ハ全島之部ト地方之部トニ區分シテ別冊ニ印刷セリ蓋シ原表ハ頗ル浩瀚ニシテ悉ク之ヲ刊行スル能ハサルト其ノ様式專ラ集計事務ノ便ヲ圖リシヨリ觀覽上ノ利便ニ缺クル所アルヲ以テ全島之部ニ在リテハ單ニ其ノ様式ヲ改メタルニ止

結果表

マルモ地方之部ニ在リテハ更ニ事項ノ省略ヲ爲シ其ノ大要ヲ摘錄セリ而シテ原稿ノ調製ハ明治四十年三月一日ニ著手シ同年十月十五日其ノ調製ヲ了リ全島之部ハ明治四十年十二月二十三日地方之部ハ同月二十五日各印刷ヲ了セリ又原稿調製ニ從事シタル延人員ハ兩部ヲ合シテ一、〇八九八人ニシテ調製セシ原稿ノ頁數ハ全島之部一、三六一頁地方之部一、四八一頁總計二、八四二頁ナリ

臨時臺灣戸口調査結果表　本書ハ集計原表ノ事實ヲ分合シテ之ニ比例ヲ附シ一ハ以テ記述ノ根據ト爲シ一ハ以テ應用ノ資料ト爲セリ其ノ表數一二三表ニシテ明治三十九年十一月一日原稿ノ調製ニ著手シ四十年七月三十一日其ノ調製ヲ了セリ此ノ間二七三日從事延人員二、三七一人ヲ要シ四十一年二月十八日印刷ヲ了レリ

記述報文和文之部

臨時臺灣戸口調査記述報文和文之部　本書ハ戸口調査ノ結果ヲ記述論究シタルモノニシテ本調査最終ノ目的タリ全編ヲ緒論及第一章ヨリ第十五章ニ分チ明治四十年三月其ノ擔任者ヲ命シ記述ノ範圍、標準、文體、用字等ヲ協定シ先ツ各分擔ノ項目ニ就テ研究ヲ爲サシメ同年五月ヨリ記述ニ著手シ同年十二月完了四十一年三月其ノ印刷ヲ了レリ記述ニ關スル要件及用字例左ノ如シ

記述ニ關スル要件

記述ニ關スル要件（三月五日決議）

一　記述ノ範圍及標準ハ別冊（甲號）（甲號ハ記述報文目次ト同一ナルチ以テ之チ略ス）ノ如ク之ヲ假定シ其ノ細目ハ各分擔者ニ研究セシムルコト

二　文體ハ時文タルコト（官廳報告文體）

三　用字ハ別冊用字例（乙號）ニ依ルコト

四　記述ト表トノ關係ハ大體英國センサス報告書ノ例ニ準スルコト

五　文章中ニ挿入ノ表題ハ一表毎ニ之ヲ冠スルコト

六　表解ハ表ノ後ニ之ヲ附記スルコト

七　記述ニ挿入ノ統計表ハ其ノ大小ニ拘ラス一表毎ニ別紙ニ記入スルコト

八　文章中ニ結果表其ノ他統計ノ計數ヲ書キ顯スニハ數字ヲ累記スルコト
（例之ハ十二萬三千四百五十六石ト書セス一二三、四五六石ト書シ又五十六「パーセント」ト書セス五六、五%ト書スルノ類）

九　記述ニ要スル比例ノ大小ハ一般ノ用例ニ從フコト

十　描畫圖ノ原圖ハ各分擔者ニ於テ考案調製スルコト

十一　記述ニ要スル草稿用紙（丙號）及原稿用紙（丁號）ハ別紙ノ如ク一定シタルコト

十二　記述ノ完結ハ本年末タルヘキコト

十三　文章又ハ文字ノ修正ハ適當ナル專門家ニ囑託スルコト

十四　分擔ヲ左記ノ如ク假定シ各分擔者ニ若干名ノ補助員ヲ附スルコト

緒論及各章ノ統一	水科七三郎
第八章	永山嘉一
第一章、第二章、第十五章、第十六章	竹村謙
第十一章乃至第十三章	福田眞鷹
第九章、第十章、第十四章	堤一馬
第三章乃至第七章	竹田唯四郎

十五　今ヨリ各自分擔ノ研究ヲ始メ遲クモ五月ヨリ記述ニ著手シ約六箇月間ニ完了スヘキコト

十六　參考書ハ購入シ得ヘキモノハ之ヲ購入シ購入シ得ラレサルモノハ之ヲ謄寫セシムルコト

十七　記述完成ノ上ハ結果表ト共ニ出版公布スルコト（明年一月以後ノ豫定）

十八　右記述完成ノ上ハ更ニ之ヲ英譯公刊スルコト（適任者ニ囑託ノ見込）

用字例

十九　又本島人ノ爲土語譯公刊スルコト(同前)
(乙號)　用字例

至リ　○(い)
謂フ(總括ノ場合)
雖
以上、以下
二間以上以下ハ共ニ二間ヲ包ム
場合ニヨリ「未滿」ヲ用ウ　○(は)
初
始ニ
始マリ　(ほ)
本法、本令　○(へ)
ヘカラス
ヘシ　○(と)
閉ツル
停ムル
屆出ヘシ
屆出スシテ
屆出ヲ爲サヽル

俱ニ
共ニ
トキ
トモ
時(日時チサストキ)　○(る)
入ルル
爲サヽル　○(を)(お)
惟フニ
於テハ(府縣ニ於テハ官吏ニ在リテハ)
及
及ホサス
各(場合ニヨリミチ逵ルコトアリ)
措ク　○(わ)
我カ　○(か)
且
關ル
係ル

限リ
限ニ在ラス
代ル
代フル
買入ルル
拘ラス
揭クル
被リ
換フル
箇(三箇月、三箇年三年三箇月)　○(よ)
依リ
由リ
因リ　○(た)
但シ
直ニ
爲
、、、、、スル爲
、、、、、補フ爲
立會ハシム　○(そ)
其ノ

具フル
備置キ　○(つ)
付、、、、、スルニ付
就キ、、、、、本人ニ就キ　○(な)
爲ス
ナシ
爲サム
ナリ
竝
仍
尙
內
何分ノ一　○(む)
、、、セムトスルトキ　○(う)
中ヨリ
受クル
賣拂フ　○(の)
、、、、スルノ權利
、、、、スルノ必要

述フル
○(ま)
益ゝ
迄、マテ
（「ヨリ」ヲ受クス）ヽヽヨリヽヽマテ
先ツ
亦（「モ亦」ト用ウル場合ナキニアラス）
○(け)
闕
檢
○(ふ)
附（寄附　理由ヲ附ス）
付（交付　議ニ付ス）
再ヒ
○(こ)
之ヲ
此ノ
應ヘ
コト（一ヽヽヽスルコト）
事
毎ニ
請ヒ
超エサル
構

○(あ)
豫メ
非スシテ
非サレハ
在ラス
在リテハ
（官吏ニ在リテハ　府縣ニ於テハ）
アル
預カラス
預置クヘシ
新ニ
改メサル
當ル
充ツル
○(さ)
避クル
定ムル
妨ケス
先ニスヘシ
差出スヘシ
三分ノ二
○(き)
汽關
行政裁判所ニ出訴

スルコトヲ得
○(み)
看做ス
自ラ
認メラレ
○(し)
證
○(ひ)
均ク
久キ
○(も)
最
以テ
若
若ハ
「又ハ」ヲ以テ連續シタルモノノ內譯ヲ要スルトキ
「若ハ」ヲ用ウ
者

モノ
求ムル
求ニ
用キ
用ウ
基ツケル
戾入ルル
中立ツル
○(せ)
選擇
○(す)
据置ク
乃チ
總テ
凡テ（凡テノ意味ノトキ）
附記
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、百、千
萬、圓

備考　本用字例ハ憲法、議院法、衆議院議員選擧法等ニ據リタルモノニシテ只其ノ一斑ヲ示スニ止ム

（丙號）

（西洋紙美濃半切形）

（丁號）

（美濃半裁）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

明治三十八年末現住人口統計　本書ハ要計表ヨリ得タル各街庄別人口ヲ基礎トシ三十八年十月以降ノ動態人口ヲ加除シ三十八年末ノ算定人口三種ヲ算出シタルモノニシテ三十九年七月十五日ヨリ其ノ編纂ニ著手シ同年十月二十八日結了セリ此ノ間一〇六日最多時從事人員一〇人延人員三二八人ヲ要シ四十年八月三日印刷ヲ了レリ

明治三十八年人口動態統計　本書ハ三十八年十月以降ニ於ケル各廳及各支廳ヨリ提出セル人口動態小票ニ依リ原表三十六種ヲ調製シ四十年七月七日印刷ヲ了レリ而シテ製表ノ順序ハ各月報告ノ小票ヲ檢査シタル後計票準備トシテ職業及死因病名ノ分類符號打ヲ爲サシメ三十九年八月十五日ヨリ分類、計票記入及算出ニ著手シ同年十一月十日結了セリ其ノ間八八日最多時從事人員一一人延人員五九九人ヲ要セリ

明治三十九年末現住人口統計　本書ハ三十八年末現住人口ヨリ三十九年中ノ動態人口ヲ加除シ三十九年末現住人口ヲ算出シタルモノニシテ四十年三月一日ヨリ其ノ編纂ニ著手シ同年七月二十三日結了セリ此ノ間一四五日最多時從事人員六人延人員四五〇人ヲ要シ四十年九月三日印刷ヲ了レリ

明治三十九年人口動態統計　本書ハ三十九年中ニ於ケル人口動態ノ事實ヲ編成シタルモノニシテ四十年十二月一日印刷ヲ了レリ而シテ其ノ表數及製表順序ハ三十八年人口動態統計ニ同シ又集計ニ著手シタルハ四十年三月一日ニシテ結了シタルハ同年九月十九日ナリ其ノ間二〇〇日最多時從事人員一三人延人員一、三七六人ヲ要セリ

近刊　以上ノ出版物ハ其ノ刷成ニ從ヒ孰モ之ヲ公布セリ尚右ノ外靜態調査ニ在リテハ臨時臺灣戶

口調査記述報文ノ英譯及漢譯アリ近ク刊行セムトス又臨時臺灣戶口調査顛末アリ本編卽是ナリ而シテ動態調査ニ在リテハ明治三十九年臺灣人口動態統計調査記述報文アリ目下印刷中ニ屬ス

明治四十一年八月十九日印刷
明治四十一年八月廿一日發行

臺灣總督府官房統計課

臺北西門外街二丁目六十番戶
印刷人　宮部勘七

臺北城內西門街四十七番戶
印刷所　株式會社臺灣日日新報社